

八代市歴史文化基本構想

平成 30 年 12 月

熊本県八代市

例 言

1. 本書は熊本県八代市の歴史文化基本構想である。
2. 本構想は、八代市経済文化交流部文化振興課が中心となり、平成 28 年度（2016）から平成 30 年度（2018）の 3 ヶ年で策定した。
3. 本構想の策定事業は、文化庁文化遺産総合活用推進事業（平成 28・29 年度：歴史文化基本構想策定支援事業、平成 30 年度：地域の文化財の総合的な保存活用に係る基本計画（仮称）等策定支援事業）の採択を受けて、同庁より文化芸術振興費補助金の交付を受けて実施した。
4. 本構想の策定に伴う業務の一部を、（株）文化財保存計画協会に委託した。
5. 本構想の編集・執筆は、八代市経済文化交流部文化振興課と（株）文化財保存計画協会が共同して行った。
6. 本書に掲載した写真は主に八代市文化振興課が撮影したが、関係部局・関係機関等の撮影によるものも使用した。
7. 巻末には、本文の理解を助けるために、歴史文化遺産の一覧表を掲載した。3 ヶ年の策定事業の中で把握することができた遺産をまとめたものであり、将来の増加を想定した現時点における一覧表である。
8. 八代市では、平成 23 年（2011）4 月 1 日付けで市教育委員会文化課が所管していた文化に関する業務を市長部局（市民協働部文化まちづくり課）へ移管したことに伴い、教育委員会の権限に属する「文化財保護に関すること」を市民協働部長、次長及び文化まちづくり課の職員に補助執行させることとなった。その後、平成 27 年（2015）4 月の機構改革に伴い、所管業務は新設された経済文化交流部文化振興課へ引き継がれ、平成 30 年（2018）年 4 月 1 日現在「文化財保護に関すること」は、経済文化交流部長、次長及び文化振興課の職員に補助執行させている。

八代市歴史文化基本構想

目次

例言

第1章 歴史文化基本構想の策定	1
1 歴史文化基本構想策定の背景と目的	
2 上位計画・関連計画における歴史文化基本構想の位置付け	
(1) 『第2次八代市総合計画』	
(2) 『八代市重点戦略』	
(3) その他の関連計画	
3 策定体制と経過	
(1) 策定の体制	
(2) 策定の経過	
第2章 八代市の概要	9
1 八代市の概要	
(1) 自然的・地理的環境	
(2) 社会的環境	
(3) 八代市の歴史的環境	
2 八代市の歴史文化遺産の概要	
(1) 歴史文化遺産の定義	
(2) 総合的把握調査の手法と記録の管理	
(3) 文化財の指定状況	
(4) 文化財に関する調査履歴	
(5) これまでの文化財保護の現状	
第3章 歴史文化遺産が示す地域の特徴とテーマ設定	38
1 八代市の歴史文化遺産が示す地域の特徴と関連文化財群の考え方	
(1) 八代市の歴史文化遺産が示す地域の特徴	
(2) 関連文化財群の設定方針	
2 八代市の歴史文化の特徴が示す全体テーマとストーリー	
3 関連文化財群の特徴を語るストーリー	
関連文化財群A. 近世からの干拓地と、それに関連する文化	
関連文化財群B. 氷川中流域付近で発達した古代からの文化	
関連文化財群C. 港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史文化	
関連文化財群D. 氷川流域の生活と歴史文化	
関連文化財群E. 豊かな自然に彩られた秘境の里	
関連文化財群F. 八代海周辺の交流をあらわす古代から中世の遺跡	
関連文化財群G. 球磨川下流域の交流と点在する山村集落の文化	
関連文化財群H. 薩摩街道筋の集落と温泉街	

- 関連文化財群 I. 八代で花開いた石造りの文化と石橋群
- 関連文化財群 J. 八代の近代化を支えた歴史文化遺産
- 関連文化財群 K. 八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能

第4章 歴史文化遺産の保存・活用の基本方針	90
1 保存・活用の考え方	
2 保存・活用に関する現状と課題	
(1) 「第2次八代市総合計画」における課題と施策	
(2) 本構想策定をとおして顕在化した課題	
3 保存・活用に向けた基本方針	
第5章 歴史文化保存活用区域の考え方	96
1 区域設定の考え方	
2 対象区域の範囲と歴史文化の特徴	
3 対象区域でのこれまでの取り組み	
4 保存・活用の考え方	
第6章 歴史文化基本構想の推進	100
1 歴史文化遺産を守り伝える取り組み例	
(1) 史跡保存活用計画及び整備事業	
(2) 八代民俗伝統芸能伝承館（仮称）整備及び、ユネスコ無形文化遺産公開活用事業	
(3) 日本遺産認定推進事業	
2 歴史文化遺産の保存のための組織体制	
3 人材育成の考え方	
4 防災・減災への対応	
5 構想の周知と見直し	
〔資料編〕	104
・ 指定文化財一覧	
・ 歴史文化遺産一覧	

第1章 歴史文化基本構想の策定

1 歴史文化基本構想策定の背景と目的

八代市は、平成17年(2005)に八代市・坂本村・千丁町・鏡町・東陽村・泉村の1市2町3村の合併によって誕生した市である。合併によって、東西約50km・南北約30km・面積約681km²という広大な面積を有する都市となった一方で、市域の広がりや都市化の進行に伴う生活様式の変化などにより、かつて存在していた各地の風土に根差した、地域の特徴が失われつつある。このため本市では、文化財指定の有無に関わらず、市内各地に残された自然、歴史、人々の生活に根付いた伝統的な文化などについて、改めて把握を行う必要性が生じていた。

また本市では、山間部の小集落のみならず市街地においても、少子高齢化等による文化財保存継承者の減少が深刻となっており、維持・継承に課題が生じている。このため周辺環境も含めた地域の文化財について、総合的に保存・活用を図る体制の確立が急務となっている。

これまでは、歴史文化を保存・活用していくために制定された「文化財保護法」や、それに基づいて制定された各自治体の文化財保護条例で重要なものを、法的に「文化財」として保護を図ってきた。これらは単体で希少な価値を持つものとして指定されることが多く、各地にある寺院や神社といった信仰地や伝承・昔話のように、地域の歴史や文化を物語るような歴史文化遺産であっても、そのすべてを文化財として法的に保護することは、現実的には困難であった。

そのため、まず従前の文化財保護法に規定された「文化財」という枠を取り外し、歴史的蓄積を持つもの、地域の歴史文化を語る上で欠かすことのできないものを「歴史文化遺産」(詳細については第2章)と捉え直すことが必要であり、その上で歴史文化遺産の魅力を再認識し、地域とともに守っていく体制づくりが現在必要とされている。また、本市中心部にある八代城跡の国史跡指定や八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産への登録*1などを契機に、文化財を活かしたまちづくり、地域振興への市民の期待が高まりつつある。

これらの現状から、本市では、平成28年度(2016)から3ヶ年計画で「八代市歴史文化基本構想」を策定することとした。今回の歴史文化基本構想は、市内各所に所在する歴史文化遺産を総合的に把握し、地域の歴史文化の特性を引き出すこと及び、それらに基づき、これからの歴史文化遺産の保存・活用の方針を明らかにし、構想の推進のためのしくみづくりを示すことを目的とする。

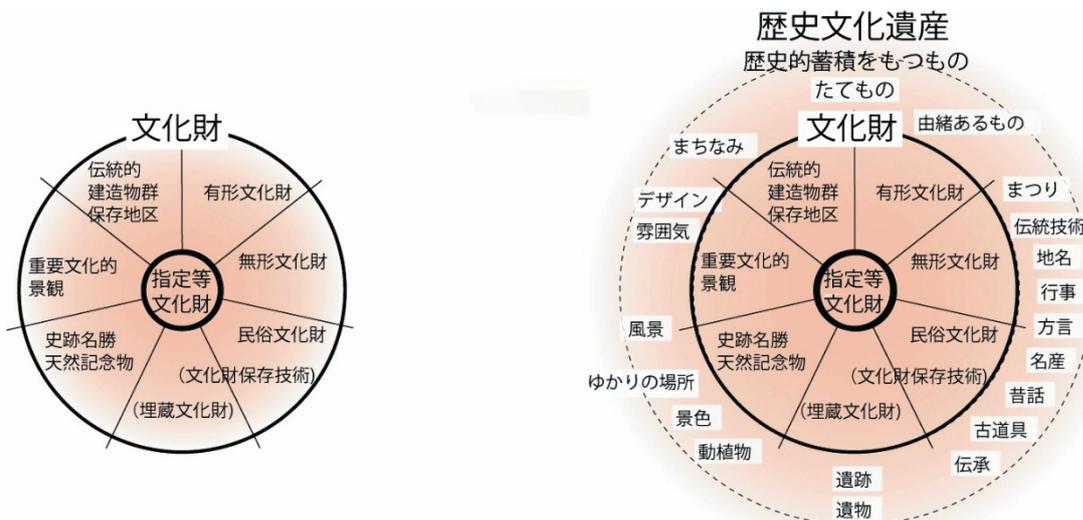


図 1-1 歴史文化遺産のイメージ

*1 正式には『人類の無形文化遺産の代表的な一覧表への記載』、であるが、本構想では以後、『登録』と称する。

2 上位計画・関連計画における歴史文化基本構想の位置付け

八代市歴史文化基本構想は、市内の多種多様な文化財を中核として、地域全体を歴史文化の観点からとらえ、各種施策を統合して文化財を保護するとともに歴史文化を活かした地域づくりを行っていくための基本的な構想である。その策定は、上位計画である「第2次八代市総合計画」(2018年～2025年)の基本構想に基づきつつ、まちづくり、教育、産業振興、観光振興等、あらゆる分野の施策と協働しながら進める必要がある。またその一方で、本構想策定後は、他の施策への働きかけを行い、総合計画の各政策・施策を歴史文化の側面から推進するものでなければならない。そのため、以下では他の計画との関連について記す。

(1) 『第2次八代市総合計画』

第2次八代市総合計画は、平成30年(2018)3月に策定された。計画の期間は2018年度から2025年度までの8年間である。図1-2・図1-3は、施策の体系図であり、以下に記す総合計画の中で考える本市の将来像を実現するための、「基本目標」と「施策の大綱」を図式化したものである。

将来像『しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市“やつしろ”』

「第3部 第1期基本計画 基本目標 郷土を担い学びあう人を育むまち 4 郷土の文化・伝統に親しむまちづくり 施策番号(33) 多様な文化財の保存・継承と活用」の中で、具体的な施策として、以下の3つが挙げられている。

- ① 「八代市歴史文化基本構想」に基づき、文化財をその周辺環境も含め総合的に保存・活用することで、文化遺産を活かした地域づくりにつながるよう、市民の参加意識を高める取組みを進めること
- ② 2022年に築城400年を迎える八代城跡を中心とする歴史・文化ゾーンの保存・活用の取組みや、関係団体との連携による文化遺産の情報発信を行い、認知度を高める取組みを進めること
- ③ ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする市内各地の民俗文化財の保存継承と、情報発信につながる施設の整備を図り、郷土学習への有効活用や後継者の育成を図る取組みを進めること

(2) 『八代市重点戦略』

八代市重点戦略は、平成30年(2018)3月に策定された。計画の期間は2018年度から2021年度までの4年間である。図1-4は、計画の構成図であり、前述した『第2次八代市総合計画』の「基本計画」の中でも特に実現に向けて重点的に取り組む施策のことである。

「八代市重点戦略 2 経済の浮揚と雇用・交流人口の増によるにぎわいの創出」の中で、具体的な施策として、②八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の建設が挙げられている。

表1-1では、『第2次八代市総合計画』と『八代市重点戦略』で挙げられている施策について示す。

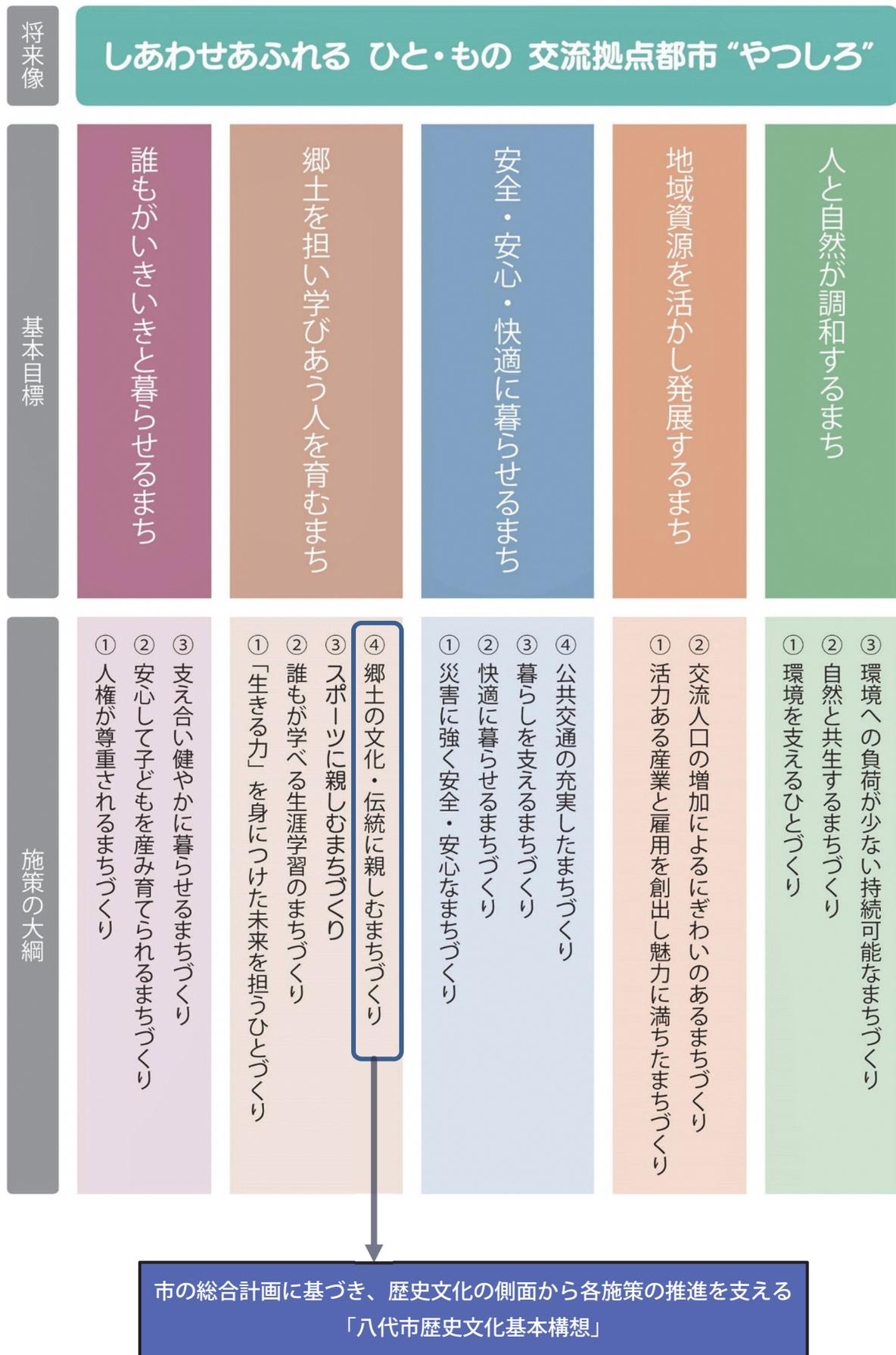


図1-2 第2次八代市総合計画の概要と八代市歴史文化基本構想の役割

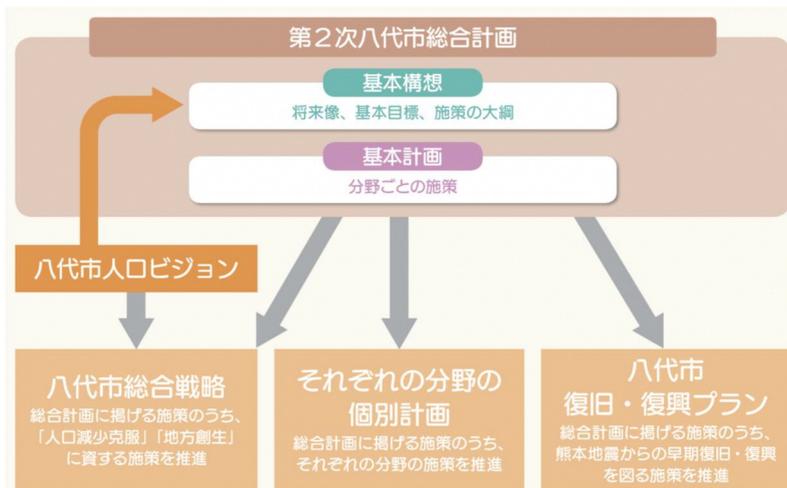


図 1-3 『第2次八代市総合計画』と他計画の関連

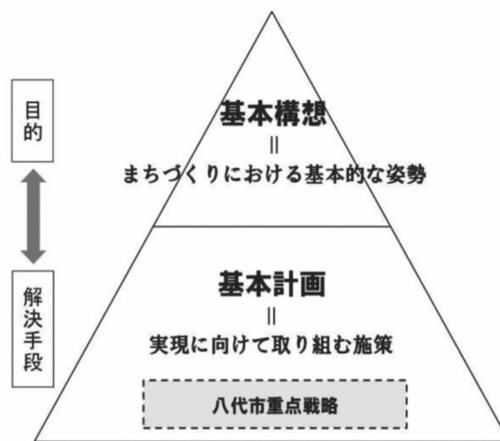


図 1-4 総合計画と重点戦略の関連性

表 1-1 『八代市重点戦略』で挙げられている施策

総合計画	重点戦略	事業名	事業概要 (施策の内容)
施策番号 33	○	八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)整備事業	各地域の伝統文化財の保存継承と活用より、本市の活性化を図るため、八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の建設を進める。
施策番号 33		伝統文化財保存事業	①国重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」及び県重要民俗文化財「妙見宮祭礼神幸行列関係資料」等を保護し、後世に継承する。 ②「文化遺産を活かした地域活性化事業」等を活用し、妙見祭をはじめとする伝統文化に対する市民の理解を深め、歴史と文化を活かしたまちづくりを進める。
施策番号 33		伝統文化財復元修復事業	国重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」の国指定としての適切な保存継承を図るため、専門家の指導を受け、復元修復を行う。
施策番号 33		ユネスコ無形文化遺産活用事業	ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする市内各地の民俗文化財の保存継承と、情報発信につながる施設の整備を図り、郷土学習への有効活用や後継者の育成を図る取組みを進める。
施策番号 33		指定文化財保存管理事業	(1)指定文化財の保存・活用のため措置を講じる。(文化財の管理委託、修理・管理補助等) (2)指定文化財について、国・県の上位指定により価値を高めるとともに、未指定のものは調査を進め、必要に応じて指定・登録の手続きを行う。 (3)国庫補助事業を活用し「八代市歴史文化基本構想」の策定を進める。(平成 28～30 年度)
施策番号 33		市内城跡保存管理事業	2022 年度に築城 400 年を迎える八代城跡を中心とする歴史・文化ゾーンの保存・活用の取組みや、関係団体との連携による文化遺産の情報発信を行い、認知度を高める取組みを進める。

(3) その他の関連計画

前述した『第2次八代市総合計画』・『八代市重点戦略』以外の関連計画については、下記の一覧表に示す。

表 1-2 関連計画一覧表

関連計画一覧	内 容	策定・改定年月	分野
平成 28 年度熊本地震 八代市復旧・復興プラン	平成 28 年 4 月に発生した熊本地震を受けて策定された復旧・復興計画。	平成 28 年 11 月	総合
八代市都市計画マスタープラン	都市計画における理念や目標を定め、今後のまちづくりの基本的な考え方を示す。	平成 22 年 3 月	都市計画
都市計画区域 (特別用途地区－特別工業地区)	旧鏡町において、当時の用途地域である住居地域の一部(旧鏡町の宝出、内田、鏡村、有佐、下有佐地区)に草の加工製造工場が集中して立地しており、地場産業である草加工製造を保護育成するとともに周辺地域との調和を図るため、特別工業地区として決定した。	昭和 51 年 10 月	都市計画
都市計画区域 (防火地域・準防火地域)	防火地域は、都市計画法に基づき、防火のために特に指定される地域。この地域内の建物は、耐火建築または簡易耐火建築としなければならないなど種々の制約を受ける(市街地・日奈久)。準防火地域は、都市計画で指定される地域であり、火災を防止するために比較的厳しい建築制限を受ける(市街地・日奈久)。	昭和 50 年 3 月	都市計画
都市計画区域 (風致地区)	都市内外の自然美を維持保存するため、指定された地区においては、建設物の建築や樹木の伐採などに一定の制限が加えられる(古麓風致地区)。	昭和 46 年 4 月	都市計画
八代市景観計画	景観計画や景観条例の制定により、具体的な目標像やルールを定め、地域全体で共有する。景観計画や景観条例を制定することにより、景観まちづくりに関して一定のルールを作る。景観法の諸制度の活用により市民・企業・行政のそれぞれが主体となり、景観法の諸制度の活用し、それぞれが主体となり、協働して景観まちづくりを推進する。	平成 30 年度 (策定予定)	景観
第 2 期八代市教育振興基本計画	今後 4 年間に取り組むべき教育委員会の施策を示したものの。	平成 30 年 3 月	教育
八代市文化振興計画	平成 29 年度までの 9 年間を目安として八代市の文化振興に関する方向性を定めたもの。	平成 21 年 3 月	文化振興
史跡『八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡』・名勝『旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園』保存活用計画	史跡『八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡』を適切に保存し、後世へと確実に伝えていくために、保存管理の基本方針と方法等、そして八代城跡群の整備活用の基本方針等を示したものの。	平成 30 年 3 月	文化財
名勝不知火及び水島保存管理計画	国指定名勝「不知火及び水島」を適切に保存管理し次世代へ継承するため、その取り扱いの基本方針を定めることを目的とした計画。	八代市・宇城市 平成 23 年 3 月	文化財
八代市観光振興計画(後期)	インバウンド政策を重点的に取り組むとともに、本市における新たな地域資源の発掘と他地域との広域連携、さらに(一社)DMOやつしろ、民間事業者及び本市が一体となって、市民が誇れる観光都市の実現を目指していくための計画。	平成 29 年 5 月	観光
八代おもてなしプラン	国際旅客拠点形成港湾として指定され、今後増加が期待される八代港のクルーズ船の乗客や空路利用の旅行者などをターゲットに、八代地域全体でさらなるおもてなしの向上に取り組み、八代の魅力度アップを目指すもの。	平成 30 年 6 月	観光

八代市地域防災計画 (平成29年度版)	市域の防災に関し、市の処理すべき事務または業務を中心として、県、防災関係機関、公共の団体及び市民が総力を結集すべき事務または業務を含めた総合的かつ基本的な計画。	平成29年改定	防災
------------------------	--	---------	----

3 策定体制と経過

(1) 策定の体制

市内にある多彩な歴史や文化を、その周辺環境も含めて総合的に把握し、積極的な保存及び活用を図り、歴史及び文化を活かした地域づくりの在り方を示す八代市歴史文化基本構想及び保存活用計画を策定するため、「八代市歴史文化基本構想策定委員会」(表1-3)を設置して検討を行った。

表1-3 八代市歴史文化基本構想策定委員会委員(平成28年度～30年度)

氏名	所属及び役職	分野	備考	任期
委員長 安田 宗生	熊本大学 名誉教授 八代市文化財保護委員会 委員	民俗	学識者	H28～30年度 (2016-2018)
副委員長 森山 学	熊本高等専門学校 教授 八代市文化財保護委員会 委員	建築史	学識者	H28～30年度 (2016-2018)
佐藤 伸二	熊本県文化財保護指導員 元八代工業高等専門学校 教授	考古	学識者	H28～30年度 (2016-2018)
服部 英雄	くまもと文学歴史館 館長 九州大学 名誉教授	中世史	学識者	H28～30年度 (2016-2018)
山崎 摂	熊本県文化財保護審議会 委員 八代市立博物館未来の森ミュージアム 上席学芸員	美術工芸	学識者	H29・30年度 (2017、2018)
中村 重之	やつしろ観光ガイド協会 会長 八代市文化財保護委員会 委員	文化財	市民等	H28～30年度 (2016-2018)
濱 大八郎	八代妙見祭保存振興会 会長 八代市伝統文化活性化協議会 副会長	文化財	市民等	H28～30年度 (2016-2018)
福田 秀俊	八代市文化振興懇話会 会長 八代市文化協会 会長	文化	市民等	H28～30年度 (2016-2018)
眞木 誠司	八代市民俗文化財保存連合会 会長	文化財	市民等	H28～30年度 (2016-2018)
涌田 直美	八代市建設部建設政策課 課長	都市計画	行政	H28～30年度 (2016-2018)
岩崎 和也	八代市経済文化交流部観光振興課 課長	観光	行政	H28・29年度 (2016、2017)
澤田 宗順	八代市教育委員会生涯学習課 課長	社会教育	行政	H28・30年度 (2016、2018)
吉永 明	八代市経済文化交流部文化振興課 課長	文化	行政	H28年度 (2016)
廣兼 和久	八代市教育委員会生涯学習課 課長	社会教育	行政	H29年度 (2017)
一村 勲	八代市経済文化交流部文化振興課 課長	文化	行政	H29・30年度 (2017、2018)
田中 辰哉	八代市経済文化交流部観光振興課 課長	観光	行政	H30年度 (2018)

【オブザーバー】 熊本県教育庁教育総務局 文化課
熊本県県南広域本部

【事務局】 八代市経済文化交流部 文化振興課

(2) 策定の経過

ア 策定委員会

委員会は平成28年(2016)12月12日の第1回策定委員会を皮切りとし、平成28年度(2016)～30年度(2018)に、計8回の委員会を開催した。

【平成28年度(2016)】

第1回策定委員会 平成28年(2016)12月12日

八代市教育長より委員の委嘱を行い、委員互選により委員長に安田宗生委員、副委員長に森山学委員を選出した。

事務局より「八代市歴史文化基本構想」について策定の目的、策定の必要性、基本構想の位置づけ、策定の期間、策定計画の調査内容(案)、策定体制、経過及び今後の予定について説明し、委員会において承認した。

第2回策定委員会 平成29年(2017)3月21日

事務局より計画の概要と今後の検討スケジュール、歴史文化基本構想策定方針、他の歴史文化基本構想の事例、平成28年度(2016)の実施成果報告、平成29年度(2017)の作業に向けての報告を行った。

委員からは、基礎資料作成に伴う悉皆調査について、まずは旧手永^{てなが}の範囲ごとの調査をはじめて、その調査結果からテーマを決めれば良いのではないかという提案など、多くの意見・提案がなされた。

【平成29年度(2017)】

第3回策定委員会 平成29年(2017)9月5日

事務局より平成29年度(2017)の作業スケジュールと平成28年度(2016)の協議概要の説明、平成29年度(2017)調査状況報告を行った。また、活用区域と関連文化財の考え方として、第2回委員会で提案がなされた「旧手永範囲」を用いた活用区域の設定、地域特性・関連文化財の考え方を提示した。

委員からは、様々な意見・提案がなされたが、特に「全体を総括する一つのストーリーができないとまとまらない。港があり、五家^{ごかのしゅう}荘などの山があって、それらは川を媒介としてつながっている。それらをつなげてどう示すか。どうやって計画に組み込んで、活用していくかが課題となる。」という次回までに検討を行うべき課題の提示がなされた。

第4回策定委員会 平成29年(2017)12月12日

事務局より前回の協議概要の説明、「海運と水運(海の道と川の道)が会おう国、八代。」という全体テーマ案の提案、地域特性と関連文化財の考え方を「干拓地」・「氷川^{ひかわ}(八代市北部)」・「旧八代城下(八代町および中世城下町)」・「旧種山手永^{たねやま}(東陽町・泉町の一部)」・「天領 五家荘(泉町川辺川流域)」・「八代海沿岸」・「坂本」・「日奈久^{ひなぐ}・二見^{ふたみ}」の8区域にわけて考える案の提示を行った。

委員からは、「港」をテーマの正面に出した方がよいのではないかと、全体のストーリーで港をもう少し強調してよいのではといった意見の他に、調査項目について様々な意見や提案がなされた。

第5回策定委員会 平成30年(2018)2月26日

事務局より前回協議報告、地域特性と関連文化財の考え方についての説明、平成29年度(2017)に実施した調査の概要の報告、歴史文化基本構想目次案の提示、今後のスケジュールの確認を行った。

委員からは目次案の活用計画の部分に対して特に多くの意見・提案がなされ、具体例として今回の計画の中で活用というのはどこまでの範囲を書けるのか、文化資源の有効活用というところまでか、観光の視点はどこまで入れられるのだろうかというような、策定後の文化財の活用についての質問があがった。

【平成30年度(2018)】

第6回策定委員会 平成30年(2018)6月1日

事務局より平成29年度(2017)の協議概要の報告、前回から修正した歴史文化基本構想目次案の提示、構想策定にあたってのスケジュール(パブリックコメント等の時期を含む)について提示を行った。

委員からは、外国人の観光、国内からの観光などの扱いについて、観光ターゲットの絞り込みや見せ方について、八代にこんなテーマの場所があるというのがわかるような発信のあり方などについての提案がなされた。

第7回策定委員会 平成30年(2018)9月25日

事務局より八代市歴史文化基本構想(素案)を基に、主に第1章～第4章までの記載内容の説明を行った。また、第5章の歴史文化保存活用区域の内容について概要説明を行った。

委員からは、記述内容の重複箇所の指摘や、これまでの歴史文化遺産に関連する活動実績の記述の充実などについて意見や提案がなされた。第5章の歴史文化保存活用区域の内容についても、伝統的な町屋建築について、改修されて見えなくなっている建物の要素を明らかにし、官民の総意で町屋の伝統的な景観を取り戻していくことの必要性も提案された。

第8回策定委員会 平成30年(2018)12月25日

事務局より八代市歴史文化基本構想(素案)を基に主に、前回会議や関係機関の助言を踏まえた最終案の説明を行った。

委員からは、最終の策定委員会ということもあり、誤字・脱字・読み取りにくい表現の修正、ルビの追加、図表の見やすさ等に関する細かな指摘がなされた。

会議終盤に、安田委員長より指摘箇所については事務局にて今後修正を図ることとし、策定委員会として素案の承認を行うことについての発議があり、出席委員の全員が異議なく承認した。



写真 1-1 策定委員会の様子

イ パブリックコメント

八代市歴史文化基本構想(素案)に対する意見や情報を市民等から募集するために、「八代市パブリックコメント手続実施要綱」に基づく、パブリックコメントを実施した。

基本構想(素案)の公表は、八代市役所(文化振興課)、市ホームページで行い、意見の募集期間は平成30年(2018)11月27日から12月13日までとした。

期間中、正式な意見等は提出されなかった。

ウ 八代市歴史文化基本構想の策定

八代市歴史文化基本構想(素案)に対する策定委員会及び関係機関の意見等を参考に素案の修正を行い、平成30年(2018)12月26日に「八代市歴史文化基本構想」を策定した。

策定期間：平成28年(2016)年12月12日～平成30年(2018)年12月26日

第2章 八代市の概要

1 八代市の概要

本市は九州のほぼ中央部、東経 130 度 36 分、北緯 32 度、熊本県の南部にあり、熊本市から南に約 40km の所に位置している。東西約 50km、南北約 30km、面積約 681km²の市域を有しており、人口約 13 万人の熊本県第二の人口規模を持つ地方都市である。東は九州山地の脊梁地帯を形成して宮崎県に接し、西は八代海を隔てて天草諸島を臨んでいる。南は球磨郡及び葦北郡に接し、北は八代郡、宇城市、上益城郡及び下益城郡に接している。また、西の八代平野と東の山地に区分され、全面積の約 75%が山間地となっている。

日本三急流の一つである球磨川の河口に位置する八代平野は、球磨川などから流下した土砂の堆積によりできた扇状地式三角州を基部とする沖積平野と、藩政時代から行われてきた干拓事業によって形成されている。一級河川の球磨川、二級河川の氷川がもたらす豊富で良質な水の恩恵を受け、い草や米、トマトなど全国有数の農産物の生産地、古くから製紙や酒造をはじめとした熊本県内有数の工業都市として発展を続けてきた地域である。



図 2-1 九州広域位置図

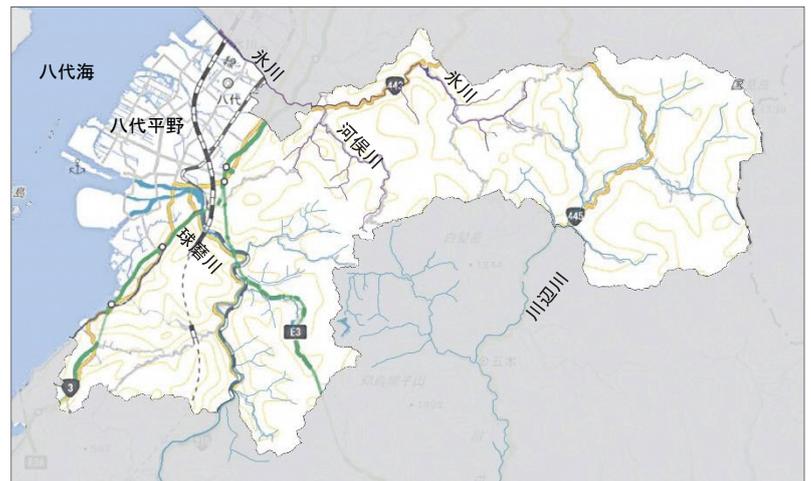


図 2-2 八代市域図

交通アクセス面では、昭和 55 年(1980)に九州縦貫自動車八代インターチェンジ、平成 13 年(2001)には南九州西回り自動車道日奈久インターチェンジが開通し、平成 23 年(2011)3 月には九州新幹線が全線開業した。また、海の玄関口である八代港は、昭和 34 年(1959)に重要港湾に指定され、平成 11 年(1999)には韓国・釜山港を結ぶ国際コンテナ定期航路が開設されたことにより、南九州の物流のゲートウェイとして国際貿易が活発に行われている。さらに、平成 29 年(2017)に国際旅客船拠点形成港湾に指定され、人流のゲートウェイとしても活用が図られている。



写真 2-1 九州新幹線新八代駅



写真 2-2 八代港と大型クルーズ船

(1) 自然的・地理的環境

ア 地理・地形

八代平野は遠浅の八代海の東側に形成された南北に細長い地勢で、平野の半分近くが近世以降の干拓地である。平野部の東側は九州山地の西縁部にあたり、標高 500m 級の山地が並んでいる。この九州山地の西縁に北東から南西方向にかけて日奈久断層帯が走り、標高 300~500m 内外の高さから約 30 度の傾斜を持って落ちる顕著な断層崖をなしている。

これらの山々から大小多くの河川が派生し、八代平野を潤しながら八代海へ注ぎ込んでいる。おもな河川は南から球磨川・氷川・砂川等であり、これらの河川はそれぞれ下流域に扇状地や三角州を形成し、特に日本三急流の一つである球磨川と氷川の流域で発達が著しい。また、球磨川の北側には水無川(日置川)が流れているため、両河川により運ばれた土砂堆積物によって複合三角州が形成されて沖積平野の発達が特に顕著であり、自然陸化は山麓から 5km に及んでいる。平野部の大半が干拓によるため、勾配率は 1/1,000 程度と非常に緩くなっている。

地質は、八代平野の大部分は氷川や球磨川から流下した土砂が堆積した礫・砂・泥の層と、それらを埋め立てて形成された干拓地埋立物から構成されている。大築島や白島など球磨川河口部に散在した小丘陵や、八代平野東部に位置する竜峰山は結晶質石灰岩から成り、現在も露頭が散見される。また、氷川流域には溶結凝灰岩層が点在しているなどの特徴がみられる。

標高は山麓付近で 5~6m、平野中央部で 2~3m 程度、海寄りの干拓地では 1m 未満とかなり低くなっている。

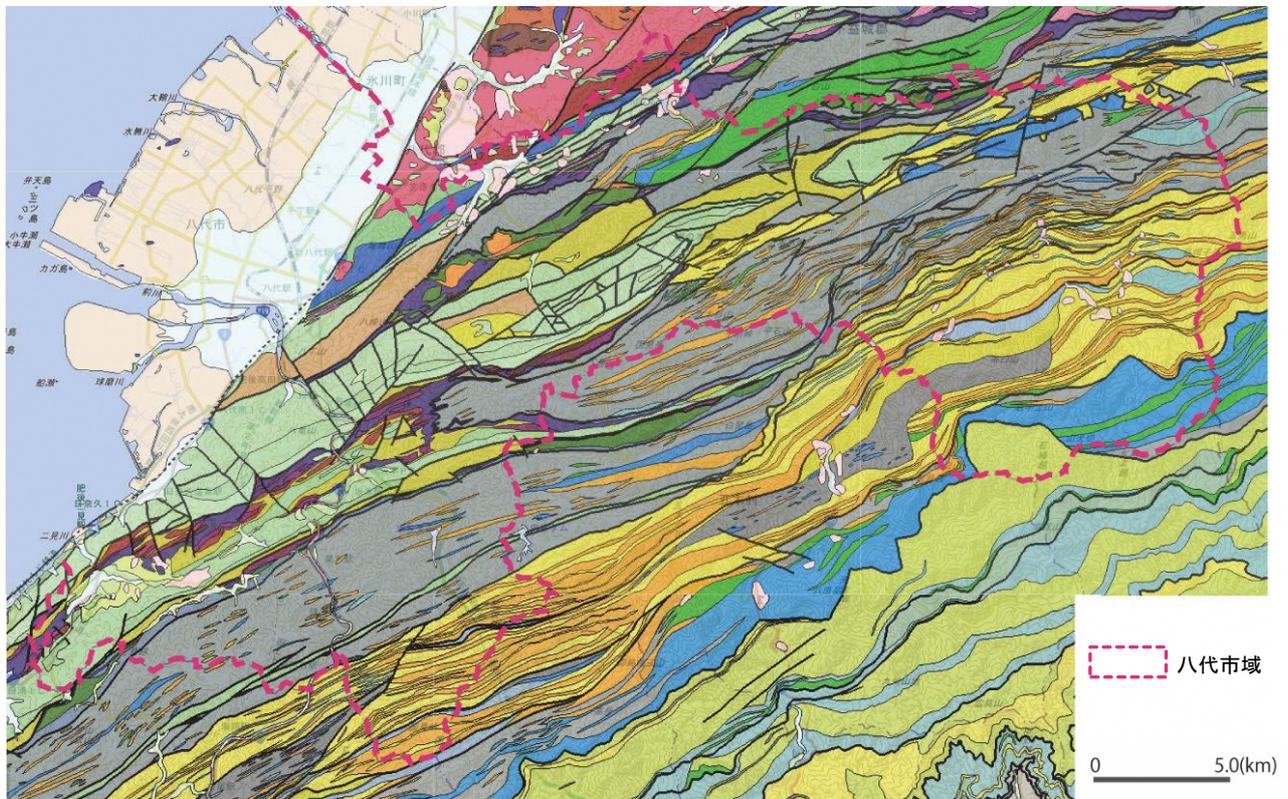


図 2-3 八代および周辺の地質図と断層帯

- 火成岩(花崗岩)
- 火成岩(大規模火砕流)*溶結凝灰岩
- 堆積岩
- 堆積岩(礫岩)
- 火成岩
- 堆積岩(砂岩)
- 堆積岩(砂岩泥岩)
- 堆積岩
- 盛土

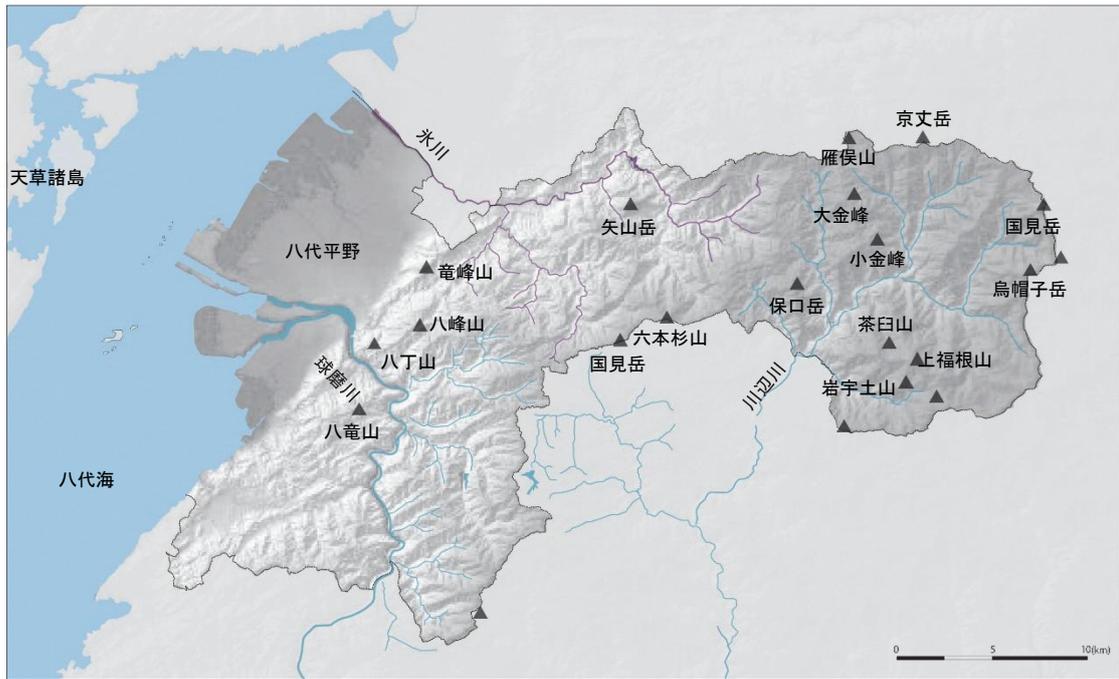


図 2-4 八代市の地形図

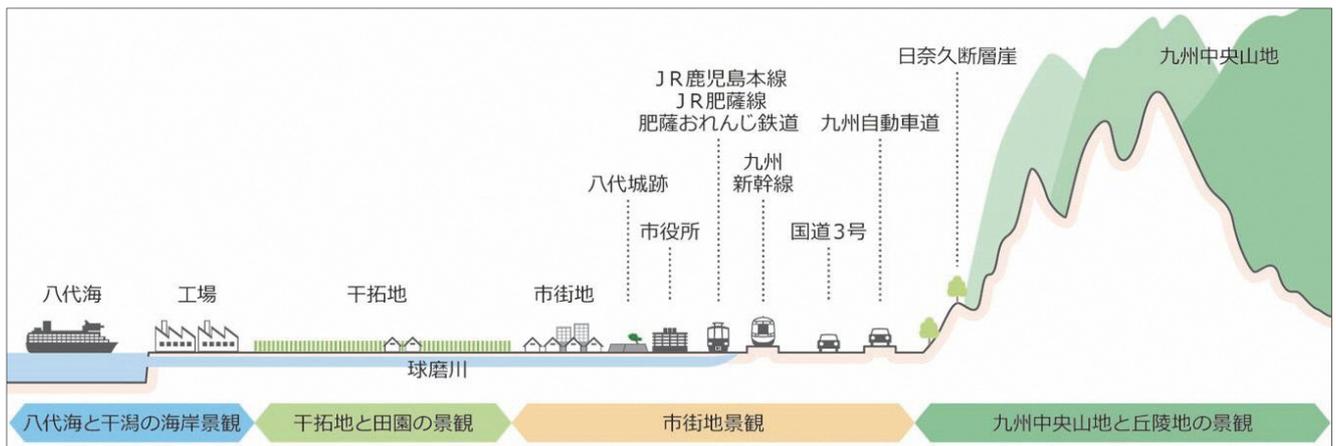


図 2-5 八代の景観構造模式図

イ 平野部

現在の八代平野の3分の2は江戸時代～昭和初期にかけて行われた干拓によってもたらされた。八代で干拓が進められた背景には、球磨川をはじめとした多くの河川によって作られた大小たくさんの三角州があったことや、八代海が干満の差が大きく、干潟としてもともと干拓に適した遠浅の海であったことに起因している。干拓によって耕作地が拡大した八代平野では、塩分を含む土壌に強い“い草”の栽培が行われ、一大生産地として名高い地域になっただけではなく、近年ではミネラル豊富な土壌を活かしてハウス栽培のトマトやメロンが生産されており、特に冬トマトは全国一の生産量を誇るなど、全国有数の農産物の生産地となっている。

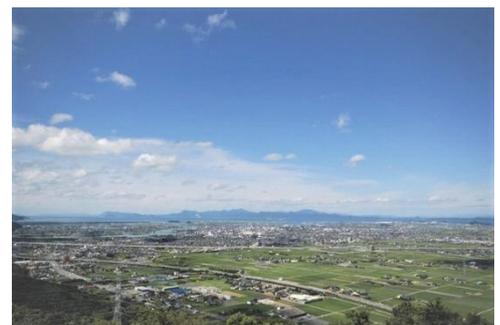


写真 2-3 八代平野

ウ 山間部

本市東部に位置する奥山地域は、^{くにみだけ}国見岳や^{えぼしだけ}烏帽子岳に代表される山々が急峻な九州山地を形成している。この地域には、ブナ林をはじめとした原生的な森林が広がり、九州中央山地国定公園や^{いつきごかのしょう}五木五家荘県立自然公園に指定されるなど、優れた自然を有する景勝地となっている。特に五家荘は深い山々の緑、^{かわべがわ}川辺川がぎざむ溪谷や^{とどろ}せんだん轟の滝など、手つかずのすぐれた自然景観が現存している。また、この地域は水田を耕作する土地が少ないため、生業として古くから焼畑農耕が盛んに行われてきた。現在、焼畑は行われていないものの、焼畑を表す地名や、古くは焼畑農耕で栽培された作物(お茶・大豆など)が栽培されるなど、焼畑農耕に由来する生活文化が今も残されている。

里山地域では、中小河川に石造りのめがね橋が架かり、生姜や茶の栽培が盛んにおこなわれている特徴がある。



写真 2-4 五家荘山間部



写真 2-5 山間部の茶畑

エ 水系

本市には、日本三急流の一つに数えられる一級河川球磨川を主体とした^{くまがわ}球磨川水系、二級河川の^{ひかわ}氷川、^{おざや}大鞘川、^{がわ}水無川など計7水系があり、いずれの河川も八代海に流入している。

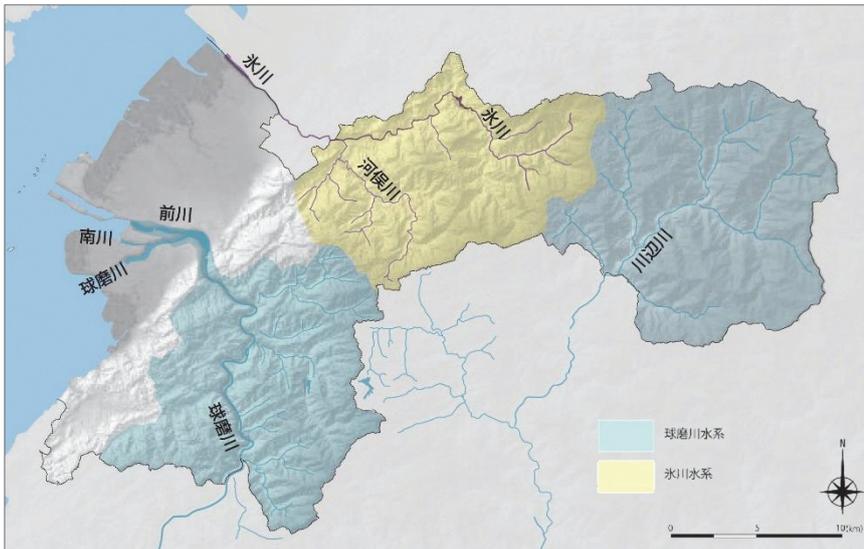


図 2-6 八代市の水系図



写真 2-6 球磨川河口付近

① 球磨川水系

[源流・上流域(泉地域)]

球磨川の最大支川である^{かわべがわ}川辺川の源流・上流域は、ほとんど全域が九州山地に属する山岳地帯となっている。広大な自然林や急峻な溪谷が存在するなど、すぐれた自然景観が現存し、溪流にはブチサンショウウオやカジカガエル、ヤマメやサワガニなどが生息している。

[中流域(坂本地域～^{ようはいげき}遥拝壇)]

^{ひとよしし}人吉市で川辺川と合流した球磨川は、^{くまむら}球磨村の山間狭窄部を流下し、坂本地域に至る。瀬や淵が交互に出現し

ていた上流域と異なり、このエリアでは、遙拝堰やダムによる湛水^{たんすい}が見られる。カワヂシャやタコノアシ、ミゾコウジュなどの希少な植物の生育が河岸で確認されているほか、アユやオイカワ、希少なタナゴ類などの生息が確認されている。

[下流域(遙拝堰下流)]

球磨川堰^{くまがわげき}、新前川堰^{しんまえかわげき}から下流は、干満の影響を受ける汽水域である。まとまったヨシ原が現存するほか、シオマネキやオカミミガイなどの希少種をはじめ、海と川を回遊するモクスガニなど、多様な動物の生息が確認されている。

② 氷川水系

[上流～中流部(泉地域～東陽地域)]

上流域は、山々が連なる奥山・里山的な環境である。河岸には、エノキやアラカシなどからなる河畔林が見られ、河川の瀬や淵にはヤマメやアユなどの魚類が生息している。また、氷川ダム上流ではクマタカの生息が確認されている。河俣川^{かわまたがわ}と合流する中流域では、カワヂシャやミゾコウジュなど、希少な植物をはじめ、ツルヨシなどの群落が存在し、また瀬や淵にはアユやオイカワなどの魚類が生息している。

[下流域(鏡地域)]

平野部を流れる下流の瀬や淵では、カジカやヤリタナゴなどの希少種のほか、カワムツなどの魚類が生息している。また、水際の植生はカヤネズミの生息場所となっているほか、汽水域の中洲などに見られるヨシ原は、希少な貝であるシマヘナタリの日本最大規模の生息地となっている。

オ 気候

本市の気候は、温暖な平野部と冷涼な山間地に大きく分けられる。そのため、平野部では降雪の日は稀であるが、山間部では一定量の積雪がある。夏は南西の、春・秋・冬は北東の微風が吹く。八代市統計年鑑によると、平成28年の降水量は2,306mm、最高気温36.5度(8月)、最低気温-7.3度(1月)、平均気温17.9度となっている。近年は気温がゆるやかに上昇しつつある。

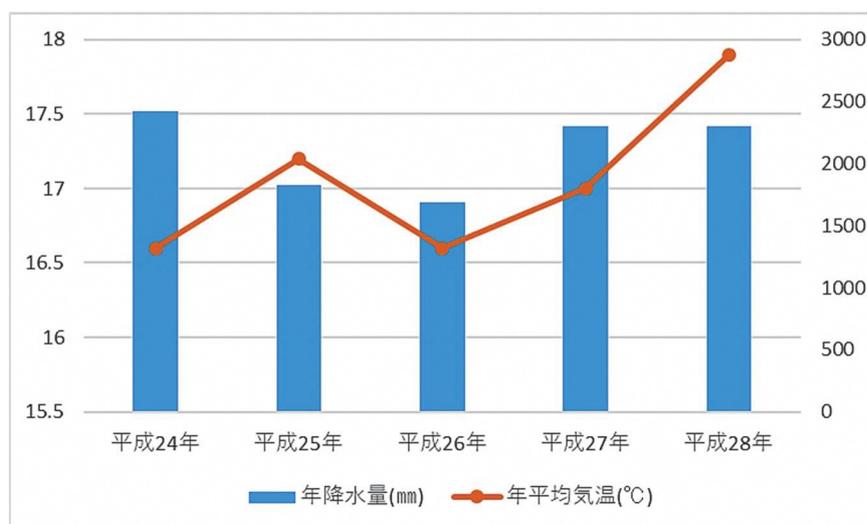


図 2-7 八代市の年平均気温・年間降水量(「八代市統計年鑑 平成29年度版」より出典)

カ 海浜部

本市が面する八代海は、別名「不知火海^{しらぬいかい}」とも呼ばれる平均水深22mの遠浅の海で、天草灘^{あまくさなだ}から北東側に入

り込んだ内湾状を呈している。潮位は外海への開口部から遠い北部ほど干満の差が大きく、干潮時には八代海北部東岸部を中心に広大な干潟が出現する。

本市沿岸には、八代海に出現する干潟の75%に相当する約3,000haの干潟が存在している。アサリやハマグリといった漁業資源はもとより、ムツゴロウやミドリシャミセンガイ、アナジャコなど、多くの生き物が生息している。最近になって日奈久港沖で過去に消失したと考えられていたアマモ場が、大規模に復活しつつある。

また、球磨川及び氷川河口の干潟には、クロツラヘラサギやズグロカモメなどの希少種をはじめとした渡り鳥が数多く飛来することから、これらの地域一帯は、「日本の重要湿地500」や「重要野鳥生息地」に選定されている。特に球磨川河口は、平成16年(2004)8月、シギ・チドリ類の重要な中継地として、渡り鳥保全ための国際的なネットワークである「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク(シギ・チドリ類)」へ参加が認証されており、生息地の保護が望まれている。



写真 2-7 八代海の干潟



写真 2-8 八代海に飛来する渡り鳥

(2) 社会的環境

ア 人口の推移と推計(図)

本市の人口は、昭和55年(1980)以降減少傾向にあり、昭和55年(1980)の150,389人から平成27年(2015)国勢調査の127,472人へと、35年間で22,917人減少している。

この35年間で老年(65歳以上)人口は24,229人増加し、昭和55年(1980)の約2.5倍となっている。その一方で、年少(0~14歳)人口は18,144人減少し、昭和55年(1980)の約50%となっており、少子高齢化が顕著になっている。生産年齢(15~64歳)人口も29,496人減少し、昭和55年(1980)の約70%となっている。

2020年以降の推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という)が公表している地域別将来推計人口と平成27年(2015)国勢調査の人口を基に、厚生労働省が算定したものを採用して算出した。

これによると2025年には、社人研が公表している地域別将来推計人口では約113,400人、年少(0~14歳)人口は約12,100人、生産年齢(15~64歳)人口は約59,800人、老年(65歳以上)人口は約41,600人と推計される。高齢化率は36.7%と予想され、平成27年(2015)の31.7%に比べ5%増加することが予想されるなど、更なる少子高齢化が見込まれている。

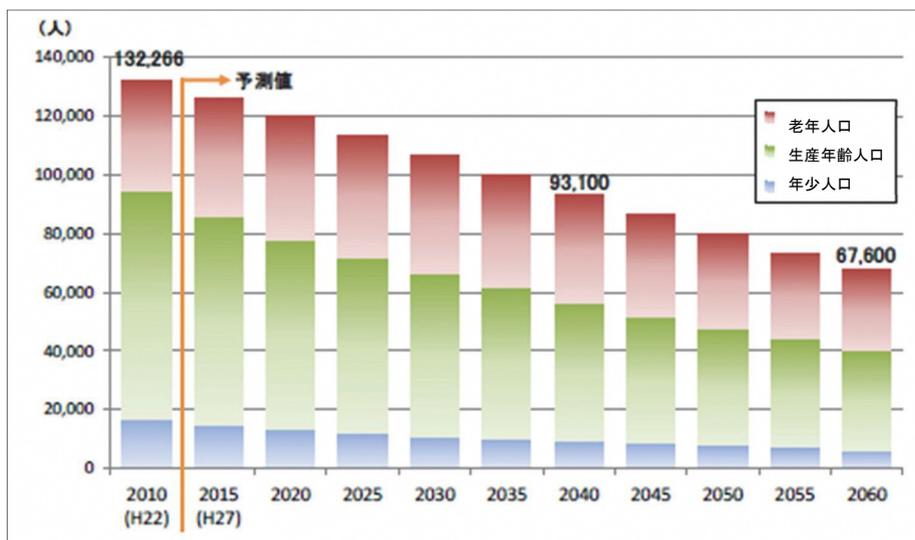


図 2-8 八代市の人口の推移と将来推計 (参考)「第二次八代市総合計画(平成30年3月)」

イ 産業

本市の産業は、農業・林業・水産業・商業・工業に大別できる。農業は広大な干拓平野と豊富な水を活かしたい草栽培・トマト栽培が主体で、日本一の生産量を誇っている。林業は市域の約75%を占める山間地の森林を活かすために「八代産材利用促進事業」を行うなど振興に努めている。水産業は魚・アサリ・カキ・ノリ等のブランド化と観光漁業(舟出浮き)を「フードバレー八代基本戦略構想」で推進しており、中でもカキ養殖が盛んで「鏡オイスター」のようにブランド化されているものもある。商業は中心市街地を中心として商店街が形成されている。近年は大型商業施設の進出がみられるが大型クルーズ船寄航に伴う観光客の増加により、卸売業、小売業ともに現時点での商店数・従業者の減少傾向は見られない。工業は製紙大手の日本製紙(株)八代工場、食品フィルムの(株)興人八代工場、アルコール、薬品のメルシャン(株)八代工場、アルミ建材のYKK AP(株)九州事業所、船外機のヤマハ熊本プロダクツ(株)など、多様な業種の工場が集積している。

就業者の推移をみると(図2-9)、本市の就業人口は、昭和60年(1985)以降、減少傾向にあり、昭和60年(1985)の70,985人から平成27年(2015)国勢調査の59,562人へと、30年間で11,423人減少している。

また、産業別就業者の推移を見ると、第3次産業就業者数は、昭和60年(1985)の36,295人(全体に占める割合51.1%)から平成27年(2015)には37,231人(同62.5%)まで増加している特徴がある。第1次産業就業者は、一貫して減少傾向にあるものの、平成27年(2015)には若干の増加となっている。

2025年の就業人口は、昭和60年(1985)～平成27年(2015)の国勢調査における就業者数と産業別就業者数により、2021年、2025年の産業分類別割合を算定し、推計人口に基づいて推計すると約54,200人と推計されている。そのうち、第1次産業が約6,800人(全体に占める割合12.5%)、第2次産業が約12,600人(同23.3%)、第3次産業が約34,800人(同64.2%)と推計されている。

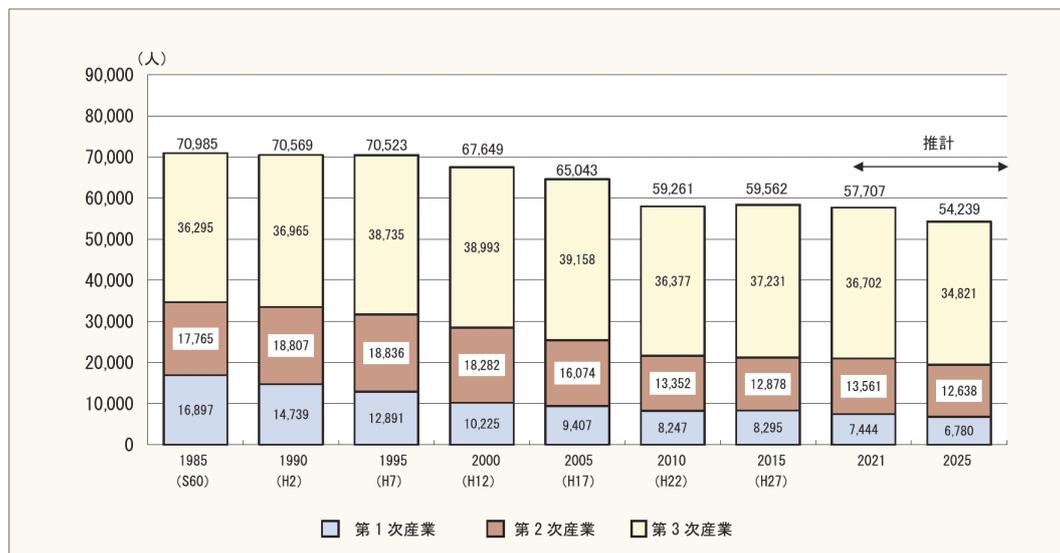


図2-9 八代市の産業分類別就業人口の推移と将来推計

ウ 観光

本市は、『八代市観光振興計画(後期)』の中で、「資源・文化・思い・食」という八代市が誇る地域のすばらしさの発信と質の高い時を提供することを主眼におき、本市を訪れる人々との交流、観光客の声から得られる客観的なまちの評価を通じて、地域住民自身が地域の価値を知り、地域に誇りを持ち、地域内外に伝えたい、そのような「まちづくり観光」を目指している。

特に、大型クルーズ船の寄港が増大し、国際旅客船埠頭の整備が計画される等、八代港の環境が大きく変わ

っていくため、インバウンド需要の獲得を目指した旅行商品の提案や、物産等地元消費の拡大を構築していく必要性が生じている。

そのため、平成30年(2018)9月に、市・県・八代商工会議所・(一社)DMOやつしろが主となり、官民一体となった「八代港クルーズ客船受入実行委員会」を設立し、クルーズ客船による来訪者をはじめ、外国人観光客が、安心・安全、快適に滞在できるよう受入環境の整備に取り組んでいる。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「八代妙見祭」があるからこそ可能な、市民・事業者・観光関係団体・行政の官民協働の取組みにより、長期的、継続的な観光振興の実現を目指している。

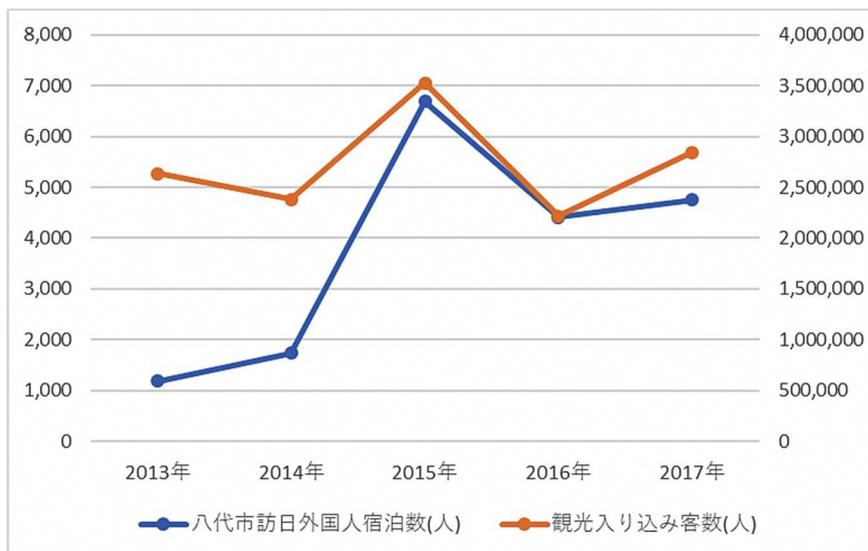


図 2-10 八代市の観光入込数・外国人宿泊数の推移

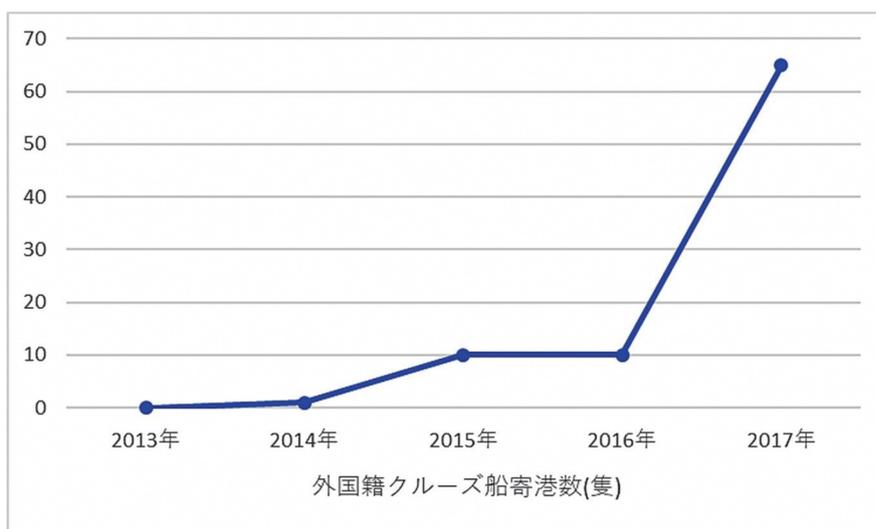


図 2-11 八代港の外国籍クルーズ船寄港数の推移

(3) 八代市の歴史的環境

【旧石器・縄文時代】

旧石器時代は、人類が日本列島へ移住してきた時に始まり、終わりは1万6000年前と考えられている。熊本県にある世界有数の火山阿蘇山は、約9万年前まで大規模な噴火を繰り返し、火山活動が収まった3万年前あたりから、阿蘇周辺で人々が活動した跡が見つまっている。

本市では旧石器時代の遺跡はまだ見つかっておらず、当時の様相は分かっていないが、隣町の氷川町立神ドトク遺跡でナイフ形石器などが採集されていることから、今後、市内の山間部でも遺跡が発見される可能性がある。

続く縄文時代は、約1万6000年前から始まったと考えられている。この頃になると人々は土を焼いて土器を作るようになり、煮炊きができるようになった。土器が作られるようになってから、人々の生活は大きく変化し、竪穴式住居が作られ、集落が形成された。この時代は約1万年続き、土器に縄目の文様がつけられていることから縄文時代と呼ばれている。この頃、人々が住んでいたところには、食べたあとの貝殻、獣や魚の骨などを捨てた跡が残っており、これを貝塚といい、当時の人々の食生活や自然環境を知ることができる重要な遺跡となっている。

本市ではこれまでに25ヶ所の遺跡が発見されている。特に、市南部の二見地区や東部の泉地区、東陽地区の山間部から遺跡が多く発見されており、これらの地域では縄文早期から縄文前期(約1万年～5000年前)の遺跡が見つまっている。また、高島や産島など干拓で陸続きになる前は島だった場所からも、縄文早期の縄文土器と石器が見つまっている。特に縄文前期の中でも縄文海進期の遺跡は、現時点ではこれらの島々からしか見つかっていない。縄文中期(約5000年～4000年前)には、五反田貝塚(敷川内町)や田川内貝塚(日奈久新田町)のような、もとは海岸線に面する山麓の小高い場所にも小規模な貝塚が形成された。縄文後期及び縄文晩期(約4000年前～2100年前)の遺跡は、有佐貝塚(鏡町有佐)、郡築十二番町遺跡(郡築十二番町)、鐘楼堂遺跡(井上町)などのように八代平野の中にも点在している。これは縄文晩期から弥生時代にかけての縄文海退期に八代海に陸地部分が拡大したことに関係していると考えられている。縄文時代の遺跡は未調査のものが多く、その規模や内容は不明である。なお、縄文早期の頁岩製の石槍が妙見上宮(妙見町)に至る山道で採集されており、当時から山中での狩猟活動が盛んだったことがわかっている。



写真 2-9 有佐貝塚

【弥生時代】

弥生時代の始まりをいつにするのかについては、弥生土器を作り始めた時期とするか、米作りが始まった時期とするかで、学者によって意見が分かれているが、今から2100年ほど前から1800年ほど前の時期を弥生時代の始まりとしている。

本市では、弥生時代に作られた土器や米作りに使われた鋤や鋤などの木製品が数多く見つまっている。弥生時代の遺跡は、縄文遺跡とは逆に山間部にはほとんどなく、八代平野に25ヶ所発見されている。九州新幹線の開業に伴う発掘調査により、新八代駅周辺では、弥生時代前期の島田遺跡(島田町)から、板付式土器や竪穴式住居跡が出土し、上日置女夫木遺跡(上日置町)、西片百田遺跡(西片町)、用七遺跡(長田町)からは、弥生時代後期の免田式土器



写真 2-10 小銅鐸

を伴う竪穴住居跡が多数出土した。また、上日置女夫木遺跡と用七遺跡からは弥生時代の青銅器である小銅鐸しょうどうたくとやりがんな鉦やが出土し、北部九州との交流が盛んだったことを示している。球磨川左岸の沖積平野の末端部に位置する下堀切遺跡しもほりきり（豊原下町ぶいわらしもまち）では、打製石包丁いしぼうちようや鉄斧てつぼの柄などの木製品の他に甕などの土器が出土している。

これらのことから八代平野では、弥生時代前期に山麓から2～3kmの範囲で集落が形成され、後期までには九州内外の各地との交流をもつような大規模の集落が形成されるまでに発展したことがわかる。

【古墳時代】

古墳時代は、3世紀の中ごろから7世紀後半にかけての時期であり、壮大な墳丘をもった有力者の墓である古墳が全国各地に造られていた特徴がある。

本市では4世紀頃から、地域を支配した有力者の墓である古墳が造られるようになった。新八代駅周辺にある上日置女夫木遺跡と用七遺跡では、県内では最南端となる古墳時代初頭ほうけいしゅうこうの方形周溝墓ほうが多数発見されている。干拓で陸地化する以前は海に浮かぶ島だった大鼠蔵山おおそぞうにある大鼠蔵古墳群のひとつ、楠木山古墳くすのきやま（鼠蔵町）は、主体部に竪穴式の石室を持ち、4世紀末の築造と考えられている。また、産島うぶしまや大島、高島などでも4世紀から5世紀にかけて箱式石棺を主体部とする古墳群が築造されている。球磨川右岸の山麓部から平野部にかけては、八代大塚古墳やつしろおおつか・茶臼山古墳ちやうすやま・高取上の山古墳たかとりうえ（上片町やま）かみかたといった前方後円墳を中心とする古墳群が存在している。また、この地域には鬼の岩屋古墳群おに いわや（上片町）をはじめとする巨石を組み合わせて横穴式石室を造った6世紀頃の古墳を多く見ることができる。

また、旧海岸地帯や山麓部、島では、横穴式石室の石障や箱式石棺の内側に円文或いは同心円文を線刻した装飾古墳が多く見られる。その代表的な例として、小鼠蔵古墳群こそぞう（鼠蔵町）おおそぞう、大鼠蔵尾張宮古墳おおそぞう（鼠蔵町）おわりのみや、五反田古墳たのかわち・田川内第一号古墳もんぜん、門前二号古墳もんぜん（岡町谷川）などがあげられる。大鼠蔵古墳群の箱式石棺からはサラサバティ製、田川内第一号古墳からはイモガイ製の貝輪が出土しており、八代海を北上して北部九州へと通じる貝の道との関連性が指摘されている。



写真 2-11 大塚古墳出土土輪

市内の古墳を石材からみると、鬼の岩屋古墳の石材は八代地方では産出しない長さ2m前後の大型の安山岩を用いるのが特徴で、地質分布と運搬方法からその産出地は八代海を約60km南下した鹿児島県長島ながしまの海岸地帯であるとみられている。また、円文装飾の石材も八代海を隔てた天草産の砂岩を用いている。この他、八代海上の島の波打ち際から切り出したとみられる貝が付着した砂岩・石灰岩を用いた古墳も存在している。これらのことから、少なくとも弥生時代以降、八代海を介して青銅器や貝製品の交易をはじめ、各種石材の運搬のための舟や筏が盛んに往来していた様子がうかがえる。

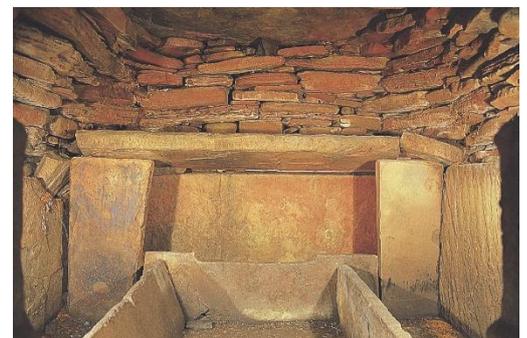


写真 2-12 田川内古墳の内部装飾

【古代】

日本史における古代とは、飛鳥時代あすかから奈良時代・平安時代に相当する。飛鳥時代（6世紀終わり頃～8世紀初め）は、聖徳太子が活躍し、「十七条憲法」や「冠位十二階」などを制定し、天皇を中心とする国づくりを進めた時代である。奈良時代（710～794年）は、奈良の平城京に都が置かれ、律令制といわれる国のしくみが成立した。この頃、戦乱や飢饉も多く、国内の平安を祈って、各地に次々と仏教寺院が建立された時代である。平安時

代(794～1185年頃)は、『源氏物語』や『枕草子』などが書かれ、貴族を中心とした国風文化が栄えた時代である。

仏教寺院の建立

古代の八代の様相を表す遺跡として、八代で最も古い寺院跡で、^{りゅうほうざんろく}龍峰山麓にある^{こうぜんじはいじ}興善寺廢寺跡(興善寺町)が知られている。飛鳥時代末から平安時代にかけて栄えたと考えられる寺院跡で、発掘調査によって、167m四方の築地塀に囲まれ、正面に南大門があり、中門を通ると右に塔、左に金堂、中央奥に講堂が建ち並ぶ^{ほうきじしきがらんはいち}法起寺式伽藍配置であったことが確認されている。また、大量の^{ぬのめ}布目瓦(古代瓦)や^{はじき}土師器・^{すえき}須恵器などの土器も出土している。境内に残る^{とうしんそ}塔心礎(塔の中心柱の基礎)のほぞ穴の大きさ(直径38cm・深さ15cm)から三重塔であったと推定されている。廢寺跡に建つ^{みょうごいん}明言院^{もくぞうびしゃもんでんりゅうぞう}収蔵庫に安置されている木造毘沙門天立像は、この古代寺院の遺品で平安時代後期(11世紀末～12世紀初)の作と考えられている。本像は、九州に多い樟材を用いた一木造で、熊本県の平安彫刻を代表するすぐれた造形の仏像である。この頃、創建されたと伝えられる寺社は、ほかに^{くたらぎ}百済来地藏堂(坂本町、宝亀元年・770)、^{みょうけんじょうぐう}妙見上宮(妙見町、延暦14年・795)、^{しゃかいん}釈迦院(泉町、延暦18年・799)などがある。また、球磨川右岸に近い^{あらいきり}洗切遺跡(清水町)からは、^{ならさんさい}奈良三彩の陶片や^{てっさい}へら描土器、鉄滓が出土している。この時代、文字の読み書きができるのは役人か僧侶に限られており、役所またはそれに付随する工房跡がこの付近にあったと考えられている。



写真 2-13 妙見上宮跡

平家支配下にあった八代

平安時代の八代について『公卿補任』という史料に記述が残されている。史料によると、仁安2年(1167)の平清盛条に「肥後国御代郡南郷土比郷等大功田、伝子孫」とあり(御代郡は八代郡、土比郷は土北郷の誤り)、平安末期、現在の八代市を含む八代南郷が平清盛に大功田として与えられたことがわかる。妙見宮(現八代神社・妙見町)と球磨川に挟まれた平地に広がる^{みやじおぼたけ}宮地小畑遺跡(宮地町)や^{みやじかんぎょうじ}宮地観行寺遺跡(宮地町)、^{ふくしょうじ}福正寺遺跡(宮地町)をはじめとする遺跡からは石帯・布目瓦・へら描土器・墨書土器などの他に、青磁・白磁・北宋銭など日宋貿易に熱心であった平清盛の影響をうかがわせる出土物がみついている。

平家領となっていた八代では、妙見中宮(妙見町)や明言院(興善寺町)、^{ぎょくせんじ}玉泉寺(岡中町)などが、^{たいらのさだよし}平貞能や^{たいらのしげもり}平重盛によって創建されたと伝えられている。平家滅亡後、八代荘は源頼朝の妹で参議藤原(一条)能保の妻の所有となり、鎌倉時代の建久3年(1192)11月、長男^{たかやす}高保に譲ったことが「吾妻鏡」に記されている。



写真 2-14 古麓能寺出土 輸入陶磁器

【中世】

鎌倉時代の八代

鎌倉時代(1185～1333年)は、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士が中心となって政治を動かした時代である。文化面では素朴で写実的・動的な武家文化が形成された。そのため、この時代に作られた建物や仏像彫刻は武士の好みを反映して、力強く表現される特徴がある。

八代にも武家文化の特徴が表れている文化財が残されており、植柳元町の個人宅に残されている、鎌倉時代

に作られた十三重塔がその一例である。もと球磨郡湯前町明導寺境内にあったもので、初層の塔身に刻まれた文字から、寛喜2年(1230)、沙弥浄心という人が大工兼仏師の幸西に制作させたものであることがわかる。厚みのある屋根、力強い鬼面の表情などに鎌倉時代の特徴がよく表れている。

泉町にある釈迦院は、延暦18年(799)、葬善大師が開いたと伝えられる天台宗の寺院で、本尊の銅造釈迦如来立像は、鎌倉時代中～後期に都周辺で作られたとみられる。県下はもとより九州でも数少ない優れた金銅仏として注目されている。また、同院には、天台宗の守り神である日吉山王神を表した7体の木造男神座像が存在している。像の底の墨書きにより、勝西・念西という僧侶が勧進者となり、山上泰平、諸僧法楽、仏法繁昌、庄中安穩、五穀豊穰などを願って、長実という仏師によって制作され、仁治3年(1242)に完成したことがわかる。



写真 2-15 釈迦院

室町時代の八代

室町時代は、元弘3年(1333)、鎌倉幕府が滅亡した後の時代である。この時代は、後醍醐天皇が「建武の新政」を行い、足利尊氏と対立し、後醍醐天皇は奈良の南にある吉野に拠点を置いたため、幕府方を北朝、後醍醐天皇方を南朝と呼び、その対立が全国に及んだ時代である。

後醍醐天皇の隠岐脱出などで功をあげた名和長年は、建武の新政で政治の中心機関である記録所の寄人などの要職に任命され、子の義高は、建武元年(1334)、恩賞として八代荘の地頭職となり、一族の内河義真を代官として八代につかわした。また、義高は古麓に堀をもった城を築き、150年余りの間名和氏が八代を支配することになった。

正平2年(1347)、後醍醐天皇の皇子である懐良親王が征西大將軍として九州に下向し、一時期高田御所跡に滞在したとされる。大宰府陥落後、征西府は元中7年(1390)に高田御所跡に戻り、最後の征西府を設置した。

文明16年(1484)3月7日相良為統は名和氏から古麓城を奪い、八代を領有した。その後、明応8年(1499)に名和顕忠が一旦八代に復帰したが、文亀3年(1503)8月5日に「八代萩原陣相良人衆乗陣」、同年10月27日「宮地両口合戦」、同年11月15日「於麓近陣也」、(『八代日記』)と相良氏が再び八代に進出した。永正元年(1504)2月5日には「長每八代知行、伯州顕忠如国中退散」、同4月「長每八代ニ御帰宅候而」(『八代日記』)と相良長每が名和顕忠を追い、八代復帰を果たしたことがわかっている。相良氏による支配は、天正9年(1581)12月の響ヶ原合戦後島津氏が八代を占領するまで続いた。



写真 2-16 古麓城

【近世】

安土桃山～江戸時代の八代

天正15年(1587)の豊臣秀吉の九州仕置後、肥後は佐々成政が領地とすることになったが、翌年に起きた国衆一揆の責任を問われ切腹を命じられた。天正16年(1588)、球磨・天草を除いた肥後は加藤清正・小西行長が分割統治することになり、八代は小西行長が支配することになった。小西行長は古麓城を廃して、球磨川河口の麦島に新たに城を築き(現在の麦島城跡、当時の八代城)、城代として小西行重が配置された。『肥後国誌』によると、天正16年(1588)に妙見宮は小西行長によって社領を没収され中絶することになった。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いで西軍についた小西氏に代わり東軍についた加藤清正が、肥後一国を与えられ、

八代は加藤氏が領有することになった。清正の後を継いだ加藤忠広は、家老の加藤正方を城代とした。

麦島城は元和の一国一城令でも例外的に本城の熊本城以外に存続を許されたが、元和5年(1619)地震で崩壊したため、加藤忠広は新しい城を築く許可を幕府から得て、松江村に八代城を築いた。

寛永9年(1632)に加藤忠広が改易になると、豊前小倉から細川忠利が移封されて熊本城主となり、忠利の父細川忠興(三斎)が八代城へ入城した。正保2年(1645)5月、三斎の四男立孝が江戸で死去し、ついで同年12月に忠興(三斎)が八代で死去した。肥後熊本藩主細川光尚は、八代城に筆頭家老の松井佐渡守興長を置き、明治維新まで代々松井氏が在城した。



写真 2-17 八代城

江戸時代の中頃になると、城下町の発展と共に祭礼行事も盛んにおこなわれるようになった。この頃、妙見祭の神幸行列に笠鉾や獅子舞、亀蛇などが登場した。町人たちの力で産業も成長し、球磨川や氷川など多くの河川があり干潟が多かった八代では、干拓事業がさかんに行われるようになった。また、江戸末期の種山地域(現在の八代市東陽町)には、高い技術を持った石工集団がおり、彼らは干拓事業やめがね橋架橋など多くの土木工事に従事した。干拓事業により平野が広がった結果、農業振興、交通の利便性が向上し、人々の生活が豊かになることにつながった。また、干拓事業により各地から様々な文化がもたらされ、伝統芸能などが各地で盛んに行われるようになった。



写真 2-18 妙見祭(亀蛇)

【近代】

明治時代～現代の八代

慶応3年(1867)の明治維新以降の八代では、江戸期に盛んに行われた八代海の干拓事業が、さらに大規模に行われるようになっていった。明治期の八代海干拓事業としては、岡本新地(明治20年(1887)・約6ha)、明治新田(明治32年(1899)・約260ha)、郡築新地(明治37年(1904)・約1,046ha)があげられる。大正時代になると、県営南新地(大正11年(1922)・約570ha)、県営北新地(大正15年(1926)・約687ha)が築造され、明治以降計2569町3反3畝28歩(約2,600ha)にも及ぶ広大な農地を得た。特に明治期の干拓事業は、児島湾開墾事業(岡山県 明治32～38年(1899～1905)・約5,000ha)、渥美郡地先海面埋立事業(愛知県 明治20年代)と並ぶ「明治の大規模干拓事業」と称されている。第二次世界大戦後、食糧増産のために再開され、堤防にコンクリートを使用するなど新しい技術が使われた。干拓平野では海水に強く干拓地で育ちやすい「い草」が導入され、八代の名産品となっている。

また、鉄道や航海技術の発展により、港を持つ八代は、多くの工場ができた。明治23年(1890)には九州で第1号のセメント工場が操業した。この工場は熊本県で最初の近代工場である。その後、海岸の干拓や田園地域には、紙や肥料の製造工場、酒造工場などが次々につくられ、八代は近代工業都市と呼ばれるようになった。また、い草の生産も盛んになったこともあり、商店街や日奈久温泉は熊本県内でも有数の繁華街へと発展した。



写真 2-19 旧郡築新地甲号樋門

しかし、昭和48年(1973)の「オイルショック」後は、公害問題などが発生したこともあり、一時のにぎやかさも少しずつ落ち着いた。現在は、九州縦貫自動車道八代インターチェンジ・日奈久インターチェンジの開通、九州新幹線の開通、国際港湾としての八代港の整備などが進み、人流・物流の要衝として発展している。



写真 2-20 八代港と大型クルーズ船

2 八代市の歴史文化遺産の概要

(1) 歴史文化遺産の定義

指定等文化財とは、文化財保護法や地方自治体の文化財保護条例によって指定、登録、選択、選定を受けたものであり、国指定であれば我が国の歴史文化、都道府県指定であればその都道府県の歴史文化、そして市町村指定であればその市町村の歴史文化を考える上で欠くことのできない重要なものであり、それぞれの歴史文化の特徴を記述する際に基礎資料となるものである。

しかし、実際には従来の文化財の概念にあてはまらない、地域の歴史や行事、食文化や芸能なども含めた、さまざまな伝統文化を伝える有形・無形の歴史的な遺産が地域の中に存在しており、それらが一体となって、地域ごとに特徴のある歴史文化が形成されている。また、伝統的な文化や行事を引き継ぎながらも新たな文化や産業に転換することで、地域の魅力となっているものもあり、多種多様である。

本構想では、このように有形・無形、指定・未指定にかかわらず、古くから地域の特性や魅力を代表しているもの、地域のなかで大切にされてきたもの、これまで見過ごされてきたが、かけがえのない価値を有するものを「歴史文化遺産」と呼ぶこととし、次項で示す総合的把握調査の対象としていく。

以下に、広義で歴史文化遺産に定義づける対象の概要を示す。

ア 従来の文化財保護の体系に分類されるもの(国・県・市指定文化財、登録文化財、選択文化財、および同種の未指定文化財)

- ・有形文化財：美術工芸品(仏像、考古資料、絵図、古文書、工芸品等)
建造物(社寺、城郭、住宅、橋梁、石塔等)
- ・無形文化財：演劇・音楽・工芸技術等
- ・民俗文化財：有形の民俗文化財・無形の民俗文化財(まつり道具、まつり、獅子舞、神楽等)
- ・記念物：遺跡・名勝地・動物・植物・地質鉱物(碑、城跡、古墳、庭園、社寺跡、集落跡等)
- ・文化的景観：地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地
- ・伝統的建造物群：城下町、農漁村、宿場町、港町等

イ これまで文化財保護の体系では把握されていなかったもの、もしくは把握されることが少なかったもののうち、地域の特徴や魅力を語るうえで欠かすことが出来ないもの

(一例)

- ・地域の歴史的特徴を表すもの(遺跡・史料等)
- ・地域の交通に関わるもの(鉄道関連施設、街道、港湾施設等)
- ・地域の歴史基盤となった特色ある自然環境(山、川、道、湧水地、植生、海岸線、生物等)
- ・地域の伝承や風習等(伝承、説話、風習、伝統芸能、伝統行事等)
- ・地域の人が親しみを持っている場所・もの(信仰地、景勝地等)
- ・地域の産業・生業の特徴を表すもの(工芸技術・特産物・農林水産物等)
- ・地域で特色のある食文化(郷土料理、伝統菓子等)

(2) 総合的把握調査の手法と記録の管理

今回の総合的な把握調査では、これまでの指定等文化財のほか、地域に残る歴史文化遺産も含めて可能な限り拾い上げ、一体的に把握し評価することを目的のひとつとしている。

このような手法により地域の歴史文化を理解するためには、まずは指定文化財の分布や特徴を捉えることが重要であり、その上で、これまでに作成された資料や地域住民への聞き取りなどを通じて、地形や景観のほか、産業構造や人々の社会環境、技術、風習など、関連するさまざまな要素を抽出していく必要がある。また、地域の自然・歴史によっては、特徴的な文化が形成されている場所もあり、その抽出方法・取り扱いも広く、柔軟な対応が必要となる。

今回、本市では、既存の文化財調査や指定に向けた予備調査、各地の村史、町史などの記録をもとに、調査一覧のベースを作成し、調査の段階で新たにまとめた要素については、新たにリストを追加する方法で進めた。古墳など、八代海沿岸に分布する遺跡については、市外を含めた広域の調査記録を参考とした。伝統的な風習や行事、食文化、信仰対象については、既存の文献や関係者への聞き取りなどをもとに整理を行った。古道や水路など、歴史的なルートについては、専門家への聞き取りや現地調査を手がかりに、位置の確認を行った。

また、平成28年(2016)4月に発生した熊本地震では、多くの文化財が被災したが、被災状況確認に時間がかかったという課題があった。今後は地域に残る貴重な歴史文化遺産を維持・継承していくためにも、調査記録の整理と関係者間での情報共有が重要となる。

このため調査記録の整理にあたっては、「校区」区分を入れ、市民にもわかりやすい分類とした。

表 2-1 歴史文化遺産調査一覧

No.	調査項目	No.	調査項目
1	有形文化財(建造物・土木構造物等)	8	石造物・信仰地
2	有形文化財(美術工芸品・考古資料等)	9	伝承(彦一とんち話)
3	民俗文化財(有形民俗文化財・無形民俗文化財等)	10	伝承(カップ伝承)
4	記念物(史跡・名勝・天然記念物等)	11	伝承(落人伝承)
5	干拓関連遺産	12	伝統食材・郷土料理
6	石造アーチ橋(めがね橋)	13	伝統工芸
7	近代化遺産	14	代表的な景観

(3) 文化財の指定状況

日常の生活や政治的・経済的・文化的な諸活動で生み出されたもののうち、歴史的・文化的な価値が顕著に認められ、文化財保護法、熊本県文化財保護条例、八代市文化財保護条例のそれぞれの規定によって指定・登録・選択・選定されたものを指定等文化財としている。

これまで一般に「文化財」といえば、慣例的にこの指定等文化財のことを指す場合が少なくなかった。そこで、ここではまず文化財の概念を代表してきた指定等文化財の状況を確認する。

ア 指定文化財(表 2-2)

本市に所在する指定文化財の件数は、平成30年(2018)12月現在で国指定11件、県指定28件、市指定195件、合計234件である。その内訳をみると、有形文化財が126件、無形文化財が0件、民俗文化財が34件、記念物が74件である。

【有形文化財】

指定の内訳は国指定 6 件、県指定 17 件、市指定 103 件である。126 件の内訳は、建造物 43 件、絵画 2 件、書跡・典籍 10 件、古文書 0 件、彫刻 20 件、工芸品 26 件、考古資料 16 件、歴史資料 9 件であり、近年では平成 30 年(2018)3 月に「千利休書状(二月十四日)」が県の重要文化財(書跡)に指定された。

【無形文化財】

無形文化財については、民間に伝承された音楽、演劇、歌舞伎、能楽等の芸能や、伝統工芸と呼び得る地域に根差した生産技術などについての調査研究が不十分なこともあり、現在のところ指定は 0 件である。

【民俗文化財】

民俗文化財の指定は、平成 17 年(2005)の市町村合併前後に増加傾向にあった。指定の内訳は、国指定 1 件、県指定 3 件、市指定 30 件であり、平成 23 年(2011)には「八代妙見祭の神幸行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されるなど、無形民俗文化財の指定が盛んである。

【記念物】

記念物の指定の内訳は国指定 4 件、県指定 8 件、市指定 62 件である。74 件の内訳は史跡 60 件、名勝 4 件、天然記念物 10 件であり、近年では平成 26 年(2014)3 月に「八代城跡群 古麓城跡・麦島城跡・八代城跡」が国史跡に、平成 27 年(2015)3 月に「肥後領内名勝地 走り水ノ瀧」が国名勝に指定されるなど、国指定が相次いでいる。

イ 登録文化財

本市に所在する登録文化財の件数は、平成 30 年(2018)12 月現在で 6 件である。内訳は、有形文化財(建造物)が 6 件であり、近年全国的に事例が増えている記念物や有形民俗文化財等の登録物件は見られない。

ウ 選択文化財

本市に所在する選択文化財の件数は、平成 30 年(2018)12 月現在で 3 件である。内訳は、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財が 3 件である。選択文化財に関して、本市では近年増加傾向にあり、平成 26 年に「植柳の盆踊」、平成 27 年(2015)に「八代・芦北の七夕綱」が選択されている。

表 2-2 市内指定文化財等件数(平成 30 年 12 月 1 日現在)

指定別	区分	有形文化財(重要美術品含む)									民俗文化財		記念物			合計
	種別	建造物	絵画	書跡	典籍	古文書	彫刻	工芸品	考古資料	歴史資料	有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	
国指定文化財		2	0	1	0	0	2	1	0	0	0	1	1	3	0	11
県指定文化財		1	0	3	0	0	7	6	0	0	1	2	6	0	2	28
市指定文化財		40	2	5	1	0	11	19	16	9	6	24	53	1	8	195
国登録文化財		6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計		49	2	9	1	0	20	26	16	9	7	27	60	4	10	240

※上記以外に重要美術品 3 件、国選択無形民俗文化財 3 件(県指定と 2 件は重複)

(4) 文化財に関する調査履歴

ア 有形文化財

【建造物】

本市における建造物は、国指定が十三重塔、旧郡築新地甲号樋門の2件、県指定が八代神社社殿三宇の1件、市指定に日奈久温泉神社本殿ほか39件となっている。また、国登録有形文化財に日奈久温泉を代表する木造3階建ての旅館である金波楼など計6件が登録されている。

建造物に関する悉皆調査としては、まず熊本県が昭和60年度(1985)に国庫補助事業として実施した熊本県近世社寺建築緊急調査の成果をまとめた『熊本県の近世社寺建築－熊本県近世社寺建築緊急調査報告書－』がある。本調査においては一次調査として68件113棟が掲載されている。続いて、同じく熊本県が単県事業として平成2(1990)～6年度(1994)にかけて実施し、未指定文化遺産調査の調査成果をまとめた『熊本県未指定文化遺産調査Ⅰ－建造物編(建築物・眼鏡橋・石造物)－』には、建築物1件、眼鏡橋3件、石造物5件が掲載されている。

平成11年(1999)に発行された『熊本県の近代化遺産－近代化遺産総合調査報告－』には、一次調査に130件が掲出され、このうち本市を代表するものとして43件の調査報告が掲載されている。

本市においても、平成23年度(2011)に市内に所在する熊本高等専門学校八代キャンパスとの共同事業として建造物活用(まちあるき建築マップ作成)事業を実施し、市内各地の建造物(近世～現代)について調査を行い、227件について一覧表を作成した。

平成27年(2015)以降、熊本県による近代和風建築総合調査が実施され、二次調査対象建造物として31件が選定されたが、平成28年熊本地震により一時中断している。

また、今回歴史文化基本構想を策定するにあたって、寺社調査の一環で熊本県が作成した『肥後國八代郡神社明細帳』の資料調査を行い、289件の記録を確認した。

建造物の特徴として、旧八代城下町にあたる地域には現在も町屋形式の建物が残されている特徴や、城下町の建設に伴い創建された寺社が現在も多数残されている特徴がみられる。また、干拓地には加藤清正信仰に伴う神社が多く存在し、日奈久地域には温泉街に伴う建造物が多く残されているなど、八代の建造物は、地域の歴史文化を大きく反映させている特徴がみられる。

【美術工芸品】

本市における美術工芸品は、国指定が木造毘沙門天立像など4件、県指定が宮本武蔵書状、千利休書状など16件、市指定が加藤正方面像、深山の茶壺、御免草など63件である。美術工芸総数83件のうち、大半は昭和2年(1927)に発行された『八代郡誌』に掲載されており、昭和40～50年代に多くの指定がなされている。

美術工芸品のうち、寺社資料については、熊本県が昭和56(1981)～58年度(1983)にわたり国庫補助を得て実施した熊本県内主要寺院歴史資料調査の成果をまとめた『県内主要寺社調査報告書(二)熊本市～城南地区』に泉村(現泉町)の3ヶ寺の資料が収録されている。平成3年(1991)に開館した八代市立博物館では、平成4年(1992)～6年度(1994)にわたり市内にある主要寺社の仏神像、絵画、書跡、古文書、什器等の悉皆調査を実施し、『八代市内主要寺社歴史資料調査報告書』(1)(2)を発行、さらに市町村合併後の平成19年(2007)～24年度(2012)には、八代郡内の寺社資料調査事業を実施し、『八代郡内寺社資料調査報告書』を発行している。肥後藩主細川家の筆頭家老で八代城主を勤めた松井家の伝来品は、古文書1万点、美術工芸品4千点にのぼり、昭和59年(1984)に設立された一般財団法人松井文庫が所蔵管理している。昭和59年(1984)～平成6年度(1994)にかけて熊本県立美術館による悉皆調査が行われ、絵画、陶磁器、能面、武器・武具等を収録する『松井文庫所蔵

資料調査報告書』(1)～(6)が刊行された。平成7年(1995)～13年度(2001)にわたり八代市立博物館が染織、漆工、人形等の調査を行い、『松井文庫所蔵美術工芸品調査報告書』(1)～(3)、『松井文庫所蔵雛人形雛道具調査報告書』を刊行している。松井文庫所蔵古文書については、同館が平成6年度(1994)より着手し、これまでに『松井文庫所蔵古文書調査報告書』(1)～(19)を発行し、調査・解説作業を継続中である。

また、熊本県が平成8(1996)～9年度(1997)にかけて行った「熊本県古文書等所在確認調査」では、本市域に121件の古文書が確認されている。

こうした調査を踏まえて、新たに国・県・市の指定文化財となったものも多いが、まだ指定すべき美術工芸品があり、引き続き指定候補の選定を進めていく必要がある。

イ 無形文化財

【芸能】

中世八代城(古麓城)の時代から、相良氏、島津氏によって能が興行されており、近世、八代城に入った細川家・松井家も能を重んじたことから、武家や町人の中で能が愛好された。明治以降も松井家周辺で盛んに能が催され、能楽の重要無形文化財総合指定保持者に松井祥之氏(1923～82)、栗田亮蔵氏(1918～2006)がおられた。現在も八代では金春流が継承され、金春松融会(熊本市)や櫻間右陣氏(金春流能楽師、重要無形文化財総合指定保持者、東京在住)、松井笙子氏(祥之氏長女・柳川市在住、金春流シテ方職分)らが活動されている。

そのほか、音楽、舞踏、演劇、雅楽、歌舞伎、人形浄瑠璃、邦楽に関しては、特定の地域や技能集団によって数代にわたって継承されているものの、地域の歴史文化として認知されているものは把握できなかった。

【工芸技術】

江戸時代後期に熊本藩内の特産品を相撲番付風に紹介した「名物数望附(『肥後読史総覧』所収)」には、八代地方の名物として「八代染革、高田陶器(八代焼)、八代紙衣、八代搗剥、八代畳表、河俣木具膳類(河俣塗)」などがあげられている。これらの工芸品で現代まで継承されているものは、八代焼(高田焼)、宮地手漉き和紙などで、八代市立博物館を中心に調査と資料収集が行われ、これまでに調査報告書『八代焼史料集』(平成12年(2000)発行)、展覧会図録『八代焼—伝統の技と美—』(平成12年(2000)発行)、『さまざまなる意匠—染革の美—』(平成4年(1992)発行)、『和紙—用と美の世界—』(平成15年(2003)発行)が発行されている。そのほか、河俣塗研究会により『河俣塗関係資料調査報告書』(平成18年(2006))が発行されている。

熊本県による伝統的工芸品の指定を受けたものは、本市では染織物1件(節句のぼり)、紙工品1件(手漉き和紙)、金工品4件(手打刃物、肥後鐺、刀、鋏)、竹製品1件(竹籠)、玩具1件(おきん女人形、板角力人形)、その他1件(鮫皮漆塗細工)、陶磁器1件(高田焼)の計10件がある。いずれも文化財指定には至っていないものの、地域の歴史文化遺産に位置付けられるものである。

ウ 民俗文化財

【有形民俗文化財】

本市における有形民俗文化財は、県指定に妙見宮祭礼神幸行列関係資料(神輿、笠鉾9基)の1件、市指定として6件(医王寺の庚申碑と青面金剛堂、実相院の庚申碑、八王社の庚申碑、八代御用紙漉きの道具及び文書・記録、木馬、金立院のキリシタン墓碑)が指定されているが、これらの指定文化財はいずれも合併前の八代市による指定である。

八代市立博物館においては、主に八代妙見祭関係資料や農具の収集と展示が行われている。平成17年(2005)

の市町村合併前の各自治体においても生活環境の変化で失われつつあった民具の寄贈・収集が行われているが、現在に至るまで悉皆調査は行われていない。

本市は全国有数の“い草”の生産地であり、「八代地域ぐさほい草圃」の名称で、文化庁が設定する「ふるさと文化財の森」に選定されている。また、氷川流域の東陽地区を中心に多くの石造りのめがね橋が築造されている。これらの本市を代表する地域における様々な生産活動に伴う民具(い草関連、石工関連)の伝承状況調査についても今後の課題となっている。

【無形民俗文化財】

無形の民俗文化財は風俗慣習・民俗芸能・民俗技術に細別される。本市における文化財指定の状況は、風俗慣習が国指定1件、市指定5件の計6件、民俗芸能が県指定2件、市指定19件の計21件、合計27件が指定されている。また記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(選択無形民俗文化財)として、風俗慣習が1件、民俗芸能が2件ある。

本市に関連する無形民俗文化財の悉皆調査としては以下のものが挙げられる。

まず、風俗慣習(祭り・行事等)の悉皆調査として、熊本県が単県事業として平成2(1990)～6年度(1994)にかけて実施した未指定文化遺産調査のうちの民俗文化遺産(祭り・行事)の成果をまとめた『熊本県未指定文化遺産調査Ⅱ－民俗編(祭り・行事)－』があり、一次調査において60件の祭り・行事が掲載され、そのうち9件について詳細な調査報告がなされている。

つぎに、民俗芸能の悉皆調査としては、熊本県が国庫補助事業として昭和59年度(1984)に実施した民俗文化財地域伝承活動事業のうち民俗芸能に関する調査と、同じく熊本県が国庫補助事業として平成元(1989)～2年度(1990)にかけて実施した熊本県民俗芸能緊急調査がある。このうち熊本県民俗芸能緊急調査の成果として取りまとめられた『くまもとの民俗芸能－熊本県民俗芸能緊急調査報告書－』には、30件(神楽6、田楽1、風流16、外来脈3、複合1、その他3)の民俗芸能が掲載されている。上記調査のうち「その他」に分類される3件はいずれも本市にのみ継承されている「女相撲おんなずもう」であるが、平成30年(2018)現在そのうち2件が途絶えており、少子高齢化や過疎化の進行による担い手の不足などが、これらの無形民俗文化財の消滅の一因として挙げられる状況である。

このような各行事団体が抱える喫緊の課題を共有化し解決を目指すため、平成28年度(2016)に市内の31の保存団体が結集し、八代市民俗文化財保存連合会が設立されている。

エ 記念物

【史跡】

文化財保護法では土地に埋蔵されている文化財を埋蔵文化財と総称し、貝塚、古墳、城跡等その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を「周知の埋蔵文化財包蔵地」、いわゆる「遺跡」と定めている。市内には400箇所を越える遺跡があり、縄文時代から近代に至る各時代の集落跡、生産遺跡、古墳、城跡、干拓遺跡群等、様々な遺跡がある。

本市には国史跡1件、県史跡6件、市史跡53件が所在する。国史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」(以下、八代城跡群)は中世山城の古麓城跡、九州最古の織豊系城郭の一つであり肥後熊本の一国二城を支えた麦島城跡、一国一城令後に外様大名によって築かれた希有な近世城郭である八代城跡と関連する遺跡群(平山瓦窯跡ひらやまかわらかまあと、松井家墓所まついけぼしよ)であり、中世から近世にかけての城郭の変遷を辿ることができる点等が評価されて平成26年(2014)3月に国史跡に指定された。史跡指定に先立ち、古麓城跡については平成15年度(2003)に発

掘調査と縄張調査を実施し、麦島城跡については平成 8(1996)・11(1999)～15 年度(2003)にかけて発掘調査を実施、八代城跡については平成 15(2003)・16 年度(2004)に発掘調査を実施した。それらの調査成果として、平成 18 年(2006)に『古麓城跡・麦島城跡・八代城跡』、平成 25 年(2013)に『八代城郭群 古麓城跡、麦島城跡、八代城跡、松浜軒、平山瓦窯跡』を刊行した。史跡指定後の平成 27(2015)～29 年度(2017)にかけて八代城跡群保存活用計画策定委員会を組織し、平成 30 年(2018)3 月に『史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」保存活用計画』を策定し、保存と活用にあたっている。また、平成 28 年熊本地震で八代城跡の本丸石垣の一部が被災したため、平成 28(2016)～30 年度(2018)にかけて石垣の保存修復(発掘調査含む)を実施し、『八代城跡石垣保存修復報告書』を刊行した。

本市西部の平野は中世以来の干拓で形成されたものであり、近世の干拓遺跡群のうち殻樋・二番樋・江中樋の 3 樋門で構成されている「大鞘樋門群」が県史跡に指定されている。平成 23 年度(2011)に殻樋が大雨のために破損し、平成 24 年度(2012)に応急保存処置を実施した。また、平成 28 年熊本地震で江中樋が被災して鞘石垣の一部が崩壊するとともに樋門本体に亀裂が生じて倒壊の恐れが生じたため、平成 29 年(2017)に鞘石垣の保存修復と樋門本体の応急保存処置を実施した。

本市では、市内に点在する干拓遺跡群の現状と変遷等を確認するため、平成 25(2013)～29 年度(2017)にかけて古文書類の調査や樋門跡の発掘調査、堤防跡等の記録を作成した。これらの調査成果とともに「大鞘樋門群」の保存修復事業と併せて平成 30 年(2018)3 月に『八代干拓遺跡群調査報告書』を刊行した。

【名勝】

本市には国名勝 3 件(庭園 1 件、瀑布 1 件、島嶼 1 件)、市名勝 1 件(庭園)が所在する。国名勝のうち、「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」は平成 14 年(2002)12 月に国名勝に指定された。指定に先立ち平成 14 年(2002)7 月から松浜軒の調査に着手し、平成 17 年(2005)3 月に調査報告書『名勝 松浜軒』を刊行した。また、史跡「八代城跡群」と併せて、平成 30 年(2018)3 月に『史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」保存活用計画』を策定した。

国名勝「不知火及び水島」のうち、本市には水島と、不知火発生地域(鏡町沖合い)が所在している。水島は石灰岩と泥岩の互層で形成されているため、長年の風雨によって亀裂が生じて拡大、度々崩落の事態に遭ってきた。そのため、平成 16(2004)～19 年度(2007)にかけて、所有者である本市は水島の崩落を防止する保存修復作業を行った。その後、鏡町沖合いの不知火発生海域、宇城市に所在する永尾剣神社と併せて、平成 21 年(2009)2 月に国名勝に指定された。

名勝指定後、不知火観望地が所在する宇城市教育委員会とともに、平成 21(2009)・22 年度(2010)に不知火及び水島保存管理計画検討会議を設置し、平成 23 年(2011)3 月に『名勝不知火及び水島保存管理計画』を策定した。

平成 25(2013)・26 年度(2014)にかけて熊本県教育庁文化課が永青文庫に残る『肥後領内名勝図鑑』の調査を実施し、その成果に基づいて平成 27 年(2015)2 月に『肥後領内名勝地 五郎ヶ瀧 聖り瀧 走り水ノ瀧 建神ノ岩 神ノ瀨ノ岩屋』(以下、肥後領内名勝地)が国名勝に指定された。肥後領内名勝地のうち、市内には「走り水ノ瀧」が所在している。走り水ノ瀧は県下最大の瀑布で白滝とも呼ばれており、瀧の守り神であった白蛇の伝説も残されている。

市名勝「裁柳園」は、明治 6 年(1873)に松井家第十代松井章之が細川家の茶道役古市に設計させ、松井家茶道方徳永吉澄(古市の高弟)が作成した隠居所の庭園である。西南戦争で薩軍の本陣として使用された後、庭園内の屋敷は解体されて植柳村立植柳尋常小学校(現・八代市立植柳小学校)が新築移転され、以後学校敷地内となっ

ている。

裁柳園は駿河湾に見立てた池と富士山に見立てた築山で構成される回遊式庭園であり、かつては池の周辺に能舞台をはじめとする様々な屋敷群が点在していたが、明治28年(1895)に解体されて八代城跡三の丸に移築された(現存せず)。庭園正面には市有形文化財(建造物)「八代市立植柳小学校旧講堂」も所在している。

【天然記念物】

本市は、所在都道府県を定めていない国特別天然記念物のニホンカモシカ、国記念物のヤマネの生息域になっている。また、本市所在の天然記念物として、県指天然記念物に久連子鶏と臥龍梅の2件、市天然記念物にしらがだけてんねんいしほし白髪岳天然石橋ほか8件が指定されている。

本市における天然記念物については、市天然記念物はすべて市町村合併以前の各市町村による指定であり、県天然記念物の2件に関しても、旧市町村時代に指定を受けたものになっている。新市合併以降、天然記念物に関する悉皆調査は行われていない。

また現在、県天然記念物「臥龍梅」をはじめ、植物が8件指定を受けているが、その多くが近年樹勢衰弱や自然災害による被害によって保存状態の悪化が危惧されているなど、今後各文化財の保存が課題となっている。

オ 文化的景観

本市における文化的景観については、文化庁において平成12年(2000)～15年度(2003)にかけて実施した「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」の一環として調査が行なわれており、水田に関連する景観として「八代干拓の景観」と「日光のにちこう たんだ棚田」が挙げられている。

「八代干拓の景観」は上記の調査研究においても重要地域に位置づけられている。八代海における干拓地の造成に伴う堤防が海岸線と平行に陸地から海に向かって同心円状に展開し、水田地帯の中に当時の土堤の高まりや石積みが良好に遺存しているところもあり、近世・近代・現代を通じて築造されてきた堰や水門など、干拓事業に関連する一群の遺跡が随所に残っている。干拓の進行過程を示す地割の痕跡をはじめ、干拓の歴史を物語る様々な遺跡が広大な水田地帯の中に展開し、過去と現在の土地利用の在り方が一体となって独特の景観を形成している。

「日光の棚田」は、球磨川支流の中谷川上流部の坂本町日光地区に広がる丘陵頂部の連続する傾斜面に、7～9段程度の野面積みの石積みで構成する棚田で、農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されている。一時期、高齢化に伴う耕作放棄地が増加したものの、地元の地域活性化グループの取り組みなどによる棚田米の生産などが行なわれるようになってきている。なお、「日本の棚田百選」には東陽町美生地区のびしょう「美生の棚田」もあり、こうした景観も今後保存・活用の対象として浮上してくることが想定される。

カ 伝統的建造物群

旧八代城下町及び日奈久温泉街が対象地区として挙げられるが、戦後の高度経済成長期に建替えが進んだこともあり、歴史的建造物が密集する地区は急速に姿を消している状況であるため、本市においては伝統的建造物群が設定可能な区域を確認できない。

(5) これまでの文化財保護の現状

ア 保存活用計画の策定

本市では、指定文化財の保存活用計画について、名勝「不知火及び水島保存管理計画」・史跡「八代城跡群 古

麓城跡 麦島城跡 八代城跡 保存活用計画」・名勝「旧熊本藩八代 城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」の2件を策定している。

① 名勝「不知火及び水島保存管理計画」

平成22年度(2010)に策定した「名勝不知火及び水島保存管理計画」では、国指定名勝「不知火及び水島」(平成21年2月12日指定)を将来にわたり適切に保存管理し、次世代へ継承するため、保存整備工事の実施設計に向けた情報収集を行うとともに、水島の文化財的価値を広く一般に周知することを目的としている。

② 史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡 保存活用計画」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」

市内城跡保存管理事業の一環として、国史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」及び国名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」(平成26年3月18日指定・平成29年2月9日追加指定)を将来にわたり適切に保存し、本市を代表する史跡として保存・活用を図るため、平成27(2015)～29年(2017)の3ヶ年で「八代城跡群保存活用計画」を策定した。今後、同計画に基づき、城跡の保全、普及啓発活動などを行う予定である。

イ 文化財保護に関わる諸事業

本市では、指定文化財保存管理事業、伝統文化財復元修復事業、市内城跡保存管理事業、干拓遺跡保存整備事業、文化財保護啓発事業など文化財保護に関わる諸事業を実施してきた。以下ではそれらの文化財保護に関わる各事業の平成29年度(2017)の内容について具体例を示す。

① 指定文化財保存管理事業

各種指定文化財の保存管理が将来にわたって適切に図られるよう、文化財の保存、管理、修理のために必要な措置を講じる。また、国・県への上位指定、新指定のための文化財調査を進め、八代に残る重要な文化財の保護を図る。その他に、指定文化財の清掃・管理・修理・活用等に対し、必要な謝礼・委託・補助を行う。

【民俗文化財公開活用補助金】

市内の無形民俗文化財の公開活用に係る事業を行う者に対し、予算の範囲内で八代市民俗文化財公開活用補助金を交付する。平成29年度(2017)実績：16団体

【指定文化財管理費補助金】

指定文化財の清掃・管理・修理・活用等に対し、必要な補助を行う。

平成29年度実績：6件

② 伝統文化財復元修復事業

国指定重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」(平成23年3月9日指定)の笠鉦の部材は、平成4年度(1992)から11年度(1999)にかけて実施した大規模修復事業から約20年が経過し、当時は一部補修にとどめた笠鉦の水引幕みずひきまくらなどについて、経年劣化に伴う損耗が激しいことから、復元新調が必要な時機となっている。大規模祭礼行事としての保存継承と適正な公開活用を図るため、用具等の整備を計画的に行ない、国指定文化財としての適切な維持管理と修理を行う。

③ 市内城跡保存管理事業

新たに国史跡となった「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」及び国名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」を将来にわたり適切に保存し、本市を代表する史跡として保存・活用を図るため、平成27(2015)～29年度(2017)の3ヶ年で「八代城跡群保存活用計画」を策定した。今後、同計画に基づき、城跡の保全、普及啓発活動などを行う。

「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」の範囲(一部)



写真 2-21 八代城跡



写真 2-22 麦島城跡



写真 2-23 平山瓦窯跡

④ 干拓遺跡保存整備事業

八代海干拓の歴史を物語る重要な遺跡群について、国指定史跡化による保存を目指すため、調査・資料収集を進める。平成23年(2011)7月、大鞘樋門群のうち1基(殻樋)が一部崩落したため、平成24年度(2012)に応急保存処置及び将来の解体修復工事に備えた図化作業した。平成25年度(2013)は高島新地旧堤防跡、七百町新地潮請堤防の図化作業、平成26年度(2014)は、高島新地旧堤防跡樋門部分の発掘調査及び学識経験者らによる調査指導会議を行った。平成27(2015)・28年度(2016)は調査指導会議を開催するとともに、県立図書館や永青文庫、個人所蔵資料の調査等を行った。また、平成28年度(2016)に平成28年熊本地震で被災した大鞘樋門群の江中樋の鞘石垣の保存修復と、樋門本体の応急保存処置を実施した。平成29年度(2017)は引き続き調査指導会議等を行い、調査報告書を刊行した。

⑤ 文化財保護啓発事業

市内に残る有形文化財、民俗文化財や史跡等の記念物、伝統芸能等の周知を図り文化財保護への関心を高めようために、下記に示す事業を行っている。

【埋蔵文化財巡回展】

市内遺跡から出土した土器等の埋蔵文化財を、公民館等や学校を利用して展示し、身近な場所で発掘調査の成果や八代の歴史に触れてもらうことを目的とする。

(例) 麦島城跡出土品の展示

場所：麦島コミュニティセンターロビー

内容：麦島城跡出土の瓦、建築部材など

期間：平成21年(2009)8月～



写真 2-24 麦島城跡出土品展示

【史跡めぐりの開催】

市内の遺跡や文化財について講座や見学会を行うことにより、市民に対し、八代の歴史と文化を学ぶ機会を提供するとともに、文化財保護への理解を深めてもらう。

(例) 史跡めぐり「歩き、観、触れる! 熊本地震からの復興! 八代城跡石垣修復見学会」

概要：市内の史跡を現地見学することにより、八代の歴史と文化財保護への理解と関心を深めてもらうため実施。平成29年度(2017)は、平成28年熊本地震で被災した八代城跡石垣の保存修復作業を見学。平成28年度(2016)に実施した第1回見学会に引き続き、計3回の見学会を開催した。

日時：①第2回 平成29年5月20日(土)
 ②第3回 平成29年8月5日(土)
 ③第4回 平成30年1月20日(土)

見学場所：八代城跡石垣保存修復箇所等

参加者：90人(合計)



写真 2-25 八代城跡石垣修復見学会

【出前講座の実施】

市内の小中学生や先生方、一般の方を対象に、パワーポイント等を利用して、八代の歴史や各地域の文化財に関する出前講座を実施し、郷土の歴史への理解を深めてもらう。

平成29年度(2017)実績

- ・学校現場・学校関係者への出前講座：利用者316人(児童生徒300人、教諭16人)
- ・一般を対象にした出前講座：利用者50人

【説明板、標木の維持管理】

文化財見学者の便宜を図るため、現地に説明板や標木を設置し、随時、更新を行う。平成29年度(2017)は、八代城跡本丸の石垣修復箇所新たに説明板(据え置き型)を設置した。

【八代の文化財紹介】

文化財パンフレット(歴史さんぽ平成29年度改訂版：10,000部)を刊行した。そのほか、パンフレット等の配布、市HPへの記事掲載を通じ、文化財情報の提供を行っている。

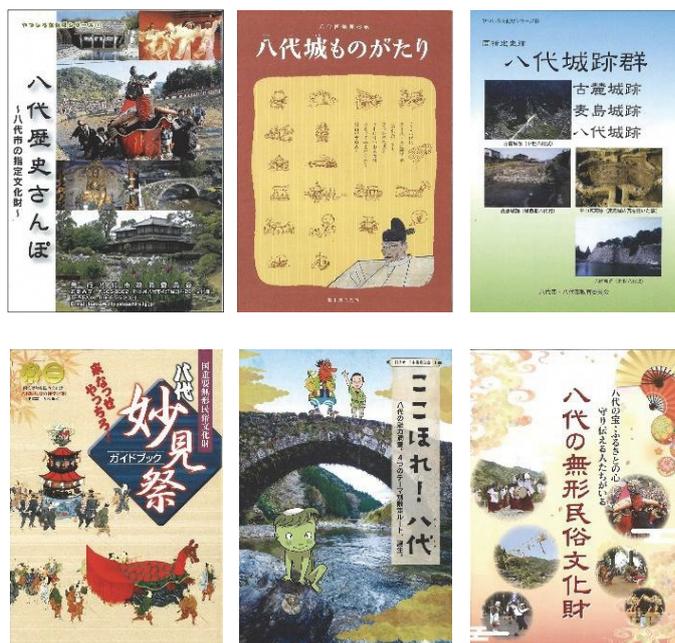


写真 2-27 近年製作した文化財紹介パンフレット
 (上段左:八代歴史さんぽ、上段中:八代城ものがたり、
 上段右:八代城跡群 下段左:八代妙見祭、下段中:ここ
 ほれ! 八代、下段右:八代の無形民俗文化財)

【文化財防火デー】

毎年1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、指定文化財(建造物)で防火訓練を行い、文化財の防火意識を高める。(共催：八代広域行政事務組合消防本部 協力：市民・八代市危機管理課)

平成29年度(2017)：平成30年1月26日 春光寺(古麓町)



写真 2-26 防火訓練(初期消火)の状況

⑥ 埋蔵文化財緊急発掘調査及び保存処理事業

周知の埋蔵文化財包蔵地と周辺における公共事業・民間開発について、事前に試掘確認調査を実施。震災の影響で、手続きが増加している。なお、個人専用住宅で本調査が必要となった場合に、国庫補助を活用して、市の負担で本調査を実施する。

【緊急発掘調査】

文化財保護法に基づく「周知の埋蔵文化財包蔵地」内での開発工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出・通知」に対応するため、事前に遺跡の有無や存在状況を確認するための試掘確認調査や立会調査を実施する。

【保存処理事業】

市内の発掘調査で出土した木製品を主とする遺物の保存処理を行い、八代市の貴重な文化財として継承し活用を図る。平成15(2003)～24年度(2012)にかけて保存処理を施した麦島城跡出土建築部材275点の保管及び展示活用を行っている。



写真 2-27 麦島城跡出土建築部材

⑦ 埋蔵文化財管理活用事業

市内の遺跡から出土した文化財や発掘調査の記録、写真類は、地域の歴史や文化の成り立ちを考える上で、欠くことのできない貴重な財産であることから、これらの将来の展示や体験学習、観光事業等に活用できるよう適切に保存管理する。

(例)

- ・西部社会教育センターにおいて、市内遺跡出土遺物や民俗文化財、発掘調査の記録類、調査報告書等の図書類を一元的に保管管理する。
- ・調査報告書未刊行の遺跡について、報告書作成のために必要な遺物の整理作業や図面等のデジタルトレースを進める。
- ・年間を通して生じる緊急発掘(試掘調査)の出土遺物について水洗、分類など整理作業を行う。今後、震災からの復興に伴う調査が増えると考えられるため、迅速に対応できるようにする。
- ・埋蔵文化財への理解と関心を高めるため、市内各地で埋蔵文化財やパネルの展示を行う。

⑧ 熊本地震関連事業

【指定文化財復旧事業(地震災害)】

平成28年熊本地震により被災した指定文化財の災害復旧事業(補助含む)を実施した。

平成 28 年度(2016)文化財補助事業	国指定有形文化財 十三重塔
平成 29 年度(2017)市直営事業(管理団体：八代市)	国指定史跡 八代城跡
平成 29 年度(2017)文化財補助事業	市指定有形文化財 澤井家住宅

【地域コミュニティ関連施設再建支援事業(地震災害)】

平成 28 年熊本地震により被災した地域コミュニティ関連施設について、熊本地震復興基金を財源に補助事業を実施した。

平成 29 年度(2017)補助実績 32 件

⑨ その他関連事業

【博物館主催事業】

博物館では、八代に関する考古、民俗、美術工芸、歴史等、幅広い分野の調査研究・資料収集を行い、特別展の開催や常設展示によって、郷土の歴史・文化遺産の公開に努めている。

平成 29 年度(2017)実績

・特別展覧会

春季特別展覧会「円山応挙—京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび—」

会期 平成 29 年 4 月 21 日(金)～6 月 4 日(日) 入館者 14,355 名

夏季特別展覧会「探してみよう！やつしろの宝もの～指定文化財大集合～」

八代にある国・県・市指定文化財 239 件のうち、50 件を展示し、八代の文化財への関心を喚起。会期中に講演会 1 回、子ども講座 1 回、体験講座(青銅器と古代のお金づくり)1 回を開催。

会期 平成 29 年 7 月 14 日(金)～8 月 27 日(日) 入館者 2,025 名

秋季特別展覧会「八代妙見祭ユネスコ無形文化遺産登録記念大笠鉾展」

八代妙見祭ユネスコ登録を記念して、笠鉾のルーツおよび発展過程を解明しようとする展覧会。西日本各地から笠鉾に関連する資料を集めて一堂に紹介した。

会期 平成 29 年 10 月 20 日(金)～11 月 26 日(日) 入館者 2,858 名

冬季特別展覧会「福よ来い—吉祥文様の世界—」

館藏品および一般財団法人松井文庫の所藏品の中から、吉祥文様がちりばめられた絵画・陶磁器・衣装などの美術工芸品を展示。会期中に特別講演会を 1 回、体験講座を 1 回開催。

会期 平成 30 年 2 月 9 日(金)～3 月 18 日(月・祝) 入館者 2,212 名



写真 2-28 「秋季特別展覧会」案内

・常設展示

第 1 常設展示室 (各コーナーを 2～5 期に分け展示替)

考古(弥生時代の八代、文字の世界～古代の八代～、祈りのカタチ～古代の信仰～)／八代城 (瓦からわかる麦島城・八代城)／妙見祭 (妙見祭の飾馬、妙見祭の亀蛇、妙見祭獅子組のヒミツ)／古文書を読む (釈

迦院の古文書、悲劇の武将尾藤金左衛門、花押から見た戦国武将秀吉・清正・家康・興長、古文書が語る加藤正方、西山宗因の世界)／信仰のかたち(薬師如来の信仰、極楽浄土へのいざない)／くまもとの金工(肥後鐔鑑賞入門、八代の金工師釘谷洞石の世界)／八代焼(象嵌の技法、茶の器、在銘の八代焼、飲食の器)／和紙(さまざまな和紙の用途、和紙いろいろ、和紙作りの道具、千代紙)／むかしの道具／米作りの道具～お米はどうやってできるの?／写真家・麦島勝の世界(八代の風物―春―、八代の風物―夏―、八代の風物―秋―、八代の風物―冬―)

第2 常設展示室(松井文庫所蔵品常設展示)

- 能面・能装束 平成29年6月6日(火)～7月9日(日)
- 描かれた妖怪たち 平成29年8月29日(火)～10月15日(日)
- 屏風絵の世界 平成29年11月28日(火)～12月24日(日)
- 松井家の江戸参府 平成29年12月26日(火)～平成30年2月4日(日)

・主な講座・講演会活動

- 平成29年5月20日(土) 友の会主催講演会「中世の古麓はどんな街?」参加者94人
- 平成29年7月22日(土) 夏季展講演会「指定文化財大集合～八代の文化財と文化財保護の取り組み～」参加者40人
- 平成29年7月29日(土) 子ども体験講座「博物館で自由研究～探してみよう!やつしらの宝もの～」参加者35人
- 平成29年8月5日(土) 子ども体験講座「宝ものを作ろう!～古代の鏡・お鏡・お金づくり～」参加者18人
- 平成29年10月28日(土) 秋季展講演会「笠鉦から日本の『祭り』が見えてくる!?!」参加者55人
- 平成29年12月2日(土) 第6回やつしろ連歌会(共催博物館友の会・熊本県立図書館)参加者42人
- 平成30年3月3日(土) 歴史特別講演会「ここまでわかる!熊本弁の歴史」参加者65人
- 平成29年9月～11月(全6回) 古文書講座(初級編) 参加者延べ119人
- 外部への講師派遣(出前講座) 計19回 参加者延べ971人

・博物館ホームページにて収蔵品データを公開

【郷土学習の取り組み】

・副読本の刊行

すべての小学校で郷土学習が実施されており、この副読本が郷土をテーマとした調査活動や課題学習等に活用され、児童たちの愛郷心を育む一役を担っている。

(共同事業：八代市教育サポートセンター・八代市教育委員会教育政策課)

- ・やつしろ行って見マップ…小学校1年生用配付
- ・わたしたちの八代市…小学校3年生用配付
- ・未来につなごう…小学5・6年生用配付

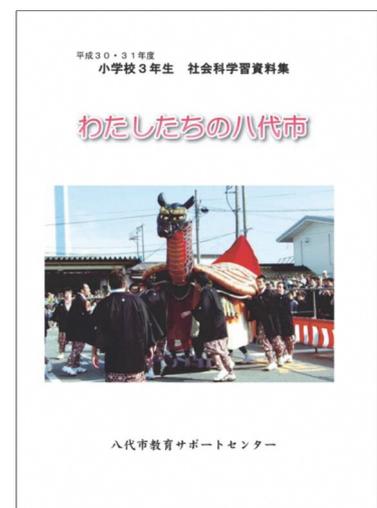


写真 2-29 「わたしたちの八代市」

【祭礼参加者着装の向上と着付ボランティアの養成】

八代妙見祭をはじめとする、祭礼衣装(装束)に関する知識と着付け技術の技能向上を図ることで、衣装の着付

ボランティア等として行事に参加できる機会を設けることにより、地域の伝統行事の活性化を図るとともに、地域の一員としての社会参画意識の醸成を図っている。

- ・祭礼衣装着付け講座 主管：八代妙見祭保存振興会(八代民俗文化財衣装保存会)

第1回：平成29年6月8日(木) 参加者24人

第2回：平成29年7月13日(木) 参加者21人

第3回：平成29年9月7日(木) 参加者27人

第4回：平成29年10月12日(木) 参加者30人

第5回：平成29年11月9日(木) 参加者28人

第6回：平成29年11月16日(木) 参加者27人

※八代妙見祭が実施される11月22・23日に衣装着付けを実施

⑩ 各地域における取組例

歴史文化遺産を活かした地域の活性化に関する取り組みは市内の各地域でも行われている。下記では、各地域で行われている文化の発掘と活用の事例を記す。

【史跡めぐりの開催】

地域の遺跡や文化財について講座や見学会を行うことにより、各地域の歴史文化に触れて学ぶ機会を創出する取り組みが、各地域のまちづくり協議会などが主体となり行なわれている。

- ・東陽地域

「石橋散策ツアー」

主 催：八代市(共催：東陽まちづくり協議会)

開催日時：平成29年6月19日(月)・平成29年11月27日(月)

開催場所：美里町～山都町～御船町～宇城市・二見石橋群(龍峰～二見～鏡)

- ・千丁地域

「第4回い草の里史跡めぐりウォークラリー」

主 催：千丁校区まちづくり協議会

開催日時：平成29年4月9日(日)

開催場所：千丁コミュニティセンター前

概 要：史跡めぐりウォーク(6.6km)

上土城跡(岩崎神社)～覚賀墓碑～吉王丸曲輪跡～

十王板碑～萱原の板碑供養塔～花立地藏～東万願之助碑～島貝塚～千丁コミュニティセンター



写真 2-30 い草の里史跡めぐりウォークラリー

【歴史文化遺産を活かしたまちづくりの取組】

- ・日奈久地域

日奈久地域では、地域に残る「金波楼」や「織屋^{おりや}」、「日奈久赤レンガ倉庫」などの歴史文化遺産をまちづくりの拠点として活用する取り組みが行われている。地域の歴史文化遺産を活かした観光ルートの開発や案内板、サイン表示の充実、日奈久赤レンガ倉庫「レンガのひろば」の整備などのまちづくりの拠点の整備が、八代市、日奈久まちづくり協議会、熊本高等専門学校など、官民が連携して行われている。

第3章 歴史文化遺産が示す地域の特徴とテーマ設定

1 八代市の歴史文化遺産が示す地域の特徴と関連文化財群の考え方

(1) 八代市の歴史文化遺産が示す地域の特徴

八代は、九州のほぼ中央に位置し、八代海と九州山地に連なる山間地帯、氷川、球磨川により形成される渓谷、沖積平野、そして16世紀後半から進められた干拓地で構成される。また、海上交通に加え、山麓に沿って南北に通る交通路や球磨川の水運などにより、古くから九州各地や海外との交流が行われていたことで知られている。近世以降は熊本藩に属したが、各地の自然地形、交流などの歴史、社会環境により、地域ごとに独自の歴史文化が形成されてきた。このような八代の歴史文化遺産は、大きく4つの特徴に分けて説明することができる。



図 3-1 八代の主な地形

特徴1 海と川を繋ぐ交流の結節点 (八代湾沿岸の古代遺産、国内外との交流を物語る歴史文化)

八代は、平野部に存在する弥生時代の遺跡からは北部九州との交流を示す小銅鐸が出土し、八代海沿岸の島々や岬には、海を意識して多くの古墳が造られるなど、古くから八代海を介した海上交通の拠点として発展してきた地域である。

また、熊本県内で最大の河川である球磨川は、熊本県南部から八代平野に至り、河口付近では干潟を形成し八代海に注いでいる。近世になると、この球磨川の水運を利用した交易が盛んにおこなわれ、八代は物流の拠点となった。球磨川河口の港であった徳淵^{とくぶち}の津^つでは、古代から中国との交易が行われ、妙見神^{みょうけんしん}や河童渡来^{かっぼとらい}の伝承が残されているほか、八代はキリシタン大名の小西行長が領有したことから、キリスト教が信仰されていた場所としても知られている。

一方、八代には古代より肥後と薩摩^{さつま}を結ぶ駅家^{うまや}が作られ、中世以降は山麓に沿って作られた往還などの主要交通路が縦走するなど、九州の交通の拠点でもあった。近世に整備された薩摩街道は、八代城が築城されると、城下町を通過するかたちで再編される。これにより八代の城下町では物資・人・技術交流が盛んになり、歴史の舞台ともなった。



写真 3-1 球磨川がそそぐ八代平野



写真 3-2 八代平野の一部となった八代海の小島



写真 3-3 八代城跡と城下町

特徴2 干拓と石工技術の発展

八代平野の3分の2は干拓によって陸地化された土地であり、中世から干拓が行われていたことをうかがわせる記録や地名が残っているが、大規模な干拓が行われるようになったのは、江戸時代になってからである。

八代で行われていた干拓は、洲と呼ばれる干潟に樋門、堤防、潮止め口を造り、樋門で水の調整を行いつつ、少しずつ干潟内部の塩分を抜いていく方法であった。文政2年(1805)に竣工した四百町新地^{よんひゃくちようしんち}の造成では、備前^{びぜん}の干拓技術が導入され、これ以降は大規模な干拓事業が行われていくようになる。

これらの干拓事業を支えたのは、石工たちの技術であった。八代の石工たちは石材加工技術を磨き上げ、氷川周辺の小さな石橋から、アーチ式の石橋を次々と架けていった。その後、石工たちは大型の石橋を完成させ、熊本県内や鹿児島、東京など各地に橋を建設していく。一方、明治時代に建設された郡築新地の工事では、新たに名古屋の漆喰技術が導入され、建設された強固な堤防が現在もなお残されている。

このように八代の干拓遺跡や石橋群は、石工たちの高い技術水準とともに、八代における土木技術の継承と発展をあらわす遺産であるといえる。



写真 3-4 旧郡築新地甲号樋門(郡築三番町樋門)



写真 3-5 七百町新地潮請堤防



写真 3-6 笠松橋

特徴3 球磨川・氷川沿いに点在する山村集落の歴史文化（五家荘の文化、各地の伝統芸能）

球磨川支流の川辺川、氷川など、九州山地を源流とする川の段丘や傾斜斜面地などには、古くから小さな山村集落が形成され、焼き畑や茶などの農業や林業で生計を立ててきた。氷川上流には岩奥、横手などの集落があり、川辺川周辺は五家荘と総称される久連子、椎原、樅木、葉木、仁田尾の5つの集落がある。

これらの集落は九州山地の険しい山間地域に位置し、人里離れた場所であったため、平家落人伝説とともに秘境として知られてきた。また原生林や深い渓谷などの自然景観とともに、独自の生活文化、伝説や伝統芸能などが伝わっている。特に五家荘は天領であり、天草代官の支配を受けていたことから、幕末にここを訪れた天草の役人による紀行文が現存し、現在も当時の集落の状況を知ることができる。

このような山村各地に伝わる平家落人伝説、神楽をはじめとする郷土芸能などは、山岳地帯での他地域との交流を示しており、八代の山間部における歴史文化の特徴のひとつもなっている。



写真 3-7 川辺川と周辺の地形



写真 3-8 仁田尾集落と左座家



写真 3-9 集落で伝えられてきた久連子古代踊り

特徴4 「手永」を単位とする熊本藩の行政機構と地域特性（歴史的な地域区分、城下町「八代町」の歴史文化）

八代の歴史的な地域特性を知るために重要なのが、手永を代表とする、熊本藩独自の行政機構である。

熊本藩では、藩内を手永と呼ぶ小区画に分割し、それぞれの手永には会所かいしょという役所を置き、その最高責任者として惣庄屋を置く体制であった。現在の八代市の範囲は、後述する八代町と五家荘のほか、野津手永の一部、種山手永の大部分、高田手永、田浦手永の半分ほどに区分されていた。江戸時代後期に手永で行われた道路造成や干拓事業などは、惣庄屋が農村救済のために計画したものであり、彼らは優れた事業手腕を發揮した。

「八代町」は近世八代城の城下町である。八代町は城主の支配下に置かれ、中世以来の水運・海運の要所である球磨川河口付近を中心に、物流の拠点や街道沿いの町として栄えた。

一方、現在の八代市東部の泉町に位置する五家荘は、17世紀後半から天領として幕府の天草代官の支配を受け、5つの集落をそれぞれ庄屋が治める体制であった。

このような惣庄屋による手永、交流の拠点として城主が支配した八代町、独自の村組織をもつ五家荘という、異なる支配体制は、各地の人々の暮らしや歴史文化に影響を与え、これが八代独自の地域特性の基礎となっている。

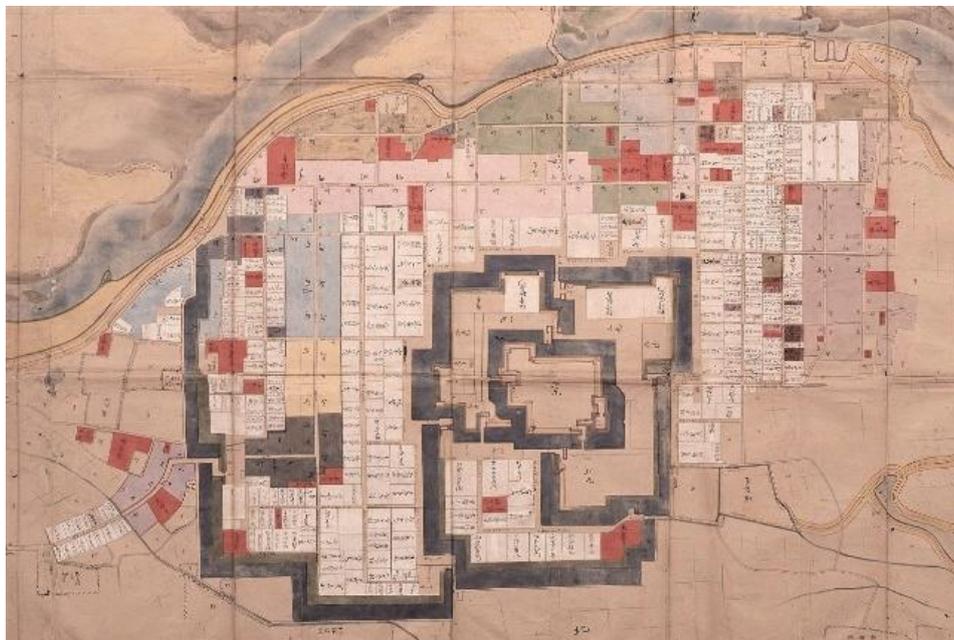


写真 3-10 八代城下絵図



図 3-2 八代周辺の手永範囲

(2) 関連文化財群の設定方針

文化庁が定めた歴史文化基本構想策定の技術指針では、「関連文化財群」とは、有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財(歴史文化遺産)を歴史的・地域的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたものとされている。前述した本市の歴史文化遺産が示す地域の特徴を踏まえ、歴史文化遺産の関連性を一言であらわすテーマを示すことで、各地の歴史文化遺産の特徴・分布や、地形上の特徴、周辺も含めた中での文化の特徴などを把握することができる。

本構想では、このテーマに沿った一定のまとまりを「関連文化財群」として設定した。

以下では、本市の地形や交通などの特徴と歴史的なまとまりから考案した地域区分に基づく8つの関連文化財群を考案した。また、テーマに表される地域の文化は時代を経て各地に広がることで、「八代を代表する文化」となっているものも存在する。このような、地域を越えて市域全体に広がりをもつもの、またそれらが地域の技術的・社会的な発展につながっているものとして3つの関連文化財群を考案した。

なお、これら11の関連文化財群(A~K)で紹介する個々の歴史文化遺産については、本文の理解を助けるうえで必要と考えられる最低限のものに留めた。

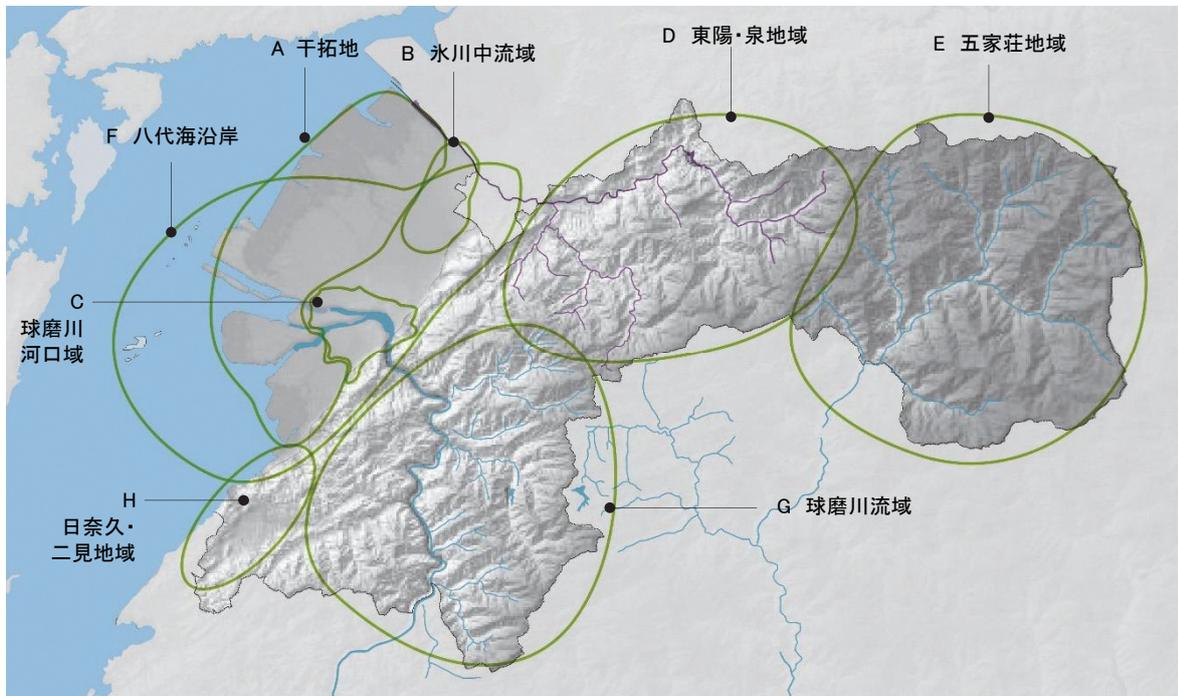


図 3-3 八代の関連文化財群 地区区分 A~H

- A. 干拓地 (近世からの干拓地と、それに関連する文化)
- B. 氷川中流域 (氷川中流域付近で発達した古代からの文化)
- C. 球磨川河口域 (港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史文化)
- D. 東陽・泉地域 (氷川流域の生活と歴史文化)
- E. 五家荘地域 (豊かな自然に彩られた秘境の里)
- F. 八代海沿岸 (八代海周辺の交流をあらわす古代から中世の遺跡)
- G. 球磨川流域 (球磨川下流域の交流と点在する山村集落の文化)
- H. 日奈久・二見地域 (薩摩街道筋の集落と温泉街)
- I. 市内各地 (八代で花開いた石造りの文化と石橋群)
- J. 市内各地 (八代の近代化を支えた歴史文化遺産)
- K. 市内各地 (八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能)

2 八代市の歴史文化の特徴が示す全体テーマとストーリー

前項を踏まえ、本市の歴史文化の特徴をひとことであらわす全体テーマを設定し、その特徴を伝えるストーリーを以下に示す。これによって、九州山地の山間集落や八代海沿岸の干拓地など、一見異なる八代の各地域の歴史文化が深いつながりをもって成立し、現在も継承されていることが理解できる。また、全体テーマとストーリーを示すことによって、より多くの人々に八代の歴史文化の魅力を伝え、新たな発見・活用へとつなげていくことができる。

全体テーマ：

海の道と川の道が会える国、八代

ストーリー：

八代は、八代海に続く丘陵地に沿った平野に発達した都市である。

内海である八代海には、古代から多くの船が往来し、海の道が作られた。八代、日奈久は船の停泊地であった。九州を南北に縦断する交通上の要所でもあった八代は、国内外の多くの人々が行き交う場所となった。海に面した場所には古墳が造られ、丘陵地には点々と山城が築かれた。中世には港を中心とした交易で栄え、近世になると、平野には熊本藩一国二城体制を支える八代城が置かれ、城下町が形成された。

またこの地域には氷川、球磨川に代表される、九州中央部の山岳地帯から注ぐ川があった。人々は川の水運を利用して物資や材料を運び、河口に形成された港は重要な拠点となった。

海から川を通じて山奥に至る道沿いには集落ができ、神楽や雨乞いなどの祭礼が各地に発達し、寺院や地域神を祀る祠などの信仰の場所が各地に作られた。山岳地では、川によって刻まれた山奥の谷あいには定住した人々もいた。彼らは独自の生活や集落コミュニティを形成し、祭や落人伝承などが語り継がれた。

急峻な地形と川を利用したこの地域の暮らしは、しばしば氾濫する川、干潟干拓など、自然との闘いであった。人々は独自の技術で石橋や干拓地を造り、土地を次第に拡大していった。

八代海の干拓が進み、近代以降に道路や鉄道が整備される中で、次第に都市の中心は丘陵地から港に近い近世の城下町を中心とした地域に移った。水運は近代化とともに鉄道に代わり、交通路は九州をつなぐ幹線道となった。干拓地の稲作は生活環境や産業の変化に伴い、い草やトマトなどの生産地となり、特産品として流通している。

海は干拓地となり、川には石橋、そして鉄道が敷かれ、人々の生活は大きく変わったが、今も八代各地の山や海、川が織りなす風景には古代からの交流の足跡を見ることができる。

厳しい生活を支えた信仰や祭は各地に受け継がれ、現在もなお、八代の人々の心の支えとなっている。

3 関連文化財群の特徴を語るストーリー

本市の関連文化財群の特徴をあらわすテーマとして、8つの地域区分と、地域を越え市域全体に及ぶ3つのテーマ設定を設定した。

表 3-1 関連文化財群一覧

関連文化財群のテーマ		地域区分	主な歴史文化遺産
A	近世からの干拓地と、それに関連する文化	干拓地	樋門、石垣堤防、堰、石碑、大鞆節、女相撲、棒踊り、銭太鼓、トマト、い草栽培
B	氷川中流域付近で発達した古代からの文化	氷川中流域	有佐貝塚、覚賀墓碑、八代郡倉跡、鏡が池鮒取神事、上鏡獅子舞、子安観音堂の十八夜祭
C	港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史と文化	球磨川河口域	八代城跡と城下町関連遺跡、南北朝関連遺跡、十三重塔、妙見宮、八代妙見祭の神幸行事、植柳の盆踊、彦一とんち話、伝統工芸品、雪餅
D	氷川流域の生活と文化	東陽・泉地域	石橋群、石灯笼、白髪岳天然石橋、釈迦院関連、箱石雨乞い踊り、本屋敷神楽、岩奥神楽、棚田、生姜栽培
E	豊かな自然に彩られた秘境の里	五家荘地域	左座家住宅、緒方家住宅、鬼山御前伝説、久連子古代踊り、久連子鶏、樅木神楽、葉木神楽、五家荘紀行、お茶栽培、せんだん轟の滝
F	八代海周辺の交流をあらわす古代から中世の遺跡	八代海沿岸	大鼠蔵古墳群、田川内第一号古墳、有佐大塚古墳、興善寺廃寺跡と木造毘沙門天立像、古麓城跡、田川内関と田川内城跡、水島
G	球磨川下流域の交流と点在する山村集落の文化	球磨川流域	百済来地蔵堂、久多良木神社、あぜち道、七夕綱、棒踊り、旧西日本製紙深水発電所、鮎及び加工品、ぼたもち、棚田、球磨川
H	薩摩街道筋の集落と温泉街	日奈久・二見地域	日奈久温泉、金波楼、日奈久温泉神社、薩摩街道、日奈久港、石橋群、十五夜綱引き、二見洲口町雨乞い踊り、日奈久ちくわ、日奈久みそ
I	八代で花開いた石造りの文化と石橋群	市域全体	干拓樋門、堤防、石橋
J	八代の近代化を支えた歴史文化遺産	市域全体	鉄道施設、発電施設、工場施設、橋梁、トンネル、植柳小学校旧講堂
K	八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能	市域全体	八代妙見祭の神幸行事、久連子古代踊、植柳の盆踊、七夕綱、大鞆節、神楽、獅子舞、鮒取り神事

関連文化財群A. 近世からの干拓地と、それに関連する文化

範囲：八代海に面し、近世以降の干拓事業により拡大した平野部。北は氷川町西部を含み、鏡・千丁・郡築・昭和などの球磨川北部と、金剛など球磨川南部を含む。

概要：約400年にわたって行われてきた干拓事業により、八代平野には広大な農地が形成された。干拓工事では、海側に潮受(請)堤防を作るとともに、干拓地内にたまった水を海に排出する樋門を築いた。また河川から水路を引く工事も重要であった。これらは八代の城主や、手永の惣庄屋たちの計画と地元の石工たちの技術交流、そして多くの労働力によるものである。現在も干拓地では、干拓に関連する樋門や堰、水路などが一部残され、干拓に従事した人々の信仰の場所や労働歌などが伝えられている。農地の多くは水田を利用した“い草圃”となり、近年では塩分を含む干拓地の土壌を利用したトマトの施設栽培が増加している。干拓により拡大した広大な八代平野のい草圃とビニールハウスを眺望する景観は、八代を特徴づける風景である。

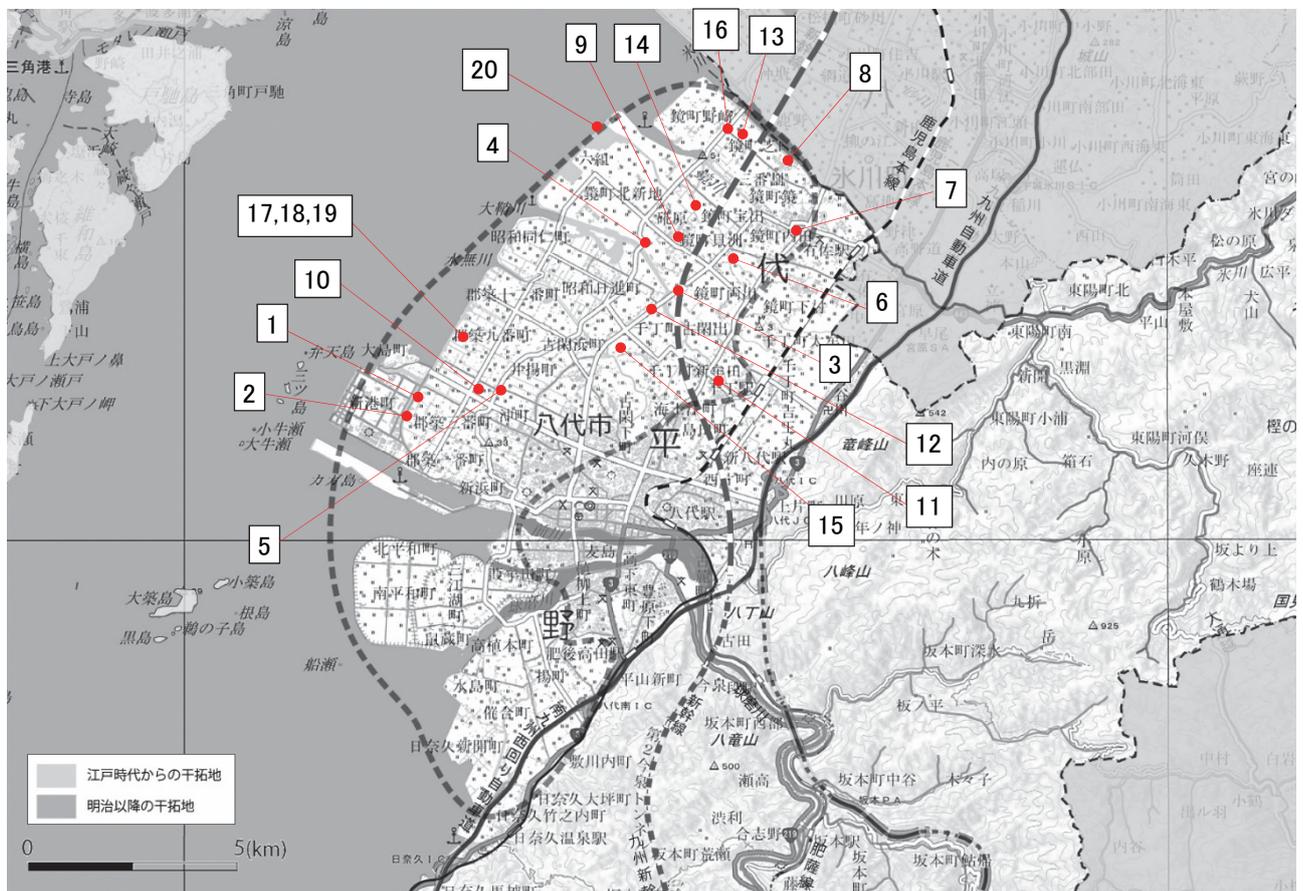


図3-4 関連文化財群A 分布図

注)食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	旧郡築新地甲号樋門 附・潮受堤防	国重文
2	郡築二番町樋門	国登録
3	大鞘樋門群	県史跡
4	七百町新地潮請堤防	
5	高島新地旧堤防跡	
6	鹿子木量平の墓・鹿子木謙之助の墓	市史跡
7	だいばどんの墓	市史跡
8	岩永三五郎の墓	市史跡
9	貝洲加藤神社	
10	郡築神社	

No.	歴史文化遺産名	指定区分
11	新牟田加藤神社	
12	八代新地大鞘節	市無民
13	芝口大鞘節	市無民
14	砥原おざや名所	市無民
15	女相撲	市無民
16	芝口棒踊り	市無民
17	い草栽培	
18	しゃくみそ	
19	トマト栽培	
20	牡蠣養殖	

主な歴史文化遺産—干拓に関連する建造物・土木遺産



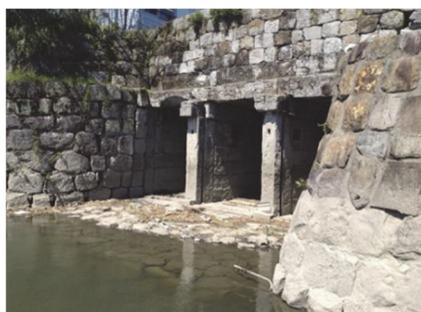
①旧郡築新地甲号樋門 附・潮受堤防

郡築新地(1063ha)をもたらした干拓工事に際し、明治37年(1904)に建設された。設計は熊本県技師の川口虎雄で、現存する石造樋門としては国内最大規模。また、アーチ部分にレンガが用いられ、その上部には五角形の切石を組み合わせて並べるなど、明治期の洋風建築の特徴がみられる。



②郡築二番町樋門

明治時代に行われた干拓事業で陸地となった郡築新地に、昭和13年(1938)につくられた3連アーチ式の石造りの樋門。この時期に建造された他地域の樋門の多くがコンクリート造であるのに対し、石造の樋門であるという、近代的に再解釈された古典主義建築の特徴が見られる。



③大鞆樋門群(※写真：江中樋)

鏡町と千丁町の間を流れる大鞆川に建設された。現在は北から殻樋、二番樋、江中樋の3基が残っている。これらの樋門は、惣庄屋であった鹿子木量平の指導のもと、文政2年(1819)に潮留めが完成した四百町新地(現在の鏡町両出・千丁町古閑出付近)の干拓に伴い、潮の逆流を防ぎ干拓地の排水を行うために建設された。



④七百町新地潮請堤防

文政4年(1821)の七百町新地の干拓の際に築造された堤防跡。七百町新地干拓によって、640haという広大な土地がもたらされただけでなく、干拓事業従事者によって大鞆節がこの地に生まれることとなった。



⑤高島新地旧堤防跡

文化13年(1816)に八代城主の松井徴之により行われた干拓事業の際に築造された堤防の遺構。現在は、長さ235mにわたり堤防と樋門の一部が残されている。

主な歴史文化遺産—信仰の場



⑥ ^{かなこぎりょうへい はか}鹿子木量平の墓・^{かなこぎけんのみすけ はか}鹿子木謙之助の墓(※写真：^{かなこぎりょうへい はか}鹿子木量平の墓)

鹿子木量平は、文化3年(1805)から文政5年(1822)にかけて、百町、四百町、七百町という3度の大干拓事業を成功させた。鹿子木謙之助は量平の四男で、父とともに干拓事業を行った。明治43年(1910)に量平を祭神として建立された^{ぶんせいじんじや}文政神社境内にある。



⑦ だいはどんの墓

「^{おぎやぶし}大鞆節」の題材となった、干拓工事の現場監督「だいはどん」と「お菊」の悲恋に出てくる「だいはどん」の墓。大鞆節のなかで「お菊は鈍な奴、だいはどんにほれて、だいは子もおる妻もおる」と歌われている。



⑧ ^{いわながさんごろう はか}岩永三五郎の墓

寛政5年(1793)^{のづ}野津(現八代郡氷川町)に生まれたといわれている。後に^{しばぐち}芝口に移住してきたが、当時肥後の名石工といわれ、特にめがね橋の築造についてすぐれた技術を持っていた。「七百町新地」干拓事業にも石造りの技術で大きく貢献した。嘉永4年(1851)、59歳で死去した。



⑨ ^{かいづ かとうじんじや}貝洲加藤神社

鹿子木量平は、干拓工事に臨む際、土木工事・新田開発の先駆者加藤清正の神霊に成功を祈願していた。文政5年(1822)、工事の完了後、加藤清正霊の加護に報いるため、清正公を祀る本妙寺浄池廟より分霊を勧請し、新しい地域の守護神として神殿を創建したのが、貝洲加藤神社である。



⑩ ^{ぐんちくじんじや}郡築神社

干拓地守護のため昭和3年(1928)5月18日に内務大臣より創立許可が下り、同年10月16日に社殿が竣工。天照皇大神・大国主命・大綿津見神を祭神とし、境内には郡築新地の干拓事業に多大な貢献をした当時の八代郡長、^{こじょう やじろう}古城弥次郎の胸像と開拓魂の碑などがある。



⑪ ^{しんむ たかとうじんじや}新牟田加藤神社

加藤氏によって新牟田新地が造営された際、「その徳をたっとび、当地の氏神として祀った開拓神である。」とされる。「八代郡誌」では干拓時の建立としつつ勧請年は不明とされ、明治11年(1878)に存置を許可されたとある。本殿の建築年は明治19年(1886)である。境内には島阿弥陀堂(天保13年(1842)建築か?)や島観音堂が存在し、神仏習合の様相を残している。

主な歴史文化遺産—干拓に関連する郷土芸能



⑫～⑭ ^{おざやぶし}大鞆節 / ^{おざやめいしょ}大鞆名所(※写真：上から⑫⑬⑭の順)

大鞆節は、大鞆名所ともいい、江戸時代に行われた干拓に従事した労働者たちが歌った民謡である。唄・太鼓・三味線の囃子に合わせて、鍬・ブリ(天秤棒の両側に籠を提げて土を運ぶ道具)を持って踊る。「大鞆」の名称は、文政2年(1819)の四百町新地築造の際、築かれた樋門の名前に由来する。文政4年(1821)の七百町新地築造の際、多くの人々が出稼ぎとして集まり、口説きの歌詞の中にもある、現場監督のだいぼんどとお菊の悲恋が生まれたといわれている。地域ごとに部分的に異なる歌詞や踊りが伝承されている。

現在、八代市には3つの大鞆節／大鞆名所が残されており、⑫八代新地大鞆節(千丁町新地地区)・⑬芝口大鞆節(鏡町芝口地区)では主に大人の女性が男役・女役に分かれ、男役が鍬を持ち、女役が籠を担ぎ、唄に合わせて干拓工事の様子を再現して踊る特徴がある。また、⑭ ^{かまほら}碓原おざや名所(鏡町碓原地区)は、現在は小学生による活動を中心に伝承されていることが特徴である。



⑮ ^{おんなずもう}女相撲

安政2年(1855)に完成した二の丸新地・八代新地築造の際、潮止め工事が難航し、周辺の村々から屈強な宮相撲衆(力士)を集め、潮止め口を踏み固めさせ、無事完成したことがはじまりと伝えられている。以来、二の丸地区では、竜神社を祀り、毎年の例祭で相撲が奉納されている。女性が主役の「女相撲」として奉納されるようになった時期は不明であるが、現在は女相撲保存会によって伝承されている。



⑯ ^{しばぐちぼうおど}芝口棒踊り

江戸時代、七百町新地干拓が完成した際に、入植した人々によって、収穫祭や娯楽として舞われた踊りが始まりと言われている。明治時代に一度廃れたが、鏡町の人々の努力で復活した伝統芸能である。

主な歴史文化遺産—生活文化



⑰い草栽培

干拓によってもたらされた平野が、ミネラル、微量要素、天然肥料などを多く含んだ土地で、い草栽培に最良の環境地域だったことから干拓地で盛んに栽培されている。い草は八代で500年以上前から栽培され、現在流通している国産のい草の約9割が干拓平野を中心とした八代で生産されている。



⑱しゃくみそ

干潟で採れるアナジャコのことを方言では「シャク」と呼び、郷土料理に使われるなど古くから親しまれてきた。その中でも、シャクを生そのまますり潰して味噌を加えた食べ物「しゃくみそ」は八代特有の加工品で、古くから地域の人々に親しまれてきた。



⑲トマト栽培

八代で栽培されるトマトは、主に干拓平野で栽培されており、干拓地特有の塩分やミネラルを多く含んだ土壌で栽培されることによって、糖度が高いトマトになる特徴がある。また、冬期に出荷される冬トマトは日本一の生産量を誇り、八代トマトとしてブランド化され県内外問わず、日本中に流通している。



⑳カキ養殖

戦後米国に輸出された八代海産種ガキをもとに、米国で養殖・ブランド化され、「クマモト・オイスター」と呼ばれ海外で高い人気を得ていた。そのカキを平成23年(2011)に復活させ、「鏡オイスター」として現在、干拓平野が広がる鏡町沖で生産されている。

主な景観



㉑干拓地のい草圃と龍峰山の景観

龍峰山の西側に広がる干拓地で栽培されるい草は初夏にかけて1.5mほどの高さまで成長し、青々とした草原となる。風になびく緑のい草圃と八代平野の景観は、八代を代表する風景のひとつである。

関連文化財群B. 氷川中流域付近で発達した古代からの文化

範囲：古代より港が繁栄していたと考えられる現在の氷川中流域一体と、干拓が行われる以前は海岸線に面していたと考えられる丘陵端部。

概要：現在の氷川中流域一帯は、干拓が行われる以前は現在の海岸線よりも約6km内陸に海岸線が位置しており、海に面した場所であったと考えられている地域である。この地域に存在する縄文時代の遺跡の有佐貝塚は、元々は島であったと考えられており、様々な地域との交流を示す遺物が確認されていることから八代海を通じた交通の要衝として、港が営まれていたと考えられる。また、律令時代には八代郡倉、江戸時代には細川藩在倉が存在し、船便が良い場所に建てられる倉が存在していた。このことから、古代から近世に至るまで港が営まれており、海を通じての交流の中で様々な文化などももたらされた地域であるといえる。また、明治には名和童山がこの地に新川義塾を開き遠山参良などの偉人を多く輩出するなど、文化的にも繁栄した地域であった。

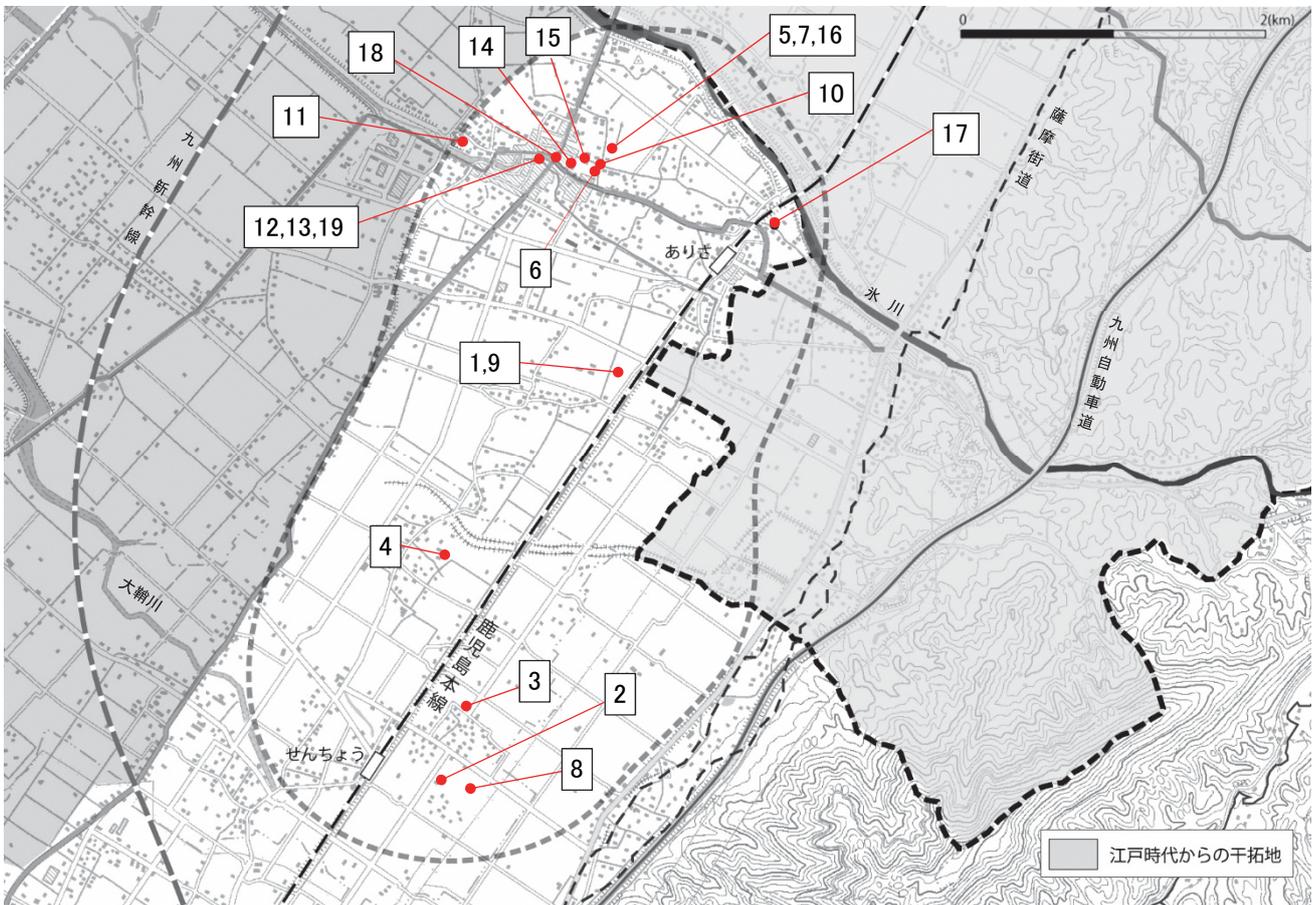


図3-5 関連文化財群B 分布図

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	有佐貝塚	市史跡
2	萱原の板碑供養塔	市有形
3	覚賀墓碑	市有形
4	村山飛弾守の墓	市有形
5	鏡が池	市史跡
6	印鑰神社	
7	鏡が池(再掲)	市史跡
8	十王板碑	市有形
9	有佐貝塚(再掲)	市史跡
10	八代郡倉跡	市史跡

No.	歴史文化遺産名	指定区分
11	細川藩在倉跡	市史跡
12	鑑内橋	市有形
13	御高札場跡	市史跡
14	名和童山の墓	市史跡
15	遠山参良の墓	市史跡
16	鏡が池鮎取神事	市無民
17	上鏡獅子舞	市無民
18	十八夜祭	
19	まちの中に残る船着き場跡	

注)食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

主な歴史文化遺産－古代～中世の遺跡・史跡



①^{ありさかいづか}有佐貝塚

有佐貝塚は、縄文中期から晩期(4000年～2000年前)の貝塚で平野部にある貝塚として注目されている。多種類の貝殻のほか、土器、石斧、石皿等が多数出土している。貝塚があることで、当時、この付近が海の近くであり、約2000年の間、縄文時代の人々が生活を営んでいたことがわかる。

また、この貝塚から円筒埴輪や石室が出土し、この貝塚を利用した古墳(前方後円墳)の存在が調査によって明確になっている。



②^{かやはら いたびくようとう}萱原の板碑供養塔

銘文は「一念弥陀佛即滅無量罪／尼法妙一／天授ニ二年二月十四日／□□□□／現受無比楽後生清浄土」(天授4年・1378)。弥陀仏を一念すれば、罪が滅し、現世では無比の楽を受け、後生は清浄土に生まれ変わる」という意味が刻まれている。この時代に造られた数少ない石造物である。



③^{かくがほひ}覚賀墓碑

銘文は「弘和二歳十一月二十七日」(弘和2年・1382)。この近くにあったシャゼン寺の僧侶覚賀という僧侶の墓碑と考えられている。現在、ガネン堂と呼ばれる祠の敷地内にある。



④^{むらやまひだのかみ はか}村山飛弾守の墓

相良^{よしひ}義陽が八代を領有した際に仕え、天文12年(1543年)に上土城^{あげつち}の城代となった村山飛弾守の墓。墓碑は自然石であって、飛弾守が戦死した年月日が記入されている。



⑤^{かがみ いけ}鏡が池

太古の昔にはいくつもの池(湧水池)や葦原^{あし}が点在する一面の湿地帯であったといわれており、「鏡」の地名の由来となった池である。古い日本語によるとカガとは芝原(荒地)、ミは水または泉のことである。人は水の湧く所に集まって住み、この池の周辺にまず鏡村ができたと言われる。

主な歴史文化遺産—信仰の場



⑥ 印鑰神社

八代郡倉廃止後、肥後の国球磨の地頭職相良長頼^{さがらながより}は、建久9年(1198)弟の為頼^{ためより}に命じ、八代の北三里「鏡ヶ池」の近くにある郡倉跡地に神社を造営させ、蘇我石川宿禰^{そがのいしかわのすくね}の分霊を祭神として鎮座した。以来宿禰の徳を仰ぐ人々の崇神の所になったと伝えられている。「印鑰」の由来は八代郡倉と関係しており、朝廷から郡倉の印として渡された印と鑰(かぎ)のことである。



⑦ 鏡が池(再掲)

鏡村が成立し、その後の現在まで何度か町村の廃置分合が行われたが、現在に至るまで「鏡」の地名が残り続けていることから、この池をもとに地域が発展したことがわかる。また5世紀初頭、九州平定のため、石川宿禰がこの地に立ち寄った際、村の若者たちが池に飛び込み、鮒を手づかみで取って献上したことに由来するといわれる鮒取神事^{ふなとりしんじ}が現在も行われている。



⑧ 十王板碑

通称「石仏」さんと尊称されているこの板碑は、形態的には自然石板碑であり、内容的には梵字板碑十仏を本地とする十王信仰がこの地域で行われていたことを伝えるものである。

主な歴史文化遺産—港の交流と地域の繁栄



⑨ 有佐貝塚(再掲)

有佐貝塚は、縄文中期から晩期(4000年～2000年前)の貝塚である。多種類の貝殻、石斧、石皿の他に、他地域との交流を示す土器が多数出土している。当時、この付近が海の近くであったと考えられていることから、八代海を介した交流の拠点(港)となっていたと考えられている。



⑩ 八代郡倉跡

律令時代、現在の印鑰神社付近に「八代郡倉」があり、八代地方の祖米が集められ収納されていた。その頃八代郡の条里制は、小川の北小野付近から八代の高田まで山下の耕地を貫いて敷かれていたことから、細長い山麓に続く低い台地が当時の穀倉地帯であったと考えられる。また、郡倉がこの地に建てられたのは、近郷の中心地であり、船出にも便利であったことが背景にあったと考えられている。



ほそかわはんざいくらあと
⑪細川藩在倉跡

年貢米を納める倉庫の跡であり、細川藩では各地の手永在が管理したものを「在倉」と呼んでいた。在倉を建設するに当たっては、船便がよいことなどが条件で、当時港であった現在地に設置された。七百町新地(文政4年・1822)ができたことによって一度海岸に移築されたが、天保元年(1830)に惣庄屋の犬塚安太が藩の許しを受け3kmの長さの「鏡入り江」を開削した際に現在の位置に復帰した。



かんないきょう
⑫鑑内橋

岩永三五郎作との伝承が残るめがね橋である。明治10年(1877)の西南の役に、日奈久に上陸して北上する官軍の斥候と熊本城を包囲していた薩軍から派遣され南下中の斥候とが、初めて出会った場所とされている。八代海を介してもたらされた、天草砂岩を使用している特長があり、天草の石工との交流が伺える。



ごこうさつばあと
⑬御高札場跡

所在地は細川藩時代、八代～松橋の下住還の要所であった。当時、人々に法令を徹底させるため、法度や掟書を書いた立札や犯罪人の罪状などをおかけた御高札場の跡である。



なわどうざん はか
⑭名和童山の墓

名和童山は、天保6年(1835)飽田郡台ノ村(現在の熊本市二本木町)に生まれた。32歳の時、野津手永に招かれて以来、77歳で亡くなるまでの46年間、内田に居住し郷土の子弟の教育に励まれ多くの人材を育成した明治の教育者である。新川のほとりに教育施設として新川義塾を開設した。



とよまさんりょう はか
⑮遠山参良の墓

遠山参良は、慶応3年(1867)鏡町に生まれた。明治13年(1880)名和童山から漢学・英語を学び、明治25年(1892)、アメリカのオハイオ・ウエスレヤン大学を卒業した。帰国後、長崎県私立鎮西学院教師、活水高等女学校講師をつとめ、明治32年(1899)、第五高等学校(現在は熊本大学)の教授になった。明治44年(1911)、私立九州学院を創立し、昭和7年(1932)に67歳で死去した。

主な歴史文化遺産—伝統芸能



かがみ いけふなとりしんじ
⑯ 鏡が池鮒取神事

毎年4月7日、鏡町の印鑰神社大祭時に実施される。5世紀初め、九州平定のため、石川宿禰(印鑰神社の祭神)がこの地に立ち寄った際、村の若者たちが鏡が池に飛び込み、鮒を手づかみで取って献上したことに由来するといわれている。神幸行列が鏡が池に到着した後、締め込み姿の若者約50名が池に飛び込み、鮒や鯉を捕ったり、泥を見物人に投げたりする。その泥に当たると、無病息災に過ごせるといわれ、捕った魚は印鑰神社へ献上される。



かみかがみししまい
⑰ 上鏡獅子舞

鏡町上鏡地区に伝承されている。天保10年(1839)、宮原三神宮(八代郡氷川町)の落成式の際、周辺みやはらさんじんぐうの町村から祝いの催し物が披露され、上鏡地区からも八代妙見祭の獅子舞にならって披露したところ、好評だったため、旧八代市から師匠を招き、練習に励んだと語り伝えられている。戦前までは、三神宮秋季大祭に行列の先導として加わっていたが、現在は9月下旬の上鏡天満宮の祭礼に奉納されている。

主な歴史文化遺産—伝統行事



じゅうはちやさい
⑱ 十八夜祭

子授け、安産、子育て、良縁などで有名な子安観音を祀って行われる数百年の歴史がある夏祭り。町内15地区の町民たちがそれぞれに趣向を凝らした造り物で腕を競い合い、町内外から訪れた浴衣姿の参詣者や見物客で、深夜まで賑わいを見せる。

主な景観



⑲ まちの中に残る船着き場跡

八代郡倉や細川藩在倉などの近隣に位置し、古代から近世に至るまで、海を通じての交流の中で様々な文化がもたらされた地域の特徴的な景観が残されている。

関連文化財群C. 港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史文化

範囲：海に面した球磨川河口域であり、中世以降に発達した城下町と門前町の範囲である。河口東側の丘陵地に点在する中世城郭群や山麓の城下町、球磨川南岸の平野部を含む。

概要：中世以降、球磨川河口域は水運(海上交易等)の重要拠点である徳淵の津を中心に発展し、「古麓城・^{ふるふもとじょう}麦島^{むぎしま}城・^{やししろじょう}八代城」が築かれた。八代城(松江城)が麦島城の地震崩壊、一国一城令という存続の危機を迎えながらも、幕府によって存続が許された背景にも港の存在が大きく関係している。国際港湾都市として国内外との交流を行う上での重要拠点であったこと、八代海の海上と九州西海道を警備する上で重要な拠点であったことが大きな理由であると考えられる。また、相良氏～松井氏の時代まで各時代の領主ゆかりの寺社や菩提寺が多く残されている特徴がある。国内外との人やモノ、文化の交流の中で妙見宮(八代神社)を中心とした門前町、城に伴う城下町が繁栄し、様々な文化が花開いた。また、港の存在は国内外から文化の流入をもたらし、八代妙見祭にも見られる異国情緒にあふれる文化など多彩な文化を育むことにも繋がっている。

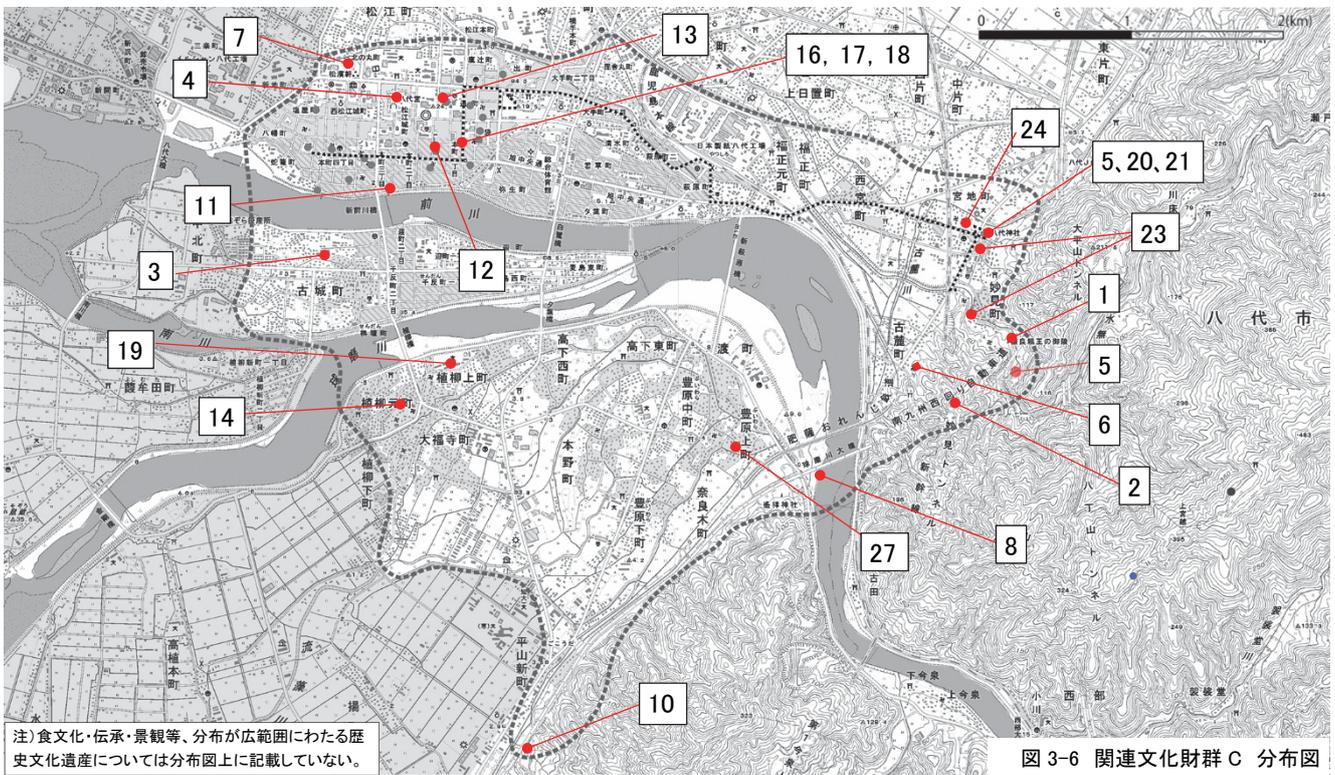


図3-6 関連文化財群C 分布図

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	懐良親王御墓	市史跡
2	古麓城跡	国史跡
3	麦島城跡	国史跡
4	八代城跡	国史跡
5	八代神社(妙見上宮跡・妙見中宮跡・下宮)	県史跡・市史跡・県有形
6	春光寺	市有形
7	松浜軒	国名勝
8	遥拝堰	市史跡
9	彦一とんち話	
10	平山瓦窯跡	国史跡
11	徳淵の津跡	
12	金立院キリシタン墓碑	市有民
13	シャルトル聖パウロ修道院記念館・煉瓦塀	国登録

No.	歴史文化遺産名	指定区分
14	十三重塔	国重文
15	河童伝承	
16	八代妙見祭の神幸行事	国無民
17	妙見宮祭礼の獅子舞楽	市無民
18	妙見宮祭礼の花奴	市無民
19	植柳の盆踊	国選択・県無民
20	氷室祭	
21	雪餅	
22	ミョウガ饅頭	
23	宮地手漉き和紙	
24	宮地手打ち刃物	
25	八代焼	
26	晩白柚	
27	高田みかん	
28	古麓付近から球磨川河口の景観	

主な歴史文化遺産—城下町・門前町の歴史と文化



① 懐良親王御墓 (かねよし
かねながしんのうおんぼ)

懐良親王は、九州における南朝方の中心人物として活躍し、正平2年(1347)征西大將軍として九州に下向し、薩摩から上陸し八代にも訪れた。親王の死後、縁の深かった八代に墓が築かれ、明治11年(1878)、宮内省から懐良親王の墓と決定され、現在は宮内庁所管となっている。墓所内には大正5年(1916)に発見された、親王御自筆銘の宝篋印塔(ほうきょういんとう)が置かれている。関連遺産として、征西府、高田御所跡、懐良親王両親の御小袖塚、短冊塚、奈良木神社、観音堂が挙げられる。



② 古麓城跡 (ふるふもとじょうあと)

古麓一帯の山頂を数段に削平した山城で、複数の城で構成されている。各城は曲輪(くるわ)の近くに堀切と豎堀を設け、山の麓に水堀をめぐるせていたと考えられる。また、城下を取り囲むように水無川を利用して総構えが設けられている。名和時代～相良時代(1334～1581)に用いられ、天正15年(1587)、豊臣秀吉の九州攻めの際には秀吉が数日間滞在し、宣教師のルイス・フロイスらが面会に来た場所である。



③ 麦島城跡(写真：発掘調査時) (むぎしまじょうあと)

天正16年(1588)、小西行長が、重臣の小西行重に命じて築かせた城。築城当時、城の北側は大きな入り江で、中世以来の貿易港であった徳淵の津に近いなど、水運や交易に適していたことからこの地に築かれたとされる。九州最古の織豊系城郭の一つで、石灰岩の自然石を用いた野面積みの白い石垣が特徴である。元和元年(1615)の一国一城令の中で、熊本城と一国二城が許されたが、同5年(1619)の大地震によって倒壊し廃城となった。



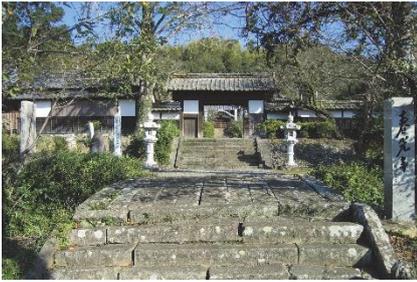
④ 八代城跡 (やつしろじょうあと)

麦島城の崩壊後、加藤忠広が幕府の許可を得て家臣の加藤正方に命じて築城に着手し、元和8年(1622)に竣工した。石垣には麦島城の石垣や、八代産の石灰岩が用いられている。薩摩への警備番城としての役割とともに、沿海岸の異国船防備番役と九州西海道の防備の中心番城として位置付けられていたと考えられている。加藤氏(1622～32)・細川氏(1632～1645)・松井氏(1645～1870)が治め、明治3年(1870)に廃城となった。



⑤ 八代神社 (妙見上宮跡・妙見中宮跡・下宮) (みょうけんじょうぐうあと みょうけんちゅうぐうあと げぐう)

八代地域で最大の神社で、飛鳥時代の白鳳9年(680)に、八千把村竹原津に妙見神が鎮座したのが始まりと伝えられている。延暦14年(795)、上宮が創建された。永暦元年(1160)平貞能によって中宮が創建され、文治2年(1186)檢校散位大江朝臣(おおえあそん)によって、現在の場所に下宮が創建されたと伝えられている。本殿は元禄10年(1697)に改築され、以降数度の改修を経て現在に至っている。



⑥ ^{しゅんこうじ}春光寺

松井家の菩提寺。創建は、天正 11 年(1583)、初代松井康之が亡父 ^{まさゆき}正之の追善のため、丹後久美浜(京都府京丹後市久美浜町)に常喜山宗雲寺を建立したが始まりである。その後、豊後杵築・豊前小倉・肥後熊本と移り、延宝 5 年(1677)直之の代に現在地に移され、江東山 ^{こうとうざん}春光寺と改称した。寺名の由来は、松井康之の法号「春光院殿英雲宗傑」による。本堂は明治 20 年(1887)の再建で、門・番所は八代城三の丸の遺構を移築したものである。裏に松井家歴代の墓所がある。



⑦ ^{しょうひんけん}松浜軒

元禄元年(1688)、八代城主の松井直之が、母 ^{まついなおゆき}崇芳院尼のために建立した茶庭。建立当時は、松波越しに、八代海・宇土半島、さらに遥か雲仙を望む雄大な庭園で松浜軒の名もこれに由来している。大名庭園として変化に富んだ景色を構成しており、江戸時代初期の形状をよく今に伝えている。



⑧ ^{ようはいげき}遥拝堰

中世には「杭瀬」と呼ばれ、近世には「石堰」に改造され、「遥拝堰」と呼ばれるようになった。堰から取水した水は、太田井出・麓川などを通して鏡町の七百町新地などの干拓地も潤してきた。

現在の遥拝堰は昭和 40 年代に建設され、湾洞沈砂地で分けられた水は、農業、工業用水のほか、宇城・天草地域の水道水としても利用されている。



⑨ ^{ひこいち}彦一とんち話(写真：彦一塚)

八代地方民話の代表である。話の中心人物「彦一」は、江戸時代八代城下の出町に居住したといわれ、出町の光徳寺境内には彦一塚が残っている。

話の中には、八代城の殿様、町人、商人、河童、キツネ、天狗などが登場し、彦一が彼らをとんちで打ち負かす話が多い。古くから八代の人々に親しまれている民話である。



⑩ ^{ひらやまかわかまあと}平山瓦窯跡

平山瓦窯跡は、「だるま窯」と呼ばれる瓦を焼いた窯跡の遺跡である。出土した瓦には ^{ききょうもん}桔梗紋・^{かたばみもん}酢漿草紋という、加藤清正・加藤正方の家紋が付されており、麦島城から出土したと伝えられる菊花紋鳥衾 ^{とりぶすま}に酷似した瓦も出土している。

また、瓦窯跡の熱残留磁気測定結果からも、瓦窯の操業期間は慶長 6 年(1601)の麦島城改築から寛永 9 年(1632)加藤氏改易までの間と考えられることから、この窯跡は現在の八代城あるいはそれより古い麦島城の瓦を焼いた重要な遺跡と考えられている。

主な歴史文化遺産—港と交流に関連する歴史文化遺産



⑪徳淵の津跡

古くから港として機能しており、中世に八代を支配した相良氏は、ここを大船泊として大陸や琉球方面との交易を盛んに行った。その後も、海上交通の要衝として、麦島城・八代城の立地と大きく関係し、八代城は徳淵津の真正面に築かれるなど八代の町の形成に大きな影響を与えた。徳淵津周辺には、榊形、徳淵、川口、沖などの番所が置かれ、物資の集散地として繁栄した。



⑫金立院キリシタン墓碑

造られた年代は不明であるが、寝棺型伏碑(俗称:カマボコ型)のキリシタン墓碑は県内でも類例が少なく、肥後のキリシタン史の一端を刻んだ貴重な遺物である。八代でキリスト教が信仰されていたことを表す数少ない遺物であり、キリスト教信者の様子を垣間見ることができる。



⑬シャトルル聖パウロ修道院記念館・煉瓦塀

木造洋風建築で、明治33年(1900)、八代において貧しい病人や孤児の救護にあたったシスター達の修道院として建設され、救護活動の拠点となった。明治時代にヨーロッパからインド経由で日本に伝わったヴェランダコロニアルの特徴と、アメリカ経由で伝わったとされる下見板の構造が融合した、ヴェランダ下見板コロニアルという建築形式に分類される。同様の建築形式を持つ建物の現存例は、県内においては少なく貴重な建物となっている。煉瓦塀は大正8年(1919)の建設である。



⑭十三重塔

現在は二重が失われ十一重になっているが、高さ約6.6mの鎌倉時代の塔。各層の塔身の四面に仏をきざみ、軒裏には隅木や垂木を造り出し、四隅の隅木の先には目をむき、牙を出した鬼面を彫刻しており、鎌倉時代の力強さと写実性がよく表現されている。塔身には制作年代(寛喜二年・1230)・建立者・工人の銘がある。球磨郡湯前町の明導寺(現在は城泉寺)にあったものをここに移したものである。



⑮河童伝承

八代各地には河童伝承が多く残されている。その中でも徳淵の津周辺には、仁徳天皇時代に中国から9000匹の河童が揚子江(長江)を下り、黄海を経て八代に上陸したという河童渡来の地として伝承が残っており、河童渡来之碑が建てられている。河童は地域の言伝えや、彦一とんち話にも出てくるなど、八代の人々に古くから恐れ親しまれている存在である。

主な歴史文化遺産－民俗芸能・伝統行事



⑯八代妙見祭の神幸行事

寛永13年(1636)細川三斎が妙見宮(現八代神社)に神輿や祭器を寄進したことにより祭礼の再興が図られ、江戸時代中頃には多彩な出し物が登場する現行の形に整えられた。華麗な笠鉦の巡行には地域的特色が顕著にみられるとともに、多彩な出し物から構成される行列が練り歩く行事は、近世の城下町に発達した、都市祭礼の典型例の一つであり、城下町の繁栄を今に伝えている。



⑰妙見宮祭礼の獅子舞

八代城下、薩摩街道と徳淵の津に面して繁栄し、豪商が多かった「中島町」から出されている。中国風の衣装や楽器を用いるのが特徴で、元禄4年(1691)、八代城下の豪商・井椋屋勘七が長崎諏訪神社の「おくんち」の羅漢獅子舞に影響を受け、奉納したのが始まりと伝えられている。



⑱妙見宮祭礼の花奴

八代城主松井直之の鑓持(やりもち)を勤め、江戸参府に度々お供した松江村の虎右衛門(とらえもん)が、江戸花奴の作法を習い伝えたのが始まりといわれ、宝暦2年(1752)には、行列に出ていたことが確認できる。その後は、高子原村(こうこばら)の田中家(まづたか)により受け継がれ、現在では松高地区の人々により守り伝えられている。



⑲植柳の盆踊

江戸時代初め頃に始まったといわれ、現在はお盆の夜に八代市立植柳小学校の校庭で行われるお祭りで盛大に踊られるとともに、地元町内の初盆宅で供養のために踊られる。楽器を用いず、口説き手の口説き唄のみで物語をつづり、老若男女の踊り手は「とまり」のない緩やかな振りで踊る。踊り手の装束は、男は座頭笠、女は黒頭巾で顔を覆い、白い着物に黒い帯という特徴的な姿である。これは「折助とおすて」という植柳の若い男女が心中する姿を表わしており、悲恋心中の道行きとお盆とが重なり、別名「亡者踊り」とも呼ばれている。



⑳氷室祭

氷朔日6月1日に八代神社で行われる祭りで、起源は350年以上も前にさかのぼると言われている。八代城主の細川三斎が妙見宮に参拝した時に、無病息災を祈って、八代市東町の三室山につもった雪を献上したのが始まりという言い伝えや、雪を献上しようとしたが手に入らず、雪にかわるものとして考え出された雪餅を妙見宮に献上したのが始まりという言い伝えがある。

主な歴史文化遺産—生活文化



^{ゆきもち}
⑳雪餅

八代神社で行われる「氷室祭」で無病息災を祈願し食べる氷室に保存していた氷を模して作られている伝統菓子である。一年の間でお祭りが行われる時期にしか食べることができない特別な菓子で、八代の人々に古くから愛されている。



㉑ミョウガ饅頭

八代平野で栽培される米を原料とした寒晒し(白玉粉)を使って作られる伝統菓子である。地元ではミョウガの葉が採れる初夏から秋口にかけて一般家庭で作られる。



^{みやじてす わし}
㉒宮地手漉し和紙

宮地村一帯で生産されていた紙で、筑後国下妻郡溝口村の柳川藩御用紙漉き新左衛門によって始められたと伝えられている。宝暦7年(1757)、御用紙漉きになった木村喜三次が、越前の紙漉き技術を導入し、大高檀紙や大長奉書紙など高級紙の製造や、透かし入りの紙の開発に成功し、宮地紙を大きく発展させた。現妙見町には紙漉きの水路やたたき石が残る。



^{みやじてう ばもの}
㉓宮地手打ち刃物

永仁元年(1293)頃、福岡県太宰府宝満山の僧門の刀工・金剛兵衛源盛高を祖師とする宝満山の修験者の刀工から始まったとされている。筑前国で13代続き、寛永9年(1632)に細川三斎に従い、八代神社(妙見宮)修験者の刀工としてさらに13代、あわせて26代700年という歴史を誇る。現在、本職用注文鍛手打ち刃物をはじめ一般刃物も製造されている。



^{やつるやき}
㉔八代焼

細川氏の肥後入国に伴い、三斎について豊前から八代へ移り住んだ喜蔵(豊前上野焼の陶工)が、加藤時代からの窯があった高田・奈良木村の木下し谷で作陶を始めたとされており、高田焼平山窯跡が残されている。肥後細川藩の御用窯として、江戸時代を通してすぐれた茶器や日用の器を焼き続けた。

窯の置かれた場所の地名から高田焼の名でも親しまれ、現在も生産されている。



②⑥ ^{ばんへい ゆ}晩白柚

マレー半島原産、世界最大級の大きさの柑橘類の一種である。大正9年(1920)、東陽町出身の植物学者、島田弥市によって台湾へともたらされ、さらに昭和10年(1935)に栽培に適した土地である八代にもたらされた。現在、国内生産量の97%を八代が占めており、地域の特産物として様々な加工品なども生産されている。



②⑦ ^{こうだ}高田みかん

紀州みかんの先祖であり、中国の江南地方から伝わったといわれている小みかん。豊臣秀吉をはじめ、熊本の細川家、江戸の将軍家、朝廷などへの献上品として用いられた。現在、八代市内に100株程度が栽培されており、正月飾りなどに使用されている。

主な景観



②⑧ 古麓付近から球磨川河口の景観

球磨川河川敷公園の上空からは、麦島、前川橋のほか、旧八代城下の玄関口であった徳淵の津跡が見え、その東側に広がる現在の八代港と八代海、対岸の天草の島々まで臨むことができる。麦島城から近世の八代城下、そして国際旅客港となった八代港へと次第に拡大していった八代の歴史を知ることができる景観である。

関連文化財群D. 氷川流域の生活と歴史文化

範囲：旧種山手永の範囲を含む氷川流域の山間部であり、現在の東陽町と泉町の一部である氷川・球磨川の分水嶺までを含む。

概要：氷川とその支流である小浦川、河俣川沿いには古くから集落が点在している。なかでも近世以降、熊本藩で種山手永と呼ばれた種山村一帯(現在の東陽町)は、種山石工と呼ばれる石工たちが誕生した地域である。石工たちは地域で豊富に産出する石材(溶結凝灰岩)を用い、灯笼や石垣などの石造物、石造アーチ橋(めがね橋)を氷川流域に数多く造った。この地域で培われた類稀な技術を活かし、橋本勘五郎に代表される石工たちは、八代各地から熊本、九州、東京の各地に至るまで多くの石橋を架設した。また、氷川南側の山間部には、中世以来の仏教道場として栄え、信仰を集めた釈迦院があり、各地から参詣に人々が訪れた。また、氷川沿いの古道は五家荘へ至る「五家荘道」としても知られ、下岳から岩奥、三本木峠を通っていたことが伝わっている。

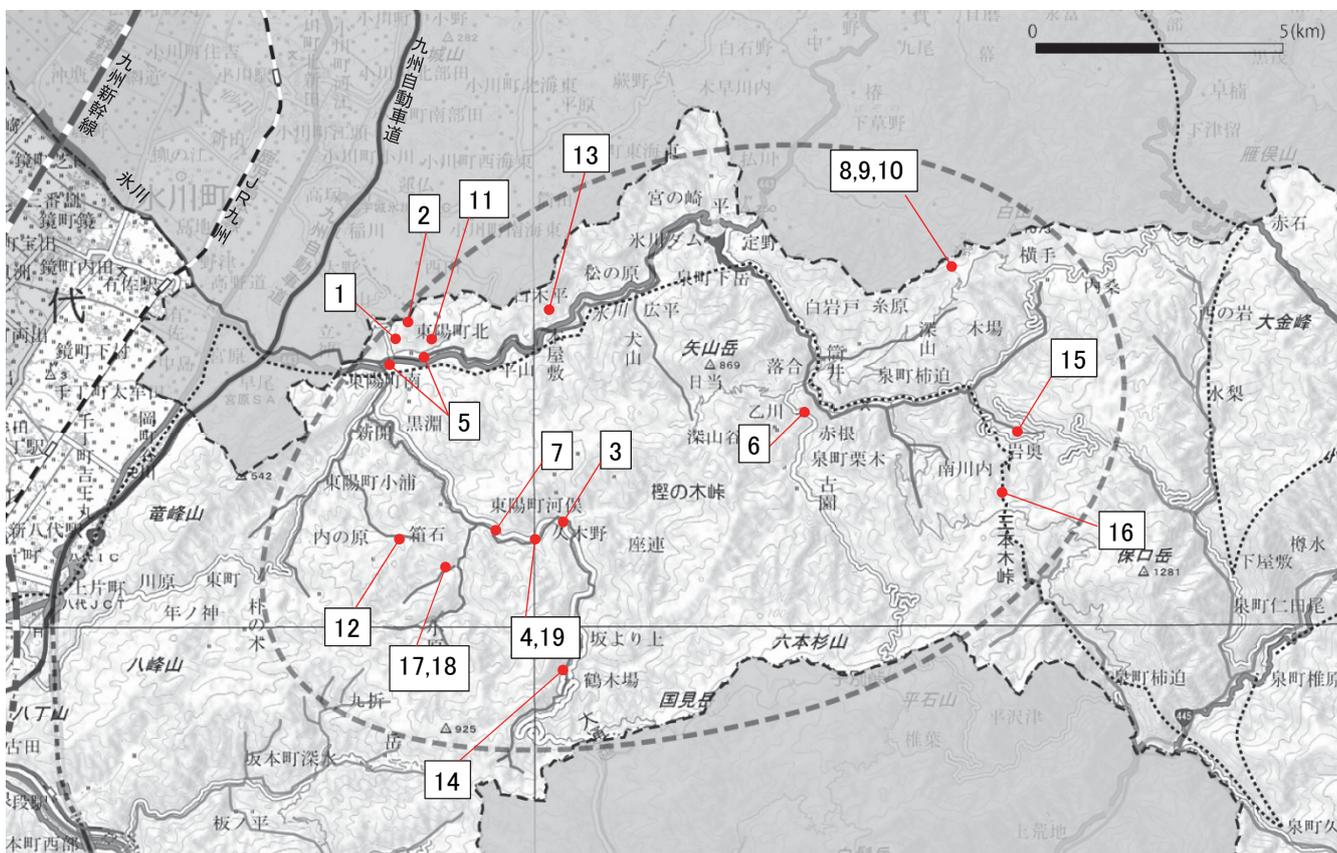


図 3-7 関連文化財群 D 分布図

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	鍛冶屋上・中・下橋	市有形
2	大久保自然石橋	
3	鹿路橋	市有形
4	笠松橋	市有形
5	ひねり灯笼	
6	高原橋	
7	谷川橋	
8	釈迦院	
9	銅造釈迦如来立像	県有形
10	木造男神坐像	県有形

No.	歴史文化遺産名	指定区分
11	白髪岳天然石橋	市天然
12	箱石雨乞い踊り	市無民
13	本屋敷神楽	市無民
14	坂より上棒踊り	市無民
15	岩奥神楽	市無民
16	五家荘道	
17	棚田	
18	生姜栽培	
19	めがね橋と川沿いの集落景観	

注) 食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

主な歴史文化遺産—石工たちが作った石橋・石造物



① 鍛冶屋上・中・下橋(写真：鍛冶屋上橋)

種山の石工の祖と言われている林七が文化年間(1804～18)に架けたと伝承が残るめがね橋。橋長は上橋(4.1m)・中橋(4.36m)・下橋(7.03m)の小規模な橋である。氷川水系の西原川が流れる鍛冶屋谷に凝灰岩を用いて架けられている。地域に数多く存在するめがね橋の中でも最も古いものであると考えられている。



② 大久保自然石橋

氷川水系の西原川に架かる凝灰岩の自然石を用いて架けられた石橋。種山の石工の代表的人物である橋本勘五郎は、明治25年(1892)前後に現在の福岡県八女市上陽町に石橋架設のために招かれた際、村長との問答の中で「自然石でいくつかの橋を架けた」と答えた記録が存在している。このことから、この橋はその中の一つであると考えられている。



③ 鹿路橋

橋本勘五郎の父・橋本嘉八によって嘉永元年(1848)に架けられたと伝えられているめがね橋。氷川水系河俣川の上流域の溪谷に架かる橋である。凝灰岩を用いて架けられている。橋長は20.36mで、小規模な橋が多い氷川流域の中で比較的大きな橋である。



④ 笠松橋

明治2年(1896)に橋本勘五郎によって架けられたと伝えられているめがね橋。氷川水系河俣川の上流域の集落の近くに架けられている。凝灰岩が用いられており、ノミ加工の跡などを確認することができる。橋長は22.75mで鹿路橋同様、氷川流域の中で規模の大きな橋に分類される。



⑤ ひねり灯籠(写真：若宮神社のひねり灯籠)

若宮神社の灯籠は嘉永4年(1851)に橋本勘五郎が造ったと伝えられている、90度ねじれたように彫刻された石灯籠。菅原神社の灯籠は嘉永7年(1854)、石工の文八の作で、さらに90度ねじれている。遊び心なのか、技を競ったのか、強度を高める工夫なのか理由はわからないが、いずれにせよ、石工たちが高い技術を持っていたことがわかる。



⑥^{たごらばし}高原橋

橋の左岸に碑があり、明治35年(1902)に種山の石工、田上甚太郎が架設しためがね橋であることがわかっている。高原山法泉寺への参詣道として氷川水系栗木川に架設され、今も現役の橋として使われている。石材に、野添で採石された赤みを帯びた溶結凝灰石岩が用いられている特徴がある。橋長は15mの中規模の石橋である。



⑦^{たにがわばし}谷川橋

昭和4年(1929)に、田上甚太郎によって架けられた記録が残るめがね橋。氷川水系河俣川に集落を繋ぐように架設され、今も現役の橋である。石材には河俣瑞宝寺の東側で採石された溶結凝灰岩を用いている。現在確認されている八代市内のめがね橋の中で最も新しい橋である。建設中の写真や図面が残っている。

主な歴史文化遺産—信仰の場



⑧^{しゃかいん}釈迦院

延暦18年(799)に^{しやうぜん}辨善が開山したと伝わる。^{だいぎやうじさん}大行寺山の山頂近くに所在している。釈迦院の縁起書は4点確認されている。天正16年(1585)、肥後国南部を治めた小西行長により寺領が没収され、焼き討ちにあったと伝わる。その後、江戸時代前期に復興し、加藤氏・細川氏の庇護を受け、肥後における宗教的要地として栄えた。銅造釈迦如来立像(秘仏・鎌倉時代中～後期)、木造男女神坐像(仁治3年・1242・7軀)、木造十一面観音立像(鎌倉時代)、木造如来形立像(平安時代後期)、木造辨善大師坐像(鎌倉時代)、木造僧形文殊菩薩坐像(嘉暦3年・1328)など、多数の仏像が確認されている。門・本堂は大正9年(1920)の建築である。



⑨^{どうぞうしゃかによらいりゅうぞう}銅造釈迦如来立像

秘仏とされ、一般公開されていない。破綻のない優れた技術水準、髪際線が緩やかに下にカーブしていること、^{につけいぶ}肉髻部が小さくなってきているところなどから、鎌倉時代中～後期の都周辺の作と推定される。金銅仏としては大きい部類(像高78.8cm)に属し、九州でも数少ない中世の優れた金銅仏として注目されている。



⑩^{もくぞうだんによしんざぞう}木造男女神坐像(写真：^{もくぞうそぎやうしんざぞう}木造僧形神坐像)

男神像五軀と女神像二軀があり、像底の墨書銘から、僧勝西・念西らが勧進者となり、仏師僧長實神像を彫り、仁治3年(1242)7月16日に完成したことがわかる。いずれも頭・体幹部を一材から丸彫りし、膝前に横一材を寄せているが、寄せ方は腹下部を少し水平に切り込み装着する特異な技法である。本神像群は、彫刻的にも優れ、鎌倉時代中期の在銘神像として貴重である。



⑪ ^{しらがだけてんわんいしぼし}白髪岳天然石橋

地元には「白髪山(白髪岳)の天神様が山を下りて来られる際に、道を塞いでいた大岩を蹴り破って出られたために出来た」という伝説が残っている。また、白髪山は、『肥前国風土記』に「火の国」の命名に関する伝説が記されるなど、信仰地としての伝承も残されている。その他にも、石工たちがこの天然橋を眺めてアーチ橋の着想を得たという言い伝えも残っている。

主な歴史文化遺産—伝統芸能



⑫ ^{はちろいしあまご おど}箱石雨乞い踊り

天明年間(1781~89)の大干ばつのとき、この雨乞い踊りにより農民の危機が救われ、そのお礼と感謝を神にささげたものと伝えられている。永遠の豊作を祈念した踊り(箱石銭太鼓)の歌としても用いられる。



⑬ ^{もとやしきかくら}本屋敷神楽

天照大神の神話に起源を持つ本屋敷神楽は、11月14日の夜から15日にかけて本屋敷神社に奉納される。現在は11月第1日曜日に奉納されている。本屋敷の集落に寛永6年(1629)の旗が残ることから、古くから奉納されていたと思われる。舞手は、本屋敷地区の8歳から10歳の男子で、御幣をもち、楽に合わせて拝殿の中を回る。左回り3回、右回り3回を1セットとし、約6時間かけて12セット行われる。



⑭ ^{さか かみほうおど}坂より上棒踊り

現在の八代市東陽町坂より上地区に伝わる棒踊りである。この地域に住みついた平家落人が、武術として教えたものが始まりで、落人の死を惜しんで村人たちが花棒踊りを交えて踊るようになったと伝えられている。現在は東陽中学校で子どもたちに伝承されている。



⑮ ^{いわおくかくら}岩奥神楽

もともと肥後神楽の流れをくみ、明治43年(1910)頃、^{こうさまち}甲佐町の神官赤星氏により伝授・養成されたといわれている。肥後神楽は、宮司舞として阿蘇家が肥(火)の国に勢力を広げ、阿蘇地域が肥の国文化の中心地として繁栄した頃に発祥したと伝えられている。その後、神楽は農民の間に広がり、村の若者の間でも舞われ、祭や農耕、年中行事と深くかかわりながら今日に至っている。

主な歴史文化遺産—周辺地域との交流



⑯^{ごかのしょうみち}五家荘道(写真：『^{ごかのしょうきこう}五箇荘紀行』)

氷川沿いの五家荘へ至る古道。天保4年(1836)、天草代官の役人^{ない}内藤子興が宗門改めを行うために五家荘の各地を訪れた際に書いた紀行文『五箇荘紀行』などに順路が記されている。北種山～下岳～岩奥～三本木峠を通過していたことが伝わっている。

主な歴史文化遺産—生活文化



⑰^{たなだ}棚田(写真：^{びしょう たなだ}美生の棚田)

東陽町にある天神木場の棚田・美生の棚田は日本の棚田百景に選ばれており、地形を利用した美しい石積みの棚田を見ることが出来る。この地域では米の栽培ではなく、生姜の栽培が行われている特徴がある。また、石垣の造成に種山の石工たちが関わったという言い伝えが残されている。



⑱^{しょうがさいばい}生姜栽培

大正末期に栽培が始まり、昭和45年(1970)頃の米の生産調整を機に栽培が急増した。現在は東陽町の特産品として、香辛料・ジャム・菓子など様々な製品にも加工され出荷されている。

主な景観



⑲めがね橋と川沿いの集落景観

氷川や支流の河俣川沿いには数多くの石橋が架けられている。いずれも幕末から明治にかけて川沿いの山間集落に作られ、地域の人々の生活路となっていたものである。現在もなお、現役で使われている石橋群と山村の風景は、東陽町を代表する景観のひとつである。

関連文化財群E. 豊かな自然に彩られた秘境の里

範囲：八代市東部に所在する泉町のうち、^{いづみまち}五家荘と呼ばれる川辺川流域を含む地域。氷川、川辺川の分水嶺から東側に広がる九州中央山地の山々と、山に囲まれた深いV字谷で構成される、八代市の山間部である。

概要：五家荘は、川辺川沿いに点在する「^{もみき}樅木」「^{にたお}仁田尾」「^{はぎ}葉木」「^{くれこ}久連子」「^{しいばる}椎原」の5つの地区で構成され、庄屋を中心に古くから焼畑などで生計を立ててきた山間集落である。九州山地の深い山と谷に囲まれたこの地区は秘境として知られ、独自の生活文化が営まれてきた。また、平家の落人や菅原道真の子孫が移り住んだ場所として、多くの伝説や風習が各地に今も伝えられている。また川辺川により深く刻まれた溪谷にはいくつもの滝があり、山間部の原生林などとともに美しい自然風景で知られ、溪谷にかかる吊橋や谷沿いの道などの山道景観も特徴のひとつである。

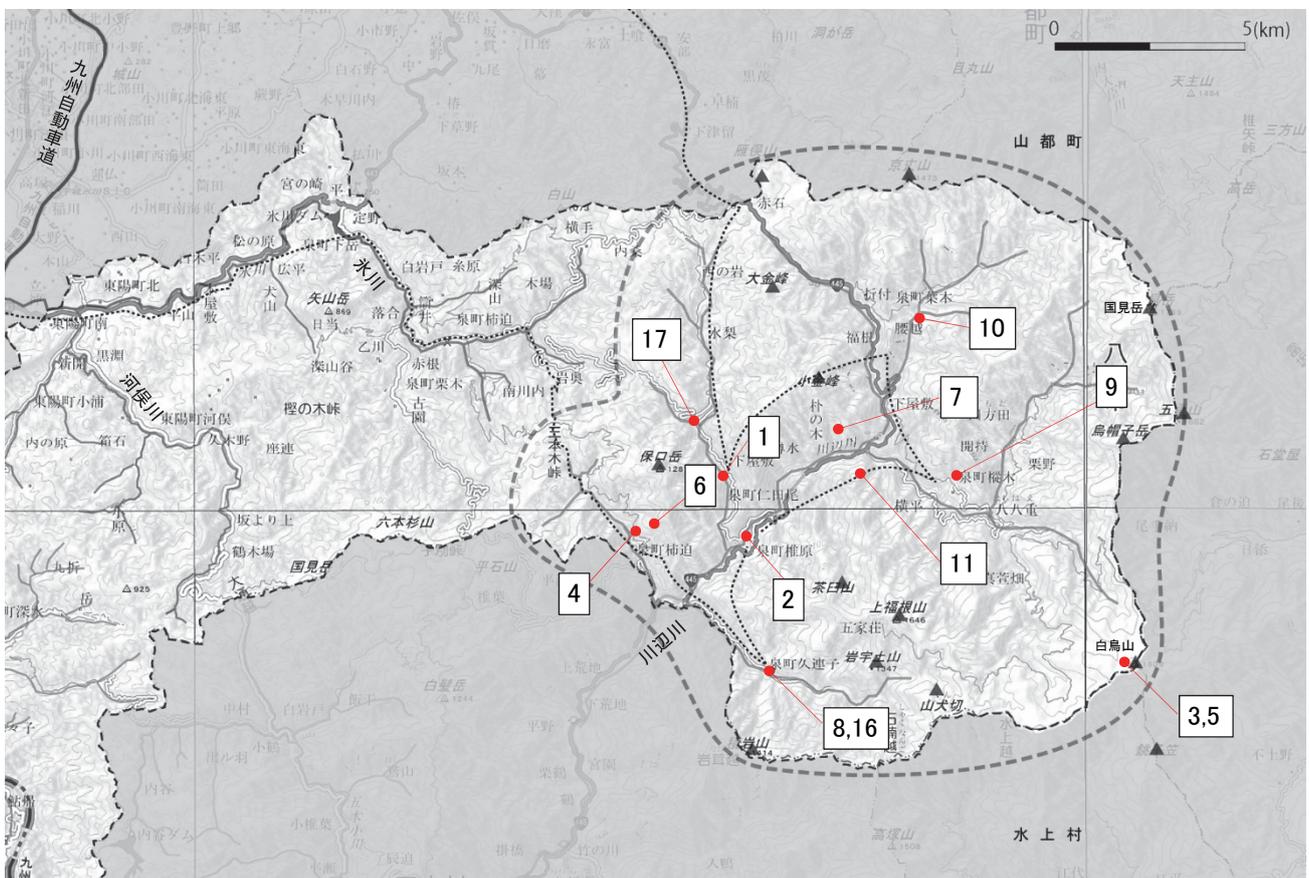


図 3-8 関連文化財群 E 分布図

注)食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	左座家	
2	緒方家	
3	五家荘の地名の由来(五本の白羽の矢伝説)	
4	鬼山御前伝説	
5	白鳥山の御池伝説	
6	保口若宮神社	
7	仁田尾神社	
8	久連子古代踊り	国選択、県無民
9	樅木神楽	市無民

No.	歴史文化遺産名	指定区分
10	葉木神楽	市無民
11	五箇荘紀行	
12	焼畑農耕	
13	お茶栽培	
14	豆腐の味噌漬け	
15	ヤマメ料理	
16	久連子鶏	県天然
17	せんだん轟の滝	
18	五家荘の山々の景観	

主な歴史文化遺産—落人伝説を伝える歴史文化遺産



①左座家

平安時代、菅原道真すがわらのみちざねの嫡男が、敵である藤原一族の追討を避ける為、名を「左座太郎さざたろう」と改名し隠れ住んだ屋敷であると伝わる。また、五家荘には兄の左座太郎さざたろうが仁田尾にたおに、弟の菅次郎もみきが樅木もみきに住み着き、それぞれの地を支配したと伝えられている。約200年前に建てられたとされ、欄間などに菅原道真をまつる天満宮の神紋である梅鉢紋の透かし彫りがある。



②緒方家

平清盛の孫である平清経たいらのきよつねが、壇ノ浦の戦いで敗れた後、姓を緒方と変えこの地に住み着いたとの伝説がある。また、清経の子孫の緒方紀四郎盛行おがたきしろうもりゆきが椎原しいばる、弟の近盛ちかもりが久連子さねあきに、実明まねあきが葉木はぎを支配したと伝えられている。建物は、約300年前に建てられたとされ、1階に囲炉裏部屋、2階の隠し部屋へと続く吊階段などがある。



③五家荘の地名の由来(五本の白羽の矢伝説)

この地に落ち延びた平清経一行が、白鳥山しらとりやまの頂上にある白鳥神社しらとりじんじやの前に集まり、これから暮らしていく土地を得るために祈った際に、飛来した一羽の白鳥が落としていった5枚の羽を使って矢を作り、天に放った。その矢の落ちた5ヶ所に集落を定め、名前を命名したという伝説。その5つの地名の総称が五家荘であるといわれている。



④鬼山御前伝説

『肥後国誌』に、「鬼山御前は、那須与一なすのよいちの子孫にして、岩奥を開いた元祖である」と記されている。五家荘各地には鬼山御前の伝説が多く残されている。中でも、平氏追討に五家荘までやってきた那須与一の息子、小太郎と鬼山御前が結ばれたという伝説や、母親をなくし栄養不足によって乳を飲めない赤子に対して、鬼山御前が自分の乳を与えて育てたという伝説が有名である。



⑤白鳥山の御池伝説

この地に落ち延びた平清経一行が、源氏の追討から逃れるために隠れ住んだといわれている伝説。伝説の舞台である御池は、現在は存在していないが、地域には「永らく平家の落人が暮らしており、木のうろからさびた刀剣や、鎧の金具などが出てきた」との言い伝えがある。

主な歴史文化遺産－信仰の場



⑥保口若宮神社

室町時初期の阿蘇家の支配時に創立されたと伝えられる。鬼山御前信仰に関係しており、鬼山御前を祭神の一柱として祀っている。鬼山御前が乳を飲めない赤子に対して、自分の乳を与えて育てたという伝説から、乳の神様として祀られており、宮横の湧水を飲むと乳の出がよくなるという言い伝えがある。



⑦仁田尾神社

建立は永正元年(1504)頃、左座太郎の子孫である惟致これよしの時代であったと伝わるなど、菅原氏信仰との関係が深い神社である。安政2年(1856)に大修理が行われた際に、神殿の棟軒裏から「天正十五年(1587)建立」と記されているのが発見された。現在も例祭が行われるなど村の人々の信仰の場となっている。

主な歴史文化遺産－伝統芸能



⑧久連子古代踊り

五家荘に隠れ住んだ平家の落人たちが都を偲んで舞ったといわれている。白い上衣とえび茶色の袴を着て、頭には「シャグマ」と呼ばれる久連子鶏く連れこどりの黒い尾羽を飾った笠をかぶり、鉦かねや地元で作った手製の締太鼓をたたきながらゆったりと舞う姿には哀愁が漂う。踊りは、白太鼓踊りの一種で、念仏を唱えて踊る念仏踊りが残っているのが特徴である。



⑨樅木神楽

高千穂神楽が元祖だといわれ、宮崎県椎葉村の向山地区から山ひとつ隔てた樅木地区に伝わったといわれている。江戸時代の後半(1800年頃)に始まり、戦時中はやむなく中断されたが、神楽に対する住民の愛着は根強く、終戦後間もなく復活した。毎年10月24・25日の樅木神社大祭には、五穀豊穡を祈念し、神楽を奉納している。お神酒を飲み交わしながらの舞、鬼神の面をつけての舞など数多く伝えられている。



⑩葉木神楽

江戸時代の前半、貞享年間(1684～88)頃に始まったといわれ、宮崎県岩戸神楽の流れをくみ、物資の交流が盛んであったことから伝わったとされる。昔は33種類あったといわれているが、記録の上では24種類が残っており、歌だけのものと歌に神楽が附随するものがある。この神楽は五穀豊穡や生存に対する感謝の願いを込めた神への奉納が主流をなすもので、昔は神官の資格のない者は、舞うことはできない神聖なものとされていた。

主な歴史文化遺産—生活文化



⑪ ^{ごかのしょうきこう}五箇荘紀行 (再掲)

天保4年(1836)、天草代官の役人^{ないとうしこう}内藤子興が宗門改めを行う際に五家荘の各地を訪れた際に書いた紀行文。目にした風景や習俗、住民により披露された踊りの様子など、当時の生活の様子が絵や文章、俳句などを交えてまとめられている。描かれた風景や暮らしは当時の人々に驚きをもって迎えられ、多くの書物で紹介された。



⑫ ^{やきはたのうこう}焼畑農耕(写真：^{やきはたのうこう}焼畑農耕を伝える^{ちやばたけ}茶畑)

五家荘地域は山岳地帯であり、水田を耕作する土地が少なかったため、食料調達的手段として古くから焼畑農耕が盛んに行われてきた。現在、焼畑は行われていないものの、焼畑を表す地名や、古くは焼畑農耕で栽培された作物(お茶・大豆など)が特産品として栽培されるなど、焼畑農耕由来の生活文化が残されている。



⑬ お茶栽培

現在、泉町は熊本県下でも有数のお茶の産地であるが、山茶を焼畑で栽培していたことがお茶栽培の始まりとされている。江戸時代から盛んに栽培され、豊かな自然に恵まれた山深い霧の中で育った香り高いお茶は、近代化された茶機で自然の風味を生かして生産・加工されており、茶種はむし製玉緑茶を主として、玉露や普通煎茶、かまいり製玉緑茶が作られている。



⑭ 豆腐の味噌漬

焼畑の主産物であった大豆を原料として作った保存食。縛って持ち運べるほどの堅い豆腐を使用して作られる伝統料理で、豆腐を味噌に数か月間漬け込み熟成させたもので、チーズのような風味の食べ物である。



⑮ ヤマメ料理

清流の多い五家荘地域では、古くから川魚がよく食されてきた。現在は、特産品として、塩焼きや甘露煮など様々な料理が県内外を問わず多くの人達に親しまれている。



⑯^{くれ ことり}久連子鶏

漆黒の羽と小さな角状の鶏冠、著しい鼻孔の突起が特徴的で、久連子にしか生息していない珍しい鶏である。90cm もの長さになる黒い尾羽は久連子古代踊りの花笠の羽飾りに使用するため、300年以上にわたって飼育されてきた地鶏である。

主な歴史文化遺産—景勝地



⑰^{とどろ たき}せんだん轟の滝

球磨川水系川辺川の支流にかかる滝で日本の滝百選の一つである。高さ 70mの岩頭から流れ落ちる滝飛沫は、見ごたえがあり景勝地として多くの人々に親しまれている。昔、滝の側に^{せんだん}柂櫓の木があったことから、名付けられたとされている。

主な景観



⑱五家荘の山々の景観

標高 1300～1700m 級の山々に囲まれた五家荘には、熊本県内最高峰の国見岳をはじめ、九州百名山に紹介された峻険な山が連なる。山々の間に流れる川により形成された深い溪谷には、所々に滝があり、古くから交通のための吊橋が架けられていた。現在は観光のための吊橋が架けられ、壮大な自然と山の四季を体感できる景観地として知られている。



また山間を流れる川辺川沿いの谷地や傾斜地には、五家荘の名前の由来ともなった山村の集落が点在しており、1970 年代に道路が開通するまでは山道を通って行き来していた秘境の地であった。現在も川沿いの細い道路からは、ところどころに点在する五家荘の小さな集落を見ることができる。



関連文化財群 F. 八代海周辺の交流をあらわす古代から中世の遺跡

範囲：八代海沿岸地域一帯。干拓以前は八代海に浮かぶ島々や、海岸沿いの丘陵地の先端であったと考えられる地域。

概要：4～6世紀頃、この地域を支配した有力者の古墳が、干拓以前は海に浮かぶ島であった場所や、八代平野部旧海岸地帯や山麓部などに造られた。装飾古墳が多くみられるほか、南島産の貝で作った貝輪が出土していること、八代地方では産出しない八代海を南下した鹿児島県長島の海岸地帯の石材や八代海を隔てた天草産の砂岩、八代海上の島の波打ち際から切り出したとみられる貝が付着した石灰岩を用いた石材がみられる等の特徴がある。このことから、八代海を介して青銅器や貝製品の交易をはじめ、各種石材の運搬のための舟や筏が盛んに往来していた様子がうかがえる。その後、地域の有力者たちは仏教文化の伝播とともに、古代寺院の建立をするようになっていった。また中世になると八代海を望む地域に中世城郭(山城)が築かれるなど海を意識した地域である。

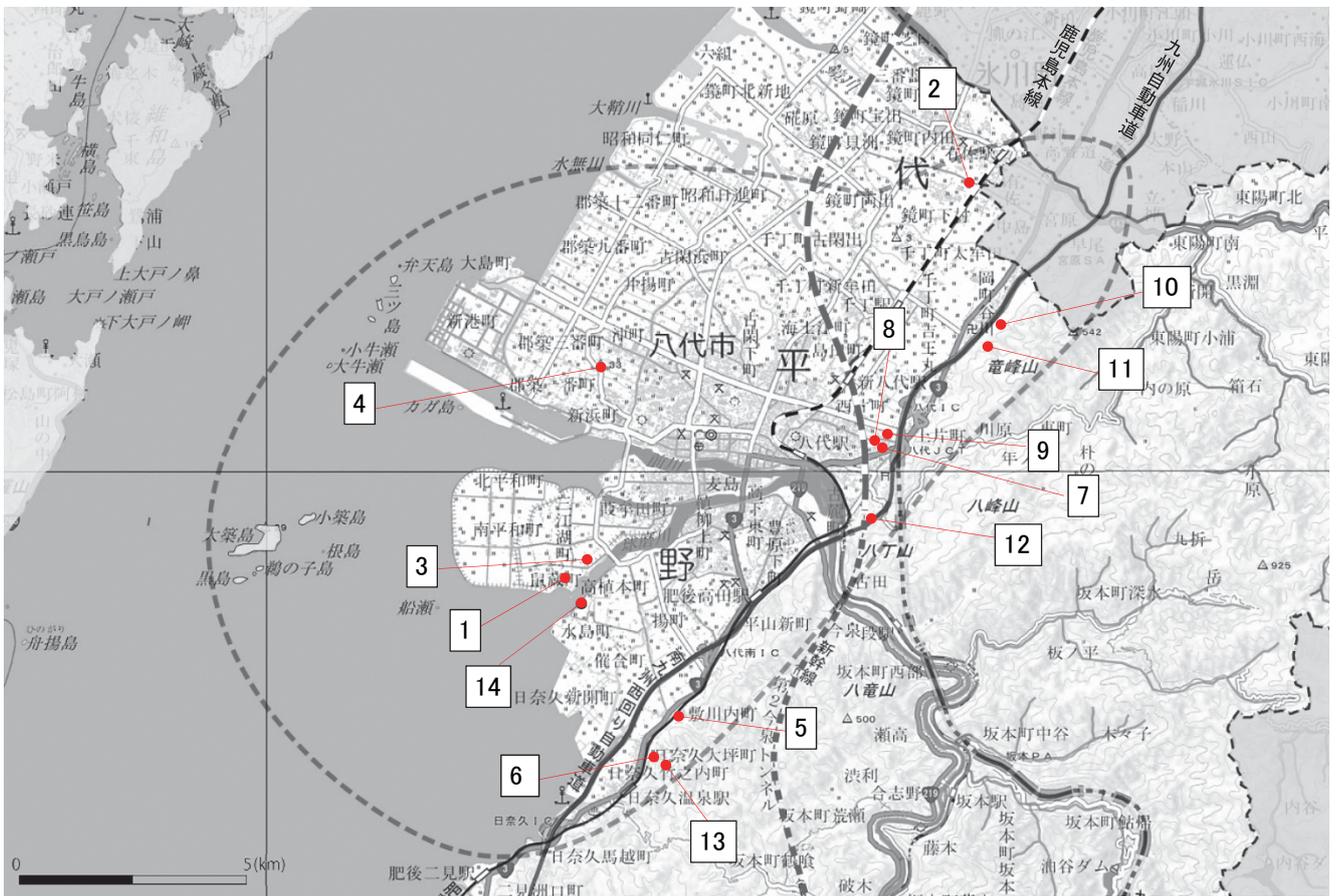


図 3-9 関連文化財群 F 分布図

注) 食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	大鼠蔵古墳群	県史跡
2	有佐大塚古墳	
3	小鼠蔵古墳群	市史跡
4	高島古墳群	
5	五反田古墳	市史跡
6	田川内第一号古墳	県史跡
7	鬼の岩屋古墳群	市史跡

No.	歴史文化遺産名	指定区分
8	高取上の山古墳	市史跡
9	八代大塚古墳	市史跡
10	谷川古墳群	市史跡
11	興善寺廃寺跡	市史跡
12	古麓城跡	国史跡
13	田川内関と田川内城跡	市史跡
14	水島と不知火の景観	

主な歴史文化遺産－八代海沿岸の古墳群



①大鼠蔵古墳群^{おおそぞう}

球磨川の河口にある大鼠蔵山は、江戸時代の干拓によって陸続きになる前は島であった。山頂北部にある楠木山古墳^{くすのきやまこふん}は八代地域で最も古く、4世紀後半につくられたものである。石室は、竪穴式になっている。山頂南部の尾張宮古墳^{おわりのみやこふん}は横穴式石室で、石室内部は赤く塗られ、円文が3個彫られている装飾古墳である。また、山の麓には箱式石棺群があり、石棺の壁に弓、矢を入れた鞆、短甲、太刀、円文などが彫られたものや、奄美大島以南に生息する貝の腕輪が出土している。



②有佐大塚古墳^{ありさおおつか}

有佐貝塚(前述)を利用した前方後円墳と推定されており、石室は竪穴式石室と推定される。八代地方の古墳は、島嶼部に築かれた箱式石棺から竪穴式石室を経て、横穴式石室が平野に広がると捉えられており、箱式石棺から竪穴式石室への展開の画期となる古墳に位置づけられる。



③小鼠蔵古墳群^{こそぞう}

球磨川の河口より南に約2km離れているが、干拓造成以前は島であった小鼠蔵山に存在する古墳群である。山頂には5世紀に比定される竪穴式石室を有する円墳1基がある。その周辺にはかつて5基の箱式石棺があり、現在は2基が残る。3号墳は円文が施された装飾古墳である。



④高島古墳群^{たかしま}

干拓が行われる以前は八代海に浮かぶ島であった高島山に存在する。4基の箱式石棺が見つかった。2号石棺は、砂岩の板石を組み隙間を粘土で埋めて造られており、石棺の内部には朱が塗られていた。昭和60年(1985)に1～3号棺の調査が行われ、人骨・土器・鉄器などが出土しており、4世紀後半のものと考えられている。



⑤五反田古墳^{ごたんだ}

貝塚の中に作られた横穴式石室を持つ古墳。砂岩の割石を小口積みで積み上げ、その上に天井石をのせたもので、古墳時代後期の円文をもつ装飾古墳である。

出土物には「ボウ製^{ほい}振文帯鏡^{ねりもんたいきょう}」の存在が知られている。



⑥^{たのかわち}田川内第一号古墳

墳丘の形は円墳と考えられており、板石や壁面には同心円文や円文が彫られ石室全体に朱が塗られている装飾古墳である。出土遺物は土器・刀子・勾玉などがあり、特に南島産のイモガイ製の貝輪は八代海を介した交流を示すものとして注目される。5世紀後半の豪族の墓と考えられている。



⑦^{おに いわや}鬼の岩屋古墳群

上片町に所在した5基の巨石墳で、現在石室が残っているのは1号墳と5号墳だけとなっている。現存している2つの石室は、いずれも「鬼の岩屋式」と呼ばれる巨石を用いた石室をもつ円墳である。特に、5号墳は墳丘が残存しており、鬼の岩屋式の古墳の内、墳丘の残っているものは数が少なく、貴重な例となっている。



⑧^{たかとりうえ やま}高取上の山古墳

墳丘の長さが77m、後円部径48.2mの前方後円墳で、現況としては八代平野で最大の古墳である。前方部はほぼ原形を残しているが、幅が半減している。くびれ部と後円部は大部分が取り除かれており、割石積み横穴式石室の側壁の一部だけが残っている。石室からは須恵器・土師器数点のほかに、轡^{くつわ}や金具などの馬具・銚・刀の一部が出土している。



⑨^{やつしろうおつか}八代大塚古墳

八代平野の東部山麓には、高取上の山古墳(上片町)、岡塚2号墳(川田町)など5基の前方後円墳が残っている。八代大塚古墳は、それらの古墳群とともに一大古墳群を形成している。八代大塚古墳は墳丘の一部が削られているが、現状で全長55.7m、後円部径28m、前方部幅43.1m、後円部高8.9mを測る。昭和43年(1968)、用水路の改良工事に伴い、墳丘の一部の発掘調査が行われ、人物埴輪や円筒埴輪、須恵器等が出土した。



⑩^{たにかわ}谷川古墳群

『八代郡誌』によると「80余個散在す」とされた鬼の岩屋とよばれる巨石積みの横穴式石室古墳で、現存する20数基の古墳に含まれる。築造年代は6世紀後半とされている。中央に比べ家族共同体性格を最後まで残していたと見られ、全国的にも重要な古墳である。1号墳は石室長さ4.6m、幅2.2m、天井高1.7mを測り、本来は直径10m程度の円墳であったとみられる。

主な歴史文化遺産－八代海沿岸の古代寺院



⑪興善寺廢寺跡(写真：国指定重要文化財 毘沙門天立像)

龍峰山麓りゅうほうさんろくに存在していた古代寺院跡で、八代で最も古い寺院跡とされる。興善寺町一帯は、飛鳥時代末～平安時代(7世紀後半～12世紀)にかけて栄えた古代寺院のあった場所で、発掘調査により、167m四方の築地塀の正面に南大門があり、中門を通ると右に三重塔、左に金堂、中央奥には講堂が建ち並ぶ伽藍配置であったことが確認されている。また、大量の布目瓦や土師器・須恵器などの土器も出土している。現在、敷地内の収蔵庫に安置されている毘沙門天立像(国指定重要文化財)は、この古代寺院の遺品で、平安時代後期(11世紀末～12世紀初)の作とみられる。本像は、九州に多い樟材を用いた一木造で、高さ146.2cmを測る。体全体にみなぎる重量感、腰をひねったバランスのよさなど、仏師の彫技の高さがうかがわれ、熊本県の平安彫刻を代表する優れた造形の仏像である

主な歴史文化遺産－八代海沿岸の中世城郭



⑫古麓城跡(再掲)

古麓一帯の山頂を数段に削平した山城で、複数の城で構成されている。各城は曲輪の近くに堀切と豎堀を設け、山の麓には水堀をめぐらせていたと考えられる。また、城下を取り囲むように水無川みづなしがわを利用して総構えが設けられている。名和時代～相良時代(1334～1581)に八代海～球磨川を介した交流を行える立地の良さから用いられた。天正15年(1587)、豊臣秀吉の九州攻めの際には秀吉が数日間滞在し、宣教師のルイス・フロイスらと面会した場所でもある。



⑬田川内関と田川内城跡

室町時代(南北朝期)の山城である。名和家の家臣園田宗林そのだそうりんの居城で、宗林の死後、阿蘇家の家臣である草壁文右衛門くさかべぶんえもんが城主となったと伝えられている。

城跡は竹之内峠たけのうちとうげから北西に伸びる山稜の独立丘陵上に位置しており「城の山」と呼ばれている。城の西麓では大型の五輪塔が発見されており、また、城から150mほど西側の集落には「馬場」「往還下」など城に関連する地名が現在も残っている。

主な景観



⑭水島と不知火の景観

八代海の北部海域とその沿岸域は、古くから蜃気楼現象の一種である「不知火」にまつわる様々な伝承が残されている。日本書紀には、『夜間航行の際天皇が航路を見失った際にその船を陸地へと導いた』とあり、また八代海に浮かぶ小島であった水島は、天皇行幸の際に水がわき出た、と記述されている。これらは八代海を代表する景勝地であり、また八代海に沈む夕日を眺めるスポットとしても知られている。

関連文化財群G. 球磨川下流域の交流と点在する山村集落の文化

範囲：球磨川河口から山岳地帯に至る、坂本を中心とした球磨川下流域一帯の集落や百済来^{くたらしぎ}など、八代南部の山間部を含む地域。

概要：球磨川下流域に位置する坂本地域。集落は川の流域や山の傾斜地に形成されており、古来より舟運の要衝として栄えた。地域の9割が山地であり傾斜を利用した美しい棚田の風景が広がっている。球磨川流域では、舟運にまつわる神社や荷積場跡や地名が残り、今もその姿をみることができる。一方で、球磨川の氾濫などによる大規模災害に幾度となくみまわれた地域であり、瀬戸石にある「崩の地蔵さん」など災害関連の遺物も散見できる。

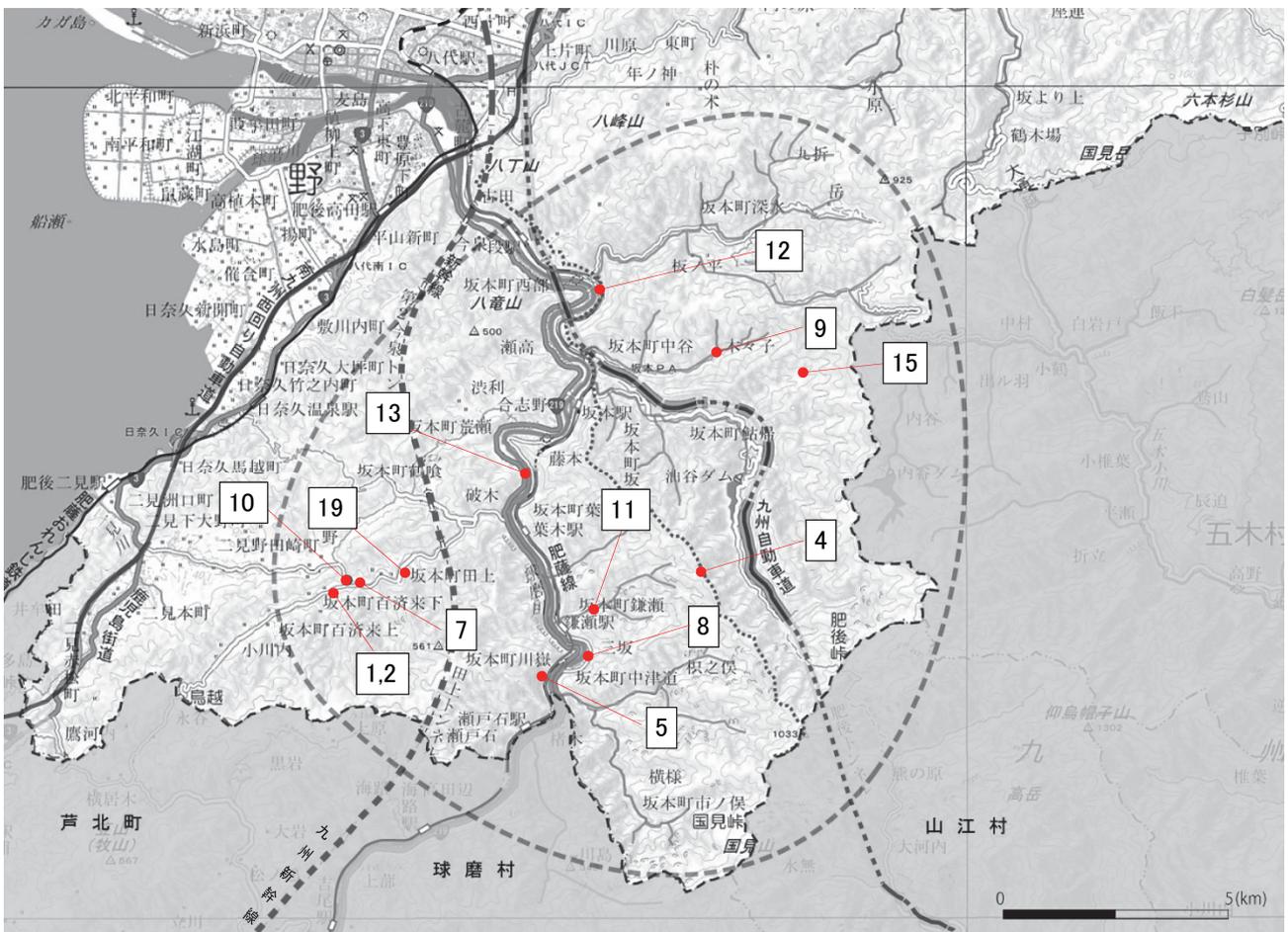


図3-10 関連文化財群G 分布図

注)食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	百済来地蔵堂	市有形
2	日羅塚	
3	球磨川の舟運	
4	あぜち道	
5	崩の地蔵さん	
6	山の神さん	
7	久多良木神社	
8	中津道阿蘇神社	
9	八代・芦北の七夕綱	国選択
10	久多良木棒踊り	市無民

No.	歴史文化遺産名	指定区分
11	コンニャク祭り	
12	旧西日本製紙 深水発電所	
13	荒瀬ダム跡	
14	鮎および加工品	
15	日光の棚田	
16	ぼたもち	
17	河童伝説	
18	球磨川の景観	
19	お堂と大木の風景	

主な歴史文化遺産—古代から続く国内外との交流



①百済来地蔵堂

本尊延命地蔵菩薩は、第30代敏達天皇元年(572)に日羅が、百済国より父の^{あしきたのくにのみやつこありしと}芦北国造阿利斯登に贈ったものと伝えられる仏像である。宝亀元年(770)八代郡司^{やしろうんじひのくまちゅうなごんまさる}檜前中納言政丸により、日羅の後裔加津羅家に伝えられていた仏像を日羅の墓印として、地蔵堂を建立したのが始まりと伝えられている。本堂は、慶長7年(1602)に焼失したが、同9年(1604)再建、文政3年(1820)再造営された。古くから地元の人達が尊敬し大事にしている。



②日羅塚

『日本書紀』によると、日羅は6世紀ごろ大伴金村が百済に派遣した芦北国造阿利斯登の子で、百済王に仕えた人物。敏達天皇が外交政策について意見を聞こうと呼び寄せた際、百済の国勢事情を知られることを恐れた百済人に暗殺され、遺体は芦北に運ばれ、葬られたとされる。百済来地蔵堂の境内には、日羅の墓と伝えられる塚が残っている。



③球磨川の舟運(写真：葉木の渡し場跡)

球磨川は、古来より兩岸や上流・下流の人々を結ぶ大動脈であった。寛文6年(1665)には人吉の^{はやしまさもり}林正盛が八代・人吉間の舟路を開き、以前からの舟運もあり球磨川は舟や筏が行き交い賑わいを見せた。その後、鉄道や国道の整備、ダム建設によって舟運は廃れたが、「^{はぎ}葉木の^{わた}渡し」の渡し場や舟溜まり近くに所在する航海の神を祀った「^{ふじもと}藤本^{ごしよじんじや}五所神社」などがあり、かつての舟運の興隆がうかがえる。



④あぜち道

相良氏が八代を統治した時代に整備された山岳軍用道路である。人吉と八代を往来する際に用いられた。秀吉の九州征伐後、相良統治が終わり、使用頻度は減少したものの、江戸時代に一時期は参勤交代に使われていたとされている。また、西南戦争の際にも利用され戦闘が行われた。

主な歴史文化遺産—信仰の場



⑤崩の地蔵さん

宝暦5年(1755)6月、前月から降り続いた雨のため球磨川が増水し瀬戸石地区で大規模な山崩れが起こり、川をせき止め一時的にダム状態となった。その後「ダム」は決壊し、下流の村々を押し流し「瀬戸石^{せといし}崩れ」と呼ばれる大規模災害となった。犠牲となった人々を弔うため、明和3年(1766)8月に山崩れのあった地点の道端に地蔵尊が祀られた。



⑥山の神さん

坂本地域には、各村に1ヶ所以上、山の神が祀られている。その祭場も集落内や村はずれの山中に所在し、自然石を祀ることが多く、祭場周辺には神木として大きな木が見られることが多い特徴がある。中には、祠を設けず神木自体をご神体として祀る地域もある。



⑦^{くたらぎじんじや}久多良木神社

永享元年(1429)に、阿蘇十二神を祭神として創建されたとされている。天正年間(1573~93)に小西行長の焼き討ちで社殿が焼失したが、明暦元年(1655)に再建されたと伝えられている。境内に茂る、イチヨウ、スギ、エノキ、クスの巨木などは、久多良木神社の森と呼ばれ、百済来地区の氏神の森として守られてきた。また、毎年10月には例祭が行われ、氏子によって神事のほか郷土芸能などが奉納されている。



⑧^{なかつみちあそじんじや}中津道阿蘇神社

氏神さんと地元では呼ばれている神社で、^{たけいわたつのみこと}健磐龍命を祭神とし、天正年間(1573~93)に創建されたと伝えられている。優れた彫刻を施された社殿が現存している。また、神社の裏には「宮の瀬」と呼ばれた河原が存在し、球磨川舟運の、船溜り・集荷場として用いられていた。境内のイチイガシ、エノキ、カエデ、モクセイなどで形成された森は中津道地区の氏神の森として守られてきた。

主な歴史文化遺産—伝統芸能・伝統行事



⑨^{たなばたつな}八代・芦北の七夕綱

集落の入り口や川を挟んだ場所などにワラ製の長い綱を張り、ワラ製の人形などの飾り物を吊るす行事。8月6日に地区の人々が集まり、作成から飾りつけまでを行う。かつては熊本県南部の30ヶ所の地域で行われていたが、現在では、坂本町木々子と芦北町の一部地域の5ヶ所でのみ伝承されている。七夕様が綱を伝って会う、集落内に悪霊や疫病の侵入を防ぐ、盆の精霊が綱を渡ってやってくるなどの伝承がある。現在は、七夕綱保存会が中心となって伝承されている。



⑩^{くたらぎぼうおど}久多良木棒踊り

坂本町久多良木地区に伝承される棒踊りで、六尺棒、太刀を手に隊列を組み、太鼓と口説きに合わせ、掛け声を掛けて踊る勇壮な踊り。江戸時代末期から明治時代初期の頃に鹿兒島の人々によって伝えられ、その後、地区の古老たちによって創意工夫が加えられ、現在の踊りになったといわれる。代々、地区の町内を主体に伝承され、お宮のお祭りや雨乞いに奉納されている。



⑪コンニャク祭り

上鎌瀬地区にある、松崎の地藏堂で行われる村祭のゴヤ(前夜祭)である。神様にお参りをした後、集落の人々が広場に集まり、大鍋で炊かれたコンニャクを夜更けまで食べるという奇祭。なぜコンニャクを食べるのか由来は不明であるが、中津道や大平など他地区の観音堂で行われる祭りでも同様の風習があり、坂本地域特有の祭りである。

 主な歴史文化遺産－球磨川流域における近代工業の展開を表す歴史文化遺産



⑫旧西日本製紙 深水発電所

旧西日本製紙坂本工場に電力を供給するため、球磨川沿いに大正10年(1921)につくられた発電所。なお、旧西日本製紙坂本工場は、九州初となる近代製紙工場であったが、昭和63年(1988)年に閉鎖し、深水発電所も閉鎖となった。大正初期の赤レンガ造りの本発電所の外観は、対岸の国道219号からも見ることができる。



⑬荒瀬ダム跡(写真：ダム遺構)

戦後の電力不足解消のため、水力発電を目的として球磨川に建設されたダム。昭和30年(1955)竣工。堤高25mのコンクリートダムで、発電目的としては、県内で最古のダムであった。平成22年(2010)にダム撤去方針が決定し、平成24年(2012)から撤去工事が開始。これにより生態系が再生し水量の増加によって水深が深い本流が約60年ぶりに復活した。平成30年(2018)には、ダム撤去工事が完了。現在では展望台が整備されている。

 主な歴史文化遺産－生活文化



⑭鮎および加工品

鮎は球磨川の特産であり、近世には、菊池や甲佐と並び、江戸幕府進上のために鮎漁が行われたこともあった。鮎や鮎加工品は、現在でも坂本地域の特産品として人々に親しまれている。



⑮日光の棚田

球磨川流域の傾斜地が多い坂本地域では、棚田が多く見られる。なかでも日光の棚田は、日本の棚田100選に選ばれ、山村の面影を今に見ることができる。石垣を幾重にも積み重ねた棚田は、「千枚田」となっており、畦や小道、水路などがある懐かしい田園風景を見ることができる。



⑩ぼたもち

もち米に「からいも」を加えてつくった皮の中に粒あんを包み、きな粉をまぶした郷土料理。素材を活かした昔ながらの製法で作られている。



⑪河童伝承(再掲) (写真：河童伝説伝承地、佐瀬野地藏堂)

球磨川流域にも様々な河童伝説が各地に残されており、水難事故と結び付けられたものが多い。河童伝説は地域の水神信仰にも深く関係しており、球磨川流域や水無川流域では水難防除や大漁祈願などの川祭りが各地で行われている。

主な景観



⑫球磨川の景観

球磨川をさかのぼり、遥拝堰をすぎると川沿いの道路と JR 肥薩線が平行する山間部の景観が続く。特に列車からは、川の湾曲に沿って変化する球磨川沿いの景観を楽しむことができる。瀬戸石駅付近からの下流域は比較的流れが穏やかであり、鮎釣りや川遊びなどの場所として人気を集めている。



⑬お堂と大木の風景 (写真：中畑観音堂)

現在の坂本町は球磨川の東側支流の旧下松求麻村、球磨川沿いの旧上松求麻村、日奈久・二見の東側山間部の旧百済来村で構成され、いずれも山間部の小さな集落が点在している。集落にはお堂や小社をはじめ、小さな祠や地蔵、山の神などが数多く祀られている。球磨川沿いの集落では、多くのお堂は球磨川を向いて建つ。またお堂のなかには大木に伴うものもある。お堂や山の神などでは、年間を通じて多くのお祭りが集落の住民たちにより今も継承されている。

関連文化財群 H. 薩摩街道筋の集落と温泉街

範囲：八代海に面して東側に丘陵地が広がる、干拓地南側のわずかな平野部。薩摩街道沿いに発達した二見・日奈久など、街道筋の集落と周辺の農村地帯を含む。

概要：八代海に面し、急峻な斜面との間に形成されたわずかな平野部は、南九州から北上する街道筋として発達してきた。日奈久、二見などは古くから八代海の港町として集落が形成され、中でも日奈久は、15世紀の初め頃に温泉が発見されたのち、江戸時代には港を有する薩摩街道沿いの温泉地として栄えた。現在も明治から昭和初期にかけてつくられた温泉旅館や、鉄道の駅舎のほか、港には明治期の石積みの防波堤が残されている。各旅館の内部は数寄屋風の意匠を凝らしており、8軒10棟の木造三階建て旅館群が密集している点に景観上の特徴がある。また、古くは豊臣秀吉が九州平定のためこの地を通ったほか、西南戦争では官軍が上陸するなど、歴史の舞台としても知られる。また二見の旧薩摩街道沿いには、八代の石工による石橋がまとまって現存しており、八代の石工技術の広がりを知ることができる。街道沿いの集落には、雨乞い踊りや綱引きなど南九州文化の影響を受けた行事が見られ、街道を通じて交流があったことがわかる。

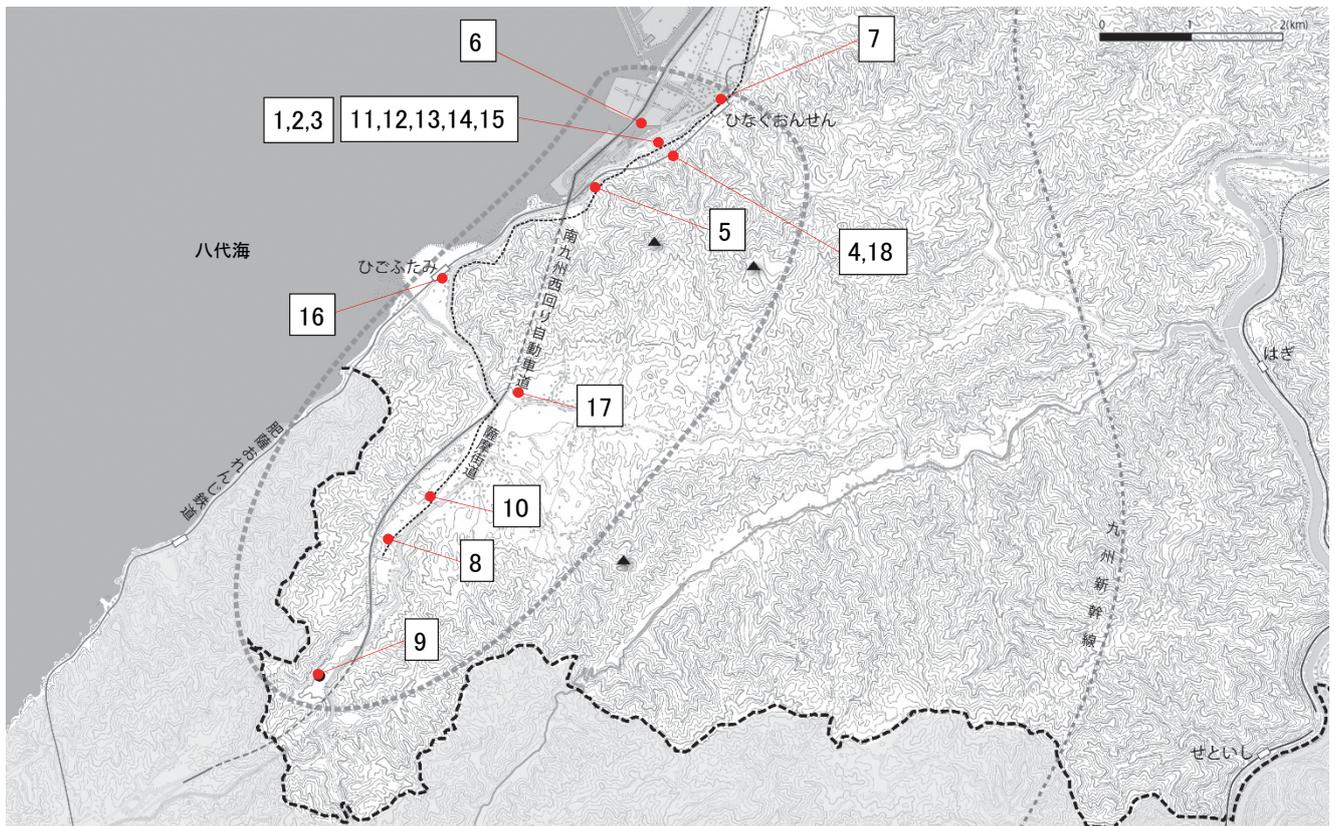


図 3-11 関連文化財群 H 分布図

No.	歴史文化遺産名	指定区分
1	日奈久温泉	
2	金波楼	国登録
3	おりや	
4	日奈久温泉神社	市有形
5	薩摩街道	
6	日奈久港	
7	日奈久温泉駅	
8	赤松第一号眼鏡橋	市有形
9	須田眼鏡橋	
10	新免眼鏡橋	

No.	歴史文化遺産名	指定区分
11	日奈久ちくわ	
12	日奈久みそ	
13	竹細工	
14	十五夜綱引き	
15	丑の湯祭り	
16	二見州口町雨乞い踊り	
17	下大野神社夏季祭り(酒飲み祭り)	
18	日奈久温泉神社の相撲棧敷と八代海	

注) 食文化・伝承・景観等、分布が広範囲にわたる歴史文化遺産については分布図上に記載していない。

主な歴史文化遺産－街道沿いに発達した港と温泉街



① ^{ひなくおんせん}日奈久温泉

600年以上もの古い歴史を持つ温泉。応永16年(1409)、^{はまだろくろう}浜田六郎左衛門という人物が、父の刀傷が治るよう、安芸国の厳島明神に祈り続けるとお告げがあり、それに従って海の浅瀬を掘ると温泉が湧き出したという伝説が残っている。江戸時代に入り薩摩街道が整備されると、参勤交代の薩摩藩主も日奈久温泉を休憩地として利用した。明治時代になるとさらに繁栄を極め、小さな温泉街に大きな旅館がひしめき、劇場なども建てられた。また、明治～昭和にかけて、皇族をはじめ、経済、文化、スポーツ界などの名士たちが訪れたことが伝えられており、昭和初めには、^{たねださんとうか}俳人・種田山頭火も訪れ、「温泉はよい。ほんとうによい。海も山もよい。できることなら一生動きたくないのだが」と日記に書くなど、全国的に知名度の高い温泉街として繁栄した。



② ^{きんぱろう}金波楼

明治43年(1910)創業の旅館である。「金波楼」の名称は見晴らしの良い三階から、八代海に沈む夕日に映えた金色の波が展望できたことに由来している。建築の折には新聞で、「九州一の温泉宿」と紹介された、木造3階建ての豪華な旅館であった。現在も、明治や大正時代のぜいたくで粹な建築様式を残し、日奈久温泉の歴史を今に伝えている。



③ おりや

昭和5年(1930)9月に放浪の俳人・種田山頭火が宿泊した宿として、全国で唯一現存する木賃宿の建物である。昭和末頃に旅館としての営業を終えたが、現在も建物の内部などを見学することが出来る。



④ ^{ひなくおんせんじんじや}日奈久温泉神社

湯の神を祭った神社。^{いちきしまひめのみこと}市杵島姫命を祭神とし、応永26年(1419)に弁天社として、現在の温泉センターの場所に建立された。天明年間(1781～89)や文化年間(1804～18)に発生した数度の大火で町の大半と共に焼失したため、文政5年(1822)に温泉街を見下ろせる現在地に移された。神殿には正面に「雲に龍」・左側に「桐に鳳凰」・右側に「雲に麒麟」・後ろに「波頭」などの彫刻が残されている。また、境内には安政年間(1855～60)に造られたとされる相撲棧敷があり、かつては奉納相撲などが行われていた。現在の本殿は天保11年(1840)に再建されたものである。



⑤^{さつまいどう}薩摩街道

熊本市の札の辻を出発点とし、白川を渡り、川尻、宇土、八代、日奈久、赤松太郎峠、田浦、佐敷、津奈木、水俣を経て薩摩につながる道である。参勤交代を行うために江戸時代に整備された。街道沿いには宿場町などが繁栄し、人や物の交流を促した。現在も土蔵造の町家などが残る日奈久温泉街や二見地域にみられる眼鏡橋も、街道の影響を大きく受けている。



⑥^{ひなぐらう}日奈久港

江戸時代より温泉のある港として栄えてきた。現在の日奈久港(旧港)は、明治31年(1898)の温泉改良新地の造成に伴い整備され、その石積み岸壁は当時のものを昭和5年(1930)に補強したものである。かつては多くのうたせ船や湯治客の漁船が停泊し、また明治11年(1877)の西南戦争の際は、官軍が上陸し、薩軍と交戦した地でもあり、交流・攻防の歴史が残る港である。



⑦^{ひなぐおんせんえき}日奈久温泉駅

大正12年(1923)に肥薩線(のちの鹿児島本線)の駅として開業した。開業当時は日奈久駅という名称であった。九州新幹線の開業に伴い、肥薩おれんじ鉄道の駅になり、現在の名称に変更された。駅舎は開業当時の建物が現在も使用されており、肥薩おれんじ鉄道では最古の駅舎である。開業当初から現在に至るまで、地域住民や温泉街を訪れる人々などに利用されてきた。

主な歴史文化遺産—街道沿いに架かる石橋群



⑧^{あかまつだいいちごうめがねばし}赤松第一号眼鏡橋

薩摩街道沿いに架けられた石橋である。嘉永5年(1852)頃の完成と伝えられている。二見川水系のめがね橋群の中ではもっとも保存状態がよく、扇やひょうたんなどの彫刻が残されている。橋長は12.32mで、現在も現役の橋として利用されている。



⑨^{すだめがねばし}須田眼鏡橋

薩摩街道沿い、二見川の最上流部に架かる石橋で、嘉永年間(1848～55)の終わり頃に架けられたと伝えられている。橋長は11.84mで現在は周囲に田畑が広がっており、現役の橋として利用されている。



⑩^{しんめんめがねばし}新免眼鏡橋

薩摩街道沿いに架かる石橋で、嘉永6年(1853)頃に完成したと伝えられている。田浦手永惣庄屋が架設を仰せつかった記録が残る。橋長は11.93mで、現在は橋の上がコンクリートで補強されているが、橋の側面に石積みを見ることができる。

主な歴史文化遺産—生活文化・伝統行事



⑪^{ひなぐ}日奈久ちくわ

明治初期より日奈久で生産されてきた特産品。地元の人々だけではなく、温泉街を訪れる人などにも親しまれてきた。ハモ・グチ・エソ・イトヨリダイ・スケソウタラなどをブレンドして焼き上げている。現在は、市内のみならず県内各地でも販売され、贈答品としても用いられるなど熊本名物になっている。



⑫^{ひなぐ}日奈久みそ

日奈久地域で、古くから伝承製法で製造されており、八代で広く親しまれている甘口味噌である。他地域の味噌と比べ、こうじが多いのが特徴の手作り味噌で、様々な料理に利用されている。



⑬^{たけざいく}竹細工

竹細工の生産は、近くに良質の竹が群生していたことを背景に、明治に始まった。日奈久温泉街と同様に賑わっていた大分・別府温泉から師を招き勉強し、日奈久小学校には地場産業の振興のために、竹細工の工業補習科が設けられた。戦後の昭和30年(1955)頃には、温泉街の盛況と共に竹細工も盛んになった。日用品としてだけでなく、農具や漁具としての竹細工も発達してきた歴史があり、種類が豊富であるという特徴がある。



⑭^{じゅうごやつなひ}十五夜綱引き

南九州文化の影響を受けていると考えられる行事で、明治11年(1878)頃から続いている。漁師の伝統を受け継ぐ綱作りの高い技術を反映しており、かつて漁村だった浜町と下西町の漁師が力比べの綱引き合戦をしたことが始まりといわれ、それぞれの町の大綱をつないで引き合うのが特徴である。



⑮^{うし}丑の湯祭り

毎年、盛夏土用丑の日に行なわれる祭りである。約600年前に日奈久温泉が発見された日が「土用丑の日」であったことにちなんで始められたものと伝わり、この日に温泉に浸かると千日分の効能が得られるといわれている。祭り当日は、温泉街を神幸行列が練り歩く。



⑯^{ふたみすくちまちあまご おど}二見州口町雨乞い踊り

江戸時代の終わり頃、八代市植柳方面から洲口地区に伝わってきた郷土芸能。干ばつの際、雨乞い祈願として洲口町竜宮神社に五穀豊穡と家内安全を併せてお祈りする踊りである。踊り方は、上杉謙信と武田信玄の川中島の戦いの様子を表現したもので、花棒は上杉謙信、唐扇は武田信玄を表わしている



⑰^{しもおおのじんじや か きまつ さけの まつ}下大野神社夏季祭り(酒飲み祭り)

下大野神社で現在は9月に行われている祭りである。約350年前、神様(お諏訪さん)が船でこの地にお着きになり、これをお迎えした有志16名が毎年1回夏祭りで酒を飲むことから始まったとされている。

主な景観



⑱^{ひ な ぐ おんせんじんじや すもうさじき やつしろかい}日奈久温泉神社の相撲棧敷と八代海

高台にある日奈久温泉神社の斜面を利用して作られた相撲棧敷からは、日奈久の温泉街や八代海、遠く天草の島々まで見渡すことができる。現在でもイベントなどの場所として使われるほか、八代海に沈む夕日を眺めることができる、日奈久の代表的な撮影スポットとしても人気の場所である。

関連文化財群Ⅰ．八代で花開いた石造りの文化と石橋群

範囲：市内各地

概要：八代では、高島や白島などから豊富に産出する石灰岩や氷川流域で産出する溶結凝灰岩など、八代各地で産出する豊富な石材を用いて、石工たちが数々の石造物を造り上げた。

野津地域には岩永三五郎を中心とする石工たちがおり、各地の石工と技術交流を行いつつ、九州各地にめがね橋(石造アーチ橋)を建設したほか、干拓の施設である樋門や水路建設にも貢献した。

また、種山地域(現在の東陽町)を中心に、江戸時代末から昭和初期にかけて多くのめがね橋(石造アーチ橋)が架けられた。八代の石工たちの中でも橋本勘五郎を中心とした石工たちは、八代のみならず九州各地や東京都内にも数多くのめがね橋を架設するなど全国に活躍の場を広げた。

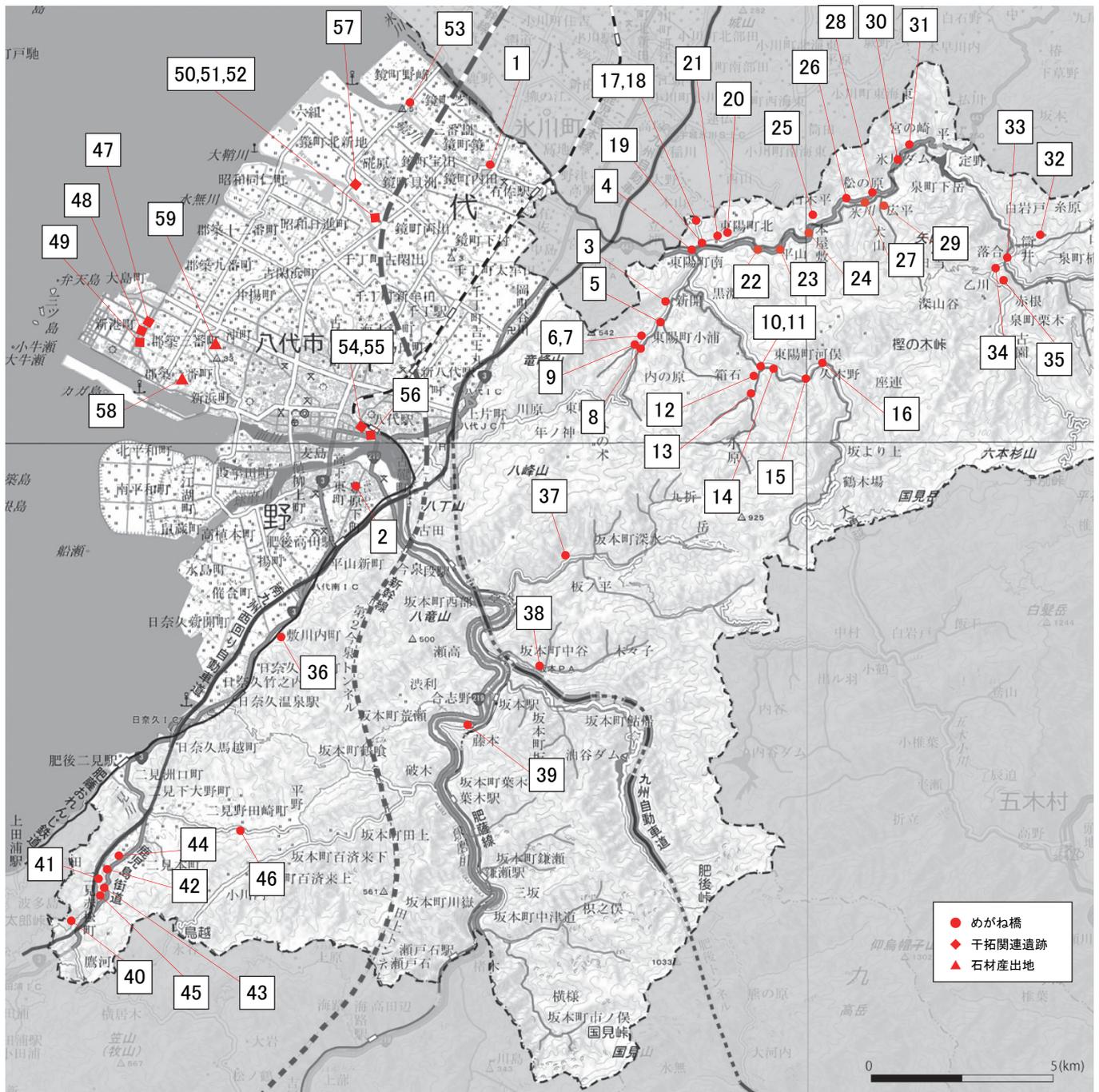


図 3-12 関連文化財群Ⅰ 分布図

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
1	鏡	鑑内橋	
2	高田	茶碗焼橋	
3	東陽	新開橋	市有形
4	東陽	重見橋	
5	東陽	松山橋	市有形
6	東陽	仁田尾橋	
7	東陽	館原橋	
8	東陽	岩本橋	市有形
9	東陽	今屋敷橋	
10	東陽	山口橋	
11	東陽	鶴下村中橋	
12	東陽	蓼原橋	
13	東陽	美生橋	
14	東陽	谷川橋	
15	東陽	笠松橋	市有形
16	東陽	鹿路橋	市有形
17	東陽	鍛冶屋下橋	市有形
18	東陽	鍛冶屋中橋	市有形
19	東陽	鍛冶屋上橋	市有形
20	東陽	白髪山天然石橋	市天然
21	東陽	五反田水路橋	
22	東陽	椎屋橋	
23	東陽	平山橋	
24	泉	塩平橋	
25	泉	本屋敷橋	
26	泉	小谷橋	
27	泉	中尻橋	
28	泉	古閑橋	
29	泉	広瀬橋	
30	泉	沢無田橋	

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
31	泉	土生谷川橋	
32	泉	糸原橋	
33	泉	落合橋	
34	泉	たけのこ橋	
35	泉	高原橋	
36	金剛	敷川内眼鏡橋	
37	坂本	下深水上橋	
38	坂本	小崎眼鏡橋	市有形
39	坂本	藤本天満宮橋	
40	二見	須田眼鏡橋	
41	二見	大平眼鏡橋（古橋）	
42	二見	赤松第一号眼鏡橋	市有形
43	二見	大平眼鏡橋（新橋）	
44	二見	新免眼鏡橋	
45	二見	小藪眼鏡橋	
46	二見	床並眼鏡橋	
47	郡築	旧郡築新地甲号樋門 附・潮請堤防	国重文
49	郡築	郡築二番町樋門	国登録
50	千丁	大鞘樋門（江中樋）	県史跡
51	鏡	大鞘樋門（二番樋）	県史跡
52	鏡	大鞘樋門（穀樋）	県史跡
53	鏡	亀甲築石垣跡	
54	太田郷	旧郡築用水桶堰	
55	太田郷	旧郡築用水稻荷堰	
56	太田郷	昭和用水萩原樋	
57	鏡	七百町新地潮請堤防	
58	八代	白島	
59	松高	高島	

関連文化財群J. 八代の近代化を支えた歴史文化遺産

範囲：市内各地

概要：明治から大正にかけて、熊本から八代を通り人吉に至る鉄道と八代から鹿児島までの海岸沿いの鉄道が開通した。この鉄道により、八代は人や物資が集中する交通の要所となった。鉄道とともに作られたトンネルや橋梁は、当時の最新の技術により建設され、現在もなお、一部の駅舎も含め現役の鉄道施設として使われている。

交通の発展とともに、球磨川の水力や水運を使った発電所、工場などが球磨川沿いに作られ、八代平野では、豊富な地下水や石灰石を利用したセメント工場・製紙工場などが作られた。

このように、球磨川中流域から河口付近の近代化遺産群は、交通と一体となって日本の近代化を支えた文化遺産であり、一部は現在も稼働する土木遺産として、今後も継承すべき貴重な遺産である。

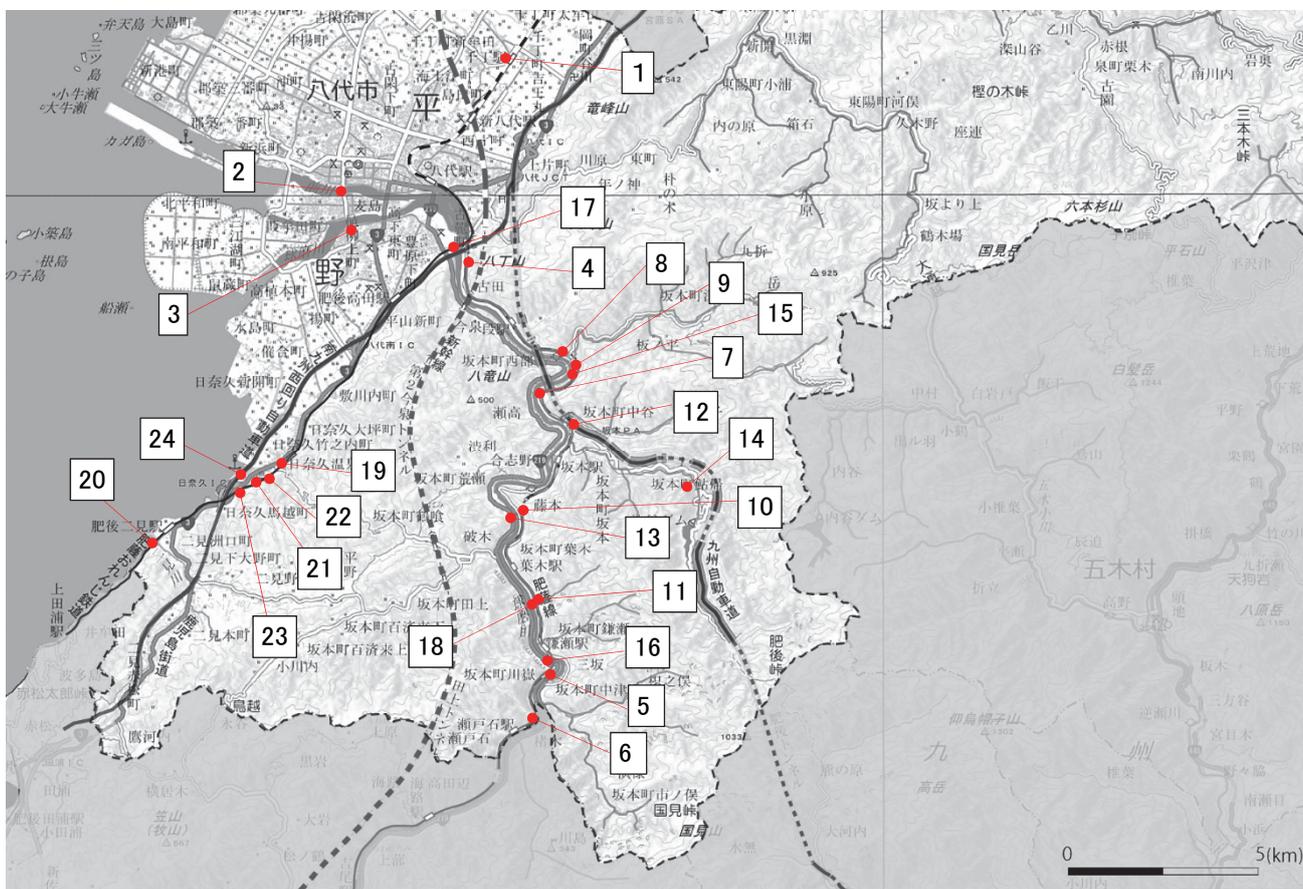


図 3-13 関連文化財群 J 分布図

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
1	千丁	熊本県蘭業協同組合事務所	
2	代陽・麦島	前川橋	
3	植柳	八代市立植柳小学校旧講堂	市有形
4	宮地	宮松トンネル	
5	坂本	鎌瀬トンネル	
6	坂本	瀬戸石トンネル	
7	坂本	生名子トンネル	
8	坂本	高除トンネル	
9	坂本	草懸トンネル	
10	坂本	藤本トンネル	
11	坂本	葉木トンネル	
12	坂本	和田山トンネル	

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
13	坂本	荒瀬ダム跡	
14	坂本	旧 西日本製紙粘綿発電所	
15	坂本	旧 西日本製紙深水発電所	
16	坂本	第一球磨川橋梁	
17	宮地・高田	球磨川橋梁	
18	坂本	鶴之湯旅館	
19	日奈久	日奈久温泉駅 本屋	
20	二見	二見川橋梁	
21	日奈久	金波楼	国登録
22	日奈久	第一日奈久トンネル	
23	日奈久	第二日奈久トンネル	
24	日奈久	日奈久港	

関連文化財群K. 八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能

範囲：市内各地

概要：八代では、地域ごとにその土地ならではの多種多様な伝統芸能や年中行事が現在も各地で営まれている。干拓地では干拓民謡、山間部では近隣の地域から伝わった神楽、城下町では都市祭礼など、九州各地との交流や八代の人々の暮らしぶりを今に伝えている。

なかでも、城下町に伝わる八代妙見祭は、山・鉾・屋台などが巡行する都市祭礼のひとつであり、九州南部を代表する大規模祭礼行事として、現在も多くの市民に親しまれている。

各地に伝わるこれらの伝統芸能・伝統行事は、地域のアイデンティティを語るうえで欠かすことが出来ない重要な歴史文化遺産となっている。

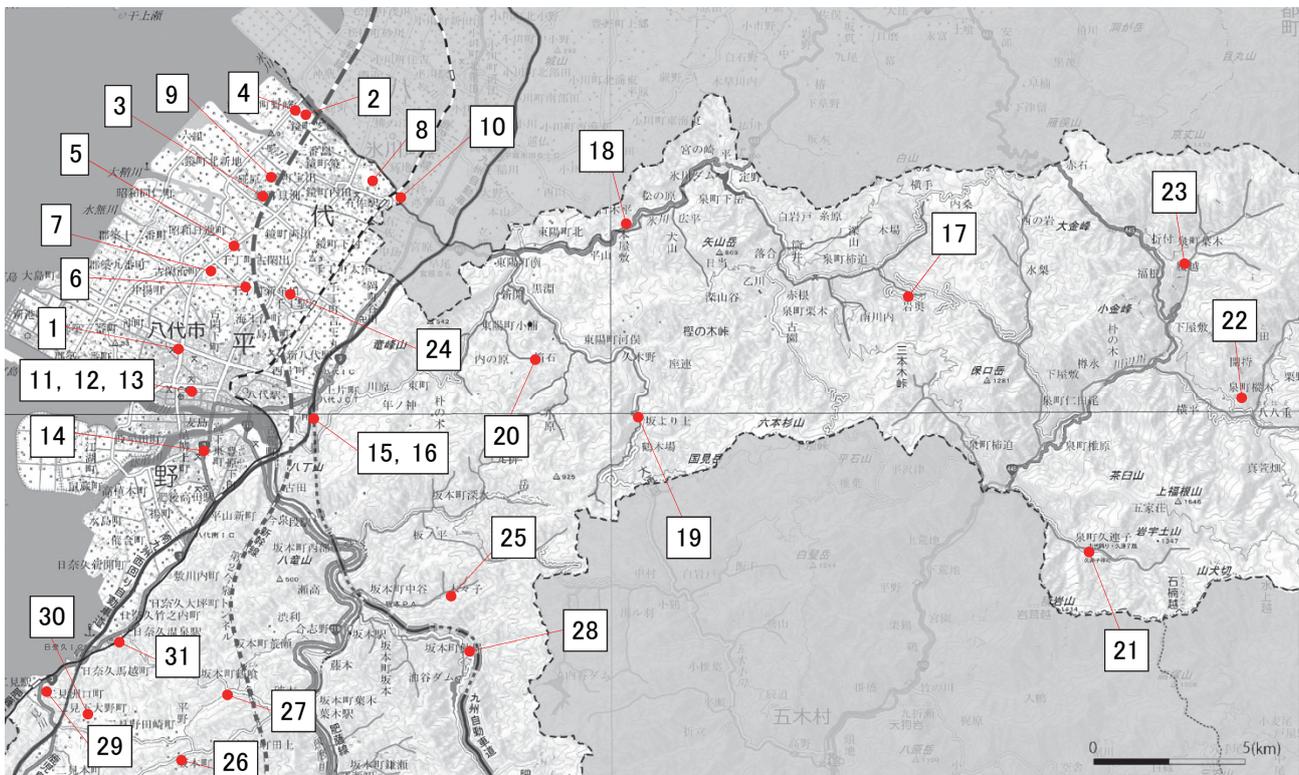


図 3-14 関連文化財群 K 分布図

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
1	松高	妙見宮祭礼の花奴	市無民
2	鏡	芝口大鞘節	市無民
3	鏡	貝洲加藤神社肥後神楽	市無民
4	鏡	芝口棒踊り	市無民
5	千丁	八代新地大鞘節	市無民
6	千丁	銭太鼓	市無民
7	千丁	女相撲	市無民
8	鏡	鏡が池鮒取り神事	市無民
9	鏡	碓原おざや名所	市無民
10	鏡	上鏡獅子舞	市無民
11	代陽	八代妙見祭の神幸行事	国無民
12	代陽	妙見宮祭礼の獅子舞楽	市無民
13	代陽	妙見宮祭礼の亀蛇	市無民
14	植柳	植柳の盆踊	国選択・県無民
15	宮地	妙見宮祭礼の飾り馬	市無民
16	宮地	妙見宮祭礼の神馬	市無民

No.	校区区分	歴史文化遺産名	指定区分
17	泉	岩奥神楽	市無民
18	泉	本屋敷神楽	市無民
19	東陽	坂より上棒踊り	市無民
20	東陽	箱石雨乞いおどり	市無民
21	泉	古代踊	国選択・県無民
22	泉	樅木神楽	市無民
23	泉	葉木神楽	市無民
24	千丁	新牟田雅楽	市無民
25	坂本	八代・芦北の七夕綱	国選択
26	坂本	久多良木棒踊り	市無民
27	坂本	鶴喰棒踊り	市無民
28	坂本	鮎婦雨乞い踊り	市無民
29	二見	二見州口町雨乞い踊り	
30	二見	下大野神社夏季祭り（酒飲み祭り）	
31	日奈久	十五夜綱引き	

第4章 歴史文化遺産の保存・活用の基本方針

1 保存・活用の考え方

歴史文化遺産の保存・活用は、個々の歴史文化遺産だけではなく、その存在をこれまで育んできた地域・空間全体で捉え、推進することが求められる。また、本市は平成17年（2005）に八代市・坂本村・千丁町・鏡町・東陽村・泉村の1市2町3村の合併によって誕生した市であることから、各地域のみならず市全体で歴史文化遺産を捉え、保存・活用を推進することも求められる。

歴史文化遺産の保存に対する機運は、市民の歴史文化遺産に対する認知度や関心の高まりに大きく左右される。機運醸成の手段のひとつとして継続的な普及・啓発事業を行うことが挙げられる。事業を継続的に行うことによって歴史文化遺産に対する認知度や関心が高まり、市民の保存に対する高い意識が形成される。その結果として、地域の歴史文化遺産が良好な状態で後世へと保存されることになる。そのような側面から、普及・啓発事業を含む活用も歴史文化遺産の保存に寄与しているといえる。こうした考え方から、本構想における活用とは「歴史文化遺産がもつ価値や魅力を市民が正しく認識し、市全体で共有することで、市民の地域に対する誇り・愛着を育み、歴史文化遺産を後世へ残し伝えるための取り組みに活かすこと」という意味で使用し、保存と活用を一体のものとして扱うこととする。

保存・活用を推進する上で重要と考えるのは、本構想第3章でまとめた関連文化財群(A～K)を市全体で共有するとともに、ストーリーの中で個々の歴史文化遺産に新たな価値を見出し、地域の実情に合った保存・活用の方針を定めていくことである。個々の地域の実情や個々の歴史文化遺産の特性・現状の把握を行う中で、現状の保存・活用の方法で良いもの、保存によって価値の損失を防ぐ必要があるもの、活用によって本来の価値を保持又は高める必要があるもの等、各歴史文化遺産の置かれた環境に合わせた柔軟な保存・活用のかたちを模索していくことが必要である。歴史文化遺産の保存・活用は地域社会が直面している課題とも密接に関係しているため、既存の文化財保護法などによる文化財(歴史文化遺産)の法的な保護に加え、歴史文化遺産の保存・活用を通じて、保存のために必要となる技術の伝承や地域コミュニティの存続、地域の活性化といった周辺環境の維持・向上にも積極的に取り組む必要がある。

2 保存・活用に関する現状と課題

(1) 「第2次八代市総合計画」における課題と施策

本市では、目指す将来像『しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市“ やつしろ”』を実現するため、第2次八代市総合計画(2018～2025年度)において、本市の現状と課題、それらを解決するための施策について、下記のように記している。

基本目標2 「郷土を担い学びあう人を育むまち『人を育てる視点』」

④「郷土の文化・伝統に親しむまちづくり」(33)「多様な文化財の保存・継承と活用」

〔現状と課題〕

- 本市に残るさまざまな文化遺産については、「八代妙見祭の神幸行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたほか、国指定文化財が増えたことなどにより、本市の歴史と文化に対する市民の関心や期待感が高まっており、文化財保護の取組みが果たす役割は、より重要なものとなっています。
- 本市の多様な文化財を巡るルートの提案など、文化遺産を活かした地域づくりを進める必要があります。
- 地域の伝統文化財の保存継承や、文化遺産の情報発信を行うことで交流促進を図り、市民の文化財への関心や期待に応えるとともに、意識の高揚と文化財保護を図る必要があります。
- 人口減少による後継者不足が市内各地で進行する中、地域の宝である伝統芸能などの民俗文化財をどのように保存し、伝承していくかが喫緊の課題です。

〔施策〕

- 「八代市歴史文化基本構想」に基づき、文化財をその周辺環境も含め総合的に保存・活用することで、文化遺産を活かした地域づくりにつながるよう、市民の参加意識を高める取組みを進めます。
- 2022年度に築城400年を迎える八代城跡を中心とする歴史・文化ゾーンの保存・活用の取組みや、関係団体との連携による文化遺産の情報発信を行い、認知度を高める取組みを進めます。
- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする市内各地の民俗文化財の保存継承と、情報発信につながる施設の整備を図り、郷土学習への有効活用や後継者の育成を図る取組みを進めます。

(2) 本構想策定をとおして顕在化した課題

本構想を策定するにあたり、歴史文化遺産に関する個々の地域や八代市全体の現状、歴史文化遺産の特性・現状の把握を行う中で、明らかになった課題は以下である。

① 各地域及び地域を越えた歴史文化(本構想第3章掲載テーマA～K)が認識されていない

本市には本構想第3章に記載したように地域ごとだけではなく、地域を越えた歴史文化など、市域全体には豊かな歴史文化の特徴がある。しかし、現八代市は、平成17年(2005)に旧八代市・坂本村・千丁町・鏡町・東陽村・泉村の合併により誕生した市であるという背景と、現八代市誕生後、各地域・市全域を対象とした歴史文化などを紹介する刊行物の作成というような情報発信が不十分であったこと等が要

因となり、「旧市町村間での歴史文化の相互認識が希薄である」という課題や「地域の歴史文化の特徴をその地域に住む市民が認識していない」といった課題が生じている。

② 歴史文化遺産の本質的価値が理解されていない

本来、歴史文化遺産とは単体で存在するものではなく、人々の活動を通じて、相互に関係しあいながら成立し、また受け継がれてきたものである。しかしこれまでは、単体の歴史文化遺産の保存・活用、特に「文化財」として「文化財保護法」やそれに基づき制定された各自治体の「文化財保護条例」で法的に保護が図られてきた歴史文化遺産の保存・活用が重視されてきた。そのため、本市の歴史文化を理解するうえで欠かすことの出来ない未指定文化財などが滅失しているといった課題が生じている。

③ 歴史文化遺産が地域の宝として認識されておらず、地域に対する誇りや愛着につなげていない

これまで地域の宝として認識されてきた歴史文化遺産は、「八代城」や「妙見祭」に代表されるような、「指定等文化財」として評価された上に、積極的に保存・活用が図られてきたものが主となってきた。

また、これまでの文化財保護行政は「指定等文化財」の保存・活用が中心であったため、その他の歴史文化遺産に関する情報を市民が入手する場や機会が積極的には設けられてこなかった。そのため、存在自体は市民によく知られている歴史文化遺産についても、本来の価値が正しく認識されていない。地域への誇りや愛着を育み、世代間交流を促し、豊かな生活を支えるなど地域にとっての「宝」として認識されておらず、市民の地域に対する誇りや愛着が低い現状がある。

④ 歴史文化遺産に対する悉皆的な調査が近年行われておらず、詳しい情報が不足している

法的な担保がなく、保存・継承が地域住民に委ねられてきた歴史的な建造物や祭礼・民俗行事・口承文芸などの歴史文化遺産は、開発や担い手不足など様々な要因によって、今後失われてしまう可能性がある。しかし、平成17年(2005)の合併後、文化財の指定等を受けていない歴史文化遺産について、悉皆的な調査がほとんど行われていないため、現存している歴史文化遺産の総数や現状など、保存・活用を行う際に必要な情報が不足している。

⑤ 地域における保存・活用の担い手不足

生活様式の変化や少子高齢化、人口減少、地域コミュニティの消失など様々な要因によって、歴史文化遺産を保存・活用する担い手の不足が市内各地で進行する中、地域の宝である歴史文化遺産を保存・活用していく体制の維持が困難になっている現状がある。特に、伝統芸能・伝統工芸などの歴史文化遺産は近年担い手不足が顕著であることから、今後どのように保存し、伝承していくかが喫緊の課題となっている。

⑥ 歴史文化遺産を活かした地域づくりの効果的な推進

これまで、本市で行われてきた歴史文化遺産を活かした取り組みは、「八代城」や「妙見祭」に関連するものが主となってきた。そのほか、各地域の史跡巡りなど、地域主体の取り組みも行われてきたが、それらは個別の地域や歴史文化遺産にとどまるものが多かった。今後は、本市の多様な歴史文化遺産を巡るルートの提案を行うなど、歴史文化遺産を活かした地域づくりの全市的な展開を図るため、本市の歴史文化の特徴を踏まえ、市全体の中での各地域の歴史文化の特徴や担うべき役割等を明確にし、取り組みをより効果的に行っていくことが求められている。

3 保存・活用に向けた基本方針

前述した現状や課題①～⑥をふまえ、本市では基本方針として、以下の3つの取り組みを推進する。

取り組み1 歴史文化遺産及びそれに関する資料・情報を収集・保存のための取り組みの推進

歴史文化遺産に関わる正しい情報・新しい情報の収集

歴史文化遺産の保存・活用は、各歴史文化遺産の所在や置かれている状況を正確に把握することが基礎になる。平成17年（2005）の市町村合併以降、全市域を対象とした悉皆的な記録調査などはほとんど行われておらず、歴史文化遺産の所在や現況が十分に把握されているとは言い難い。そのため、今後種別や類型を定めて行う悉皆調査をはじめ、本市の地域特性やストーリーに即した把握調査を継続的に実施し、情報の精度を高めていくことが必要である。また、把握した歴史文化遺産の中で、本市の歴史文化の理解に不可欠なものに関して、指定等文化財の候補に位置付け、個別の詳細調査を通して歴史的・文化的な価値を明らかにしていく必要がある。

歴史文化遺産に関する情報のアーカイブ化

既存の資料、収集した歴史文化遺産に関する情報の活字化、映像化を図るとともに、滅失が避けられないものや現状保存が困難なものについては記録保存を行い、実物に代わるものとして記録の確実な保存に努める。また、収集した記録情報のアーカイブ化を進め、個人情報や著作権等に配慮しながら可能な範囲で市のホームページなどを活用して公開する等、情報の共有化と歴史文化遺産に対する地域住民の興味・関心や保存の意識の促進に繋がる取り組みを図る。

保存・活用施設の整備

現在、各地域での維持が困難になりつつある歴史文化遺産や、今後滅失の危機に瀕する可能性が生じる歴史文化遺産を守るための保存施設の整備が必要となる。様々な特性を持つ歴史文化遺産にとってより良い保存環境になるように施設の整備・拡充を進める必要がある。特に、市内各地に存在する伝統芸能・行事や、そこで使用されている用具類は、担い手・後継者不足などの理由から保存継承が困難になりつつあるものも少なくない。そのため、保存だけではなく情報発信につながる施設の整備を図り、郷土学習への有効活用や後継者の育成を図る取り組みを進める必要がある。

修復整備による価値の復元

き損や劣化によって本来の価値が損なわれている歴史文化遺産は、修復整備などを行うことによって本来の価値を取り戻すことにより、新たな保存・活用の動きへと移行することが可能となるものがある。対象となる歴史文化遺産が指定等文化財である場合と未指定である場合は、復元などにあたって整備の具体的な方針や方法が異なるため、修復に際しての手続きの方法や助成制度の案内などを、所有者にわかりやすく周知することも含め、歴史文化遺産に合わせた対応を行うことが必要となる。

歴史まちづくり法や景観計画などに基づく歴史文化遺産の保存の推進

歴史文化保存活用区域を設定し、歴史文化の集積した区域ではそれらを重点的に保護していく取り組みを進める。歴史文化保存活用区域を設定した後に、歴史まちづくり法や景観計画などの内容に基づいた修景整備な

どを関係機関と連携して行っていく。

取り組み2 市民が積極的に歴史文化遺産の保存・活用に参加し、次世代へ継承していくための取り組みの推進

積極的な情報発信

市のホームページの活用や本市の歴史文化遺産を紹介するパンフレット等の刊行物の作成など、様々なメディアを活用して歴史文化遺産に関する情報を積極的に発信する。地域に存在する様々な歴史文化遺産の正しい情報をわかりやすい形で発信することによって、市民の歴史文化遺産に対する認知度や関心を高め、地域への誇りや愛着を育むことに繋げる。また、定期的・継続的な普及啓発事業を通して、歴史文化遺産の保存・活用に対する市民の関心を高め、市民が積極的に参加する保存・活用の仕組みを創出し、地域の活性化に繋げる取り組みを促進する。

新たな担い手の育成

公開活用事業や市民講座等の啓発事業を通して保存・活用の新たな担い手となる人材を各地域で掘り起こし、歴史文化遺産の保存に関する知識や技術とともに次世代へ継承する必要がある。また、各地域内に組織的な保存・活用の体制を構築するために、行政・自治会・地区協議会・文化財関係団体等が情報の共有や施策の連携を深める場を設けるなど、全市的な保存・活用の体制作りを行う必要がある。講座・史跡巡り・企画展等の開催によって市民が歴史文化遺産と触れ合う機会を増やし、積極的に市民が歴史文化遺産の保存・活用を考える環境づくりを促進し、新たな担い手の発掘の場を創出する。

歴史文化遺産の学校教育・社会教育での活用

学校教育や社会教育の現場において、個々の歴史文化遺産とともに、地域の歴史文化の多様性や本市全体を通じた歴史文化の特徴が表現されたストーリーを地域学習のテーマとして活用する。個々の遺産だけではなく、本市に残る多様な歴史文化の特徴を学ぶことを通して、身近な地域の歴史文化に対する関心を高め、それらを次世代へ伝えていこうとする気運を醸成する。

防災・減災の取り組みの推進

大規模災害発生時は、歴史文化遺産だけでなく地域全体が大きな被害を受けることが想定され、歴史文化遺産を優先的に災害から守る活動は必ずしも期待できないため、平常時より所有者や地域住民・行政が連携し、地域の防災力向上を図るために様々な取り組みを行っていく必要がある。また、災害時においても、所有者と行政の担当部局と連携し必要な応急対策を講じて被害の拡大防止に努めるなど、防災及び減災に向けた取り組みを推進する。

取り組み3 歴史文化遺産を活用したまちづくりに資する取り組みの推進

地域振興の一つとして、歴史文化による観光分野との連携の推進

第3章で前述したテーマ(A～K)を通して個々の歴史文化遺産や市内各地の歴史文化の特性や魅力を把握し、それらを体感できる文化遺産観光ルートや旅行商品の開発等によって市全体の交流人口の拡大を図る。そのための具体的な方策として、個々の歴史文化遺産をパッケージ化した旅行商品を開発し、官と民の協働による様々なツーリズム事業の展開をする等、全市的な歴史文化遺産を活かした地域づくりを推進する。

市内外の人々が各地域の歴史文化遺産を知ることができるような、様々な魅力発信の推進

市のホームページの活用や歴史文化遺産を紹介するパンフレット等の刊行物の作成など、様々なメディアを活用して、歴史文化遺産に関する情報を市内外問わず積極的に発信する。特に、本市に存在する様々な歴史文化遺産の魅力をわかりやすい形で域外に発信することによって、旅行者やUターン希望者などが本市の歴史文化遺産に接する機会を創出し、歴史文化遺産に対する認知度や関心を高め、本市を訪れる人を増やす取り組みを推進する。

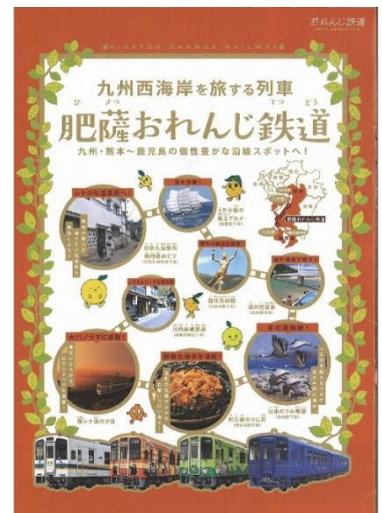


写真4-1 肥薩おれんじ鉄道 パンフレット

歴史・遺産 016

【歴史遺産(石橋)】石の文化(石橋)...かけがえのない歴史遺産 | 旅の概要

熊本(八代市(東陽村)、美里町、山都町) 大分(宇佐市(院内町・安心院町))

(注)下記行程表の時刻は、貸切りバス専用車およびレンタカー利用の場合の目安時刻です。道路状況及び交通機関のスケジュールによりかわりますので、あらかじめご了承ください。

日	時刻	内容
第1日目	10:30	阿蘇まほし空港 (九州自衛隊線)
	11:30(星) 14:30	八代市(東陽村) 美里町(日本一の雲台橋)
	15:30	雲台橋のほか 二俣五橋 馬門橋 大津橋 立野橋 など
	16:30 17:00(晴)	山都町(泊)
第2日目	9:00	山都町(日本一の通酒橋)
	12:00 (途中休憩時間) (やまなみハイウェイ)	高森町(宮地(橋田))
	16:00(晴)	由布院温泉(泊) 豆湯の平温泉
第3日目	9:00	由布院温泉
	9:45 13:00	宇佐市(院内町) 宇佐市(安心院町)
	13:30(星) 15:30	宇佐市(安心院町)
	16:30 18:00	大分空港 → 別府駅 → 熊本(八代市(東陽村)、美里町、山都町)

図4-1 魅力発信の事例『九州うんちくの旅 HP より「石の文化(石橋)をめぐる旅」』

第5章 歴史文化保存活用区域の考え方

1 区域設定の考え方

歴史文化保存活用区域とは、指定等文化財をはじめとする歴史文化遺産が顕著に集中し、それらと一体となって価値を形成する周辺環境も含めて、文化的な空間を創出している区域を指すものである。本市においては、これまでに歴史文化遺産を積極的に活用し、今後も活用が期待される区域を念頭に置き、計画区域を設定するものとする。

本構想においては、次のような要件を考慮して、旧八代城下地区を歴史文化保存活用区域に設定し、他の地域に先行して歴史文化遺産の一体的な保存・活用に向けた施策を展開していくことが考えられる。

〔設定の基本的な考え方(要件)〕

- ・関連文化財群を構成する歴史文化遺産が顕著に密集していること。
- ・施策の核となる歴史文化遺産として、文化財保護法による国の指定または登録を受けた文化財が1件以上所在すること。
- ・これまでに地域の歴史文化遺産の保存・活用に取り組んできた自治会・地区協議会・文化財関係団体等が存在し、今後も地域活性化に向けた主体的な取り組みが期待できること。

2 対象区域の範囲と歴史文化の特徴

ここで取り上げる旧八代城下地区は、本構想が示す関連文化財群C「港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史文化」で示した範囲に含まれる。その中でも、歴史的な視点で捉えると、概ね八代城の総構えの範囲、現在の地図に当てはめると、概ね南北を前川堤防と都市計画道路八代港線で囲み、東側はやつしろハーモニーホール附近、西側は建馬町交差点附近まで囲んだ範囲である。

本区域は海に面した球磨川河口域に位置し、水運(海上交易等)の重要拠点である徳淵の津を中心としてきた地域であり、麦島城の地震崩壊後、元和8年(1622)に八代城が築かれた。一国一城令という存続の危機を迎えながらも、国際港湾都市として国内外との交流を行う上での重要拠点であったこと、八代海の海上と九州西海道を警備する上で重要な拠点であったことなどを理由に城の存続が許され、明治3年(1870)までの約250年の間城下町が営まれた。そのため、加藤氏～松井氏までの各時代の城主ゆかりの寺社が多く残り、城に伴う城下町の繁栄と共に発展した八代妙見祭に代表される様々な文化が育まれたといった特徴がある。

また、旧八代城下地区には現在も町家が残されている。旧八代城下の町家は多くがうなぎの寝床状の宅地に建ち、中央に中庭をとり、後方に土蔵を建てる。中庭には以前は蜜柑を植え、武家住宅のざぼんと対をなしていた。切妻平入が主で、多くは焼屋造、一部に塗屋造がある。現存する町家、古写真、周辺地域の町家、城下町特有の小堂の特徴などから、出格子、ぼったり床机があり、一階の軒や出庇の出桁を持送り支えるものもあつたと考えられる。近代にはガラス戸を立てミセを前土間とし、窓を鉄格子とする例が多くなつたと考えられる。八代妙見祭の行列は一階軒下のほか、二階からも見下ろしたようである。

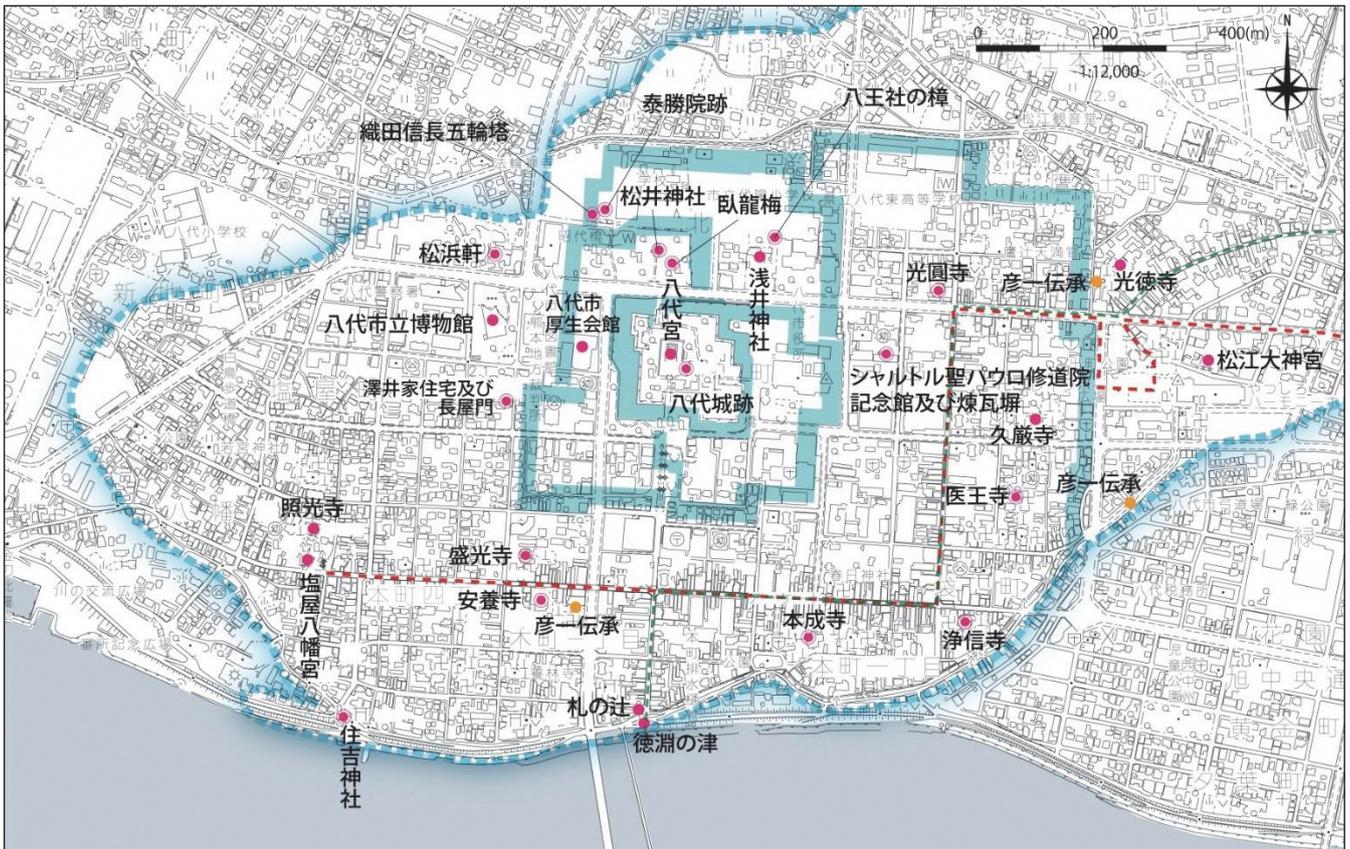


図 5-1 保存活用区域図(八代市中心部)

- 指定文化財の歴史文化遺産
- 未指定の歴史文化遺産
- 彦一とんち話所縁の地
- 旧八代城堀割位置
- 旧海岸線(推定)・堤防跡
- 旧薩摩街道
- 妙見祭の神幸行列

【範囲内の主な歴史文化遺産】

【国指定文化財】^{やつしるじょうあと}八代城跡(正式名称『八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡』)
^{やつしるみょうけんざい しんこうぎょうじ}八代妙見祭の神幸行事 ^{しんこうぎょうじ}旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園

【国登録文化財】シャルトル聖パウロ修道院記念館・煉瓦塀

【県指定文化財】臥龍梅

【市指定文化財】加藤忠正菩提所の泉福山本成寺 加藤可重菩提所の了覚山浄信寺 盛光寺 医王寺
 加藤正方父母の菩提所安養寺 澤井家住宅及び長屋門 住吉神社 織田信長五輪塔
 八王社の樟

【美術工芸品】松井文庫所蔵の国指定・県指定美術工芸品

八代市立博物館所蔵の国指定・県指定・市指定美術工芸品(宮本武蔵書状、林又七鐺、小早川文書、光明寺の阿弥陀三尊像、染革、和紙、埴輪など)

【未指定】徳淵の津 彦一とんち話所縁の地 浅井神社 八代宮 塩屋八幡宮 萩原旧堤防跡 光徳寺
 松江大神宮 光圓寺 久巖寺 八代カトリック教会の殉教者の碑 若宮官軍墓地と官軍本営
 となった寺(照光寺) 城下町以来の町割りとコミュニティ(菊慈童の宮之町と宮之町妙見社、
 亀蛇の出町と薩摩街道、西王母の通町、蘇鉄の二之町、猩々の紺屋町、本蝶蕪の本町、蜜柑
 と獅子舞の中島町、恵比須の徳淵町、松の平河原町、迦陵頻伽の塩屋町など) 武家屋敷の名
 残を示す竹の生垣

3 対象区域でのこれまでの取り組み

旧八代城下地区に存在し、ランドマークの役割を果たしている「八代城」は、平成26年(2016)3月に国史跡に指定された「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」に含まれている。史跡指定に先立ち、平成15(2003)・16年度(2004)に発掘調査が実施され、平成18年(2006)に『古麓城跡・麦島城跡・八代城跡』、平成25年(2013)に『八代城郭群 古麓城跡、麦島城跡、八代城跡、松浜軒、平山瓦窯跡』を刊行し、文化財としての価値づけがこれまでなされてきている。また、「八代城跡」の国指定史跡の範囲については、平成27年(2015)より本市が管理団体に指定されている。

「八代城跡」の保存活用に関する取り組みとしては、平成元年(1989)に八代市教育委員会により『八代城跡保存管理計画書 付. 八代城跡保存整備基本計画』(以下、基本計画)が策定され、平成30年(2018)に八代市・八代市教育委員会により『史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」保存活用計画』(以下、保存活用計画)が策定されている。基本計画中では、「1.八代城を今後永久に後世に伝えてゆくために、現存する遺構の保存的手段を講じる。」・「2.八代城のもつ空間、規模、構造を実際に体験し、学習する場として、また中心市街地における市民の憩いの場、知的レクリエーションの場として整備すること。」を保存整備の理念として挙げている。その後、基本計画の理念と整備手法を尊重し発展させ、新たに策定された保存活用計画の中では、史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」を適切に保存し、後世へと確実に伝えていくために、保存管理の基本方針と方法等、そして八代城跡群の整備活用の基本方針等を示しており、今後計画に基づき保存活用が図られていくことが期待される。

また、保存活用に係る計画の策定だけではなく、地元の小中学校での歴史文化遺産に関する出前講座や、市民を対象とした史跡巡り、市立博物館での展示・公開講座など、歴史文化遺産に関する様々な情報発信の取り組みが行政主体で行われてきた。さらに、関係する団体などの取り組みとして、「八代史談会」によって城下町に存在する歴史文化遺産である寺社や史跡について標木や説明板の設置、「やつしろ観光ガイド協会」によって八代城跡や松浜軒等、地域の歴史文化遺産の案内、「(一社)DMO やつしろ」によって「八代城跡 お堀舟巡り」やまち歩きツアーの開催など歴史文化遺産の観光資源としての活用が行われるなど、歴史文化遺産の活用が官民間問わず行われている地域である。



写真 5-1 八代市中心部での観光ツアーのようす

【主な関係団体】

- ・八代史談会
- ・やつしろ観光ガイド協会
- ・八代妙見祭保存振興会
- ・熊本高等専門学校八代キャンパス
- ・(一社)DMO やつしろ

4 保存・活用の考え方

第4章で前述した保存・活用に向けた基本方針に基づき、歴史文化保存活用区域における歴史文化遺産の保存・活用について、以下のような点を考慮した施策を展開していくことが想定される。

- ・保存・活用する対象を正確に把握する基礎調査。
- ・『史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」保存活用計画』に基づく、史跡の保存活用などの整備。
- ・八代城の堀や総構えの遺構表示(サイン看板の設置など)を充実させるなど、地域にある歴史文化遺産の周知を促す整備。
- ・歴史文化遺産に関する案内板設置など、市民や観光客が歴史文化遺産の情報を手に入れることが出来る環境を整備。
- ・行政・自治会・地区協議会・文化財関係団体等で構成される協議会等を設置し、歴史文化資源の適切な保存管理と歴史文化遺産を活かしたまちづくりの推進。
- ・寺社巡りや彦一とんち話に関係するまち歩きなどの周遊ルートの開発・まち歩きガイドブックの作成など、歴史文化遺産を活用した観光ルートの開発・情報発信の拡充。
- ・ボランティアガイドの養成や観光事業者との連携を進め、観光客の誘致強化。
- ・地区内に所在する八代市立博物館未来の森ミュージアムにおける、企画展の開催等による歴史文化遺産についての情報発信。
- ・地域の歴史文化遺産の魅力を発信するための情報発信基地としての、八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の整備。
- ・景観計画などに基づく修景整備。

【主な関連計画・関連事業】

- ・八代市 『第2次八代市総合計画』
- ・八代市 『八代市重点戦略』
- ・八代市・八代市教育委員会 『史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」・名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」保存活用計画』
- ・八代市 『八代市観光振興計画(後期)』
- ・八代市 『八代おもてなしプラン』
- ・八代市 『八代市景観計画』(策定予定)
- ・八代市 八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)整備事業

第6章 歴史文化基本構想の推進

今後、本構想に基づき、市内各地に分散する歴史文化遺産や本市に存在する多様な歴史文化の特徴を、それぞれの地域が主体となって保存・活用していくためには、地域住民が積極的に保存活用計画の策定等に参画し、先人たちが守り伝えてきた歴史文化遺産をこれからのまちづくり資源として認知することが重要である。こうした地域に密着した取り組みを推進するためには、第4章 保存・活用の基本方針や第5章 歴史文化保存活用区域の考え方も展望を示したように、文化財保護部局と他の行政部局との連携を可能とする組織とともに、行政、民間団体、地域の自治会・地区協議会・文化財関係団体等の様々な団体で構成される組織が必要となる。

有形・無形、指定・未指定の別を問わず、地域の歴史文化遺産をその地域の歴史文化の特徴や周辺環境とともに一体的に保存・活用するためには、地域社会を構成する個人、団体、行政、専門家等の役割や連携の在り方を明確にするとともに、それぞれが歴史文化遺産を取り巻く課題を共有しながらまちづくりに積極的に関わっていくことが必要である。歴史文化遺産をまちづくり資源とするためには、市民一人一人が身近な歴史文化遺産をかけがえのない大切な財産として認識することが重要であり、そうした気運を醸成するためには、市の文化財保護部局が中心となって本構想に記された内容の普及・啓発に努めなくてはならない。

本章では歴史文化基本構想の推進に関わる、各取り組み例や組織体制作りなど、歴史文化遺産の保存・活用の「しくみ」について記す。

1 歴史文化遺産を守り伝える取り組み例

本市では、各分野の担当部局によってさまざまな計画が策定されており、本構想も「第2次八代市総合計画」の下位計画に位置付けられる。しかし、本構想で取り扱った歴史文化遺産は単なる歴史文化資源ではなく、まちづくりや観光分野、景観分野など、様々な分野がまちづくりを行う際に必要不可欠な資源と言える。

そこで今後のまちづくりを行うにあたって、「歴史文化遺産はまちづくりの基礎となる大切な資源である」との共通認識のもと、本市の各担当部局と常に連携を図っていく必要がある。

下記では、本構想策定段階で策定又は計画されている各部局の計画・事業との連携の例について記す。

(1) 史跡保存活用計画及び整備事業

本市では、国史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」及び国名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」を将来にわたり適切に保存し、八代を代表する史跡として保存・活用を図るため、平成27(2015)～29年(2017)の3ヶ年で「八代城跡群保存活用計画」を策定した。

今後、城跡の保全、普及啓発活動などを行う際、保存活用計画に記されている保存・活用・整備などに関する基本方針と、本構想「第4章 3 保存・活用に向けた基本方針」で記している取り組みの内容(第4章参照)を踏まえて事業を推進する。

(2) 八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)整備及び、ユネスコ無形文化遺産公開活用事業

ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする市内各地の民俗文化財の保存継承と、情報発信につながる施設の整備を図り、郷土学習への有効活用や後継者の育成を図る取り組みを進める。具体的な事業として、各地域の伝統文化財の保存継承と活用より、本市の活性化を図るため、八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の建設を進めることが『八代市重点戦略』に挙げられている。

八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)の建設後、展示施設・公開施設の活用について、本構想「第4章 3 保存・活用に向けた基本方針」で記している取り組みの内容を踏まえて、事業計画策定を行う。

(3) 日本遺産認定推進事業

日本遺産認定へ向けて本市では、本構想を策定するにあたって行った歴史文化遺産の調査・歴史文化遺産の特徴とテーマなどの抽出の成果を基に、ストーリーの作成・市民の機運醸成に関わる事業などを行っている。

推進事業を行うにあたって、本構想「第4章 3 保存・活用に向けた基本方針」で記している取り組みの内容に対応する、歴史文化遺産に関する正しい情報・新しい情報の収集や、歴史文化遺産を紹介するパンフレットの発行、第3章で挙げたストーリーに沿った事業計画の作成など、本構想との連携を意識した事業推進を行っている。

2 歴史文化遺産の保存のための組織体制

本構想は、地域の歴史文化遺産をその周辺環境も含め、総合的に保存・活用していくことを目指した、本市の文化財に関わる最上位の基本構想として位置づけ、「第2次八代市総合計画」(計画年度2018～2025年度)を文化財保護行政の面から支えるものである。このため、関係諸施策との調整・連携を図りながら、総合的かつ計画的に文化財の保存と活用を進めていくこととしている。

また、市民が歴史文化遺産を継承していく担い手であるとともに、本市を訪れる観光客へのガイドでもあることを認識し、それぞれの地域の人々が自身の地域の素晴らしさを知り、誇りを持ち、地域内外に伝えたいとなるよう、歴史文化遺産を活かしたまちづくりを推進していくことが望まれる。

このため、本構想に示した歴史文化遺産の保存・活用を推進するため、市民・専門家や行政関係機関が相互に連携して本構想を推進する体制の構築を図っていく。

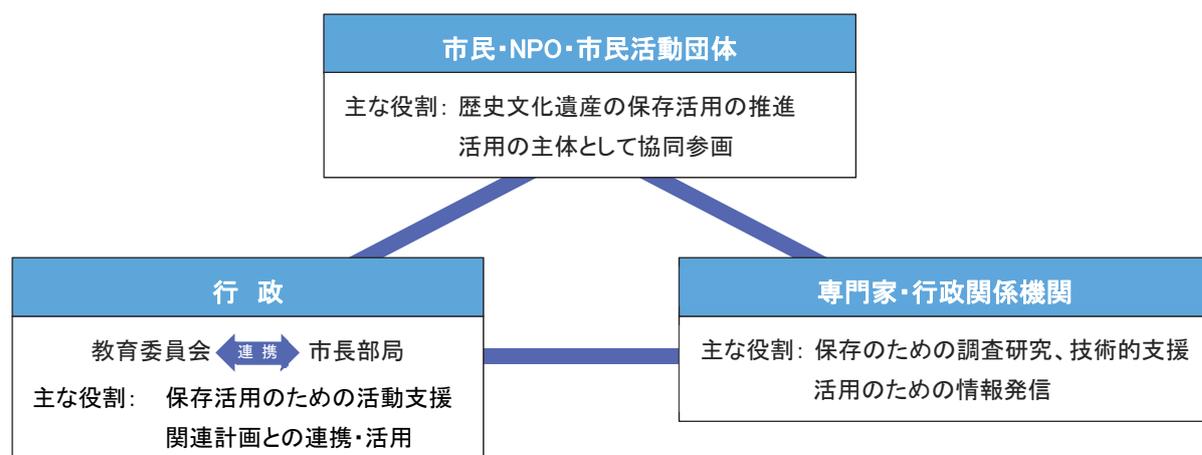


図 6-1 組織体制の概念図

3 人材育成の考え方

人材育成を継続的に行うためには、市民一人一人が身近な歴史文化遺産をかけがえのない大切な財産として認識し、次世代に守り伝えようとする機運の醸成が重要となる。

そのため、歴史文化遺産の公開活用事業や市民への講座等、啓発事業を通して、市民が歴史文化遺産と触れ合う機会を増やしていく。これにより、歴史文化遺産に対する理解を育み、積極的に歴史文化遺産の保存・活用を考える環境をつくっていくことで、保存・活用・継承の新たな担い手となる人材を各地域で育成することにつながっていく。

また、歴史文化遺産の調査事業や公開活用事業を効果的に行うためには、文化財に関する専門的な知識をもった専門職員の充実が重要である。そのため、行政専門職の拡充を目指す取り組みを推進していく。

加えて、歴史文化遺産の継承には、行政だけではなく、市民が主体となって歴史文化遺産を次世代へ伝え守る体制を各地域で構築することも重要である。そのため、ボランティアガイドや後継者の育成・活動機会の創出などを通して、市民が歴史文化に関わり、誇りをもって継承するとともに、多くの人に説明・紹介できる環境づくりを行う。

また、各地域内に組織的な人材育成の体制を構築するために、行政・自治会・地区協議会・文化財関係団体等が情報の共有や施策の連携を深める場を設けるなど、全市的な保存・活用の体制作りを行う。



写真 6-1 ボランティアガイド養成講座



写真 6-2 ボランティアガイドによる歴史文化遺産説明(八代城跡)

4 防災・減災への対応

本市においては、災害対策基本法(昭和 36 年法律第 223 号)第 42 条の規定に基づき、八代市防災会議が作成する「八代市地域防災計画」が策定されている。平成 28 年(2016)に発生した平成 28 年熊本地震を機に、防災計画の見直しが適宜行なわれており、平成 30 年度版の計画においては「市民の生命、身体及び財産を災害から守るとともに、災害による被害を軽減することをもち、社会秩序の維持と公共の福祉の確保を図る」ことを目的に、市域の防災に関し、市の処理すべき事務または業務を中心として、県、防災関係機関、公共的団体及び市民が総力を結集すべき事務または業務を含めた総合的かつ基本的な計画として、策定している。

計画の基本的な考え方として、

- ① 自助・共助・公助による被害の軽減
- ② 広域的な応援・支援体制の構築
- ③ 生活基盤の復旧と生活再建の支援

の3本柱を掲げ、行政等の防災関係機関、市民、事業者が一体となって災害対策を行うことを基本的な方針としている。本防災計画のうち、文化財保護については以下のように整理されている。

- ・関係部署・機関 : 経済文化交流部(文化振興課)
- ・応急活動体制 : 文化財の被害調査及び文化財レスキュー等に関すること。
- ・情報の収集、伝達 : 文化財保護法第2条に定める文化財のうち、有形文化財、民俗文化財及び記念物の被災数の把握及び報告。
- ・応急教育(対策) : 文化財について、災害発生後直ちに被害調査を実施するとともに二次被害によってさらに被害が及ばないよう万全を期すること。

なお、災害発生時には、文化財所有者(管理者)は、以下の方針に沿って、市担当課と連携し、必要な応急対策が講じられるよう、周知を図っていくこととしている。

- ・指定文化財や登録文化財などに火災等が発生した場合は、その所有者または管理者は、直ちに消防署へ通報するとともに被害の拡大防止に努めなければならない。
- ・指定文化財や登録文化財などに被害が発生した場合は、その所有者または管理者は被害状況を速やかに調査し、その結果については、文化振興課を通じて市経済文化交流対策部へ報告しなければならない。
- ・関係機関は、指定文化財や登録文化財などの被災拡大を防ぐため、協力して応急措置を講じる。

また、被害状況の把握とともに、所有者からの要請に基づき、関係機関の補助事業等を活用して早期の災害復旧に努めるものとする。

減災対策については、現存する歴史文化遺産が適切に後世に引き継がれるよう、所有者及び関係機関が協力して取り組みを進める必要がある。歴史文化遺産を活用した地域行事や定期的な公開を行い、地域の身近な存在としての認知が高まる取り組みを進めるとともに、消防部局と連携し文化財防火訓練を行うなど、防災意識の啓蒙を図っていく。

また、歴史文化遺産である建造物の倒壊防止策の検討、美術工芸品等の転倒や転落防止対策、各種消火設備の整備についても、ヘリテージマネージャーをはじめとする関係機関との連携を含め、所有者に対して必要に応じた支援や指導助言を行っていくものとする。

5 構想の周知と見直し

本構想は、市内の歴史文化遺産を整理し、その保存と活用の基本方針を定めた基本構想であり、事業を計画的かつ具現性のあるものにしていくためには、必要に応じてより具体的な活用計画等の策定が望まれる。本構想の策定にあたり、埋蔵文化財や史跡、地域の伝統行事など、本市の歴史文化を体現する様々な文化資源を把握することで、市の歴史文化の価値の整理を行なったものの、歴史文化遺産は時代の要請に従い、常に変化・変容していくものであることから、未確認の遺跡の確認調査など、継続した調査・研究を進めていく必要がある。

このような状況と合わせ、本市の上位計画である第2次八代市総合計画の計画期間が2018年度～2025年度の8年間としていることから、これを本構想見直しのひとつの目安とする。見直しにあたっては、関連する本市の諸計画や文化財に関する国・県等の動向や、社会情勢の変化への対応などを総合的に勘案し、適切な時期に行うこととする。

資料編

八代市の指定文化財一覧

歴史文化遺産一覧

地名一覧

1. 有形文化財(建造物・土木構造物等)
有形文化財（美術工芸品等）
2. 民俗文化財(有形民俗文化財・無形民俗文化財等)
3. 記念物（史跡・名勝・天然記念物等）
4. 記念物（古墳）
5. 干拓関連遺産
6. 石造アーチ橋(めがね橋)
7. 近代化遺産
8. 石造物・信仰地(旧八代)
石造物・信仰地(旧泉)
石造物・信仰地(旧坂本)
石造物・信仰地(旧東陽)
石造物・信仰地(旧鏡)
石造物・信仰地(旧千丁)
9. 伝承（彦一とんち話）
10. 伝承（河童伝承）
11. 伝承（落人伝承）
12. 伝統食材・郷土料理
13. 伝統工芸
14. 代表的な景観

参考. 文化財調査報告書一覧

参考. 文化財関連資料

参考. 文化施設

八代市の指定文化財一覧

国指定文化財				名称	員数	指定年月
1	国	有形	建造物	十三重塔	1基	S8.1.23
2	国	有形	建造物	旧郡築新地甲号樋門 附・潮受堤防	1基	H16.7.6
3	国	有形	彫刻	木造毘沙門天立像	1躯	M39.4.14
4	国	有形	彫刻	木造薬師如来立像	1躯	M39.4.14
5	国	有形	工芸品	刀 無銘 伝雲生	1口	S31.6.28
6	国	有形	書跡	平石如砥墨跡 (与竺芳祖裔偈・至正九祀巳丑秋) 附・玄圃靈三添状并六月三日古田織部書状二通	1幅	S63.6.6
7	国	民俗	無形民俗	八代妙見祭の神幸行事		H23.3.9
8	国	記念物	名勝	旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園		H14.12.19
9	国	記念物	名勝	不知火及び水鳥		H21.2.12
10	国	記念物	名勝	肥後領内名勝地 五郎ヶ瀧 聖り瀧 走り水ノ瀧 建神ノ岩 神ノ瀧ノ岩屋		H27.3.10
11	国	記念物	史跡	八代城跡群 古麓城跡・麦島城跡・八代城跡		H26.3.18
国選択文化財						
1	選	(選択)民俗	無民	古代踊		S53.1.31
2	選	(選択)民俗	無民	植柳の盆踊		H26.3.10
3	選	(選択)民俗	無民	八代・芦北の七夕綱		H26.3.2
国登録有形文化財						
1	登	登録	建造物	郡築二番町樋門	1基	H10.4.21
2	登	登録	建造物	シャルトル聖パウロ修道院記念館	1棟	H12.12.4
3・4・5	登	登録	建造物	旅館金波楼本館、大広間棟、正門及び堀	3棟	H21.4.28
6	登	登録	建造物	シャルトル聖パウロ修道女会八代修道院煉瓦堀	1基	H30.11.2
県指定文化財						
1	県	有形	建造物	八代神社社殿三宇	3棟	S38.4.25
2	県	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1躯	S36.11.21
3	県	有形	彫刻	木造阿弥陀三尊立像	3躯	S36.11.21
4	県	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1躯	S38.4.25
5	県	有形	彫刻	木造聖観世音菩薩立像	1躯	S38.4.25
6	県	有形	彫刻	木造十一面観世音菩薩立像	1躯	S38.4.25
7	県	有形	彫刻	銅造釈迦如来立像	1躯	S62.11.12
8	県	有形	彫刻	木造男神神坐像	7躯	S62.11.12
9	県	有形	工芸品	鐺 林又七作 三階松透	1枚	S38.7.23
10	県	有形	工芸品	悟真寺の雲版	1面	H8.7.8
11	県	有形	工芸品	法浄寺の梵鐘	1口	H9.7.16
12	県	有形	工芸品	大門観音堂の鰐口	1口	H21.6.23
13	県	有形	工芸品	大門薬師堂の鰐口	1口	H21.6.23
14	県	有形	工芸品	光圓寺の梵鐘	1口	H22.8.20
15	県	有形	書跡	小早川家文書	11通	S.53.2.2
16	県	有形	書跡	宮本武蔵書状	1幅	H15.9.12
17	県	民俗	有形民俗	妙見宮祭礼神幸行列関係資料	10基	H15.4.16
				神輿	1基	
				笠鉦「菊慈童」	1基	
				笠鉦「蘇鉄」	1基	
				笠鉦「西王母」	1基	
				笠鉦「狸々」	1基	
				笠鉦「本蝶株」	1基	
				笠鉦「蜜柑」	1基	

				笠鉾「恵比須」	1基	
				笠鉾「松」	1基	
				笠鉾「迦陵頻伽」	1基	
18	県	民俗	無形民俗	古代踊り		S37.4.13
19	県	民俗	無形民俗	植柳盆踊り		H13.5.18
20	県	記念物	史跡	大鼠蔵古墳群		S38.1.22
21	県	記念物	史跡	妙見上宮跡		S38.1.22
22	県	記念物	史跡	高田焼平山窯跡		S38.1.22
23	県	記念物	史跡	田川内第一号古墳		S48.5.16
24	県	記念物	史跡	今泉製鉄跡		S57.8.28
25	県	記念物	史跡	大鞆樋門群		H17.6.8
26	県	記念物	天然記念物	久連子鶏		S40.2.25
27	県	記念物	天然記念物	臥龍梅		S57.8.28
28	県	有形	書跡	千利休書状(二月十四日)		H30.3
市指定文化財						
1	市	有形	建造物	懐良親王自筆銘の宝篋印塔	1基	S38.4.20
2	市	有形	建造物	日奈久温泉神社本殿	1棟	S39.1.29
3	市	有形	建造物	奈良木神社	1棟	S40.4.12
4	市	有形	建造物	加藤忠正菩提所 泉福山宗覚寺	1棟	S40.4.12
5	市	有形	建造物	懐良親王菩提所 中宮山悟真寺	1棟	S40.4.12
6	市	有形	建造物	春光寺	1棟	S40.4.12
7	市	有形	建造物	相良義陽の墓	1基	S40.4.12
8	市	有形	建造物	妙見宮手洗舎	1棟	S40.5.18
9	市	有形	建造物	勇猛山浄沢寺本堂	1棟	S40.5.18
10	市	有形	建造物	加藤可重菩提所 了覚山浄信寺	1棟	S40.5.18
11	市	有形	建造物	加藤正方父母の菩提所 安養寺	1棟	S40.5.18
12	市	有形	建造物	織田信長墓－五輪塔	1基	S40.5.18
13	市	有形	建造物	加藤忠正菩提所 泉福山本成寺	1棟	S40.5.18
14	市	有形	建造物	本成寺の高麗門	1構	S40.5.18
15	市	有形	建造物	白雲山医王寺	1棟	S40.5.18
16	市	有形	建造物	永御蔵御門	1棟	S40.5.18
17	市	有形	建造物	永御蔵番所	1棟	S40.5.18
18	市	有形	建造物	奈良木十一面観音堂	1棟	S44.10.11
19	市	有形	建造物	赤松第一号眼鏡橋	1構	S47.11.13
20	市	有形	建造物	松浜軒	1棟	S50.9.12
21	市	有形	建造物	萱原の板碑供養塔	1基	S52.2.22
22	市	有形	建造物	十王板碑	1基	S52.2.22
23	市	有形	建造物	覚賀墓碑	1基	S52.2.22
24	市	有形	建造物	村山飛弾守の墓	1基	S52.2.22
25	市	有形	建造物	川原地蔵堂	1棟	S58.8.10
26	市	有形	建造物	鍛冶屋上橋	1基	S63.3.1
27	市	有形	建造物	鍛冶屋中橋	1基	S63.3.1
28	市	有形	建造物	鍛冶屋下橋	1基	S63.3.1
29	市	有形	建造物	新開橋	1基	S63.3.1
30	市	有形	建造物	松山橋	1基	S63.3.1
31	市	有形	建造物	岩本橋	1基	S63.3.1
32	市	有形	建造物	笠松橋	1基	S63.3.1
33	市	有形	建造物	鹿路橋	1基	S63.3.1

34	市	有形	建造物	八代市立植柳小学校旧講堂	1棟	H3.7.10
35	市	有形	建造物	鑑内橋	1基	H5.7.1
36	市	有形	建造物	澤井家住宅及び長屋門	2棟	H6.7.21
37	市	有形	建造物	澤井家長屋門	1棟	H6.7.21
38	市	有形	建造物	小崎眼鏡橋	1基	H9.4.1
39	市	有形	建造物	百済来地藏堂	1棟	H9.4.1
				仏像三体	3軀	
				梵鐘一	1口	
				鰐口一	1口	
				古位牌一	1口	
				日羅公墓	1基	
				宝篋印陀羅尼塔	1基	
				板碑	1基	
				五輪塔群	1群	
40	市	有形	建造物	住吉神社	1棟	H12.8.3
41	市	有形	絵画	加藤正方画像	1幅	S40.5.18
42	市	有形	絵画	加藤可重画像	1幅	S44.10.11
43	市	有形	彫刻	了覚山浄信寺の本尊(三宝諸尊)	1軀	S44.10.11
44	市	有形	彫刻	能面小面	1面	S44.10.11
45	市	有形	彫刻	木造千手観音立像	1軀	S50.9.12
46	市	有形	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	1軀	S57.7.10
47	市	有形	彫刻	木造延命地藏菩薩半跏像	1軀	S59.6.8
48	市	有形	彫刻	木造舍利尼菩薩坐像	1軀	S59.6.8
49	市	有形	彫刻	木造如来形立像	1軀	S62.10.30
50	市	有形	彫刻	木造十一面観音立像	1軀	S62.10.30
51	市	有形	彫刻	木造辨善大師坐像	1軀	S62.10.30
52	市	有形	彫刻	木造僧形坐像	1軀	S62.10.30
53	市	有形	彫刻	木造伝薬師如来坐像	1軀	H7.3.24
54	市	有形	工芸品	不動三尊区ある天平革 <small>モガタ</small> の模型	1枚	S40.4.12
55	市	有形	工芸品	不動の梵字・八幡の銘ある天平革 <small>モガタ</small> の模型	1枚	S40.4.12
56	市	有形	工芸品	御免革 正平年号銘入	1枚	S40.4.12
57	市	有形	工芸品	妙見宮の神宝 四寅剣	1口	S40.5.18
58	市	有形	工芸品	朱柄の槍	1口	S40.5.18
59	市	有形	工芸品	釣り革の駕籠	1基	S40.5.18
60	市	有形	工芸品	深山の茶壺	1口	S40.5.18
61	市	有形	工芸品	繩簾の水指	1口	S40.5.18
62	市	有形	工芸品	青井戸の水指	1口	S40.5.18
63	市	有形	工芸品	朝鮮そば茶碗	1口	S40.5.18
64	市	有形	工芸品	宮本武蔵作大木太刀	1口	S40.5.18
65	市	有形	工芸品	宮本武蔵作二刀流木刀	1組	S40.5.18
66	市	有形	工芸品	宮本武蔵作鞍	1基	S40.5.18
67	市	有形	工芸品	安養寺の楼閣造内陣厨子	1基	S40.5.18
68	市	有形	工芸品	にべ神社の織部灯籠	2基	S40.5.18
69	市	有形	工芸品	不動三尊区ある天平革の染革	1枚	S44.10.11
70	市	有形	工芸品	天竜文鐺 無銘甚五	2口	S54.7.10
71	市	有形	工芸品	称讚寺の梵鐘	1口	H15.3.15
72	市	有形	工芸品	六角堂	1棟	H15.3.15
73	市	有形	書跡	妙見宮知行百石宛行状	約10	S40.5.18

74	市	有形	書跡	春日局の文	1通	S40.5.18
75	市	有形	書跡	沢庵和尚の文	1通	S40.5.18
76	市	有形	書跡	加藤正方 臨終の言葉と辞世	1通	S44.10.11
77	市	有形	書跡	加藤正方 浄信寺領宛行状	1通	S44.10.11
78	市	有形	典籍	鎮宅靈符縁起集説乾坤	2冊	S44.10.11
79	市	有形	考古	仿製振り文帯鏡	1面	S38.4.20
80	市	有形	考古	仿製変形獸文帯鏡	1面	S38.4.20
81	市	有形	考古	陶製円面硯 甲	1面	S38.4.20
82	市	有形	考古	陶製円面硯 乙	1面	S38.4.20
83	市	有形	考古	瑞花双鳳八稜鏡	1面	S38.4.20
84	市	有形	考古	円形門前古墳装飾石棺の側壁	1点	S40.4.12
85	市	有形	考古	五反田古墳副葬品	1式	S40.5.18
86	市	有形	考古	大鼠蔵箱式石棺群出土品	1式	S40.5.18
87	市	有形	考古	大鼠蔵楠木山古墳副葬品	1式	S40.5.18
88	市	有形	考古	小鼠蔵第五号古墳出土土師埴	1点	S40.5.18
89	市	有形	考古	興善寺廃寺出土瓦	1式	S40.5.18
90	市	有形	考古	妙見上宮廃寺出土瓦	1式	S40.5.18
91	市	有形	考古	護神寺廃寺跡出土の複弁軒丸瓦	1点	S40.5.18
92	市	有形	考古	須恵器樽形礎(はそう)	1点	S44.10.11
93	市	有形	考古	大塚古墳出土人物埴輪	1基	S54.6.9
94	市	有形	考古	田川内貝塚出土貝輪	3箇	S54.6.9
95	市	有形	歴史資料	懐良親王自筆銘の御両親霊牌	1基	S38.4.20
96	市	有形	歴史資料	太上秘法鎮宅靈符の掛け軸と版木	1式	S40.5.18
97	市	有形	歴史資料	妙見宮関係資料	1括	S40.5.18
				妙見宮棟札	3枚	
				妙見宮扁額と細川綱利筆のその掛物	1式	
				妙見宮知行宛行社山絵図	1枚	
				妙見宮の江戸時代建物配置図	1枚	
98	市	有形	歴史資料	安昌院長姫位牌	1点	S40.5.18
99	市	有形	歴史資料	浄信寺加藤氏関係資料	1括	S40.5.18
				加藤可重位牌	1点	
				加藤正方位牌	1点	
				妙慶尼位牌	1点	
				加藤清正位牌	1点	S44.10.11
				片岡吉方位牌	1点	
100	市	有形	歴史資料	八代城間取図	1枚	S45.8.10
101	市	有形	歴史資料	伝懐良親王御遺品	6点	S56.12.9
102	市	有形	歴史資料	医王寺の浄心銘石塔	1基	H7.3.24
103	市	有形	歴史資料	鎮守堂の板碑	1基	H7.3.24
104	市	民俗	有形民俗	医王寺の庚申碑と青面金剛堂	1活	S40.5.18
105	市	民俗	有形民俗	実相院の庚申碑	1基	S40.5.18
106	市	民俗	有形民俗	八王社の庚申碑	1基	S40.5.18
107	市	民俗	有形民俗	八代御用紙漉きの道具及び文書・記録	1式	S51.4.12
108	市	民俗	有形民俗	木馬	1基	H2.3.12
109	市	民俗	有形民俗	金立院のキリシタン墓碑	1基	H7.3.24
110	市	民俗	無形民俗	妙見宮祭礼の獅子舞楽		S34.9.20
111	市	民俗	無形民俗	妙見宮祭礼の花奴		S34.9.20
112	市	民俗	無形民俗	妙見宮祭礼の亀蛇		S34.9.20

113	市	民俗	無形民俗	妙見宮祭礼の飾り馬	S34.9.20
114	市	民俗	無形民俗	妙見宮祭礼の神馬	S44.10.11
115	市	民俗	無形民俗	縦木神楽	S62.10.30
116	市	民俗	無形民俗	葉木神楽	S62.10.30
117	市	民俗	無形民俗	岩奥神楽	S62.10.30
118	市	民俗	無形民俗	本屋敷神楽	S62.10.30
119	市	民俗	無形民俗	坂より上棒踊り	S63.3.1
120	市	民俗	無形民俗	箱石雨乞い踊り	S63.3.1
121	市	民俗	無形民俗	久多良木棒踊り	H3.4.1
122	市	民俗	無形民俗	鶴喰棒踊り	H3.4.1
123	市	民俗	無形民俗	鮎婦雨乞い踊り	H14.3.29
124	市	民俗	無形民俗	鏡が池鮎取り神事	H15.12.8
125	市	民俗	無形民俗	碓原おざや名所	H16.3.19
126	市	民俗	無形民俗	芝口大鞠節	H16.3.19
127	市	民俗	無形民俗	上鏡獅子舞	H16.3.19
128	市	民俗	無形民俗	貝洲加藤神社肥後神楽	H16.3.19
129	市	民俗	無形民俗	芝口棒踊り	H16.3.19
130	市	民俗	無形民俗	八代新地大鞠節	H17.4.1
131	市	民俗	無形民俗	銭太鼓	H17.4.1
132	市	民俗	無形民俗	女相撲	H17.4.1
133	市	民俗	無形民俗	新牟田雅楽	H17.4.1
134	市	記念物	史跡	小鼠蔵古墳群	S38.4.20
135	市	記念物	史跡	産島貝塚	S38.4.20
136	市	記念物	史跡	鐘楼堂貝塚	S38.4.20
137	市	記念物	史跡	五反田古墳	S38.4.20
138	市	記念物	史跡	田川内貝塚	S38.4.20
139	市	記念物	史跡	鬼の岩屋第一号古墳	S38.4.20
140	市	記念物	史跡	大塚古墳	S38.4.20
141	市	記念物	史跡	茶臼山古墳	S38.4.20
142	市	記念物	史跡	興善寺廃寺跡	S38.4.20
143	市	記念物	史跡	懐良親王御両親の墓 御小袖塚	S38.4.20
144	市	記念物	史跡	征西大將軍懐良親王御墓	S38.4.20
145	市	記念物	史跡	懐良親王御両親菩提所 護国山頭孝寺跡	S38.4.20
146	市	記念物	史跡	竹の内古墳	S40.4.12
147	市	記念物	史跡	田河内関と田河内城跡	S40.4.12
148	市	記念物	史跡	志紀河内村杵築宮と古宮床	S40.4.12
149	市	記念物	史跡	平山城跡	S40.4.12
150	市	記念物	史跡	中院義定卿館跡・高田御所跡・八代征西府跡	S40.4.12
151	市	記念物	史跡	十二里木跡	S40.4.12
152	市	記念物	史跡	加藤忠正の墓	S40.4.12
153	市	記念物	史跡	平安後期～中世の用水施設杭瀬とその発展の遥拝堰	S40.4.12
154	市	記念物	史跡	谷川第一号古墳	S40.4.12
155	市	記念物	史跡	谷川第二号古墳	S40.4.12
156	市	記念物	史跡	川上第二号古墳	S40.4.12
157	市	記念物	史跡	行西第一号古墳	S40.4.12
158	市	記念物	史跡	行西第二号古墳	S40.4.12
159	市	記念物	史跡	行西第三号古墳	S40.4.12
160	市	記念物	史跡	如見第二号古墳	S40.4.12

161	市	記念物	史跡	妙見中宮跡		S40.5.18
162	市	記念物	史跡	中宮山護神寺廃寺跡		S40.5.18
163	市	記念物	史跡	鏡の池跡		S40.5.18
164	市	記念物	史跡	細川幽斎菩提所 泰勝院跡		S40.5.18
165	市	記念物	史跡	細川三斎茶毘所 甘棠園跡		S40.5.18
166	市	記念物	史跡	織田信長菩提所 泰巖寺廃寺跡		S40.5.18
167	市	記念物	史跡	永御蔵跡		S40.5.18
168	市	記念物	史跡	八代の藩校伝習堂と教衛場跡		S40.5.18
169	市	記念物	史跡	八代城下町御客屋跡－藩営本陣		S40.5.18
170	市	記念物	史跡	高取上の山古墳		S44.10.11
171	市	記念物	史跡	鬼の岩屋虚空蔵古墳		S44.10.11
172	市	記念物	史跡	有佐貝塚		S51.5.29
173	市	記念物	史跡	名和童山の墓		S51.5.29
174	市	記念物	史跡	新川義塾跡		S51.5.29
178	市	記念物	史跡	鏡が池		S51.5.29
179	市	記念物	史跡	八代郡倉跡		S51.5.29
180	市	記念物	史跡	鹿子木量平の墓		S51.5.29
181	市	記念物	史跡	鹿子木謙之助の墓		S51.5.29
182	市	記念物	史跡	だいばどんの墓		S51.5.29
183	市	記念物	史跡	溪玉院日珙上人の墓		S51.5.29
184	市	記念物	史跡	遠山参良の墓		S51.5.29
185	市	記念物	史跡	岩永三五郎の墓		S51.5.29
186	市	記念物	史跡	上土城跡		S52.2.22
187	市	記念物	史跡	細川藩在倉跡		H1.8.8
188	市	記念物	史跡	御高札場跡		H5.7.1
189	市	記念物	名勝	栽柳園		S45.8.10
190	市	記念物	天然記念物	妙見宮の樟		S38.4.20
191	市	記念物	天然記念物	八王社の樟		S38.4.20
192	市	記念物	天然記念物	薬師堂の銀もくせい		S54.4.1
193	市	記念物	天然記念物	まるもり		S54.4.1
194	市	記念物	天然記念物	中津道阿蘇宮の森		S54.4.1
195	市	記念物	天然記念物	久多良木神社の森		S54.4.1
196	市	記念物	天然記念物	白髪岳天然橋		S63.3.1
197	市	記念物	天然記念物	藤本五所神社の森		H12.4.1

1	国	記念物	特別天然記念物	ニホンカモシカ		
2	国	記念物	特別天然記念物	ヤマネ		

1	重要美術工芸品	絵画	紙本墨画中達磨左右鴨図宮本武蔵筆三幅	3幅	S14.2.22
2	重要美術工芸品	工芸品	刀 折返し銘正恒一口	一口	S17.12.16
3	重要美術工芸品	工芸品	刀 無銘伝青江一口	一口	S17.12.16

歴史文化遺産一覧 1. 有形文化財(建造物・土木構造物等)

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
1	A	松高		高島釈迦堂	八代市高島町		
2	A	八千把		西雲寺	八代市海士江町	慶長5年(1600)創建、延宝5年(1677)改称	慶長5年(1600)、小早川玄蕃が創建し、光徳寺と号した。延宝5年(1677)、東本願寺の末寺として西雲寺と改号する。
3	A	八千把		徳敬寺	八代市上野町	天正10年(1582)建立	天正10年(1582)、寿玄が延寿寺の末寺として開基。寛永6年(1629)が寺号を請う。
4	A	千丁		吉王丸日吉神社	八代市千丁町吉王丸	創建年代不詳、平成5年(1993)移築、補修、屋根吹替え	創立年代不明、平成5年(1993)移築、補修、屋根葺替え工事。
5	A	千丁		円満寺	八代市千丁町新牟田	寛文2年(1662)玉名郡山下村安養寺より分家	寛文2年(1662)、玉名郡山下村安養寺より分家し、分寺安養寺と号す。寛文11年(1671)、円満寺と改号、明治9年(1876)本山末寺に編入。
6	A	千丁		加藤神社(新牟田)	八代市千丁町新牟田	慶長年間(1596~1614)創建	昭和53年(1978)、社殿修復。
7	A	千丁		阿弥陀堂	八代市千丁町新牟田	開基年代不明	加藤神社(新牟田)の境内にあり。開基年代不明。
8	A	千丁		二の丸新地竜神社	八代市千丁町古閑出	慶応3年(1867)成立、明治12年(1879)社殿建立	当社社は、干拓の際、海神を鎮め、守護を受けるために慶応3年(1867)に石堂を建て龍神をまつたことにはじまり、明治12年(1879)に社殿を建立した。
9	A	鏡		文政神社	八代市鏡町両出	明治43年(1910)創建	鹿子木量平を祀る神社で、百町、四百町、七百町新地の接点にあたる地にある。神社の東側には、鹿子木量平・謙之助父子の墓もある。
10	A	鏡		貝洲加藤神社	八代市鏡町貝州	文政5年(1822)創建、大正10年(1921)修築、平成18年(2006)に拝殿、幣殿再改築	文政年間、惣庄屋鹿子木量平と息子謙之助の尽力により百町、四百町、七百町新地が完成。治水などに秀でた加藤清正を崇敬し、文政5年(1822)に勧請。明治3年(1870)には村社に列せられる。大正10年(1921)に本殿改修。
11	B	千丁	市指定有形文化財	村山飛弾守の墓	八代市千丁町太牟田	天正9年(1581)頃カ	相良義陽の家臣・村山飛弾守は、天文12年(1543)に上土城の城代となる。天正9年(1581)、響が原の戦いで義陽に従い戦死した。
12	B	千丁	市指定有形文化財	萱原の板碑供養塔	八代市千丁町吉王丸	天授4年(1378)	昭和38年(1963)、南吉王丸の墓地改装時に発掘されたもの。板石卒塔婆。「一念弥陀佛即滅無量罪 尼法名一 天授(四の異体字)年二月十四日 現受無比楽後生清浄土」とある。千丁地域最古の板碑。
13	B	千丁	市指定有形文化財	十王板碑	八代市千丁町吉王丸	南北朝時代(14世紀)カ	通称「石仏」さんと尊称されているこの板碑は、もとは北吉王丸・南中の丸の石仏の墓地にあったものを、明治年間に西音寺境内にうつしたものだ。形態的には自然石板碑であり、内容的には梵字板碑十仏を本地とする十王信仰を伝えるもの。
14	B	千丁	市指定有形文化財	覚賀墓碑	八代市千丁町吉王丸	弘和2年(1382)	この墓碑は、南中の丸の石仏の墓地にあったものを明治年間に当地に移したものだ。銘に「(梵字)パンカ 弘和二歳十一月二十七日」とある。
15	B	鏡		安楽寺	八代市鏡町下有佐	承応3年(1654)開基	延寿寺の末寺として承応3年(1654)に開基。万治元年(1658)に東本願寺から安楽寺の寺号を免許。
16	B	鏡		烏森松尾宮	八代市鏡町有佐	建武2年(1336)、大正15年(1925)向き変更	建武2年(1336)創建。後に小西行長の焼払いにあい神領没収されたという。その後加藤清正が再興したと伝わっている。明治9年(1876)に村社に列せられ、「烏森」と称されている。
17	B	鏡		有佐小路菅原神社	八代市鏡町有佐	創建年代不詳、慶長元年(1596)社殿建立	創立年代不詳。慶長元年(1596)に社殿を建立。
18	B	鏡		香取神社	八代市鏡町有佐	創建年代不詳、昭和31年(1956)改築	昭和31年(1956)改築。
19	B	鏡		称讃寺	八代市鏡町中島	元亀元年(1570)創建	加藤清正家臣前田重成が元亀元年に草庵を築いたことから始まる。四代目の頃称讃寺の寺号を得る。
20	B	鏡		中野菅原神社	八代市鏡町中島	慶長3年(1598)社殿建立	創立年代不詳。慶長3年に加藤清正が社殿を建立。
21	B	鏡		浄国寺	八代市鏡町下村	天文年中(1532~1555)開基	豊前国善法寺の末寺として天文年中(1532~1555)に開基し、寛永16年(1639)には順正寺の末寺に属す。
22	B	鏡		上鏡菅原神社	八代市鏡町上鏡	創建年代不詳	鳥居に安政4年(1857)の銘あり。
23	B	鏡		内田松尾神社	八代市鏡町内田	創建年代不明	当村開拓時に建立したと伝わる。
24	B	鏡		八大竜宮社石鳥居	八代市鏡町内田	文政2年(1819)松尾神社の鳥居を移築	寛永年間に綿津見神を祀ったことにはじまると伝わる。
25	B	鏡		印鑰神社	八代市鏡町鏡	建久2年(1198)カ	十五童子の内、印鑰童子を祀る。勧請の年代は不明。
26	B	鏡		教法寺	八代市鏡町鏡	寛永17年(1640)開基	西光末社。寛永17年(1640)開基。
27	B	鏡		火口神社	八代市鏡町鏡	創建年代不詳、昭和57年(1982)改修	昭和57年(1982)改修。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
28	B	鏡		細川藩在倉跡稻荷神社	八代市鏡町鏡	天保 14 年(1843)	
29	B	鏡		観音堂	八代市鏡町鏡		
30	B	鏡		芝口菅原神社	八代市鏡町芝口	創建年代不詳	村内安全、五穀豊穡のため創建したと伝わる。
31	B	鏡		水竹居の館	八代市鏡町宝出		赤星陸治の死後、子孫が寄贈した幼少期を過ごした邸宅を学習、交流の場として復旧したもの。
32	B	鏡		遍照寺	八代市鏡町両出	天正 15 年(1587)創建、明治 30 年(1897)の棟札あり。平成 23 年(2012)改修	天正 15 年(1587)創建、相良家重臣が八代郡下村天台宗遍照寺に住し、後に改宗。天保 14 年(1841)、現在地に移り、明治 12 年(1879)寺号を得る。
33	C	代陽	市指定有形文化財	白雲山医王寺	八代市袋町	創建年代不明、1662(寛文 2)再建、寛文 5 年(1665)移転	創建年代は不明であるが、平安時代中期に創建したと伝わる。天正年間(1573～1593)小西行長によりに廃絶したものを慶長年間(1596～1614)、加藤氏の頃に復興し、寛文 2 年(1662)に移転。さらに寛文 5 年(1665)八代城主松井寄之の室崇芳院尼の願いにより再興。八代城の安全、城主と課内の除病息災、子孫繁栄を祈願して依頼、松井家の祈願所となった。
34	C	代陽	市指定有形文化財	加藤可重菩提所 了覚山浄信寺	八代市本町一丁目	慶長 9 年(1632)創建	慶長 9 年(1632)、八代城主加藤正形が父可重の菩提所として創建。はじめ阿蘇郡内牧城下に建立したものを慶長 17 年(1612)に正方が妻島城に移る際に本町に移築、元和 8 年(1622)に松江城(現在の八代城跡)が落成した際、再度移築した。
35	C	代陽	市指定有形文化財	加藤忠正菩提所の泉福山本成寺	八代市本町一丁目	慶長 13 年(1608)創建、寛永 11 年(1634)移転、享保元年(1716)再建	加藤清正の嫡男忠正が 9 歳で疱瘡によって江戸屋敷で亡くなり、その一周忌である慶長 13 年(1608)、東宮地村に本成寺を創建。開山は日領。二世日通のとき、細川三斎の所望で、本堂と梵鐘を寄進し、寛永 11 年(1634)に新しく本成寺を建立し、移転した。現在の本堂は、享保元年(1716)頃に焼失した後に再建されたもの。
36	C	代陽	市指定有形文化財	本成寺の高麗門	八代市本町一丁目	寛永 11 年(1634)移転、享保元年(1716)再建	八代城主加藤正形が、元和 5 年(1619)頃に築城した八代城本丸表柵形門の第一門を、寛永 11 年(1634)、細川三斎が本町に移転した本成寺に寄付して保存させたもの。現在の門は、享保元年(1716)に類焼した際の再建であると考えられている。
37	C	代陽	市指定有形文化財	加藤正父母(妙慶禅尼)の菩提所安養寺	八代市本町三丁目	慶長 5 年開基、元和年間(1615～1623)移転、寛永 9 年(1632)移転	八代城代加藤正形が、母妙慶禅尼菩提のために建てたもの。はじめ妻島宮の町にあったものを元和年間に移転。加藤氏改易後に現在地へ移転した。
38	C	代陽	市指定有形文化財	澤井家住宅及び長屋門	八代市西松江城町	慶応元年(1865)	かつて上級武士の屋敷が並んでいた旧荒神丁に建つ。澤井家は、室町時代から足利家に仕える家柄であったが、幼少期の岩千代のお守役として松井家に派遣され、その後、小倉、熊本、八代と松井家に従い、現在まで代々、八代に居住することになった。現存する住宅は、慶応元年(1865)に第 9 代当主澤井元長のときに上棟され、棟梁は内山健太という人物であった。座敷は、8 畳の主室、6 畳の次の間に続いている。門は、馬屋が設けられた長屋門の形式となっている。
39	C	代陽	市指定有形文化財	澤井家長屋門	八代市西松江城町	江戸時代末期～明治時代初年頃	八代城下町の西の一角に位置する澤井家住宅と附属する長屋門及び塀は、武家屋敷の当時の町並みを今に伝えることのできる貴重な建物。澤井家新家は、本家第十代の元資の時、当主の祖父にあたる元利が分家したもので、この長屋門は幕末から明治初年の頃のものと考えられる。
40	C	代陽	市指定有形文化財	織田信長墓 五輪塔	八代市北の丸町	寛永 10 年(1633)	八代市立第一中学校校庭東南隅の「泰勝院・宗雲寺・泰巖寺三庵寺跡」敷地内にある、細川三斎(忠興)が織田信長を九曜して建てた五輪塔。凝灰岩製、高さ 146cm。地輪正面には「織田將軍 去遊四十九才 天正十年六月二日」、堂裏面には、「寛永十年六月三日 細川参議敬建」とある。
41	C	代陽	市指定有形文化財	松浜軒	八代市北の丸町	元禄元年(1688)創建	元禄元年(1688)、松井家 4 代直之が母崇芳院尼のために建てた御茶屋で、美しい庭園がある。四季折々に花が咲き、5 月下旬～6 月上旬に咲く肥後花菖蒲が有名。「松浜軒」の名前は当時八代海を見渡す浜辺が近かったことに由来する。園内には「稲荷神社」や「児宮」が祀られており、展示室には茶道をこよなく愛した松井家に代々伝わる茶道具を展示している。なお、庭園は国指定名勝。
42	C	代陽		光徳寺	八代市出町	天正 15 年(1587)創建、承応年間(1652～1655)に台風に崩壊。寛文元年(1661)現在地に再建。後に焼失し、天保 4 年(1833)に再建する。明信の先祖は、名和氏で、当寺には名和氏の家紋「帆掛け船」をいたるところに見ることができる。明治 10 年(1877)、西南戦争の際には、官軍の本陣として使用されていた。	

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
43	C	代陽		松江大神宮	八代市出町	寛文年間創建(郡誌)	
44	C	代陽		光圓寺	八代市通町	寛永13年(1636)創建、正徳年間(1711~1715)移転、天和2年(1682)移転	寛永13年(1636)、細川三斎家臣小山伊左衛門(剃髪して宗順と号す)が松江村に創建。本堂の天井には、松井家御用絵師安藤安柱による龍の絵が描かれている。『肥後国誌』には、正徳年間(1711~1715)に移転とあり、『八代郡誌』には、天和2年(1682)に移転とある。
45	C	代陽		宮の町妙見社	八代市通町	元和年間(1615~1623)移転	八代神社(妙見宮)の分社。このあたりはかつて「宮之町」といい、妙見祭では笠鉾「菊慈堂童」を出す町。
46	C	代陽		浄喜寺	八代市袋町	創建年代不詳、寛永9年(1632)移転	はじめに豊前国小倉の浄喜寺として開基、寛永9年(1632)、細川三斎が八代へ転居する際に八代城下へ移転。寛文2年(1662)に袋町へ移転。小倉の浄喜寺が西本願寺に帰依するに伴い寛文5年(1665)に当寺も西本願寺直下となる。
47	C	代陽		円覚寺	八代市袋町	天文2年(1533)創建、貞享2年(1685)移転	天文2年(1533)に相良家臣鶴田形部左衛門出家し創立、貞享2年(1685)移転
48	C	代陽		春日神社	八代市本町一丁目	創建年代不明、寛永20年(1643)建立	はじめ徳淵にあったものを、寛永20年(1643)に細川三斎が八代城辰巳(東南)方向の鎮守として当地へ移転したもの。えびす神をまつり、商売繁盛の神として崇拝を集めている。
49	C	代陽		浄信寺門	八代市本町一丁目	不詳	松井家の菩提寺春光寺から移築したと伝わっている。
50	C	代陽		荘厳寺	八代市本町一丁目	寛喜元年(1229)創建、文明16年(1484)移転、天文24(1555)焼失、慶長5年(1600)再興、移転、元和5年(1619)移転	もとは相良氏の菩提寺として創建。文明16年(1484)に古麓へ移転。天文14年(1555)に火災。慶長5年(1600)再興、麦島城下へ移転。元和5年(1619)に現在地へ移転。
51	C	代陽		金立院	八代市本町一丁目	慶長年間(1596~1614)創建、正保3年(1646)移転	慶長年間豊前小倉で創建、正保3(1646)松井興長が八代城入城の際に八代へ移転。境内には、小西行長時代のもので考えられる十字架の彫り込みのあるキリシタン墓碑(市指定有形民俗文化財)が残っている。
52	C	代陽		正教寺	八代市本町三丁目	慶長16年(1611)開基、元和年間(1615~1623)移築	慶長16年(1611)、古麓城下から麦島城下に移転(または移転)、元和年間(1615~1623)に現在地へ移転。10世文暁は、「花屋日記」の著者と知られ、寛政4年(1792)に小林一茶が文暁を訪ねて3ヶ月滞在した。16世雨堂は、漢詩をたしなみ森鷗外らと交流している。当寺には、文人、画家等ゆかりの作品が多数伝来している。
53	C	代陽		盛光寺	八代市本町三丁目	元和9年(1623)創建、寛永9年(1632)移築、平成21年(2009)再建	元和9年(1623)、細川三斎が側室小山を甞うために豊前国中津にて建立。寛永9年(1632)に三斎に伴い八代へ移転。三斎の娘長姫を甞う安昌院も当寺内にある。
54	C	代陽		養林寺	八代市本町三丁目	寛永8年(1631)開基(国誌)	鐘樓に八代城の太鼓。
55	C	代陽		古春日	八代市本町三丁目	寛永20年(1643)創建	もともと徳淵にあった春日神社を、寛永20年(1643)に細川三斎が八代城辰巳(東南)方向の鎮守として移転。もとの地の小祠が残っており、「古春日」と呼ばれている。
56	C	代陽		八代宮	八代市松江城町	明治13年(1880)創建、明治16年(1883)社殿建立、昭和8年(1933)改築	後醍醐天皇の皇子で征西将軍である懐良親王を主祭神とする。明治13年(1880)に太政官が創立を命じたことによる。昭和8年(1933)に社殿を改築。
58	C	代陽		教覚院	八代市西松江城町	正保4年(1647)開基	正保4年(1647)に宗海が開基する。
59	C	代陽		般若院	八代市西松江城町	寛永9年(1632)移転、正徳4年(1714)堂建立	寛永9年(1632)細川三斎の転居に伴い豊前国小倉から移築。細川家臣縄田清右衛門清明が、屋敷を賜った際、般若院玄乗と称して神明宮をまつたことによる。以降細川家の祈禱所となった。
60	C	代陽		塩屋地藏堂	八代市西松江城町	慶応元(墨書)	
61	C	八代	市指定有形文化財	住吉神社	八代市本町四丁目	享和年間(1801~1804)創建、文化9年(1812)建立、安政4年(1857)改築	江戸時代の八代城下町の御船場の一角に立地しており、当時の景観をとどめる貴重な遺構である。御船場は、八代城主松井家御用船の船だまり。享和年間(1801~1804)に勧請したと伝わる。現在の建物は、安政4年(1857)に改築されたもの。
62	C	八代		善正寺	八代市本町四丁目	寛永元年(1624)創建、正徳元年(1711)移転、文化6年(1809)改築	寛永元年(1624)葦北の慶了によって創建。正徳元年(1711)、四世慶雲のとき、現在地へ移転した。本堂にある多彩な草花の天井画は、江戸時代に地域の商人たちが寄進したものと伝わっている。現在の本堂は、文化6年(1809)に築造されたもの。本寺には、弟子のトラブルの責任を負い、寛文3年(1663)に自害した杉本院清坊という僧の霊がまつられている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
63	C	八代		観行寺	八代市本町四丁目	貞享元年(1684)創建	貞享元年(1684)、正教寺4世空舎の弟子了玄開基。現在の本堂は、文化6年(1809)に再建されたもの。
64	C	八代		塩屋八幡宮	八代市八幡町	寛永9年(1632)勧請、明暦元年(1655)移転、慶応元年(1865)拜殿建立	寛永9年(1632)、細川三斎が宇佐八幡宮の分霊を現在の若宮神社の地に勧請し、明暦元年(1655)松井興長のとき、現在地に移転した。御鎮座記念である11月25日には秋の例祭「塩屋のまつり」が行われている。八代妙見祭のときには神幸行列の御旅所となっている。
65	C	八代		慈恩寺	八代市塩屋町	慶長17年(1612)創建、寛永15年(1638)移転	慶長17年(1612)、徳淵春日社前に創建。寛永15年(1638)、現在地に移転。寛文6年(1666)に真宗大谷派に転派する。明治10年(1877)の西南戦争時には、官軍別働旅団の本営が置かれた。
66	C	八代		塩竈神社	八代市塩屋町	元和年間(1615～1623)建立	元和年間(1615～1623)加藤正方が八代城築城のとき、塩浜開墾の守り神として建立。
67	C	八代		若宮神社	八代市塩屋町	勧請年代不詳	細川三斎が宇佐八幡宮の分霊を勧進したところと伝わる。塩屋八幡宮の前身。
68	C	八代		北の洲観音堂	八代市塩屋町	創建年代不詳	本尊十一面観音をまつり、観音像横の掛け軸は、「蓮の糸」で織ったと伝えられ、「羽衣の掛軸」と呼ばれている。境内の仁王像は、もとは塩屋八幡宮にあったもので、明治の神仏分離令によって本堂に移されたものと伝えられている。
69	C	太田郷		熱田神社	八代市上日置町	平成13年拜殿修復	
70	C	太田郷		薬師如来・北方宮	八代市東片町		
71	C	太田郷		熊野坐神社	八代市上片町	創建年代不詳、明治4年に権現山から移築	創建年代不詳。明治以前は、妙見神社土僧神宮寺より謹行し、明治4年までは権現山にあったが、後に現在地に移築。
72	C	太田郷		清傳寺	八代市上片町	天正7年(1579)開基	天正7年(1579)、浄心によって開基。寛文6年(1666)、延寿寺末寺として寺号を請ける。
73	C	太田郷		西林寺	八代市中段町	開基年代不詳	医師江村玄雪(剃髪名は松吟)の開基。天台宗神宮寺の末寺で、天正年間(1573～1593)には小西行長により焼き討ちにされた。後に再建。
74	C	太田郷		正本寺	八代市日置町	慶長6年(1601)開基	慶長6年(1601)了徳が開基する。はじめは天台宗の古刹であったが、後に真言宗へと改宗する。
75	C	太田郷		少名彦神社	八代市福正元町	宝暦水害で由緒不明(郡誌)	
76	C	太田郷		十条製紙 八代旧工場貴賓館	八代市十条町	大正7年(1918)	日本製紙株式会社の前身である十條製紙株式会社の八代工場。大正13年(1924)に創業を開始した。
77	C	太田郷		日本製紙(株) 八代旧工場	八代市十条町	大正13年(1924)	日本製紙株式会社の前身である十條製紙株式会社の八代工場。大正13年(1924)に創業を開始した。
78	C	太田郷		菅原神社(萩原)	八代市萩原一丁目	宝暦5年度再建(郡誌)	
79	C	植柳	国指定重要文化財	十三重塔	八代市植柳元町	寛喜2年(1230)	この塔は、本来十三重塔で、現在は二重が失われ十一重の塔になっているが、高さ6.6m以上におよぶ堂々とした鎌倉時代の塔。各層の塔身の四面に四方仏をきざみ、軒裏には隅木や垂木を造り出し、四隅の隅木の先には目をむき牙を出した鬼面を彫刻しており、鎌倉時代の力強さと写実性がよく表現されている。朱による彩色の跡もみられる。初層の塔身には「…寛喜二年(1230)庚寅十一月日 大檀那沙弥浄心 並藤原氏 大工兼仏師幸西…」の銘があり、制作年代・建立者・工人などがわかる鎌倉初期の代表的石造多層塔の一例として、非常に貴重なもの。この塔は、球磨郡湯前町の明導寺(現在の城泉寺)にあったものをここに移したもので、現在明導寺九重と七重石塔もそれぞれ国指定重要文化財になっている。
80	C	植柳	市指定有形文化財	八代市立植柳小学校旧講堂	八代市植柳上町	大正14年(1925)建築	もとは、八代城主松井家別邸である栽柳園(市指定名勝)に、明治42年(1908)、植柳尋常小学校が移転、新築。大正14年(1925)に鉄筋コンクリート造で新築。
81	C	植柳		光現寺	八代市植柳下町	慶長3年(1598)開基	慶長3年(1598)、祐賢が開基した。祐賢の父は、代々島津家へ仕えたと伝わる。
82	C	植柳		明泉寺	八代市植柳元町	寛永17年(1640)開基	はじめは天草内島子村にあったが、天文年中に廃寺。天正19年(1591)、第3世空専の次男空玄が、肥前国高木郡堂崎村に一寺を建立し、明泉と号した。空玄の子空正のとき、島原天草一揆により寺が破却。寛永17年(1640)に植柳村で新たに建立した。
83	C	麦島		麦島大神宮	八代市古城町	永禄2年(1559)創建、寛永元年(1624)再建、昭和10年(1935)移築	天正年間、社殿が焼失したところ、永禄2年(1559)に社守宮本三右衛門が神体を守り、小祠を建立し遷宮したことがはじまり。寛永元年(1624)、社殿を再建、昭和10年(1935)に現在地に本殿を移築し、幣殿、拜殿を新築した。当地は、かつて麦島城内の大手口付近にあたる。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
84	C	八千把	市指定有形文化財	書院造りの勇猛山浄沢寺本堂	八代市古閑中町	慶長13年(1608)創建、寛永3年(1626)再興、明治9年(1876)移築、寛文6年(1666)開基	浄沢寺は、もともと五家荘の緒方一家の菩提を弔うために片野川にあった成願寺が、古閑村に移り、寛永3年(1626)に浄沢寺と改められ再興されたもの。本堂は、加藤清正が嫡男・忠正の菩提所として妙見町に建立した本成寺の本堂。その後、細川三斎が泰勝院(後の泰厳寺)を建立する際にこの建物を所望したため、奉納された。明治9年(1876)、泰厳寺が廃された際、落雷により本堂を失った浄沢寺がこの本堂を買い取り、移築。『肥後國誌』には、寛文6年(1666)に起山寺号をこい請けて開基したとある。
85	C	高田	市指定有形文化財	奈良木神社	八代市奈良木町	寛弘2年(1005)創建、文久3年(1863)改築	社伝によると、寛弘2年(1005)に創建され、応永5年(1398)の再建を経て文久3年(1863)に改築し、現在の姿に至ったという。天御中主神、伊弉冉尊、菊理姫尊、健甕命を祭神とする。本人神社境内に観音堂があり、木造十一面観世音菩薩(健指定重要文化財)を本尊としている。社殿の後方右側に八竜社があり、御神体として16本の鉄矛が祀られている。また左側には天神社がある。
86	C	高田	市指定有形文化財	奈良木十一面観音堂	八代市奈良木町	創建年代不詳	奈良木神社の境内に立てられている観音堂。本尊に、県指定重要文化財「木造十一面観世音菩薩」がある。
87	C	高田		豊葦原(遥拝)神社	八代市豊原上町	天平宝字2年(758)勧請、嘉永6年(1853)再建	天平宝字2年(758)、天神地祇16柱を勧請し、神護景雲2(766)阿蘇3坐の神を合祀し高田庄8か村の氏神としたことがはじまりとされる。文中年間(1372~1375)に、懐良親王により社殿の修復が行われ、天正年間(1573~1593)には、古麓城主相良義陽によって祈禱所とされた。その後、小西行長によって社殿が焼失し、寛永10年(1633)に細川氏によって社殿の改築が行われたと伝わる。
88	C	高田		榊田神社	八代市豊原下町	勧請年代不明、寛文2年(1662)の神像あり	勧請年代不明。
89	C	高田		芝原八幡宮	八代市豊原下町	永禄2年(1559)勧請	正平年間に八代に移り住んだという松岡氏が、永禄2年に岩清水八幡宮を勧請する。寛文4年には、高田理右衛門が社殿を改築し、元禄5年に拝殿を造営。明和6年(1769)には、松岡忠九郎が、社殿を新造する(棟札あり)。大正3年、松岡軍次が社殿を再建する。
90	C	高田		正現寺	八代市奈良木町	承応9年(1659、万治元年カ)開基	承応9年(1659、万治元年のことか)、高田理右衛門長房の子林哲が順正寺の末寺として開基。延宝3年(1675)に末寺号を正現寺と改める。
91	C	高田		延崇寺	八代市本野町	天正2年(1574)創建	『八代郡誌』によると、天正2年(1574)平山城主桑原和泉守永清の孫佐伯左兵衛永常が入道して永善と号して創建したという。
92	C	高田		安楽院	八代市高下東町	開基年代不詳、慶応元年(1865)棟札あり	開基年代不明。元は中光寺と号し、平山城主桑原和泉守の祈願所であったという。なお中光寺は字名として現在も残る。
93	C	宮地	県指定重要文化財	八代神社社殿三宇	八代市妙見町	文治2年(1186)創建、元禄12年(1699)、寛延2年(1749)社殿改築、安政4年(1857)頃手洗舎建設	妙見宮として親しまれる当社は、文治2年(1186)、後鳥羽天皇の勅願により建立と伝わる。神宝の四夷剣(市指定文化財)が伝わる。現在の社殿は、元禄12年(1699)と寛延2年(1749)に改築。昭和38年(1962)4月25日、本殿、拝殿、門が熊本県指定文化財となる。
94	C	宮地	市指定有形文化財	懐良親王御筆銘の宝篋印塔	八代市妙見町	弘和元年(1381)	この宝篋印塔は大正5年(1916)に妙見中宮跡地から泉水開堀の際偶然出土したもので、その中宮跡地は親王墓からわずか200m余りの中宮川上流の地にある。本塔は宮内省によって補修が加えられ、大正8年(1919)に玉垣の中に奉安された。この塔には「天授第七辛酉の歳 豊照院禪定尼のために生死を出離し仏果円満なり乃至法界有情平等利益を蒙る」の銘がみられる。また「願主天心叟(懐良親王の別名)彫巧禪秀比丘」の11文字も彫っており、ともに親王御筆の悟真寺御霊牌とまったく同じ筆跡である。「天授第七辛酉の歳」は弘和元年(1381)に当たり、奉納供養されたものと考えられる。高さ136.7cm。
95	C	宮地	市指定有形文化財	加藤清正長男忠正菩提所の泉福山宗覚寺	八代市妙見町	慶長13年(1608)建立、寛永11年(1634)移築、天和3年(1680)本堂創建、明治10年(1877)消失、昭和60年(1985)新築	慶長13年(1608)、加藤清正の嫡男忠正の菩提所・泉福山本成寺として建立。寛永11年(1634)本成寺が八代城下に移転し、草庵をその跡地に建て供養を続けた。延宝8年(1680)に本山から宗覚寺住職を据え、天和3年(1683)に本堂が創建された。明治10年(1877)の西南戦争による兵火で全焼し、昭和60年(1985)に新築。
96	C	宮地	市指定有形文化財	懐良親王菩提所の中宮山悟真寺	八代市妙見町	創建年代不明、元中7年(1390)創建との説あり	懐良親王の菩提を弔うために創建されたと伝わる大原平芳和尚を開山とする曹洞宗寺院。元中7年(1390)創建との説があるが、詳細は不明である。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
97	C	宮地	市指定有形文化財	妙見宮手洗舎	八代市妙見町	安政4年(1857)頃建立	屋根や全体の形が美しく、瓦製の亀蛇が両棟屋根の隅垂木の上に乗っている。また、欄干には松井家の紋、柱には亀甲の模様がついている。寄進者の名前には、帯屋、高瀬屋、松屋、菊池やなどの当時の豪商の名前や大阪商人の名前が見られ、町方の財力を伺い知ることができる。
98	C	宮地	市指定有形文化財	松井家菩提所の江東山春光寺	八代市古麓町	延宝5年(1677)創建	本寺は、八代城主・松井家の菩提所。創建は、天正11年(1583)、松井康之が亡父正之追善のために丹後久美浜に常喜山宗雲寺を創建したことに始まる。その後、豊後杵築、豊前小倉、肥後熊本と移り、延宝5年(1677)、松井直之の代に現在地に移し江東山春光寺と改称。境内の本堂、鐘楼は明治時代の再建であるが、大書院及び庫裏は熊本臨川山松雲院から移築したままの姿である。裏山には、松井家歴代の古廟、新廟と主君に殉じた家臣10名の墓がある。
99	C	宮地	市指定有形文化財	相良義陽の墓	八代市古麓町	延宝7年(1679)カ	相良義陽の首塚と伝わる。義陽は、相良晴広の1子で、弘治元年(1555)に12歳で家督を継ぐ。相良氏は八代・球磨・芦北三郡と天草郡の一部を領有し、その勢いが盛んになろうとするときであった。天正9年(1581)薩摩の島津義久と豊後の大友宗麟との戦いに際し、島津義久は、義陽をその先方として、大友方の重臣阿蘇氏の将甲斐早運との決戦を強いる。義陽は甲斐早運との和親の誓詞と、島津氏の威嚇との板挟みで相良家の将来を苦慮した結果、意を決して出陣し、途中妙見社に戦勝を祈願して響野原(下益城郡豊野村)で甲斐早運と戦った。しかし天正9年(1581)12月2日に響野原で戦死。本墓は、享年38歳。悲運の若將軍だった義陽の首を、その子長毎が当地に葬り、石碑を建てたもの。なお義陽の胴体は響野原に葬られ相良塚として祀られている。
100	C	宮地	市指定有形文化財	永御蔵御門	八代市古麓町	文政5年(1822)の墨書あり 昭和61年(1986)に移築、復元	貞享4(1687)年に、八代城三ノ丸(現在の西松江城町)に設けられた蔵屋敷を「永御蔵」という。城内で必要とされる米を保管していた。御門の懸魚(げぎよ・飾り板)の裏側には「文政五年」(1822)の墨書がある。昭和61年(1986)に松井家の菩提所である春光寺に移設した際、解体調査を行い、建造された当時の姿に近いように復元された。(台帳)
101	C	宮地	市指定有形文化財	川原地蔵堂	八代市東町	万延元年(1860)再建	古麓にあった長福寺の住職辨法印(せいべんほういん)が退職後、故郷川原にもどり宝珠庵を建立し、長福寺に祀ってあった地蔵菩薩像をもらい受けて安置したのがはじまりとされている。万延元年(1860年)に、現在の姿に再建。八代城代松井家の信仰も篤く、堂宇には松井家の家紋である「三ツ笠紋」の彫刻がある。
102	C	宮地		妙見宮の六地藏幢	八代市妙見町	寛文12年(1672)	地藏尊は無仏世界における六道において、衆生に救いの手をさしのべる六道救済を行うため、六つの分身として彫刻される。銘文によるとこの幢は寛文12年(1672)6月に、八代城下の平河原町中によって寄進されている。この年の2月29日八代城では天守閣その他の櫓が落雷によって焼失するという大事件が起き、八代城下が混乱の中にあった。この幢の寄進もそうした状況のもとで、城下の安全と復興を祈願したものと推測される。この幢は本来の位置から2回移転して現在地にある。
103	C	宮地		悟真寺御霊殿	八代市妙見町	大正10年(1921)	懐長親王御自筆の後醍醐天皇、靈照院禪定尼の霊碑を安置するため、大正10年(1921)に建設。設計は近代の代表亭建築家・伊藤忠太氏による。
104	C	宮地		霊符神社	八代市妙見町	大正9年(1920)再興	八代神社(妙見宮)の末社で北辰星を祀る。八代神社(妙見宮)造営とともに勧請。大正9年に再興する。『霊符縁起集』、『八代墾田記』に記載あり。
105	C	宮地		護神寺塔心礎	八代市妙見町	昭和15年(1926)出土	砂岩製。三重の心礎と考えられる。懐長親王御墓境内にあり(八代市の石造物)
106	C	宮地		唐崎神社	八代市西宮町	創建年代不詳	創建年代不詳。近江国の辛崎の神を勧請したものと伝わる。鳥居は、明治38年(1905)に築造。日支事変記念改修碑あり。
107	C	宮地		正法寺跡礎石	八代市西宮町		南都西大寺の末寺であったと伝わる正法寺の礎石と考えられる。砂岩製。
108	C	宮地		古麓稲荷神社	八代市古麓町	延宝5年(1677)移築、安政元年、大正5年(1916)再建	名和氏の時代に創建されたと伝わる。延宝5年(1677)、春光寺落成の際に移築。安政元年に再建、大正5年(1916)に焼失し、同年社殿を再建。
109	D	東陽		瑞宝寺	八代市東陽町河俣	寛文2年(1662)開基	寛文2年(1662)開基。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
110	D	東陽		河俣阿蘇神社	八代市東陽町河俣	創建年代不詳、大正15年(1926)改築	創建年代は不明。伝説では、健緒組命の土蜘蛛征伐にゆかりがある。現在の社殿は大正15年(1926)に改築。社殿背後には昭和4年(1929)に造られた谷川橋が架橋されている。
111	D	東陽		黒木止善館	八代市東陽町河俣	明治35年頃	
112	D	東陽		権三別当堂	八代市東陽町北	創建年代不詳	釈迦院を開基したと伝わる辨善大師の父権三別当の居所で堂は墓所と伝わる。
113	D	東陽		北地藏堂	八代市東陽町北		
114	D	東陽		菅原神社	八代市東陽町北		
115	D	東陽		館原薬師堂	八代市東陽町小浦	昭和38年改築	
116	D	東陽		若宮神社	八代市東陽町南	宝暦3年(1753)移築 再建	天正年間(1573～1591)、阿蘇の分胤大里土佐守が当地に移り住んだ際に創建し、元文元年(1736)に再建したと伝わっている。御神体の背面には、寛永3年(1623)との記録がある。
117	D	泉		下嶽神社	八代市泉町下岳	創建年代不詳、享保18年(1733)再建	下岳地域の氏神とされるが、由緒等は不明である。享保18年(1733)に再建された。
118	D	泉		釈迦院	八代市泉町柿迫	延暦18年(799)創建、明治4年(1871)廃寺、明治22年(1889)復興	延暦18年(799)、僧薬蘭が大地から湧き出した金色の釈迦如来像を本尊として寺院を建立したことによる。江戸時代に成立した縁起書などには、辨善大師によって創建されたと伝わっている。最盛期には、諸坊が75もあったと伝わる八代地域を代表する天台宗の山岳寺院。
119	D	泉		柿迫神社	八代市泉町柿迫	創建年代不明、平成元年(1989)改修	開基年代不明。山王権現と称する。
120	D	泉		光立寺	八代市泉町柿迫	寛永17年(1640)開基	寛永17年(1640)、宗玄が開基。
121	E	泉		保口若宮神社	八代市泉町柿迫	室町時代(14世紀)カ	室町時代初期の創建と伝わる。鬼山御前信仰と関係しており、鬼山御前を祭神の一人としている。
122	E	泉		光立寺	八代市泉町柿迫	承安年中(1171～1175)開基、寛永17年(1641)再建	もとは天台宗寺院として承安年中(1171～1175)に大僧都覚導によって開基されたが小西行長の焼き討ちにあい焼失。宗玄が真宗に帰依し、真宗本願寺派の寺院として寛永17年(1641)に再建された。現在の建物は江戸時代(19世紀)のもの。境内には、熊本藩主・細川綱利の供養塔がある。
123	E	泉		岩奥若宮神社石鳥居	八代市泉町柿迫	大正11年(1922)	
124	D	泉		法泉寺	八代市泉町栗木	明暦2年(1656)開基	明暦2年(1656)開基。寺内に庵室があるが、開基年代は不明。なお、栗木川と本寺前に架けられた高原橋は、明治30年(1902)ころ石工田上基太郎によって建てられ、当時のままの姿を残している。
125	D	泉		栗木六大神社	八代市泉町栗木	創建年代不明、文化10年再建、昭和4年(1929)改修	創建年代不明。伝承によると、391年に創建されたともいわれている。
126	D	泉		法浄寺	八代市泉町栗木	慶安元年(1648)開基	天台宗の古刹であるが、後に真宗に帰依。慶安元年(1648)、隈本藩主細川家の許可を得て栗木村に堂を建立して法浄寺と号した。
127	E	泉		緒方家住宅	八代市泉町椎原	江戸時代中期創建、平成7年(1995)修復	源平合戦に敗れて泉地域に隠れ住んだ平清経の子孫と伝わる緒方家の民家。建物は、江戸時代中期頃のものと考えられる。緒方家は、菅原道真の子孫と伝わる左座氏とともに五家荘の在地支配をになった。
128	E	泉		仁田尾神社	八代市泉町仁田尾	創建年代不詳、天正15年本殿建立、明和3年(1766)建替、安政2年(1855)補修、平成23年(2011)移築	伝承によると、延長元年(923)、菅原道真の子孫左座太郎による創建という。本殿の棟裏には、天正15年(1587)建立、御神体裏の棟札には明和3年(1766)造替と記されている。安政2年(1855)に補修、平成23年(2011)に現在地へ移築。
129	E	泉		左座家住宅	八代市泉町仁田尾	明治時代前期	菅原道真の子孫といわれ、大庄屋をつとめた左座家の居宅。
130	E	泉		小原神社	八代市泉町仁田尾	応永年間(1394～1428)創建カ	阿蘇神社の流れをくんで創建されたもので、応永年間(1394～1428)に建立されたものと伝わる。当時の左座太郎の関係者枝川家によって勧進されたとの伝承がある。
131	E	泉		葉木神社	八代市泉町葉木	創立年代不明(郡誌)	
132	E	泉		樅木神社	八代市泉町樅木	創建年代不詳	左座氏の勧請との伝承がある。祭礼は、10月に五穀豊穡を祈念する祭りが行われ、樅木神楽の奉納が行われている。
133	E	泉		伊藤家(平家の里)	八代市泉町樅木		
134	E	泉		和田家納屋(平家の里)	八代市泉町樅木		
135	E	泉		松田家(平家の里)	八代市泉町樅木		
136	F	金剛		敷河内神社	八代市敷河内町	延長7年勧請、明和2年宝殿、慶応元年拝殿を再建(郡誌)	

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
137	F	金剛		年の神	八代市敷河内町		
138	F	龍峯		法輪寺	八代市岡町小路	寛永元年(1624)創建	寛永元年(1642)創立。境内に明治5年(1872)に建立された慶信庵という庵室がある。
139	F	龍峯		玉泉寺	八代市岡町中	平安時代末期(12世紀)頃開基	嘉応から承安年間に月山禅誉によって開山と伝わる。天正の頃、相良義陽が祈願所として荘田を寄付している。小西行長により堂宇が焼失。慶長6年(1601)に草堂を建立して本尊を安置した。延宝6年(1678)には釈迦院禅瑞和尚の発願により仏堂を建立。
140	F	龍峯		岡中神社	八代市岡町中	創建年代不明、元禄年間(1688~1703)移築、明和3年(1766)再建	創建年代は不明であるが、伝承によると名和氏の家臣佐々木宮内左衛門という人物が勧請したという。七社大明神とも称される。元禄年間(1688~1703)、社殿を現在地に移築。明和3年(1766)に再建する。
141	F	龍峯		菅原神社	八代市岡町谷川	創建年代不詳	創建年代不明。藤原道真をまつる。
142	F	龍峯		熊野権現社	八代市興善寺町		
143	F	龍峯		興善寺廃寺跡塔心礎	八代市興善寺町		
144	F	龍峯		光厳寺	八代市興善寺町	天正17年(1579)創建	天文元年(1579)創立。境内に光勝寺や善覚寺等の寺院がある。光勝寺は、宝暦十三年(1763)。善覚寺は、元文元年(1736)創立。
145	F	龍峯		荒平神社	八代市興善寺町	創建年代不詳、明治5年龍峰山上より移転	創建年代不明。荒平宮や興善寺神社と称していたが、大正6年(1921)頃、荒平神社と名称を変える。明治5年(1872)に勧請した龍峰山上から現在地に移転する。
146	F	龍峯		川田熊野座神社	八代市川田町東	創建年代不明、正徳3年(1713)、文化12年(1815)再建	創建年代不明。宝暦3年の記録によると、妙見社より百年前に奥州より勧請したという。棟板には、正徳3年(1713)、文化12年(1815)に再建したと記されている。
147	F	龍峯		西川田観音堂	八代市川田町西		
148	G	坂本	市指定有形文化財	百済来地蔵堂	八代市坂本町百済来下	宝亀元年(770)創建、慶長7年(1602)焼失、慶長9年(1604)再建、文政3年(1820)再建、大正3年(1914)拝殿建立(文政3年)再造営、大正3年(1914)拝殿造立	市指定有形文化財「百済来地蔵堂」は、本堂、仏像3、梵鐘1、鯛口2、古位牌1、日羅公墓、宝篋印陀羅尼塔1、板碑1、五輪塔群などをまとめて指定したもの。宝亀元年(770)八代郡司檜前中納言政丸により、日羅の後裔加津羅家に伝えられていた仏像(現本尊)を日羅の墓印として、地蔵堂を建立したのが始まりと伝えられている。その後本堂は、慶長7年(1602)焼失、同9年(1604)再建、文政3年(1820)再造営、明治44~45年(1911~1912)境内拡張、大正3年(1914)拝殿建立、昭和30年(1955)本堂瓦葺に改築、昭和52年(1977)拝殿を改築した。本尊の延命地蔵菩薩は第30代敏達天皇元年(572)に日羅が百済国から父の芦北国造阿利斯登に贈ったものと伝わる。
149	G	坂本		原女木八幡宮	八代市坂本町西部	創建年代不詳	創建年代不明。社殿内には、木造座像が1体鎮座している。像の台部分には、「享和二年」や「明治十一年旧曆小額 奉彩色正八幡宮 細工人片野川村山辺旭城」等の銘がある。
150	G	坂本		今泉観音堂	八代市坂本町西部	創建年代不詳	創建年代不明。本尊に木造観音菩薩立像があり、脇侍に木造観音菩薩座像2躯がある。
151	G	坂本		古田阿蘇神社石鳥居	八代市坂本町西部い	元禄9年(1696)	古田阿蘇神社の石造りの鳥居。柱銘に「元禄旧年丙子三月吉祥日 石工 肥前住村山 兵太夫 下松熊村庄屋 佐々木次兵衛尉」とあり、以下に下松熊村頭百姓13名の名が記されている。
152	G	坂本		古田阿蘇神社	八代市坂本町西部い	天平神護年間(765~767)創建、昌泰3年(900)遷座、天正年間(1573~1593)焼失、後再建、明和3年(1766)、文化6年(1809)、文政4年(1821)、弘化3年(1846)、明治35年(1902)改築	天平神護年間(765~767)に阿蘇4柱を勧請して創立。昌泰3年(900)、現在地に遷座。天正年間(1573~1593)に小西行長の兵火にあい社殿を焼失し、後に加藤清正によって再建したと伝わる。現在の社殿には、文化(1809)、弘化3年(1846)の棟札がある。
153	G	坂本		法讃寺	八代市坂本町西部ろ	天正9年(1581)頃創建、天正年間(1573~1593)焼失、後再建、昭和62年(1986)葺き替え、内装改修	明治7年(1874)に当寺9世岩坂徳山から白川県権令に提出された「開祖附」によると、佐々木盛綱の子孫である岩坂則綱が肥後国で浪士として流れ着いた後、天正9年(1920)頃に出家して本寺を建立したという。後に小西行長によって焼き討ちにあい、加藤氏時代に泉村で寺を再建したと記録されている。さらに寛文6年には、本山より寺号法讃寺を請け、現在にいたる。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
154	G	坂本		生名子地藏堂	八代市坂本町中谷	創建年代不詳	個人宅横の木造瓦葺の地藏堂。中央に本尊として木造地藏菩薩立像があり、左右に脇侍が各1体ずつ置かれている。本尊台座には「生名子村立像式尺 享保十二年九月十一日 地藏像改刻名和屋基八郎七十九才 再色也矢」とあり。
155	G	坂本		木々子地藏堂	八代市坂本町中谷い	創建年代不詳	室内には、木造地藏菩薩立像や「宝暦四年」の銘をもつ木造掌善童子立像、木造掌悪童子立像、木造毘沙門天立像、「寛文2年」の銘をもつ十一面観音菩薩立像など計8軀を安置している。
156	G	坂本		責の観音堂	八代市坂本町鮎婦	創建年代不詳、昭和10年(1935)頃改築	創立年代は不明であるが、正面の鰐口に「正徳三年」の銘がある。地元の人々からは「氏神さん」と親しまれているが、本尊は木造の十一面観音像である。台座には「明治三拾八年旧七月十五日」と記されている。境内には、コンクリート製の祠があり「責の地藏さん」と呼ばれている。
157	G	坂本		早水薬師堂	八代市坂本町鮎婦	永禄9年(1566)と本尊に銘あり	薬師如来木立像を本尊として脇仏に日光、月光、十一面観音、十二神将等を備えた天台宗の堂宇。本尊は、京都物資の日高秀長の作で、「永禄九年」の銘が確認でき、この頃には、栄えていたものと考えられる。
158	G	坂本		西福寺	八代市坂本町鮎婦	永禄9年(1565)開基	明治7年に当寺から白川県権令に提出された「先祖附」によると、永禄9年(1565)に山本越前守武重の三男熊丸が法名を山入と改め開基したといわれている。しかし、これより以前に開基したとの説もあり、詳細は不明である。
159	G	坂本		崇光寺	八代市坂本町坂本	元禄元年(1688)開基、天明6年(1786)焼失、寛政2年(1790)移築	元禄元年(1688)、教念が開基。天明6年(1786)火災により焼失、寛政2年(1790)現在地へ移築。
160	G	坂本		松崎地藏堂	八代市坂本町坂本	創建年代不詳、明治初期堂宇建立	創建年代不明。本尊に木造地藏菩薩立像がある。堂宇は、明治初期に建立されたと伝わり、昭和27年(1952)以降、何度か屋根の改修が行われている。室内には鰐口がある。
161	G	坂本		合志野地藏堂	八代市坂本町荒瀬	創建年代不詳	創建年代は不明だが、本尊の木造地藏菩薩立像の台座に「嘉永五年」の銘がある。
162	G	坂本		藤本五所神社	八代市坂本町葉木	創建年代不詳、大永年間(1521～1528)及び慶長年間(1596～1615)に再建	創立年代は不明であるが、延暦年間(782)に創建とされ往古は大社であったと伝わる。大永年間に古麓城主相良長毎が再建し、天正年間(1573～1593)には、小西行長によって焼失。計兆年間に加藤家が再建したという。石鳥居には「元禄14年」の銘と「上松熊庄屋 鶴山藤右衛門 惣百姓中」と記されている。
163	G	坂本		藤本天満宮	八代市坂本町葉木	創建年代不詳、昭和30年(1955)移築	もとは別の場所にまつてあったが、兼営藤元発電所の建設に伴い、現在地に移転改築された。「昭和三年天皇即位記念 菅公千二十五年記念改築」の上棟札がある。すぐ近くには、市指定有形文化財「小崎眼鏡橋」がある。
164	G	坂本		下葉木観音堂	八代市坂本町葉木	創建年代不詳、安政3年(1856)本堂再建、大正8年(1919)本堂改築	建立年代不明。本尊は聖観音菩薩で脇侍に十一面観音、不動明王を堂宇に安置する。安政3年(1856)、堂宇再建の上棟札あり。大正8年(1919)に本堂改築、昭和53年(1977)に屋根瓦の葺き替えを行った。室内鰐口1個、天井絵馬111枚がある。
165	G	坂本		上葉木の観音堂	八代市坂本町葉木	創建年代不詳、寛政3年(1791)堂建立	創立年代は不明。室内には、4体の仏像を安置している。「寛政三年」と記された上棟札があり、室内には、鰐口1個と天井に絵馬67枚がある。地元の人々からは「氏神さん」と呼ばれている。
166	G	坂本		正善寺	八代市坂本町葉木	明治30年(1899)	本尊は阿弥陀如来。明治30年(1899)に日奈久西宝寺の説教所として開設したという。
167	G	坂本		下鎌瀬観音堂	八代市坂本町鎌瀬	創建年代不詳、享和元年(1801)焼失、享和3年(1803)再建、平成7年(1995)縁側修復	創建年代不明。本尊は、木造十一面観音菩薩立像。釈迦如来等6体の脇侍仏をまつ。享和元年(1801)に堂宇を焼失した。現在の堂宇は、享和3年(1803)の再建されたもので、上棟札が残っている。室内に鰐口1個、絵馬2枚、天井絵馬87枚がある。平成7年(1995)に縁側を修復。
168	G	坂本		中津道阿蘇神社	八代市坂本町中津道	永禄12年(1569)銘のある絵像あり	社殿内には祭神である阿蘇神の健磐龍命、比咩御子明神が神鏡、自然石とともに同殿してある。また、永禄12年(1569)3月の記年銘を有する円盤形板に描かれた観世音菩薩絵像や金銅製懸仏7枚が同殿されている。当社の中道観音堂という寺跡堂があり、阿弥陀如来等を併祀している。
169	G	坂本		中津道の観音堂	八代市坂本町中津道	創建年代不詳	創建、堂宇の建立年代は不明であるが、室内の阿弥陀如来三尊には「永禄十二年己巳十二月吉に地」の銘がある。室内には、阿弥陀如来をはじめ、観音菩薩など6軀の仏像が安置されている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
170	G	坂本		葉山神社	八代市坂本町市ノ俣	創建年代不詳、大正8年(1919)改築、昭和15年(1940)修理	創建年代は不明であるが、八黒神社(人吉市)より勧請したと伝わる。内陣に鏡が5つ、十文字槍が1本あり。大正8年(1919)に改築、昭和15年(1940)修理
171	G	坂本		市ノ俣観音堂	八代市坂本町市ノ俣	創建年代不詳	創建年代は不明であるが、堂内に「宝暦九年」や「嘉永六年」と記された木札が安置されているほか、「元文五年」の銘がある線香立がある。本尊は、木造観音菩薩立像で脇侍2躯がある。
172	G	坂本		光専寺	八代市坂本町川嶽	創建年代不詳	明確な創立年代は不明だが、17世紀末から18世紀初期であると考えられている。また、有佐村安楽寺住職の次男了吟が開基したと伝わる。
173	G	坂本		瀬戸石簡易水道	八代市坂本町川嶽	昭和6年(1931)築造	昭和6年(1931)築造。
174	G	坂本		中鶴地藏堂	八代市坂本町鶴喰	創建年代不詳、文政13年(1830)の上棟札、明治19年(1886)改築	創建年代不明、本尊の木造地藏菩薩の台座には「永正十年」の銘がある。また棟房には、「文政十三年四月上旬」、「明治十九年二月十五日」に改築した記録がある。現在の堂宇は昭和48年(1973)に改築されたもの。堂内には嘉永2年(1849)6月、明治5年(1872)をはじめとする40枚もの天井絵馬がある。このほか無銘の鰐口が2つ奉納されている。
175	G	坂本		中畑観音堂	八代市坂本町田上	享保14年(1729)本堂建立、嘉永3年(1850)再建	創建年代不明、本堂には「享保十四年八月二十四日」と記された上棟札と「嘉永三年二月」と記された再建上棟札がある。また境内には、樹齢500年と推定される大杉がある。堂内には絵馬、鰐口が奉納されている。
176	G	坂本		久多良木神社	八代市坂本町百済来下	創建年代不明、天正年間焼失、嘉永7年(1854)拜殿、幣殿造営	永享9年(1429)建立との伝承がある。天正年間(1573~1593)に小西行長の焼き討ちにあい、明暦元年(1655)に葦北郡代田浦助兵衛の沙汰により再建。嘉永7年(1854)拜殿、幣殿を建立し、昭和37年に神殿茅葺を銅板葺に改築した。
177	G	坂本		久多良木神社石鳥居	八代市坂本町百済来下	宝暦11年(1761)建立	久多良木神社の石鳥居。銘文に「奉寄進 宝暦十一年九月 両久多良木村惣氏子中 石工 政右衛門」とある。
178	H	日奈久	国登録有形文化財	金波楼本館・大広間棟・正門及び塀	八代市日奈久上西町	本館:明治42年(1909)、大正3年(1914)増築 大広間棟:昭和13年(1938) 正門及び塀:昭和初期	旅館金波楼は、現存する日奈久の旅館の中でも、最も大規模な老舗旅館である。木造三階建ての本館は、明治42年(1909)、当主の松本岩三郎が地元の大工・牧喜太郎に依頼して建てたもの。北東側のL字型部分は、大正3年(1914)、当時隣接していた本伊勢屋を買収して接続したもので、東側奥に接続する大広間棟は、昭和13年(1938)、2代目謙吉が熊本市内の大工に造らせたもの。
179	H	日奈久	市指定有形文化財	日奈久温泉神社本殿	八代市日奈久上西町	応永26年(1419)創建、文政5年(1822)、大正4年(1915)再築	湯の神・市杵島姫命を祭神とし、応永26年(1419)に弁天社として建立。初めは今の温泉センターの場所にあつたが、天明・文化の大火で町の大半が焼失したため、文政5年(1822)に温泉街を見下ろせる現在地に移された。神殿には正面に「雲に龍」、左側に「桐に鳳凰」、右側に「雲に麒麟」、後ろに「波頭」の彫刻がある。天保11年(1840)の地震で倒壊。大正4年(1915)に再築される。当時の棟梁は明治の本湯改築も務めた田田喜藤次。
180	H	日奈久		日奈久阿蘇神社	八代市日奈久大坪町		
181	H	日奈久		竹之内神社	八代市日奈久竹之内町	平成元年改修	
182	H	日奈久		竹寄家住宅	八代市日奈久東町	文政2年(1862)頃築造カ	かつての日奈久の町並みを偲ばせる家屋。文久2年(1862)頃に建てられたと考えられる。
183	H	日奈久		村津家住宅	八代市日奈久東町	文久2年(1862)築造	文久2年(1862)築造の家屋。江戸時代、日奈久温泉街にて大火が続いたことにより、土蔵造りの家主流となった。村津家もそのひとつで、ナマコ壁をもつ。
184	H	日奈久		旧おりや	八代市日奈久中町	昭和5年(1930)頃移築	俳人種田山頭火が泊まった宿。山頭火が泊まった昭和5年(1930)当時のままの姿が残っている。昭和5年に現在地へ移築された。昭和55年(1980)以降、住居として利用されている。
185	H	日奈久		八代屋旅館	八代市日奈久中町	明治10年(1877)頃	明治期に木賃宿として開業。柱に西南戦争の砲弾跡が残る。
186	H	日奈久		柳屋旅館	八代市日奈久中町	明治32年(1899)築造、昭和12年(1937)増築	西棟は明治32年(1899)築造、棟梁は野中勘五郎。東棟は昭和12年(1937)築造、棟梁は高岡留太郎。
187	H	日奈久		新湯旅館	八代市日奈久中町	大正14年(1925)築造、昭和12年(1937)増築	大正14年(1925)築造、木造。棟梁は山本源太。昭和12年(1937)に3階部を増築。
188	H	日奈久		旧すみ田	八代市日奈久中町		
189	H	日奈久		善立寺	八代市日奈久中町	1840頃改築。昭和29大改修。	

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	備考(沿革等)
190	H	日奈久		鏡屋	八代市日奈久上西町	明治 20 年(1887)	明治 20 年(1887)に開業した旅館。日奈久で、現在営業している旅館では最古。
191	H	日奈久		長洲屋旅館	八代市日奈久上西町	明治 42 年(1909)築造	明治 42 年(1909)築造、木造。西棟は、大正 10 年(1921)頃に買収したもの。
192	H	日奈久		旅館泉屋	八代市日奈久上西町	昭和 2 年(1927)築造	昭和 2 年(1927)築造、棟梁は金崎久太郎。
193	H	日奈久		幸ヶ丘旅館	八代市日奈久上西町	昭和 33	
194	H	日奈久		西宝寺	八代市日奈久上西町		
195	H	日奈久		旧多幸満荘	八代市日奈久中西町	不明	木造。
196	H	日奈久		松の湯	八代市日奈久中西町	昭和 6 年(1931)築造	昭和 6 年(1931)築造、棟梁は金崎久太郎。
197	H	日奈久		不知火ホテル	八代市日奈久中西町	昭和 36 創業	
198	H	二見		二見阿蘇宮	八代市二見本町		
199	H	二見		二見阿蘇宮石鳥居	八代市二見本町	嘉永 3 年(1850)	
200	H	二見		下大野神社	八代市二見下大野		
201	J	代陽	国登録有形文化財	シャルトル聖パウロ修道院記念館	八代市通町	明治 33 年(1900)	八代白百合学園内に建つ木造洋風建築。明治 33 年(1900)、八代において貧しい病人や孤児の救護にあたったスール(仏語でシスターのこと)たちの修道院として建設され、救護活動の拠点となった建物である。大きく張り出したベランダは、明治期にインド経由で日本に伝わったベランダコロンIALの特徴。同様の建築形式を持つ現存例は熊本県内でも珍しく貴重である。
202	J	代陽	国登録有形文化財	シャルトル聖パウロ修道女会八代修道院煉瓦塀	八代市通町	大正 8 年(1919)	市内中心部にある修道院の敷地境界塀の一部で、街路に面した敷地東面北半に建つ。高さ 1.8 メートル、躯体は煉瓦を長手積にし、規則的に柱形をつくり出す。頂部は、二段の蛇腹上に煉瓦で切妻屋根をつくっている。建築当時の古写真が現存している。
203	J	松高		石灰焼成窯跡第 5 号窯	八代市大島町	明治時代初期(19 世紀)築造	明治時代初期築造。
204	J	八千把		産島石灰焼釜跡	八代市古閑浜町	創建年代不詳	石造。
205	J	日奈久		日奈久温泉駅 本屋	八代市日奈久塩北町	大正 12 年(1923)創建、後改修	大正 12 年(1923)に福岡―八代間の鉄道開通に伴い築造。屋根や外壁等は修理されているが、柱や場所は当時のまま。
206	J	日奈久		日奈久温泉駅 旅客上屋	八代市日奈久塩北町	大正 12 年(1923)	大正 12 年(1923)築造、鉄筋造り。
207	J	日奈久		日奈久温泉駅 詰所二号	八代市日奈久塩北町	昭和 15 年(1940)	昭和 15 年(1940)築造、木造。
208	J	坂本		瀬戸石駅 旅客上家	八代市坂本町	明治 43 年(1910)	明治 43 年(1910)築造、木造。
209	J	鏡		有佐駅 本屋	八代市鏡町下有佐	大正 14 年(1925)	大正 14 年(1925)築造、木造。

参考文献

- 熊本県教育会八代郡支会編『八代郡誌』(熊本県教育会、1972 年)
- 熊本日日新聞情報文化センター編『泉村誌』(泉村、2005 年)
- 永松豊蔵編『鏡町史 上巻』(鏡町役場、1982 年)
- 中原文敬『日奈久の歴史―郷土史―』(日奈久の歴史出版後援会、1970 年)
- 後藤是山編『肥後國誌 上巻』(青潮社、1972 年)
- 後藤是山編『肥後國誌 下巻』(青潮社、1972 年)
- 坂本村村史編纂委員会編『坂本村史』(坂本村村史編纂委員会、1990 年)
- 『坂本村の文化財散歩』(坂本村教育委員会、1993 年)
- 坂本村の文化財散歩(続編)』(坂本村教育委員会、1998 年)
- 『東陽村史』(東陽村役場、1992 年)
- 上米良利晴編『熊本県神社誌』(高野和人、1981 年)

歴史文化遺産一覧 2. 有形文化財（美術工芸品等）

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
1	A	鏡	市指定有形文化財	六角堂	八代市鏡町宝出	昭和8年(1933)	個人所蔵	昭和8年(1933)鏡町出身の赤星陸治の妻が亡くなり、翌年その供養のために建立したものの。 椀の一木造で、右手に施無畏印を結び、左手は葉壺(やくこ)を持ち、蓮華座の上に立っている。ほほやあごが柔らかにふくらみ、口が小さく引き締まり、長い眉・蒙古ひだの眼・張った鼻翼・厚い上唇など平安前期の特徴が見られる。膝の部分の衣紋線が中央に寄っていることも平安前期に流行した様式であるが、体のボリュームがないことや、髪線線の形などから判断して室町時代の作と思われ、平安時代の仏像を模したものと考えられる。像高 76.5cm。
2	C	代陽	国指定重要文化財	木造薬師如来立像	八代市袋町	南北朝時代(14世紀)	医王寺所蔵	雲生は備前宇甘に住した鍛冶で、現存する雲類(銘文に雲の字を冠するのでこの名がある)の中でもっとも古い刀工で、鎌倉末期、嘉元(1303)頃栄えた刀工であり、他に雲次、雲重などがある。この刀は大きく磨上げられているが、雲生の所伝は正しく、堂々たる体配、地肌は小板目がつき沸つき刃文は浅く、湾ごころの直刃を焼き、小足、葉などの景色を交え、匂口は柔らかいである。
3	C	代陽	国指定重要文化財	刀 無銘 伝雲生	八代市西松江城町(寄託)	刀身 鎌倉時代(14世紀) 拵 江戸時代(19世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵 八代市立博物館寄託	平石如砥(1266~1357)は中国元時代後期の禅僧。南宗の仏鑑禪師・無準師範一西岩了恵一東巖浄日に続く法系を受け、明州慶元府・天童山景德禪寺を嗣席した。本墨蹟は、平石が82歳のとき、わが国遠江出身で入元していた竺芳祖裔(1313~1394)に書き与えた七言の偈である。竺芳は、後に建仁寺六十世、ついで至徳3年(1386)には南禅寺四十五世を嗣席し、建仁寺塔頭海雲院を開き82歳で寂した。その入元の時期や事情は明らかでないが、本墨蹟が書かれた至正9年(1349)は入元中で竺芳36歳にあたり、初めに見える「本覚裔藏主」の語から、すでに彼の地の浙江省嘉興県本覚禪寺で藏王の地位にあったことがわかり、竺芳入元中の確実な史料としても注目される。平石の墨蹟は本幅のほかすでに6幅が世に知られているが、本幅はその最晩年のものとして注目される。
4	C	代陽	国指定重要文化財	平石如砥墨跡(与竺芳祖裔偈・至正九祀巳丑秋) 附・玄圃霊三添状并六月三日古田織部書状二通	八代市北の丸町	至正9年(1349)	一般財団法人松井文庫所蔵	中央に達磨、左右には水面に浮かぶ鴨を描き、朱文壺形宝字の捺印がある。宮本武蔵は、寛永17年(1640)に熊本藩に客分として招かれた。松井寄之は、武蔵の門人でもあり、親交が深かったため、松井家には、武蔵の遺品が伝わっている。本品もそのひとつであり、これは武蔵が興長の請いによって画いたものと伝わる。
5	C	代陽	国重要美術工芸品	紙本墨画中達磨左右鴨図宮本武蔵筆三幅	八代市北の丸町	江戸時代(17世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	備前国の刀工・正恒による。平安末期から鎌倉初期にかけて栄えた古備前物は、友成と正恒が著名。正恒は備前にも古青江正恒がいるが、この刀は、備前国の刀工正恒。古備前の作風はおおよそに似ているが、友成・正恒の場合の作風をくらべると、姿の点では友成がすぐれ、鍛元の点では正恒がすぐれているようである。この刀は長寸のものを磨き上げ、銘を残して折返しにしたものである。地肌はよくぬれ、小板目で刃文は中直刃調で丁子が交じり、沸が付き、小足、葉がしきりに入り、きれいな小丸の帽子など、この工の代表作である。
6	C	代陽	国指定重要美術品	刀 折返銘正恒一口	八代市西松江城(寄託)	刀身 平安時代(12世紀) 拵 江戸時代(19世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵 八代市立博物館寄託	身幅が広く、鋒の延びた豪快な姿に南北朝時代の特徴が表れている。備中国で活躍した青江派によるもの。
7	C	代陽	国指定重要美術品	刀 無銘伝青江一口	八代市西松江城(寄託)	刀身 南北朝時代(14世紀) 拵 江戸時代(19世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵 八代市立博物館寄託	盛光寺は細川三斎が豊前中津に建立した西光寺が始まりで、細川家の転封に伴い八代に移され、その後寺名を盛光寺と改めた。この阿弥陀如来像は、椀の寄木造で、高い肉髻、まっすぐな髪際線、乱れずに流れる衣文線などに平安時代後期の様式が現れています。また衣文線の彫りの力強さは次の鎌倉時代の特徴でもあり、平安から鎌倉時代の過渡期に製作されたものと考えられる。また洗練されたからだのフォルムや衣文線の表現から、奈良仏師の作と推定される。像高 69.5cm。
8	C	代陽	県指定重要文化財	木造阿弥陀如来坐像	八代市西松江城町(寄託)	鎌倉時代初期(12世紀)	盛光寺所蔵 八代市立博物館寄託	本像が作られたのは、鎌倉時代後期。椀の寄木造り。台座は七重蓮華座で、宝冠・冠帯・瓔珞で飾り、極彩色の裳を着け、左手に蓮華を持ち、右手は施無畏印を結ぶ。腰を右にひねり、左足を軽く踏み出した姿で、光背は拳身光の光線部を三段の雲煙光にし、外周部は雲煙の端を平行曲線にそろえた透かし彫りの舟形光背である(江戸時代の補作)。像高 76.5cm。
9	C	代陽	県指定重要文化財	木造聖観世音菩薩立像	八代市袋町	鎌倉時代(14世紀)	医王寺所蔵	小早川家に伝わる11点の古文書。文永4年(1267)から元亨4年(1324)までのものと、天正19年(1591)のものが1点ある。この時期の八代荘について記されたものは少なく、貴重な歴史資料である。なお、11点の内訳は、①預所某宛行状、②預所沙弥某宛行状③地頭藤原盛綱下文、④兵庫助某宛行状、⑤紀末守宛行状、⑥藤原信氏宛行状、⑦政所代某等連署、⑧給主代某等連署下文、⑨家弘宛行状、⑩某宛行状、⑪小西行長宛行状
10	C	代陽	県指定重要文化財	小早川家文書	八代市西松江城町(寄託)	文永4年(1267)~天正19年(1591)	個人所蔵 八代市立博物館寄託	

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
11	C	代陽	県指定重要文化財	鐔 林又七作 三階松透	八代市西松江城町	江戸時代(17世紀)	八代市立博物館所蔵	三段になった松の樹を圖案化して透かし彫りにする。松葉、幹などに毛彫りを入れる。鉄地はよく鍛えられ、やや茶味がかかった黒色。毛彫の線が磨耗のため薄れているが、のびのびした線で気持ちのよい作品である。釜蓋上下に真金を入れる。
12	C	代陽	県指定重要文化財	宮本武蔵書状	八代市西松江城町	寛永17年(1640)	八代市立博物館所蔵	宮本武蔵(1584?～1645)直筆の書状。今日、武蔵の直筆と確認される書状は、本状と東京都青梅市の吉川英治記念館所蔵の2通だけで、きわめて貴重な資料です。寛永17年(1640)のもので推定され、天草・島原の乱後の武蔵の動静がわかる。「二天記」によれば、武蔵は寛永17年2月に江戸で細川忠利に仕官のための口上書を提出しており、6月の忠利の帰国に前後して、肥後を訪れたものと考えられている。書中には、旧知の長岡佐渡守(松井興長)に面談したい旨が述べられているが、その折、武蔵は己の身の振り方について話をする意図があったと推察される。翌8月12日には興長の尽力によって武蔵の肥後への招聘とその処遇が決定している。
13	C	代陽	県指定重要文化財	光圓寺の梵鐘	八代市通町	慶長19年(1614)	光圓寺所蔵	もとは、細川忠興が亡き織田信長を供養するために建立した泰岩寺に懸けられていたもの。銘文によると、慶長19年(1614)の織田信長の三十三回忌に際し、小倉城下の泰岩寺で「大仏事」を行うとともに、本梵鐘をつくったと記される。寛永9年(1632)細川家の肥後転封に伴い、忠興が八代に入城すると、翌寛永10年(1633)に泰岩寺も八代へ移った。追銘には、明治維新に至り、泰岩寺が廃寺となると本梵鐘も処分されようとしたが、その価値を惜しんだ光圓寺関係者の奔走により明治24年(1891)に同寺に移されたことと記されている。総高123.0cm(鐘身高96.0cm、竜頭高27.0cm)、口径71.3cm。
14	C	代陽	県指定重要文化財	千利休の文一絶筆(二月十四日)	八代市北の丸町	天正19年(1591)2月14日	一般財団法人松井文庫所蔵	千利休が、松井康之に宛てた絶筆。本文は、豊臣秀吉の逆鱗に触れ、命により自刃する2週間前に京から堺へ向かう途中、淀の船場で密かに利休を見送った細川忠興と古田織部へ感謝を伝えるもの。利休は、天正19年(1591)2月28日に自刃。
15	C	代陽	市指定有形文化財	医王寺の浄心石塔	八代市袋町	正平16年(1361)	医王寺	医王寺(市指定文化財)の本道の右手前に安置されている。この石塔は凝灰岩製の割石を利用したもので、四面それぞれに蓮座に安坐した仏菩薩が見らる。銘に「願主西口居士 大工沙弥浄心 正平十六年六月廿九日」とある。
16	C	代陽	市指定有形文化財	加藤正方画像	八代市本町一丁目	江戸時代(18世紀～19世紀)	浄信寺所蔵	加藤正方は、加藤右馬允可重の次男で、加藤忠広に仕えた。2万石を領し、父可重の跡を継いで内牧城主となったが、元和元年(1615)、一国一城制により八代城へ移った。寛永9年(1632)、忠広の除封後は、浪人となり、後に安芸松平家のお預となる。慶安元年(1648)、享年69歳で没。本画像は、記録や伝承はないが、作風から江戸時代後期の矢野派の作とみられ、矢野良勝が有力視される。
17	C	代陽	市指定有形文化財	加藤可重画像	八代市本町一丁目	江戸時代(17世紀)	浄信寺所蔵	慶長9年(1604)8月29日没に没した加藤正方の菩提寺法名了覚院殿浄信日敬居士。はじめ内牧東北山麓に葬られたが、その子正方がその菩提を弔うため同地に浄信寺を建立した。同17年、清正の子忠広が幼少のため、正方が幕府の命により八代城代となり二万石を有するに及び、同寺も八代に移した。作者は不明だが、清正が熊本城障壁画を描かせるために京都から招いた狩野永徳の四男・源七郎喬信らによって描かれたとみられる。没年から程遠くないころの制作と思われ、肩衣袴姿の肖像画は、この時期の新しいファッションで、加藤家一族の進取の気風をもうかがわせる。
18	C	代陽	市指定有形文化財	了覚山浄信寺の本尊(三宝諸尊)	八代市本町一丁目		浄信寺所蔵	多宝如来像(像高21.4cm)、釈迦如来像(像高21.9cm)からなる。総高122cm。受座支柱墨書に「林忍水同性右近了覚山第六世日明 施主宿善院一法宗徳 仙通院一法如日直 享保十一丙午九月八日奉再興…京柳馬場通松原下所大仏師、敷加子銘文に「宝暦八〇〇天七月朔日 〇七世龍山院日瑞口」などとある。
19	C	代陽	市指定有形文化財	加藤正方 浄信寺領宛行状	八代市本町一丁目	寛永7年(1630)	浄信寺所蔵	加藤正方が、浄信寺に大牟田村の海辺を開発した地50石を寄進する旨を記したもの。寄進の理由は父可重の供養のためと記されている。
20	C	代陽	市指定有形文化財	加藤正方 臨終の言葉と辞世	八代市本町一丁目	慶安元年(1648)	浄信寺所蔵	慶安元年(1648)9月、加藤正方が没する直前に自ら認めた時世で、父可重の菩提所である浄信寺の伝わり、正方の遺臣(親族か)の間瀬太郎に宛てたもの。他に広島加藤家に伝来したものと2通が現存している。
21	C	代陽	市指定有形文化財	安養寺の楼閣造内陣厨子	八代市本町三丁目		安養寺所蔵	安養寺の内陣厨子は、天守閣を模した楼閣造りで2重屋根。上層は入母屋造りで正面に千鳥破風があり、下層は正面唐破風で、全造り漆地金箔塗り。
22	C	代陽	市指定有形文化財	朱柄の槍	八代市西松江城町(寄託)	室町時代(16世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵 八代市立博物館寄託	松井康之が、京都本園寺の戦功により足利義昭から拝領したものの。無銘で、作者は不明であるが、穂先が正三角で、短寸であること、けら首がやや長つくりであること等、室町時代後期の特徴をもつ。柄は全体に籐が千段巻で上から朱漆が塗られている。
23	C	代陽	市指定有形文化財	大塚古墳出土人物埴輪	八代市西松江城町	古墳時代(6世紀)	八代市教育委員会所蔵	昭和42年(1967)の大塚古墳発掘調査で出土。この人物埴輪は、女性の頭部で、九州では珍しいものである。頭にまげを結び、頬に丹を塗ってあるほか、耳輪をつけている。華と前額部が欠けている以外は、ほぼ完全に近い形である。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
24	C	代陽	市指定有形文化財	須恵器樽形はそう	八代市西松江城町	古墳時代(5世紀)	八代市教育委員会所蔵	清水町洗切貝塚出土。胴の張った横長の太鼓形で、中央の上部に瓶の口と小孔があり、底部は別に作らず丸底にするという珍しい型をしている。大きさは高さ22.4cm、胴の長軸20.0cm、胎土は少し荒いが焼成は良い。頸に突帯1条あり、口縁は外反りし、径9.7cm、胴の両端は円板状で刺突文があり、直径は12.0cmと11.3cm、胴はたてに3区に区画し、櫛描き波状文6条で、頸には横に2条をめぐらし立派な出来である。古墳後期の酒瓶である。県内にはほかに2例あり、土師、須恵を伴う。
25	C	代陽	県指定重要文化財	悟真寺の雲版	八代市西松江城町(寄託)	応永30年(1423)	悟真寺所蔵 八代市立博物館寄託	中宮山悟真寺は元中7年(1390)に菊地武朝が懐良親王の追善のために発願し、明峯素哲(1277～1350)、4世の法孫大原孚芳(～1403)を招いて開いた曹洞宗寺院である。当初は懐良親王御墓前に建立されたが、加藤清正の代になって中宮山中腹の現地に再興された。永平寺末寺。雲版とは、禅宗、特に曹洞宗特有の法具で、銅または鉄で鑄造され輪郭を雲形につくるところからこの名がある。用途は起床の合図、座禅の区切りの合図、食事の合図など様々である。この雲版は銅製で、複弁八葉蓮華文の裡座を有す。表面の陰刻銘によれば、悟真寺の永谷庵のために応永30年(1423)に造られたことがわかる。永谷庵は松球庵の中津道にあった悟真寺の末寺で、開基は大方周和尚と伝えられ、悟真寺五代輪住をつとめた僧でもある。
26	C	代陽	市指定有形文化財	妙見上宮廃寺出土瓦	八代市西松江城町	平安時代中期～後期(10～12世紀)	八代市教育委員会所蔵	本瓦は、昭和期に上宮祭の際、宮地小高等科生徒と担任等が参拝の際に持ち帰ったもの。熊大松本教授は文様瓦の発見がないので昭和29年(1954)4月から表裏の布目文、縄文、格子文などで編年し平安中～後期のものと考えられた。表の布目は平安中～後期と、糸目が次第に密で毛羽立ってくる背面の縄文は小さく密になる。格子文は大きくなり菱形文があらわれる。瓦の厚みは2.0～2.5cmの薄手が多い。
27	C	代陽	市指定有形文化財	護神寺廃寺跡出土の複弁軒丸瓦	八代市西松江城町	平安時代(11世紀～12世紀)	八代市教育委員会所蔵	昭和15年(1940)、懐良親王御陵外苑造成中に心礎と本瓦が出土。直径14cm、厚さ3cm。
28	C	代陽	市指定有形文化財	不動三尊区ある天平革の模型	八代市西松江城町(寄託)	江戸時代(18世紀～19世紀)	八代神社所蔵 八代市立博物館寄託	天平革と正平革がある。中世、妙見宮の座のひとつに染革屋座がおこり、それが江戸時代に「八代染革」の名で松井家保護のもと隈本藩主細川家からの公儀献上品、肥後名物のひとつとなった。現存する模型は三種、染革は妙見宮の不動三尊区ある天平革1枚。
29	C	代陽	市指定有形文化財	不動の梵字・八幡の銘ある天平革の模型	八代市西松江城町(寄託)	江戸時代(18世紀～19世紀)	個人所蔵 八代市立博物館寄託	中世、妙見宮の座の一つに染革屋座がおこり、それが江戸時代に「八代染革」の名で、松井家支配下に細川家の藩営企業に繰りこまれ、細川家からの公儀献上品、肥後名物の一つに数えられた。天平革2種(①「天平十二年月日」の文字入り、②「不動三尊像」入り)、正平革1種(「正平六年六月一日」の文字入り)がある。いずれも、桜花のある微細な唐草文様を地文にして唐獅子を配し、桜花、不動光背の火焔、蝶などは朱色、他はすべて黒褐色、これに別の鹿皮に特殊植物性染料をもって染め作ったもの。天平革2種は6区ずつ、正平革は12区、そのうち鐘の胴は不動三尊区で、栴檀の板は天平革区で包み、兜の肩尻は八幡区で、吹返は不動梵字区で包むなど、各区ともそれぞれ甲冑、束帯、冠帯、蹴鞠の沓などの飾りと護符に用いられた。このうち正平革は、南北朝になって、征西将軍懐良親王が新型を作らせ、天平革とも製造と販売を染革屋の牧兵庫に免許されたと伝えられる。
30	C	代陽	市指定有形文化財	八代御免革(正平革)模型	八代市西松江城町(寄託)	江戸時代(18世紀～19世紀)	個人所蔵 八代市立博物館寄託	この三尊像は「来迎」とよばれる阿弥陀如来が極楽浄土から臨終者を迎えに来るときの様子を表す。この阿弥陀如来(像高99.5cm)は親指と人差し指をつけた「来迎印」を結び、両脇には両手を腹前に差し出し蓮台を持つ観音菩薩(像高56.8cm)と、合掌した勢至菩薩(像高55.2cm)が立つ。平成15年度の熊本県文化財修理事業により、阿弥陀如来像の体内銘が発見され、阿弥陀如来は享保元年(1716)に大阪の仏師井石隆山が作製したことがわかった。このほか、勢至菩薩は、仏師長実が鎌倉時代に、観音菩薩は江戸時代につくられたことがわかった。
31	C	代陽	県指定重要文化財	木造阿弥陀三尊立像	八代市西松江城町(寄託)	阿弥陀如来像 享保元年(1716) 勢至菩薩 鎌倉時代初頭(12世紀) 観音菩薩 江戸時代	光明寺跡阿弥陀堂所蔵 八代市立博物館寄託	この三尊像は「来迎」とよばれる阿弥陀如来が極楽浄土から臨終者を迎えに来るときの様子を表す。この阿弥陀如来(像高99.5cm)は親指と人差し指をつけた「来迎印」を結び、両脇には両手を腹前に差し出し蓮台を持つ観音菩薩(像高56.8cm)と、合掌した勢至菩薩(像高55.2cm)が立つ。平成15年度の熊本県文化財修理事業により、阿弥陀如来像の体内銘が発見され、阿弥陀如来は享保元年(1716)に大阪の仏師井石隆山が作製したことがわかった。このほか、勢至菩薩は、仏師長実が鎌倉時代に、観音菩薩は江戸時代につくられたことがわかった。
32	C	代陽	市指定有形文化財	縄簾の水指	八代市北の丸町	朝鮮・李時代(15世紀～16世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	深山の茶壺の話に感動した徳川家康が、松井康之に与えたものと伝わる。高台内には「縄簾水指 山岡道阿弥 文禄三」と朱漆で記されている。「山岡道阿弥」とは、戦国時代の武将で、茶の湯にも精通し、豊臣秀吉と徳川家康に仕えた山岡景友のこと。
33	C	代陽	市指定有形文化財	宮本武蔵作鞍	八代市北の丸町	江戸時代初期(17世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	厚手の材でつくられている。武具は丈夫であることを第一とした武蔵にふさわしい、実用的な鞍である。両輪の外縁部に部分的に金平目粉を蒔く以外は居木まで黒漆塗として虚飾を排している。重厚な軍陣鞍である。両輪の外側には金銅に牡丹文を打ち出した金具が据えられている。箱の蓋表には「武蔵先生自作鞍 杏青」の墨書がある。八代松井家の臣、豊田景英の伝記である『二天記』には、武蔵の死に際して、指料および鞍が長岡(松井)寄之、澤村友好(宇右衛門、熊本藩家老)の2人に贈られたと記しているが、本品がそれにあたるかは定かではない。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
34	C	代陽	市指定有形文化財	春日局の文	八代市北の丸町	寛永 18 年 (1641)	一般財団法人松井文庫所蔵	大奥において絶大な権力を極めた春日局(1579～1643)が、寛永 18 年(1641)9 月 11 日付で長岡佐渡守(松井興長)へ宛てたもの。当時、松井興長の江戸城中における信望、交際の一端を知り得る重要な資料。
35	C	代陽	市指定有形文化財	深山の茶壺	八代市北の丸町	元～明時代(14世紀～15世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	全体的に褐色釉がかかった唐物茶壺で、いわゆるルソン壺と称されるもの。本品は、松井康之が豊臣秀吉から拝領したもの。秀吉は、康之に対して、岩見半国を与えて直臣大名に取り立てようとしたが、康之は、主君細川藤孝・忠興父子に背くことはできないと固辞。これに感動した秀吉が本品を康之に与えた。松井家の家法として現在に伝わる。
36	C	代陽	市指定有形文化財	宮本武蔵作二刀流木刀	八代市北の丸町	江戸時代初期(17世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	大小ともに桜材。柄は楕円形、刃は六面に削る。現在において二天一流の稽古で使用される稽古太刀より厚みがある。
37	C	代陽	市指定有形文化財	沢庵和尚の文	八代市北の丸町	寛永 20 年 (1643)	一般財団法人松井文庫所蔵	沢庵宗彭(1573～1645)が松井興長に宛てた偈。寛永 20 年(1643)、興長が藩主細川光尚に随行して江戸に参府していた。同年 5 月に興長が九州へ帰る際に沢庵が送別のために送ったもの。
38	C	代陽	市指定有形文化財	宮本武蔵作大木太刀	八代市北の丸町	江戸時代初期(17世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	柄は七面、刃部は九面に削り、柄頭には腕貫緒の小穴をあける。宮本武蔵が自ら巖流島で使用した木刀を模してつくり、松井寄之に贈ったものと伝わる。
39	C	代陽	市指定有形文化財	青井戸の水指	八代市北の丸町	朝鮮・李朝時代(15世紀～16世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	箱には「青井戸摺鉢水指 朝鮮」、「高麗摺鉢水指」などの張紙墨書が見られる。高さ 15.1cm、口径 25.5cm、底径 12.1cm。
40	C	代陽	市指定有形文化財	朝鮮そば茶碗	八代市北の丸町	朝鮮・李朝時代(16世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	本品のようなそば茶碗は、高麗茶碗のひとつで、本来は日常的な器として造られていたが、日本に伝来して茶の湯の茶碗に見立てられた。本品の伝来の経緯は不明。箱蓋には「朝鮮大茶碗」と記されている。高さ 7.8cm、口径 18.7cm、高台径 6.5cm。
41	C	代陽	市指定有形文化財	能面小面	八代市北の丸町	江戸時代(17世紀)	一般財団法人松井文庫所蔵	小面は、年若い女性を代表する面。金春流の松井家には、本面を含めて 13 面もの小面が伝来しており、いずれも優品。
42	C	代陽	市指定有形文化財	釣り革の駕籠	八代市北の丸町		一般財団法人松井文庫所蔵	
43	C	太田郷	市指定有形文化財	天竜文鐺 無銘甚五	八代市清水町	江戸時代初期(17世紀)	個人所蔵	天竜鐺無銘甚五(初代)と天新文鐺無銘甚五(二代)の 2 口が伝わっている。 (1)天竜文鐺無銘甚五(初代) 江戸時代初期、志水仁兵衛一幸による。志水仁兵衛は、寛永 9 年(1632)に師匠平田彦三と共に細川三斎に従い八代に移住。5 人扶持と袋町東角屋敷を拝領し、細川三斎お抱え金工となった。 (2)天新文鐺無銘甚五(二代) 江戸時代初頭、志水仁五永次による。
44	C	麦島	市指定有形文化財	鎮宅靈符縁起集説乾坤	八代市迎町	宝永 4 年(1707)	個人所蔵	宝永 4 年(1707)、京都出雲路十念寺の沢了によって書かれた上下 2 巻。43 節にわたり北辰妙見信仰について詳説する。
45	C	高田	県指定重要文化財	木造十一面観世音菩薩立像	八代市奈良木町	鎌倉時代後期(14世紀)	奈良木観音堂	奈良木神社境内に建つ観音堂の本尊。椀材の寄木造で、髪、目、唇にのみ彩色を施しその他は檀像風に仕上げている。蓮華坐の上に立ち、腰を心持ち左にひねり、顔は正面を向いて、右手は「与願の印」を結び、左手には蓮華をさした水瓶を持つ。全体にリズムカルで柔らかな線と美しい彫りとなっており優れた仏師による作品と思われる。鎌倉後期から南北朝初期の作品と考えられ、高田御所の鬼門を守護するために置かれたものか。「奈良木」の地名はこの仏像が奈良から来たことによるといわれている。像高 134.0cm。
46	C	高田	市指定有形文化財	木造伝薬師如来坐像	八代市高下東町	平安時代後期(12世紀)	安楽院所蔵	安楽院の厨子に納められており、50 年に一度しか開帳されない秘仏。樟材の一木造。右顔面の虫損が激しく両手肘が失われている。安楽院は、『八代郡誌』によると、真言宗寺院で平山城主・桑原和泉守の祈願所であったという。この地は、字名が示すとおり、もとは中光寺が建立されていたとも考えられる。中光寺は、『肥後国誌』に禅宗の古刹または天台宗の古刹で、開基は不明、本尊は薬師如来と記されている。像高 92.7cm。
47	C	宮地	市指定有形文化財	妙見宮知行百石宛行状	八代市妙見町	正徳 6 年(1716)～文政 9 年(1826)	八代神社所蔵	7 世紀の創建と伝わる八代神社は、長きにわたり領主たちの崇敬と保護を受けてきた。江戸時代になると、八代郡の一の宮として、歴代の藩主たちから領地の寄進を受けた。八代神社で現存している寄進状と配分目録は、細川宣紀以降 8 通ずつ残されている。
48	C	宮地	市指定有形文化財	妙見宮の神宝 四寅剣	八代市妙見町	室町時代(14世紀)	八代神社所蔵	刀身、拵ともに保存されている。妙見宮第一の宝剣である。妙見神が腰におびて来朝されたとの伝説あり、妙見宮紋の九曜二引輪が装飾されている。刀身には両面と棟に星象が金で象嵌されている。
49	C	宮地	市指定有形文化財	妙見宮関係資料	八代市妙見町ほか	江戸時代(16世紀～18世紀)	八代神社所蔵 一部八代市立博物館寄託	妙見宮棟札 3、妙見宮扁額と細川綱利筆のその掛物 1、妙見宮知行宛行社山絵図 1、妙見宮の江戸時代建物配置図 1 の一式。 妙見宮扁額は、裏面の朱漆銘によると細川重賢筆で安永 5 年(1776)に成立。現在は、八代市立博物館に寄託されている。 棟札 3 枚は、それぞれ「元和八年(1622)12 月吉日」、「八代白木山妙見宮宝殿 国主細川綱利 城司長岡壽之」、「宮地諸人安穩処也」などと墨書または彫込みが見られる。妙見宮知行宛行社山絵図は、細川綱利による社領寄進に関するもので、元禄 6 年(1693)に成立。山を起絵に立体的に表現されており、かつて存在した本地堂、文殊堂、多宝塔、弁天堂などが見える。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
50	C	宮地	市指定有形文化財	八代御用紙漉きの道具及び文書・記録	八代市妙見町ほか	江戸時代～明治時代	個人所蔵 一部八代市立博物館寄託	九曜紋付の紙漉 2 や型紙などをはじめとする紙漉き道具及び文書類一式。九曜紋付の紙漉は、熊本藩御用紙漉であった西家に伝来したもので、両側面に細川家の家紋・九曜紋がある。蓋裏墨書には、「黄九月六日 西次郎太」、もう一点には「慶応元年丑六月造之 西東」と記されている。なお、宮地和紙は、筑後下妻郡溝口村の柳川藩御紙漉き新左衛門によって始められたと伝わる。新左衛門は、関ヶ原合戦後に領地没収となり肥後加藤家の預かりとなった柳川藩主立花宗茂を慕って移り住んだという。全長 47.9cm。
51	C	宮地	県指定重要文化財	木造阿弥陀如来坐像	八代市西宮町	江戸時代初期(17世紀)	西宮町階下区所蔵	現在は西宮町階下公民館に祀られているが、明治初期まで妙見宮の本地堂で祀られていたもの。椀の寄木造り、漆箔、上品上生の印を結んだ阿弥陀如来の形に作られている。台座が亀蛇の形に作られ、妙見宮との関わりをうかがわせる珍しい形になっている。江戸時代初期の作と考えられている。像高 87.8cm。
52	C	宮地	市指定有形文化財	にべ神社の織部灯笼	八代市古麓町	寛政 6 年(1465)	にべ神社所蔵	にべ神社は、古麓城主・名和顯忠によって寛政 6 年(1465)に建立された名和氏の氏神を祀る。本品は、この境内に建つ一対の織部灯笼。織部灯笼とは、戦国武将で茶人であった古田織部(1544～1615)が創案し灯笼の形といわれ、四角柱の竿石の上部が十字架様に張りだし、地面に直接埋め込んで建てるという特徴をもつ。にべ神社のものは、銘文などがないため、作成年代や寄進者は不明である。灯笼の台石には、「奉為茂山道繁」、「文禄二年癸巳二月三日」の銘と梵字が見えるが、別の五輪塔の転用と思われる。
53	C	宮地	市指定有形文化財	木造延命地藏菩薩半跏像	八代市古麓町	鎌倉時代後期(14世紀)	延命地藏堂所蔵	延命地藏菩薩はその作風から同じく鎌倉期の作で、明治 31 年(1898)にここに地藏堂が建立されたときの奉納とみられる。光背まで 170cm の大作で中央仏師の作と思われる貴重な像である。現在は、円光寺跡地藏堂に安置されている。
54	C	宮地	市指定有形文化財	木造舍利尼菩薩坐像	八代市古麓町	鎌倉時代(13世紀～14世紀)	舍利尼菩薩堂所蔵	舍利尼とは、平安時代の仏教説話集『日本霊異記』に八代郡豊福郷に生まれ、幼少より仏教を学び、人々からの教えの指導者とされた人物である。本品は、椀材の寄木造で玉眼。頭巾、法衣、袈裟を身に著け、曲案に座る。鎌倉時代の作と見られる。当地近くには、玉卵洞という生まれたばかりの舍利尼が捨てられた場所という伝承がある。江戸時代には、松井直之の妹・桂光院が舍利尼の遺徳を慕い舍利庵を建立したという。像高 38.0cm。
55	C	宮地	市指定有形文化財	木造地藏菩薩半跏像	八代市東町	南北朝時代～室町時代(14～15世紀)	東町川原地区所蔵	東町川原にある地藏堂に安置されている。関の地藏とも呼ばれ、地域の人々の信仰の対象として大切に保存されている。椀の一本造で、右手には錫杖、左手には宝珠を持った半跏思惟像。錫杖はすでに失われている。像高 34.0cm。
56	D	代陽	県指定重要文化財	木造男神坐像	八代市西松江城町(寄託)	仁治 3 年(1242)	釈迦院所蔵 八代市立博物館寄託	男神像 5 軀と女神像 2 軀があり、像底の墨書銘から僧勝西、念西らが勧進者となり、仏師僧長實がこれらの神像を彫ったもの。像容は、神像特有のシンプルな姿で、体部は細めであるが、頭部は大きく張りがあり、表情は厳しい。特異な技法でつくられており、同院の辨善大師坐像にもみられ、同時期同一仏師によるものと思われる。像高 37.8cm。
57	D	泉	県指定重要文化財	銅造釈迦如来立像	八代市泉町柿迫	鎌倉時代(12世紀)	釈迦院所蔵	釈迦院は、延暦 18 年(799)に辨善大師によって開山したと伝わる寺院である。この本尊釈迦如来像は、地中から湧出した金剛仏との伝承がある。秘仏として一般公開はされていない。髪際線が緩やかに下にカーブしていること、肉髻部が小さくなってきていることから、鎌倉時代中～後期の都周辺の作と推定される。金銅仏としては大きく、優れた金銅仏である。像高 78.8cm。
58	D	泉	県指定重要文化財	法浄寺の梵鐘	八代市泉町栗木	文永 5 年(1268)	法浄寺所蔵	銘文によると、もとは隈庄(現在の城南町)の七所宮の鐘で、大勧進僧弥増によって文永 5 年(1268)に奉納されたという。この鐘について寺本直康(1737～1805)は、著書『肥後見聞雑記』の七所宮の項に「此鐘寛政六年(1794)頃二社入ヨリ売却」と追記している。その後、どのような経緯で法浄寺に移ったかは不明。現在のところ銘の梵鐘として県内最古。
59	D	代陽	市指定有形文化財	木造辨善大師坐像	八代市西松江城町(寄託)	鎌倉時代(12世紀)	釈迦院所蔵 八代市立博物館寄託	奈良時代末期から平安時代初期にかけて活躍し釈迦院の開祖と伝わる辨善大師の像。本像は、椀材、一木造。仁治 3 年(1242)頃に仏師長実が作成したものと考えられる。
60	D	泉	市指定有形文化財	木造僧形文殊菩薩坐像	八代市泉町柿迫	嘉暦 3 年(1328)	釈迦院所蔵	知恵の第一人者として知られる文殊菩薩。天台宗系寺院の食堂の本像として僧形の文殊菩薩が安置されている。本像も、もとは釈迦院の食堂に安置されていたと思われるが、現在は本堂外陣に安置されている。体内の墨書銘によると嘉暦 3 年(1328)に大仏師法眼浄康によって造られた。像高 84.5cm。
61	D	泉	市指定有形文化財	木造如来形立像	八代市泉町柿迫	平安時代後期(12世紀)	釈迦院所蔵	椀材、一木造。像高 69.8cm。全体的に傷みが著しい。
62	D	泉	市指定有形文化財	木造十一面観音立像	八代市泉町柿迫	鎌倉時代(12世紀)	釈迦院所蔵	椀材、寄木造、総高 204.2cm。
63	F	龍峯	国指定重要文化財	木造毘沙門天立像	八代市興善寺町	平安時代後期(11世紀末～12世紀初頭)	明言院所蔵	明言院は、奈良時代に存在した古代寺院の跡地に建てられた真言宗寺院。椀材の一木造。面貌表現の的確さ、腰をひねった姿のバランスなど仏師の彫技の高さが伺える。残念ながら仏師不明であるが、九州に多い椀材を使用していることから、九州仏師であると推察される。寺院の縁起によると、治承 2 年(1178)、平貞能が国中に七大伽藍を建立した際の一寺と伝わる。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
64	F	代陽	市指定有形文化財	陶製円面硯 甲	八代市西松江城町	奈良時代～平安時代(8～9世紀)	八代市教育委員会所蔵	西片沖出土の須恵器の内面硯。縁と脚端は欠けている。外径は、14cm、高さは焼く6cm。
65	F	代陽	市指定有形文化財	仿製振り文帯鏡	八代市西松江城町(寄託)	古墳時代(6世紀)	個人所蔵 八代市立博物館寄託	五反田古墳から出土した白銅鏡。
66	F	代陽	市指定有形文化財	五反田古墳副葬品	八代市西松江城町(寄託)	古墳時代(6世紀)	個人所蔵 八代市立博物館寄託	昭和34年(1959)に市教委で行った学術調査により出土。人骨5体、仿製振文帯鏡1面、勾玉1、管球4、小玉31、刀子破片2、鉄鏃破片約39、鉄製帯金具小片1、須恵器提瓶2が出土している。
67	F	代陽	市指定有形文化財	大鼠蔵山箱式石棺群出土品	八代市西松江城町	古墳時代(5世紀)	八代市教育委員会所蔵	大鼠蔵山は、江戸時代に沖の洲新地が干拓されるまで孤島であった。大鼠蔵山古墳第1号墳の西側側壁には、弓靱、ひもでつるした鏡、短甲、革鞆入りの大刀と鏡が陰刻されている。棺内からは人骨1体と土師器の高杯が出土。第2号墳、第3号墳、第4号墳、第5号墳の棺内からは、人骨や刀子1口、鉄鏃片刃1口などが出土している。
68	F	代陽	市指定有形文化財	楠木山古墳副葬品	八代市西松江城町	古墳時代(4世紀)	八代市教育委員会所蔵	昭和27年(1952)、大鼠蔵山の最高所である楠木山にて出土。人骨1体、鉄剣4口、鉄鏃6本、刀子1口、碧玉製紡錘車1個、大型の土師器埴が出土している。
69	F	代陽	市指定有形文化財	陶製円面硯 乙	八代市西松江城町	奈良時代～平安時代(8～9世紀)	八代市教育委員会所蔵	妙見町霊符山麓の蜜柑園から出土。土師器の発見をみるところであり、開墾作業中に出土したもの。内径13.5cm、現存高約2cmの円硯。
70	F	代陽	市指定有形文化財	瑞花双鳳八稜鏡	八代市西松江城町	鎌倉時代(13世紀)	八代市教育委員会所蔵	御内遺跡出土。唐鏡の影響を受けたもので白銅製であり、全体的に見てよく調和がとれており、外区はやや高く、入稜をなしており、内区は鈕を中心として四区配分の形式をとり、二羽の鳳が相対し、瑞花文鈕座の形は菊座であり鑄成良好で、鈕の高さ0.5cm 厚み1.5cm 初経1.4cm 終経11.2cm。この種の鏡は本県でこれを含めて二つ目である。
71	F	金剛	市指定有形文化財	小鼠蔵山第5号古墳出土土師埴	八代市鼠蔵町		個人所蔵	小鼠蔵山は、大鼠蔵山の隣に位置し、江戸時代末期の沖の洲新地干拓が行われるまで孤島であった。島には、5基の古墳群がある。本品は、このうち第5号墳から出土した土師埴。高さ9.1cm、肩のやや張った丸底で口縁部の高さは2.8cm、直径9.4cm、胴10cm。この古墳からは、本品のほかには人骨が数体出土している。
72	F	龍峯	市指定有形文化財	円形門前古墳装飾石棺の側壁	八代市岡町谷川	5世紀	岡町谷川町内会所蔵	大正6年(1917)、開墾の際に偶然発見されたもの。長さ2.53m、幅1.10m、厚さ0.18mの砂岩製で朱が塗られていた。表面には3個の同心円文様が彫られ、左側と中央の円文は直線で結ばれている。また、石材の両端と下端には石材組み合わせのためのほぞが彫られている。同心円文様をつけた装飾古墳は熊本県下とくに有明・八代海周辺の地域に多く、市内でも複数の横穴指揮石室墳や箱式石棺にみられる。
73	F	龍峯	市指定有形文化財	興善寺廃寺出土瓦	八代市興善寺町	奈良時代後期(8世紀)	明言院所蔵	鏝瓦、宇瓦など各種の布目瓦が明言院に保存されている。様式は奈良時代後期とみられ同院の本造毘沙門天立像(国指定重要文化財)の年代と一致する。明言院は、興善寺という廃寺跡に後世明言院を再興したところで、布目瓦と毘沙門天は平安初期に創建された毘沙門堂のものであることが明らかになった。本瓦は、唐草文が中央から右左両方に流れている。
74	F	龍峯	市指定有形文化財	木造千手観音立像	八代市興善寺町	江戸時代(17世紀)	明言院所蔵	松材、寄木造、玉眼、漆塗の千手観音像。明言院の本尊で、製作は江戸時代と考えられる。現在、明言院では本像を本尊として不動明王、毘沙門天を脇侍として祀っている。また、明言院には、平安時代後期と思われる千手観音菩薩の断片が伝わっており、本像以前に本尊として祀られていたものと考えられる。
75	F	龍峯	市指定有形文化財	鎮守堂の板碑	八代市興善寺町	正平15年(1360)	志水鎮守堂	興善寺町志水鎮守堂内に祀られている。もとは現地の東側、九州縦貫自動車道敷地内にあつたが、道路建設に伴い昭和52年(1977)に現地へ移転し本尊として祀られるようになった。表面には梵字「アム」1文字、刻文は「正平拾五年(1360)三月□□」が彫られている。中世の年号をもつ石造物は県内でも数少なく貴重。特に、八代地方に残るものなかには南北朝中期以後の肥後南朝勢力の動向を考える上でも重要な指標となる。
76	F	鏡	市指定有形文化財	称讚寺梵鐘	八代市鏡町中島		称讚寺所蔵	称讚寺は釈迦院(八代市泉町)の末寺。本梵鐘は明治4年(1871)に宮原町の神蔵寺から譲り受けたものといひ、僧侶鉄眼の名前が刻まれている。
77	G	坂本	県指定重要文化財	大門観音堂の髑髏	八代市坂本町葉木	正平18年(1363)	大門地区自治会所蔵	銘文によると、本髑髏は当初、牛深(現天草市)の久玉神社へ奉納されていたもの。どのような経緯で大門地区に伝来したかは不明であるが、中世に八代地域を治めていた相良氏が天草で戦利品として持ち帰ったものとも伝わる。銘文には、「肥後國天草郡久玉天神御寶前髑髏一口 正平十八年癸卯七月一日願主神大夫敬白」とあり、現在のところ熊本県内最古の銘をもつ髑髏である。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	時代	所蔵・寄託	場所・特徴
78	G	坂本	県指定重要文化財	大門薬師堂の罽口	八代市坂本町葉木	永徳元年(1381)追銘に応永19年(1412)	大門地区自治会所蔵	銘文によると、本罽口は当初、永徳元年(1381)に大隅国筒野村(現鹿児島県湧水町)妙楽寺に奉納されたもの。その後、応永19年(1412)に日州真幸院(現宮崎県えびの市)の千光寺に奉納。これが大門地区に伝来した経緯は不明であるが、相良氏による戦利品として持ち帰られたと伝わる。罽口裏に「奉施入罽口一 大隅国筒野村 妙楽寺 願主僧良能 永徳元年辛酉八月廿五日」、罽口裏に「奉施入罽口一 日州真幸院 薬山 千光寺 口口僧敬白 應永十九年壬辰十一月日」との銘文がある。
79	H	代陽	市指定有形文化財	田川内貝塚出土貝輪	八代市西松江城町	古墳時代(5世紀)	八代市教育委員会所蔵	昭和35年(1960)の田川内古墳発掘調査で出土した貝輪。この調査では、5つの貝輪が出土した。直径7cm。
80	H	日奈久	市指定有形文化財	仿製変形獣文帯鏡	八代市日奈久大坪町	古墳時代(6世紀)	個人所蔵	塩釜第一号古墳出土の白銅鏡。大正4年(1915)頃、山畑開墾の際に発見されたものという。直径11.3cm。面は、にぶい球面状にそり、漆を塗ったように光っている。背面の内区に変形の獣形文鏡5つを半肉彫りにしているためこの名がある。

参考文献一覧

八代市立博物館未来の森ミュージアム編『ともに生きた神と仏―神仏習合をさぐる―』(図録、1997年)

『八代焼―伝統の技と美―』(図録、2000年)

『極楽浄土の世界 浄土教の美術』(図録、2001年)

『和紙―用と美の世界―』(図録、2003年)

『火の君海を往く』(図録、2009年)

『みほとけの貌―熊本県南部の仏像―』(図録、2010年)

『八代城主松井家の名宝～珠玉の松井文庫コレクション～』(図録、2011年)

『もののふの美と心 八代城主・松井家の刀剣と刀装具』(図録、2014年)

熊本県立美術館編『鎌倉時代の彫刻』(図録、1990年)

茶道資料館編『肥後松井家の名品』(図録、2012年)

熊本県三館共同企画・宮本武蔵展実行委員会編『熊本三館共同企画・宮本武蔵展』(2003年)

八代市立博物館未来の森ミュージアム編『八代市内主要寺社 歴史資料調査報告書一』(1993年)

『八代市内主要寺社 歴史資料調査報告書二』(1995年)

八代史文化財審議委員会編『八代市の文化財(総集編)』(八代市教育委員会、1979年)

泉村文化財保護委員、泉村教育委員会編『泉村寺院調査報告書』(1988年)

八代市教育委員会編『八代市文化財調査報告書 第23集 熊本県指定重要文化財 木造阿弥陀如来三尊修理報告書』(2004年)

石原浩「やつしろの寺院と仏像 2 木造阿弥陀如来坐像 浄土宗・盛光寺蔵」(八代史談会編『夜豆志呂』186号、2018年)

歴史文化遺産一覧 3. 民俗文化財(有形民俗文化財・無形民俗文化財等)

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
1	A	松高	市指定無形民俗文化財	妙見宮祭礼の花奴	八代市永碓町		高子原村花奴組	妙見祭の神幸行列に参列している花奴は、八代城主松井直之の江戸参府に槍持ちとしてお供した松江村の虎右衛門が、江戸花奴の作法を習い伝えたのが始まりと伝わる。宝暦2年(1752)には行列に加わっていたことが確認されている。城主の衣装を入れる挟箱、雨笠である立傘、城主のかぶり傘を乗せる丸い台傘を持ち、「せいとこせい」と掛け声をかけながら進む。現在では、松高地区の人々によって伝承されている。
2	A	千丁	市指定無形民俗文化財	新牟田雅楽	八代市千丁町新牟田		新牟田神楽保存会	千丁町新牟田地区に伝わる雅楽。妙見祭の神幸行列の奏楽を受け持っている。成立年代は不明であるが、明治12年(1879)には新牟田地区の正木氏、永松氏が伝承し、引き継がれている。
3	A	千丁	市指定無形民俗文化財	八代新地大鞆節	八代市千丁町古閑出		八代新地大鞆節保存会	千丁町八代新地築は、安政2年(1855)に細川形部家と八代城主松井家による催合新地によって築造された干拓地。文政2年(1819)に完成した四百町新地から生まれた大鞆節が伝わり、八代新地大鞆節として成立、伝承されている。「大鞆」とは、樋門を強化するための二重の石垣のことで、四百町新地築造時に築かれた樋門が大きく立派であったことからその名がある。
4	A	千丁	市指定無形民俗文化財	銭太鼓	八代市千丁町古閑出		千丁町銭太鼓保存会	天明年間(1781~1788)、八代地方が3年間も大干ばつにみまわれた際に、人々が龍峯山に太鼓を持って登り、三日三晩願いを込め雨乞い太鼓を鳴らしたところ、雨が降り、人々も農作物も生気を取り戻した。これに感謝して一文銭を5~6枚入れた竹筒を振りながら舞い踊ったのが始まりと伝わっている。
5	A	千丁	市指定無形民俗文化財	女相撲	八代市千丁町古閑出		千丁町女相撲保存会	安政2年(1855)に完成した二の丸新地・八代新地築造の際、潮止め工事が難航し、周辺の村々から屈強な宮相撲衆(力士)を集め潮止め口を踏み固めさせ、無事完成したことがはじまりと伝わる。依頼、二の丸地区では、竜神社をまつり、毎年の例祭で相撲が奉納されている。後にいつからか女性が主役の「女相撲」になったのかは不明である。竜神社の神事後、土つき、相撲甚句、力士紹介、横綱土俵入り、取り組みと続き、最後に弓取り式が行われている。
6	A	鏡	市指定無形民俗文化財	芝口大鞆節	八代市鏡町芝口		芝口大鞆節保存会	文政4年(1821)の七百町新地の干拓事業のときに発祥したという「大鞆名所」を、鏡町芝口地区では「大鞆節」と呼んでいる。芝口地区では、男役が鍬を持ち、女役が籠を担ぎ、唄に合わせて干拓工事の様子を再現して踊る。
7	A	鏡	市指定無形民俗文化財	芝口棒踊り	八代市鏡町芝口		芝口棒踊り保存会	鏡町芝口に伝わる棒踊り。文政4年(1821)に築造された七百町新地に入植した人々によって収穫祭や娯楽として催し物が開かれ、その中で披露されるようになったもの。120年ほど前に葦北か年奉公に来ていた人物が郷里の鹿兒島に伝わる棒踊りを伝え、現在の形になったという。
8	A	鏡	市指定無形民俗文化財	貝洲加藤神社肥後神楽	八代市鏡町貝洲		貝洲加藤神社肥後神楽保存会	貝洲加藤神社は、加藤清正を祭神として百町新地(文政2年完成)、四百町新地(文政2年完成)、七百町新地(文政4年完成)の干拓事業を指揮した鹿子木量平によって、この地域の守護神として創建された神社。明治13年(1880)に神楽形が組織され、年3回の加藤神社祭礼などに参加している。演目は12座からなり、楽方は笛と太鼓を演奏し舞方は右手に鈴を持ち、左手には演目により神轡や御幣、剣、弓を採物として持ち踊る。
9	A	鏡	市指定無形民俗文化財	碓原おざや名所	八代市鏡町貝洲		碓原子ども会おざや名所保存会	「おざや名所」は、文政4年(1821)の七百町新地の築造で過酷な環境にあった出稼ぎ人夫たちによって生まれた労働歌。天草阿村出身の娘「お菊さん」と現場監督の「だいばどん(利兵衛)」の悲恋が織り込まれ、警戒なリズムに合わせた囃子とともに踊りが繰り広げられる。この芸能は、後に干拓工事とともに他地域へ広がっていった。碓原地区では、小学生が中心となって保存伝承を行っている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
10	B	鏡	市指定無形民俗文化財	上鏡獅子舞	八代市鏡町上鏡		上鏡獅子組保存会	天保10年(1839)、宮原三神社(八代郡水川町)の落成式で周辺の町村から様々な催し物が披露された際に上鏡地区から八代妙見祭の獅子舞にならって披露したところ、好評であり、その後、本物の獅子を取り入れ、旧八代市から師匠を招き練習に励んだといわれている。戦前までは、三神社秋季大祭に行列の先導として加わっていたが、現在は9月下旬の上鏡天満宮の祭礼に奉納している。
11	B	鏡	市指定無形民俗文化財	鏡が池鮎取り神事	八代市鏡町鏡村		鏡町印鑰神社鮎取り神事実行委員会	毎年4月7日、鏡町の印鑰神社春季大祭の際に実施されている。由緒は、5世紀はじめに吸収平定のため石川宿禰(印鑰神社の祭神)がこの地に立ち寄った際、村の若者たちが鏡が池に飛び込み鮎をつづかみで取り謙譲したと伝わる。神幸行列が鏡が行けに到着した後、締め込み姿の若者約50人が行けに飛び込み鮎や鯉を捕ったり、泥を投げたりする。泥に当たると無病息災に過ごせるといわれ、捕った魚は印鑰神社に献上されている。
12	C	代陽	国指定重要無形民俗文化財	八代妙見祭の神幸行事	八代市松江城町		八代妙見祭保存振興会	寛永13年(1636)細川三斎が妙見宮に見越しや祭器を寄進したことにより祭礼の再興が図られ、江戸時代中頃には多彩な出し物が登場する現行の形に整えられ、伝えられた。妙見神が生みを渡る際に乗ってきたとされる亀蛇や中国風の獅子舞、楼閣型の華麗な笠鉦の巡行には地域的特色が顕著にみられるとともに、多彩な出し物から構成される行列が練り歩く行事は、近世の城下町に発達した山・鉦・屋台などが巡行する都市祭礼の典型であり、九州を代表する大規模祭礼行事。
13	C	植柳	国選択無形民俗文化財	植柳の盆踊	八代市植柳上町		植柳盆踊り保存会	宝暦5年(1755)の球磨川の大水で萩原堤が崩壊し、記録的な水害に見舞われた際に稲津弥右衛門頼勝の陣頭指揮により、堤防の修築工事が短期間で完成したことを祝い踊ったことがはじまりと伝わる。植柳盆踊りでは「揺り」(行脚の念仏歌)、「示現時」(本棒踊りの雨乞い踊り)、「花棒」(萩原堤の修復完成を祝って踊ったとされる)の三曲を伝承している。
14	C	各地	県指定重要民俗文化財	妙見宮祭礼神幸行列関係資料	下記の通り	下記の通り	下記の通り	妙見宮祭礼神幸行列に使用される祭礼用具10基。
		宮地		神輿	八代市妙見町	江戸時代・寛永12年(1635)頃	宗教法人八代神社	神輿は寛永12年(1635)3月に、時の八代城主細川忠興公が妙見宮に奉納したもので内外に金箔を張り、天井には忠興公直筆の龍の絵を配するなど、大変豪華なつくりで、江戸初期のはつらつとした武家文化をみることが出来る。
		代陽		笠鉦「菊慈童」	八代市通町	江戸時代・元文3年(1738)	宮之町笠鉦菊慈童保存会	「菊慈童」は、謡曲「菊慈童」に登場する仙人で、中国周の穆王が寵愛した童子は王に対する無礼により山奥に流罪となるが、法華経普門品を菊の葉に溜まった露をのみ、不老不死の仙人になったという話を題材にしている。古文書「御町会所古記之内書抜 寺社之部」明和7年(1710)の条には、宮之町の笠鉦に関する記述があり、この中で一人持の傘の出し物から「元文三年相改宮之町も九ヶ町同前二重蓋四人持二成菊慈童の作り物・・・」になったとある。一番古い箱の墨書の年代と一致する。
		代陽		笠鉦「蘇鉄」	八代市本町一丁目	江戸時代・明和元年(1764)以前	二之町笠鉦蘇鉄保存会	「蘇鉄」は、枯れても焼けた釘で打てば蘇るといわれ、不老不死・起死回生の霊木である。別名を鳳凰蕉と呼ぶことから、人物があらわれ、土地や家門の繁栄、太平の象徴でもある。年代については、上欄間部分が寛政5年(1793)から寛政9年(1797)まで、藤作・藤本左平らによる塗り直し等が行われており、この年代が「蘇鉄」の部材の中では最古のものである。しかし、古文書「八代紀行」明和元年(1764)の条に、笠鉦「蘇鉄」の記述があり、年代はさらに遡ると考えられる。
代陽		笠鉦「西王母」	八代市通町	江戸時代・延享元年(1744)	通町笠鉦西王母保存会	「西王母」は、中国皇帝の仁政を讃えて仙女が天降り、三千年に一度実を結ぶといわれる仙桃を皇帝に捧げ、舞を舞って御代を祝うという、謡曲「西王母」を題材としている。「延享元年甲子」(1744)の各一字が部材を取り付ける際の位置を示す記号になっている。「西王母」の墨書の中で最も古い年号であり、制作年代と考えられる。		

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
14	C	代陽		笠鉢「猩々」	八代市本町一丁目	江戸時代・明和元年(1764)以前	紺屋町笠鉢猩々保存会	「猩々」は親孝行の青年高風が孝行により、仙獸猩々から汲めどもつきぬ酒壺を授かり、この酒を売って富貴となったという故事を題材としており、商売繁盛と家門繁栄を祝っている。箱・部材の墨書の年代では、上屋根軒先を受け取る部材(腕木)の墨書が最も古く安永5年(1776)まで遡ることができる。古文書「八代紀行」の明和元年(1764)条に笠鉢「猩々」の外観について記述があり、最初の制作年代は、安永からさらに明和元年以前まで遡ると考えられる。
		代陽		笠鉢「本蝶蓼」	八代市本町一丁目	江戸時代・明和元年(1764)以前	本町笠鉢本蝶蓼保存会	「本蝶蓼」は、「本」「町(蝶)」「株(蓼)」を表し、商人の町であった本町の株仲間間の語呂合わせで、本町の商売繁盛を意味するといわれている。また、梅木や花々の装飾、蝶の作り物との組み合わせにより、謡曲「胡蝶」との関連が見出せる。明和元年(1764)の文書「八代紀行」に、「本・蝶・蓼」の作り物、二段の屋根、六角の平面、台という基本構造が正確に記載されており、「本蝶蓼」は既に明和元年には存在していたことがわかる。部材の墨書等により、補修等が11年～13年程度の間隔に施されたことが窺える。
		代陽		笠鉢「蜜柑」	八代市本町二丁目	江戸時代・宝暦3年(1753)	中島町笠鉢蜜柑保存会	「蜜柑」は、謡曲「橘」からとった漢の女帝の故事で、一つ千歳の齢を延べるめでたいものであり、田道間守が垂仁天皇の勅を受けて常世の国から持ち帰った「ときじくのかくのこのみ」という仙薬であるともいう。また、江戸時代に幕府献上品となっていた特産物「八代(高田)蜜柑」を表現しているともいわれる。最も古い墨書は、蛇腹の宝暦3年(1753)で、「手斧立」と書かれていることから制作年代と考えられる。この墨書には、職人の名も多数見え、中には八代城付絵師松島仙流の名もある。
		代陽		笠鉢「恵比須」	八代市本町三丁目	江戸時代・明和元年(1764)以前	徳淵町・淵原町笠鉢恵比須保存会	「恵比須」は、民間信仰で親しまれる七福神の一人であり、鯛に乗り、海を渡る恵比須の姿は、良港をもつ徳淵町の繁栄を願ったものであろう。「恵比須」頂部の波の作り物内墨書から、明和元年(1764)に「大工三平次」により制作されたことがわかる。一方、古文書「八代紀行」にも明和元年の条に「六番徳淵町恵比須鯛二乗り…但去年は桐二鳳凰ノよし当年より改まり申候…」とあり、この年、「桐に鳳凰」から「恵比須」の作り物に変わったことがわかる。「波」の制作年代とも一致する。
		代陽		笠鉢「松」	八代市蛇籠町	江戸時代・文化2年(1805)以前	平河原町笠鉢松保存会	「松」は、謡曲「老松」あるいは「老松」に由来するものと考えられる。箱・部材等の墨書で最も古い年代は、上層部の部材「六歌仙」にある文化2年(1805)の墨書である。古文書「八代紀行」、明和元年(1764)の条には、平河原町の笠鉢について、「七番 平瓦町 孔雀…黒天緋絨下り」とあり、屋根形状も「八角の羽下りたる笠…」とあり、弘化3年銘の絵巻や現状は六角であることから、当時は頂部の作り物、屋根形状が異なっていたと考えられる。
		八代		笠鉢「迦陵頻伽」	八代市八幡町	江戸時代・明和元年(1764)以前	塩屋町笠鉢迦陵頻伽保存会	「迦陵頻伽」は謡曲「羽衣」からとり、この世が極楽世界さながらになることを願ったものである。謡曲では、人々が福祿寿の生活を楽しむ様を、明君の政治、太平の姿と祝っている。最も古い墨書は、八笠鉢道具入で、天明6年(1786)である。古文書「八代紀行」明和元年(1764)の条に、「八番 塩屋町 迦陵頻 下は六角ノ笠四段形、緞子下り」とある。同じ明和頃を描いたと考えられる。古絵巻の迦陵頻伽の笠は三段であるが、最下段の下に庇のようなものが描かれている。現状は八角三段で、変遷があったことが窺える。
15	C	代陽	市指定有形民俗文化財	医王寺の庚申碑と青面金剛堂	八代市袋町	寛文12年(1672)10月18日	医王寺	医王寺境内の庚申碑は三宝荒神として祀られ、寛文12年(1672)10月8日庚申日の建立である。ここでの庚申信仰は青面金剛を庚申尊とする道教思想の色合いが強く、碑面に見える35以上の講員からは松井家臣を中心とすることがうかがわれる。板碑を納める青面金剛堂は寛文5年(1665)以後、松井氏城主時代に建てられたものと伝えられているが、今では足手荒神として参拝者が多い。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
16	C	代陽	市指定有形民俗文化財	金立院のキリタン墓碑	八代市本町一丁目	1600年頃	個人	金立院境内に安置されている。本碑はいつのころからか不明であるが、手洗鉢を乗せる台石となっていたもので、おそらく、この時に寝棺型伏碑の中央部から花十字のある面に向けて安定を図るために墓碑の一部を削平したものとみられる。また、手洗鉢を乗せるために、墓碑の3分の1程を土に埋めていたと思われ、その部分に若干の傷みが見られる。寝棺型伏碑(俗称:カマボコ型)のキリタン墓碑は県内でも類例が少なく、大変貴重な資料である。
17	C	代陽	市指定無形民俗文化財	妙見宮祭礼の亀蛇	八代市出町		出町亀蛇保存会	亀蛇は「ガメ」の愛称で親しまれており、亀と蛇が合体した想像上の生き物。その昔、妙見神が亀蛇に乗って海を渡ってきたという伝説にちなんだものと考えられている。八代城下の「出町」から奉納され、その起源は、天和・貞享年間(1681～1687)と推定されている。亀蛇の大きさは、甲羅部分の全長 3m、幅 2.5m、重さ 100kg以上ある。亀蛇の中には「ナカ」と呼ばれる担ぎ手が5人1組で入り、そのうち1人が首をあやつる。首を上下左右に振りながらユーモラスな仕草で駆け回る。
18	C	代陽	市指定無形民俗文化財	妙見宮祭礼の獅子舞楽	八代市本町二丁目		中嶋町獅子舞保存会	江戸時代、八代城下の豪商井桜屋勤七が、長崎を訪れた際に諏訪神社祭礼(長崎くんち)で見た羅漢獅子に魅了され、これを妙見祭に奉納したいと考え、長崎に渡り、太鼓や「ちゃんめら」を学び、衣装や舞い方を工夫し、元禄4年(1691)、初めて妙見祭に奉納したと伝えられている。妙見祭では、11月1日の注連卸、15日の浅井神社大祭で舞われ、23日には神幸行列の先導を勤め、舞う。場所によって3通りの舞い方がある。
19	C	代陽	市指定有形民俗文化財	木馬	八代市西松江城町(寄託)	明治5年(1872)10月	個人	木馬は江戸時代、八代城下に住む七五三を迎えた商人の子どもによって12頭奉納されていた。江戸末から明治初期に活躍した肥後の活人形師松本喜三郎の作と言われているもので、現存する木馬の中で最古のもの。
20	C	宮地	市指定有形民俗文化財	八代御用紙漉きの道具及び文書・記録	八代市西松江城町	江戸時代	八代市立博物館	宮地には、筑後国から伝来した紙漉きの技術により、熊本藩の御用紙漉きとして手厚い保護を受けていた。本資料群は、熊本藩御用紙漉きであった西家に伝来した紙漉き道具や記録一式。九曜紋付の紙櫃・叩石・檀紙のさお・糞・刷毛・黒塗張り板・見本紙・型紙・水玉奉書類・紙きり包丁・八代紙子・紙漉き型板など紙漉きの技術を後生に残す貴重なもの。
21	C	代陽	市指定有形民俗文化財	八王社の庚申碑	八代市北の丸町	万延元年(1860)10月	浅井神社	「経王一石一字碑」と大きく表面に記されている。万延元年(1860)10月吉日庚申年に建立された。講員は全員松井家の士分で、「聚名 学楽講之徒」という碑文から、八代城二の丸におかれた学校「伝習堂」の学生たちとの関係がうかがえる。
22	C	宮地	市指定有形民俗文化財	実相院の庚申碑	八代市古麓町	延宝8年(1680)9月	春光寺	延宝8年(1680)9月吉日と、元文5年(1740)の両庚申の年が見えることから、この塔の創建と移(改)建を示すと考えられる。高さ4尺2寸7分砂岩。諸行無常偈を上に掲げ、生死流転の煩惱(三尸)をはなれ、正覚真実の世を楽しむという仏道修業の極意を示している。
23	C	宮地	市指定無形民俗文化財	妙見宮祭礼の飾馬	八代市妙見町		飾馬保存会	飾馬は花馬とも呼ばれ、勇壮な馬追いで妙見祭を盛り上げる。江戸時代は、八代城御城付衆や八代城主松井家の家臣たちが12頭を出していた。明治時代から戦前まで、八代神社の氏子の村から出されていたが、現在では、高校同窓会など有志の方々により奉納されている。行列での順番は、祭礼当日の早朝、御旅所となっている塩屋八幡宮で抽選によって決まる。
24	C	宮地	市指定無形民俗文化財	妙見宮祭礼の神馬	八代市妙見町		八代神社	妙見祭の神幸行列に出される神馬は、貞享元年(1684)、八代城主松井直之が神馬屋、仲間(馬の世話係)、飼料などをつけて永代寄進して以来、代々の八代城主がこれを奉納した。江戸時代から明治、大正まで、妙見宮氏子地区である田中村(現在の八代市田中町)が神馬奉納を受け持っていた。現在では、12月1日に行われる注連納の際、希望者の中から抽選で次年度の神馬奉納者を決定する。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
25	D	東陽	市指定無形民俗文化財	坂より上棒踊り	八代市東陽町河俣		坂より上棒踊り保存会	東陽町坂より上地区に伝わる棒踊り。平家の落人がこの地に住み着き、村人たちに武術を教えたことにはじまると伝わる。落人がなくなった後、その死をいたんで花棒踊りを加えて踊り継がれてきたといわれる。現在は東陽中学校で子供たちに伝承されている。
26	D	東陽	市指定無形民俗文化財	箱石雨乞い踊り	八代市東陽町小浦		箱石雨乞い踊り保存会	天明年間(1781～1788)の大かんばんつの際、農民の聴きが救われ、そのお礼と感謝を神にささげたものという伝承がある。永遠の豊作を祈念した踊り(箱石銭太鼓)の歌としても用いられる。
27	D	泉	市指定無形民俗文化財	本屋敷神楽	八代市泉町下岳		本屋敷神楽保存会	本屋敷神楽は、11月14日夜から15日にかけて本屋敷神社に奉納されている。現在は、11月第1日曜日に奉納されている。成立年代は不明であるが、本屋敷地域は、寛永6年(1629)の旗が残り、古くから奉納されていたと思われる。現在、舞手は、本屋敷地区の小学生の男子で、御幣をもち、楽に合わせて拜殿の中を回る。
28	D	泉	市指定無形民俗文化財	岩奥神楽	八代市泉町柿迫		岩奥神楽保存会	もともと肥後神楽の流れをくみ、明治43年(1910)ころ、甲佐町の神官赤星氏により伝授養成されたと伝わる。阿蘇家が肥の国に勢力を広げ、阿蘇地域が繁栄したころ、肥後神楽は宮司舞として発祥。その後、神楽は農民の間にも広がり、舞われ、祭りや農耕、年中行事と深く関わりながら今日まで伝承されている。なお、肥後神楽は、昭和35年(1960)に熊本県重要無形民俗文化財として指定を受けている。
29	E	泉	国選択無形民俗文化財	古代踊	八代市泉町久連子		久連子古代踊り保存会	五家荘久連子地区に伝わり、五家荘に隠れ住んだ平家の落人たちが都を偲んで舞ったといわれている。白い上衣とえび茶色の袴を着て、頭には「シャグマ」と呼ばれる久連子鶏(熊本県天然記念物)の黒い尾羽を飾った笠をかぶり、鉦や手製の締太鼓をたたきながら舞う。踊りは臼太鼓踊りの一種で、踊り唄のほかに念仏を唱えて踊る念仏踊りが残っているのが特徴。
30	E	泉	市指定無形民俗文化財	葉木神楽	八代市泉町葉木		葉木神楽保存会	貞享年間(1684～1687)に始まったといわれ、宮崎県の岩戸神楽の流れをくむもので、物資の個間が盛んであったことから伝わった。かつては33種類あったといわれるが、記録では24種類が伝わっており、歌だけのものや歌に神楽が付随するものがある。この神楽は、五穀豊穡や生存に対する感謝の願いを込めて神へ奉納することが主流をなし、かつては、神官の資格がない者が舞うことは禁止されていた。また、四方を御幣で囲い、その中で奉納舞がなされてきたが、その囲いの中へ女性が立ち入ることも禁止されていた。
31	E	泉	市指定無形民俗文化財	縦木神楽	八代市泉町縦木		縦木神楽保存会	高千穂神楽が元祖だといわれる縦木神楽は、宮崎県椎葉村の向山地区から山ひとつ隔てた縦木地区に伝わったとされる。江戸時代後期に始まり、戦時中は一時中断したが、戦後間もなく復活された。毎月10月第4土・日の縦木神社大祭には、五穀豊穡を祈念し、神楽を奉納している。お神酒を飲み交わしながらの舞や鬼神の面をつけた舞などが伝わっている。
32	G	坂本	国選択無形民俗文化財	八代・芦北の七夕綱	八代市坂本町中谷い、葦北郡芦北町		八代七夕綱保存会	集落の入り口などにワラ製の長い一本綱を張り、ワラ製の人形や履物、農具などのワラ細工を吊るすもので、集落を流れる川を挟んで張られる場合が多い。これは、七夕様(牽牛・織姫)が名和を伝って会う、集落内に悪霊や疫病が侵入することを防ぐ、盆の精霊が綱を渡ってやってくるなどの伝承がある。かつては、熊本県南部の30か所以上の地域で行われていたが、現在は、八代市坂本町中谷木々子、芦北町の上原、岩屋川内、下白木、祝坂の5つの地域で伝承されるのみ。
33	G	坂本	市指定無形民俗文化財	鮎婦雨乞い踊り	八代市坂本町鮎婦		鮎婦地区雨乞い踊り保存会	坂本町鮎婦地区に伝わる雨乞い踊り。江戸時代後期から始まったといわれる。にぎやかさで知られ、羽織姿で太鼓を持ち、鉦や笛、唄に合わせて踊る。もとは雨乞いに限らず、氏神奉納や願掛け、祝いごとの際などにも踊られていたが、試合に干ばつの雨乞いの際に踊られるようになった。戦前までは、日照りが続くと連日連夜交代で踊った。昭和17年(1942)を最後に踊りは途絶えたが、平成5年(1993)に地区公民館が呼びかけて復活させた。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	保存団体・管理者・所有者	場所・特徴
34	G	坂本	市指定無形民俗文化財	鶴喰棒踊り	八代市坂本町鶴喰		鶴喰地区棒踊り保存会	坂本町鶴喰地区に伝承されている棒踊りで、六尺棒、太刀を手に隊列を組み、太鼓と口説きに合わせ掛け声を掛けて踊る。江戸時代末期から明治時代初期のころ、鹿児島の人々によって伝わり、後に、地区の古老たちによって創意工夫が加えられ、現在の踊りになったと伝わる。代々地区の長男を主体に伝承されている。
35	G	坂本	市指定無形民俗文化財	久多良木棒踊り	八代市坂本町百済来下		久多良木棒踊り保存会	坂本町鶴喰地区に伝わる棒踊り。文政13年(1830)、地区の観音堂交流にあたり奉納されたのが始まりとされている。当初は「臼太鼓踊り」と共に奉納されていたが、現在伝わっているのは、棒踊りのみである。代々、地区の長男にのみ伝承され、門外不出とされていたため、昭和46年(1971)に一時途絶えたが、昭和58年(1983)に復活した。
36	H	日奈久		十五夜綱引き	八代市日奈久			正確な成立年代は不明であるが、一説には明治11年(1878)頃から続いているともいわれる。漁師の伝統を受け継ぐ縄作り技術とのつながりが深く、かつて漁村であった浜町と下西町の漁師が力比べの綱引き合戦をしたことが始まりといわれ、それぞれの大綱をつないで引き合うのが特徴。現在、大綱は、日奈久地域の七町内から出されており、観光客も綱引きに参加できる。
37	H	二見		二見雨乞い踊り	八代市二見洲口町		二見洲口町雨乞い踊り保存会	江戸時代末期、八代市植柳地区から洲口地区に伝わったという。干ばつとき、雨乞い祈願として洲口町竜宮神社に五穀豊穡と課内安全をお祈りする踊り。踊り方は、上杉謙信と武田信玄の川中島の戦いの様子を表現したもので、花棒は上杉謙信、唐扇は武田信玄をあらわしている。花棒2人、唐扇27人～28人、ドフ2人、カネ1人、横笛2人で構成され、横笛以外は12才以下の子供が演じている。

歴史文化遺産一覧 4. 記念物(史跡・名勝・天然記念物等)

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
1	A	高田	県指定史跡	高田焼平山窯跡	八代市平山新町	江戸時代・万治元年(1658)~明治3年(1870)	平山窯は斜面に築かれた登窯で、全長約20m、8室の焼成室と焚口からなる。県内では、最も遺存状態の良い近世陶磁器窯跡の一つである。
2	A	八千把	市指定史跡	産島貝塚	八代市古閑浜町	縄文~古墳	干拓が進む以前は、八代海上に浮かぶ石灰岩の小島であった。ハマグリ・アワビ・シジミ等の貝に混じって、縄文土器(押型文・曾畑式・夜臼式)の破片が出土している。
3	A	高田	市指定史跡	十二里木跡	八代市平山新町	江戸時代	薩摩街道沿いの一里塚である。
4	A	高田	市指定史跡	平山城跡	八代市平山新町	中世	南北朝の初め、八代荘の代官・内河義真が、初めて八代城の支城として築城した山城の跡である。
5	A	鏡	市指定史跡	だいばどんの墓	八代市鏡町内田	江戸時代	「大鞠節」の題材となった、干拓工事の現場監督「だいばどん」と「お菊」の悲恋に出てくる「だいばどん」の墓である。
6	A	鏡	市指定史跡	鹿子木量平の墓	八代市鏡町両出	江戸時代	文政3年(1805)から文政5年(1822)にかけて、百町、四百町、七百町という3度の大干拓事業を成功させた惣庄屋の墓である。
7	A	鏡	市指定史跡	鹿子木謙之助の墓	八代市鏡町両出	江戸時代	鹿子木量平の四男の墓である。
8	A	鏡	市指定史跡	溪玉院日珰上人の墓	八代市鏡町貝洲	江戸時代	百町開・四百町開・七百町開の氏神として加藤清正公の霊を勧請する際に、勧請の式をあげるためにこの地に来た僧の墓である。
9	A	太田郷		日置町貝塚	八代市日置町	古墳	須恵器、土師器、土鍾などが出土している。
10	A	八千把		船蔵貝塚	八代市上野町	古墳	土師器、須恵器などが出土している。浄沢寺境内及び周辺に分布している。
11	A	八千把		夫婦石貝塚	八代市古閑上町	古墳	土師器、須恵器などが出土している。
12	A	八千把		古閑上町貝塚	八代市古閑上町	古墳	土師器、須恵器などが出土している。
13	A	八千把		浄沢寺貝塚	八代市古閑中町	古墳	土師器、須恵器などが出土している。浄沢寺境内及び周辺に分布している。
14	A	八千把		芝口貝塚	八代市田中町	古墳	獣骨などが出土している。
15	A	高田		松岡屋敷跡	八代市平山新町	中世・近世	中世館跡である。
16	B	鏡	市指定史跡	有佐貝塚	八代市鏡町有佐	縄文	有佐貝塚は、縄文中期から後期~晩期(4000年~2000年前)の貝塚で平野部にある貝塚として注目されている。多種類の貝殻のほか、土器、石斧、石皿等が多数出土している。
17	B	鏡	市指定史跡	鏡が池	八代市鏡町上鏡		「鏡」の地名の由来となったとされる池である。鮒を手づかみで取って献上したことに由来するといわれる鮒取神事が現在も行われている。
18	B	鏡	市指定史跡	岩永三五郎の墓	八代市鏡町鏡村	江戸時代	肥後の名石工といわれ、特にめがね橋の築造についてすぐれた技術を持っていた人物の墓である。
19	B	鏡	市指定史跡	新川義塾跡	八代市鏡町内田	明治時代	明治期の教育施設の跡である。
20	B	鏡	市指定史跡	名和童山の墓	八代市鏡町鏡	明治時代	教育施設として新川義塾を開設した、明治期の教育者の墓である。
21	B	鏡	市指定史跡	遠山参良の墓	八代市鏡町鏡	明治時代	名和童山から漢学・英語を学び、明治25年、アメリカのオハイオ・ウエスレヤン大学を卒業し、明治44年(1911)私立九州学院を創立した人物の墓である。
22	B	鏡	市指定史跡	細川藩在倉跡	八代市鏡町鏡	江戸時代	細川藩時代に、年貢米を納めていた倉庫の跡である。
23	B	鏡	市指定史跡	御高札場跡	八代市鏡町鏡	江戸時代	法度や掟書を書いた立札や犯罪人の罪状などをかけた御高札場の跡である。
24	B	鏡	市指定史跡	八代郡倉跡	八代市鏡町鏡	古代	律令時代、八代地方の租米が集められ収納されていた「八代郡倉」の跡である。
25	B	鏡		下有佐城本丸跡	八代市鏡町下有佐	中世と推定	小早川新七郎が城主であったと伝えられる。
26	C	代陽	国指定史跡	八代城跡群 古麓城跡	八代市古城町	中世	古麓一帯の山頂を数段に削平した山城で、複数の城で構成されている。各城は曲輪の近くに堀切と堅堀を設け、山の麓に水堀をめぐらせていたと考えられる。また、城下を取り囲むように水無川を利用して総構えが設けられている。名和時代~相良時代(1334~1581)に八代海~球磨川を介した交流を行える立地の良さから用いられた。天正15年(1587)、豊臣秀吉の九州攻めの際には秀吉が数日間滞在し、宣教師のルイス・フロイスらと面会した場所でもある。
		麦島	国指定史跡	八代城跡群 麦島城跡	八代市古城町	中世	天正16年(1588)、小西行長が、重臣の小西行重に命じて築かせた城。築城当時、城の北側は大きな入り江で、中世以来の貿易港であった徳淵の津に近いなど、水運や交易に適していたことからこの地に築かれたとされる。九州最古の織豊系城郭の一つで、石灰岩の自然石を用いた野面積みの白い石垣が特徴である。元和元年(1615)の一國一城令の中で、熊本城と一國二城が許されたが、同5年(1619)の大地震によって倒壊したと考えられている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
26	C	宮地	国指定史跡	八代城跡群 八代城跡	八代市松江城町	近世	麦島城の崩壊後、加藤忠広が幕府の許可を得て家臣の加藤正方に命じて築城に着手し、元和8年(1622)に竣工した。石垣には麦島城の石垣や、八代産の石灰岩が用いられている。薩摩への警備番城としての役割とともに、沿海岸の異国船防備番役と九州西海道の防備の中心番城として位置付けられていたと考えられている。加藤氏(1622～32)・細川氏(1632～1645)・松井氏(1645～1870)が治め、明治3年(1870)に廃城となった。
27	C	代陽	国指定名勝	旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園	八代市北の丸町	元禄元年(1688)	元禄元年(1688)、八代城主松井直之が、母崇芳院のために築造した江戸時代初期の大名庭園。球磨川の水を導水した池の北側に築山を築き、築山越しに雲仙を望んだ雄大な構成の庭であった。
28	C	宮地	県指定史跡	妙見上宮跡	八代市妙見町	平安時代中期	妙見中宮より2km、海拔400mの横嶽の頂上に幅70m、長さ200m以上の台地があり、その南よりのところに上宮祠跡、北よりのところに湧水と庵の跡がある。中央基壇の東方から平安中期のものとみられる布目瓦が多数出土している。延暦14(795)年、ここに初めて妙見宮が造営されたと伝えられている。江戸時代は、大日、阿弥陀、釈迦の三体を祀ったといわれている。
29	C	代陽	県指定天然記念物	臥龍梅	八代市北の丸町		細川三斎(忠興)が八代の北の丸邸に隠居中に手づから植えたと伝わる梅。幹の形が地に臥せた龍の姿に似ていることから「臥龍梅」と呼ばれる。三斎亡き後、細川家筆頭家老であり、八代城主をつとめた松井家の手によって代々大切に育てられてきた。樹齢約400年。傍らにある臥龍梅碑は、明治17年(1884)、松井家12代当主松井敏之の意を受けて八代の碩学名和童山により建てられた。
30	C	代陽	市指定史跡	八代城下町御客屋跡－藩営本陣	八代市本町二丁目	江戸時代	八代城下に存在していた御客屋の跡である。
31	C	代陽	市指定史跡	八代の藩校伝習堂と教衛場跡	八代市松江城町	江戸時代	八代城二の丸に存在した藩校伝習堂と教衛場の跡である。
32	C	代陽	市指定史跡	永御蔵跡	八代市西松江城町	江戸時代	松井時代の貞享4年(1687)に建てられた米蔵の跡である。
33	C	代陽	市指定史跡	細川幽斎菩提所 泰勝院跡	八代市北の丸町	江戸時代	細川幽斎菩提所であった泰勝院の跡である。寛永9年(1632)に八代城に入城した細川忠興(三斎)が、この場所に父藤孝(幽斎)菩提寺の泰勝院を小倉から移したとされる。
34	C	代陽	市指定史跡	細川三斎茶毘所 甘棠園跡	八代市北の丸町	江戸時代	正保2年(1645)八代で亡くなった三斎が、茶毘に付された場所である。泰勝院内に存在していた。
35	C	代陽	市指定史跡	織田信長菩提所 泰蔵寺廃寺跡	八代市北の丸町	寛永10年(1633)	細川三斎(忠興)が信長供養のために、八代城に入城した翌年に建てたものである。
36	C	麦島	市指定史跡	鏡の池跡	八代市迎町二丁目	鎌倉末～南北朝前半	この地は、津守国夏(つものりのくに)・鎌倉末～南北朝前半)の「さつまがた かがみの池の ひとつおし おのが影をや つまと見るらむ」の歌にある、雌雄の鶯鶯の美しくも悲しい説話で有名な「鏡の池」の跡である。加藤正方が麦島城主であった頃は、広く美しい池として八代の名所になっており、正方が作った謡曲「八代八景」の歌枕にもなった。
37	C	高田	市指定史跡	平安後期～中世の用水施設杭瀬とその発展の選拝堰	八代市豊原上町	平安後期～中世	中世には「杭(くい)瀬(せ)」と呼ばれ、近世には「石堰」に改造され、「選拝堰」と呼ばれるようになった。堰から取水した水は、太田井出・麓川などを通して鏡町の七百町新地などの干拓地も潤してきた。現在の選拝堰は昭和40年代に建設され、湾洞沈砂地で分けられた水は、農業、工業用水のほか、宇城・天草地域の水道水としても利用されている。
38	C	高田	市指定史跡	中院義定卿館跡・高田御所跡・八代征西府跡	八代市奈良木町	南北朝時代	正平元(1346)年2月5日、中院義定が館をかまえた場所。義定はその後、阿蘇・恵良両氏の説得をしたり、菊池氏の連結に務めるなどして、征西大將軍懐良親王をこの地へお迎えする準備をした人物である。正平2年12月14日、親王は薩摩の谷山から肥後に入り、10日ほどこの場所に滞在され、これが高田御所の始まりとなったとされる。
39	C	宮地	市指定史跡	懐良親王御両親の墓 御小袖塚	八代市妙見町	1300年代	征西大將軍懐良親王が父後醍醐天皇と母君の追福のために建てた。親王が吉野をたつ際に、形見にもらった小袖をここに埋められたことから、御小袖塚と呼ばれている。
40	C	宮地	市指定史跡	征西大將軍懐良親王御墓	八代市妙見町	1300年代	懐良親王は、九州における南朝方の中心人物として活躍し、正平2年(1347)征西大將軍として九州に下向し、薩摩から上陸し八代にも訪れた。親王の死後、縁の深かった八代に墓が築かれ、明治11年(1878)、宮内省から懐良親王の墓と決定され、現在は宮内庁所管となっている。墓所内には大正5年(1916)に発見された、親王御自筆銘の宝篋印塔(ほうきょういんとう)が置かれている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
41	C	宮地	市指定史跡	懐良親王御両親菩提所 護国山頭孝寺跡	八代市妙見町	1300年代	征西大将軍懐良親王が父後醍醐天皇と母君の追福のために建てた菩提寺の跡。向かって左は天皇、右は御生母の塔で、その墓前には菩提寺として護国山頭孝寺を建て、仏壇には親王自筆跡の御霊牌を安置して供養した。
42	C	宮地	市指定史跡	加藤忠正の墓	八代市妙見町	1600年代	慶長12年(1607)亡くなった、加藤清正の嫡男忠正の墓。
43	C	宮地	市指定史跡	妙見中宮跡	八代市妙見町	永暦元年(1160)	二条天皇の勅願により肥後国司であった従五位肥後守平貞能が社殿を造営した。跡地からは格子文を持つ布目瓦が採取されている。また、中宮川の対岸からは平安時代の瓦塔の一部が出土している。
44	C	宮地	市指定史跡	中宮山護神寺廃寺跡	八代市妙見町	南北朝時代	この一帯は懐良親王墓ができる以前に妙見中宮の首坊護神寺が建っていた所で、昭和15年に行われた境内の整地作業の際に多数の布目瓦とともに塔心礎が発見され、その後現在地に移された。
45	C	宮地	市指定史跡	永御蔵番所	八代市古麓町	文政5年(1822)	永御倉御門と同様、貞享4(1687)年に、八代城三ノ丸(現在の西松江城町)に設けられた蔵屋敷「永御蔵」で使用されていた番所。番所の建てられた年代は不明であるが、御門の懸魚(げぎよ・飾り板)の裏側には「文政五年」(1822)という墨書がある。昭和61年(1986)に松井家の菩提所である春光寺に移設、復元された。(台帳)
46	C	植柳	市指定名勝	栽柳園	八代市植柳上町	明治6年(1873)	明治6年(1873)、八代城主松井章之は、盛之に家督をゆずり、この地に別邸をつくって次男将之と共にここに移り住んだ。この際に隈本藩主細川家のお茶道役古市氏に命じて造らせたのが、この栽柳園である。明治10年(1877)西南の役の際、一時薩軍によって本部が置かれた。明治41年(1866)、植柳小学校の敷地となった。現在、校舎の位置は変わったが、庭園はもとのままで、一時荒廃したものの、昭和43年(1968)に栽柳園保存会ができて復元、保存、美化にあたった。
47	C	代陽	市指定天然記念物	八王社の樟	八代市北の丸町		浅井神社境内にある推定樹齢1000年以上、幹周り11.2mもの大樟。この地方一番の巨樟として知られており、地域の人々からは、浅井神社の御神木として代々尊崇の対象とされてきた。当地は、かつて「浅井の津」と呼ばれた港があり、この樟の木は、入港してくる船の目印とされていたといわれている。
48	C	宮地	市指定天然記念物	妙見宮の樟	八代市妙見町		境内にある巨樟。天正9年(1581)、戦勝祈願を行った相良義陽の戦旗がこの樟の枝にかかってちぎれたため、周囲は不吉だと止めたが、出陣した義陽は戦死してしまったという言い伝えが残っている。天正16年(1588)のキリシタン一揆で、木の一部を焼失したという。幹周り7.5m。
49	C	高田		下堀切遺跡	八代市豊原下町	弥生時代	溝が検出されており、内部や周辺から弥生時代後期の土器や木器などが出土している。
50	C	宮地		大平城跡	八代市妙見町	中世	中世の城跡である。
51	C	宮地		宮地観行寺遺跡	八代市宮地町	古墳～古代	配石遺構、溝、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑などが検出されている。また、須恵器、土師器、龍泉窯系青磁などが出土している。
52	C	宮地		宮地小畑遺跡	八代市宮地町	古墳～近世	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴、埋没河川などが検出されている。また、須恵器、土師器、龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、緑釉陶器、木器、人骨、獣骨、貝などが出土している。
53	C	宮地		宮地池尻遺跡	八代市宮地町	古代～中世	古代～中世の集落跡が確認されている。
54	C	宮地		宮地年神遺跡	八代市宮地町	弥生～古代	井戸、柱穴などが検出されている。また、弥生土器、土師器、須恵器、青磁などが出土している。「大領舎」と刻まれた刻書土器が出土している。
55	C	宮地		新城跡	八代市古麓町	中世	国史跡古麓城跡を構成する中世の城跡。
56	C	宮地		丸山城跡	八代市古麓町	中世	国史跡古麓城跡を構成する中世の城跡。
57	C	宮地		鞍掛城跡	八代市古麓町	中世	国史跡古麓城跡を構成する中世の城跡。
58	C	宮地		鷹峯城跡	八代市古麓町	中世	国史跡古麓城跡を構成する中世の城跡。
59	C	宮地		勝尾城跡	八代市古麓町	中世	中世の城跡である。
60	C	宮地		飯盛城跡	八代市古麓町	中世	中世の城跡である。
61	C	宮地		八丁嶽城跡	八代市古麓町	中世	中世の城跡である。
62	C	宮地		古麓能寺遺跡	八代市古麓町	古代・中世	竪穴住居跡、石組井戸、掘立柱建物跡、柵列、墓域などが検出されている。また、須恵器、土師器、龍泉窯系青磁、景德鎮系染付、福建系陶器、朝鮮王朝系白磁、常滑系陶器などが出土している。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
63	C	宮地		平家城跡	八代市東町	中世	中世の城跡である。
64	D	東陽	市指定天然記念物	白髪岳天然橋	八代市東陽町北		東陽町五反田の白髪岳の東麓にあるアーチ橋状の形をした岩盤。9万年前に起った阿蘇の火砕流が堆積して溶結凝灰岩となり、永い年月の浸食によって現在のような形が作り出されたもの。東陽地区には「白髪岳の天神様が山を下りて来られる際に、道を塞いでいた大岩を蹴り破って出られたために出来た」という伝説が残っており、江戸時代の地誌である『肥後国誌』にもこの伝説が紹介されている。現在、天然橋の下方には菅原神社がまつられ、蹴り破った時の破片と伝わる岩が田んぼの中に残っている。
65	D	東陽		小浦城跡	八代市東陽町小浦	中世	中世の城跡であり、養田善内兵衛弟が築いたとされている。
66	D	東陽		小浦の城山	八代市東陽町小浦	中世	中世の城跡である。
67	D	東陽		黒淵城跡	八代市東陽町南	中世	中世の城跡である。城の平と呼ばれている。
68	D	東陽		居鷺嶽城跡	八代市東陽町南	中世	中世の城跡である。
69	D	東陽		古城原城跡	八代市東陽町南	中世	中世の城跡である。
70	D	東陽		陣内城跡(南種山城)	八代市東陽町南	中世	中世の城跡である。別名南種山城と呼ばれ、相良家臣在城していた。
71	E	泉	県指定天然記念物	久連子鶏	八代市泉町久連子		漆黒の羽と小さな角状の鶏冠、著しい鼻孔の突起が特徴的で、久連子地域にしか生息していないといわれる珍しい鶏。90cmもの長さになる黒い尾羽は久連子古代踊り(国選択)の花笠(シャグマ)の羽飾りに使用されている。
72	F	植柳	国指定名勝	不知火及び水島	八代市植柳下町		水島は、八代海に面した球磨川の加工に位置する小島で、石灰岩質の島本体と周囲に点在する大小の岩石群からなり、不知火海(八代海)と天草の島々を拝啓に優れた景観をなしている。万葉集には、長田王が水島を詠んだ歌があるほか、中世においても相良義陽などによる水島参詣などの記述があり、肥後において水島は景勝地とされていた。天保14年(1843)には、水島新地築造の際に干拓地に取り込まれそうになったが、和田殿足の建議により陸化せず、現在に至っている。
73	F	太田郷	市指定史跡	鐘樓堂貝塚	八代市井上町	弥生～古墳	貝層からは弥生時代後期(1世紀から3世紀)の壺形土器の破片や高杯(たかつぎ)が出土し、丹塗りされた土器も含まれている。このほかに、鹿の骨や土鍾(どすい)なども出土している。
74	F	金剛	市指定史跡	志紀河内村杵築宮と古宮床	八代市敷川内町	1300年代	名和義高は、建武の新政の恩賞として八代の荘を所領に賜るとすぐに、後醍醐天皇に許しを願い、建武2年(1335)に敷川内村を出雲大社に寄進した。そして村の鎮守・田の河内関の守護神として出雲大社を村内に勧請し、社を建てた。その最初の社地が「古宮床」として現在も鳥居の前に残っている。
75	F	龍峯	市指定史跡	興善寺廃寺跡	八代市興善寺町	飛鳥時代末～平安時代(7世紀後半～12世紀)	龍峰山麓に存在していた古代寺院跡で、八代で最も古い寺院跡とされる。興善寺町一帯は、飛鳥時代末～平安時代(7世紀後半～12世紀)にかけて栄えた古代寺院のあった場所で、発掘調査により、167m四方の築地塀の正面に南大門があり、中門を通ると右に三重の塔、左に金堂、中央奥には講堂が建ち並ぶ伽藍配置であったことが確認されている。また、大量の布目瓦や土師器・須恵器などの土器も出土している。
76	F	千丁	市指定史跡	上土城跡	八代市千丁町太牟田	中世	中世の城跡である。
77	F	太田郷		中片小路遺跡	八代市中片町	古墳～近世	古墳時代初頭の溝、中世の土坑・流路、近世掘立柱建物跡、近世墓などが検出されている。
78	F	太田郷		橋ノ上貝塚	八代市西片町	古墳	弥生土器、土師器などが出土している。
79	F	太田郷		西片稲村遺跡	八代市西片町	古代～中世	古墳時代前期の住居跡、古代末から中世初頭にかけての掘立柱建物跡が検出されている。須恵器、土師器などが出土している。
80	F	太田郷		西片百田遺跡	八代市西片町	弥生～古墳	弥生時代の竪穴住居跡、溝、土坑が検出されている。また、弥生中期の重丸文土器、古墳時代初頭の土師器などが出土している。
81	F	太田郷		西片乙津遺跡	八代市西片町	古代・中世	掘立柱建物跡、溝跡などが検出されている。また、「馬取」銘の刻書土器、転用硯等の文字関連遺物が出土しており、片野駅関連遺跡であると考えられている。
82	F	太田郷		西片下通丸遺跡	八代市西片町	古代・中世	掘立柱建物跡、溝跡などが検出されている。また、「馬取」銘の刻書土器、転用硯等の文字関連遺物が出土しており、片野駅関連遺跡であると考えられている。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
83	F	太田郷		用七遺跡	八代市長田町	弥生～古墳	弥生時代の竪穴住居、古墳時代初頭の方形周溝墓などが検出されている。また、青銅製鉾、免田式土器などが出土している。
84	F	太田郷		島田遺跡	八代市島田町	弥生～古墳	住居址、土器溜、弥生土器、石器などが出土している。
85	F	太田郷		白石貝塚	八代市上日置町	弥生～古墳	須恵器、土師器、布目瓦、人骨、土鍾などが出土している。
86	F	太田郷		上日置女夫木遺跡	八代市上日置町	弥生～古墳	青銅製の小銅鐸、免田式土器などが出土している。
87	F	金剛		五反田貝塚	八代市敷川内町	縄文	縄文中期の阿高式土器、石鏃などが出土している。
88	F	龍峰		岡城跡	八代市岡町中	中世	中世の城跡である。
89	F	龍峰		竜峰貝塚	八代市岡町谷川	古墳	須恵器、土師器が出土している。
90	F	龍峰		関城跡	八代市興善寺町	中世	中世の城跡である。
91	F	龍峰		竜峰城跡	八代市興善寺町	中世	中世の城跡である。
92	F	千丁		島貝塚	八代市千丁町新牟田	古代	土師器、須恵器、瓦器が出土している。
93	G	坂本	国指定名勝	肥後領内名勝地 五郎ヶ瀧 聖り瀧 走り水ノ瀧 建神ノ岩 神ノ瀬ノ岩屋	八代市坂本町深水は		坂本町深水台の中流を流れる走り水川にかかる滝で、滝口から滝壺までの高さが約100メートルもある滝です。滝の西側にある板の平集落から見ると白く見えたことから「白滝」とも呼ばれ、古くから景勝地として知られる。江戸時代には、熊本藩主第8代細川斉茲(なりしげ)が、藩内の景色のすぐれたところを選んで御用絵師に制作させた絵巻物「領内名勝図巻」に本滝が「走り水ノ瀧」として描かれた。国指定では、この絵巻に描かれた風景地の中から5ヶ所を選定し、指定している。
94	G	坂本	県指定史跡	今泉製鉄跡	八代市坂本町西部ろ	江戸時代・嘉永2年(1849)～明治10年頃	江戸時代末期の嘉永2年(1849)に操業を始めた八代城の御用製鉄所の跡である。この遺跡一帯は、以前から鉄山床地と呼ばれており、昭和53年の発掘調査によって、地中には溶鉱炉の下部構造(本床や小舟)が良好な状態で残っていることが確認されている。
95	G	坂本	市指定天然記念物	薬師堂の銀もくせい	八代市坂本町鮎帰い		市内にあるモクセイでは最大級となる。樹勢が良く樹冠は密で丸くなっており樹形も良い。薬師堂建立の時、植えられたもので樹齢はおよそ510年と推定される。なお、薬師堂に安置されている十一面観音の台座に文明4年(1472)と銘記がある。
96	G	坂本	市指定天然記念物	まるもり	八代市坂本町鮎帰ろ		クロガネモチ2本(雌雄)とタブの大木1本で、きれいな丸い森を形成しており、「まるもり」と呼んでいる。いつ頃植えられたものかは不明であるが、墓地の木として大きくなったものと考えられる。
97	G	坂本	市指定天然記念物	藤本五所神社の森	八代市坂本町葉木		延暦年間ごろに創建されたといわれ、多くの巨木が枝を繁らせている藤本五所神社。境内には楠やイチイガンなどがそびえ、地区の鎮守の森としてふさわしい、迫力ある姿を見せている。特に、球磨川河畔では、胸高幹回7.7m、樹高31.5mもある坂本町内最大のイチイガンが立っており、見る人を圧倒する。
98	G	坂本	市指定天然記念物	中津道阿蘇宮の森	八代市坂本町中津道		阿蘇宮の境内で、イチイガン、エノキ、カエデ、モクセイなどで形成された森。中津道地区の氏神の森であり、春の新緑、秋の紅葉が、ダムで湖水と化した球磨川に映える姿はとて美しい。
99	G	坂本	市指定天然記念物	久多良木神社の森	八代市坂本町百済来下		久多良木神社の境内に、エノキ、スギ、イチヨウなどで形成された森。戦中、戦後、数回の台風被害を受ける以前は、うっそうとした森であったが、多くは処理され、一部が残っている状態。現在も久多良木地区の氏神の森として大切に受け継がれている。
100	G	坂本		原女木経塚	八代市坂本町西部ろ	中世	板碑が存在しており、経石が埋納されている。
101	G	坂本		馬廻経塚	八代市坂本町中谷い	中世	板碑・経石を収めた壺が埋められている。
102	G	坂本		瀬高城跡	八代市坂本町中谷は	中世	中世の山城跡である。
103	G	坂本		鶴見城跡	八代市坂本町鶴喰	中世	中世の城跡である。上鶴城ともいう。城主墓・館跡が確認される。
104	G	坂本		田野宇楚城跡	八代市坂本町田上	中世	中世の山城跡である。
105	G	坂本		八枝城跡(推定地)	八代市坂本町百済来下	中世	中世の山城跡である。
106	G	坂本		ユルサ城跡	八代市坂本町百済来下	中世	中世の山城跡である。
107	G	坂本		久多良木城跡	八代市坂本町百済来下	中世	中世の城跡である。二重空濠が残されており、瓦・土器片が出土している。
108	G	坂本		船倉城跡	八代市坂本町百済来上	中世	中世の山城跡である。馬場跡が確認されている。
109	G	坂本		羽仁田城跡	八代市坂本町百済来上	中世	中世の山城跡である。空濠跡が確認されており、甕、茶碗片が出土している。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
110	H	日奈久	市指定史跡	田河内関と田河内城跡	八代市日奈久新田町	中世	南北朝時代の山城である。名和家の家臣園田宗林の居城で、宗林の死後、阿蘇家の家臣である草壁文右衛門が城主となったと伝えられている。城跡は竹之内峠から北西に伸びる山稜の独立丘陵上に位置しており「城の山」と呼ばれている。城の西麓では大型の五輪塔が発見されており、また、城から150mほど西側の集落には「馬場」「往還下」など城に関連する地名が現在も残っている。
111	H	日奈久	市指定史跡	田ノ川内貝塚	八代市日奈久新田町	縄文	阿高・南福寺・出水・石斧・銚状石鏃が出土している。また、貝塚の中に「田川内古墳」が存在している。
112	H	日奈久		山ノ神貝塚	八代市日奈久新田町	古墳	人骨、須恵器、土師器が出土している。
113	H	日奈久		千代永城跡	八代市日奈久山下町	中世	中世の城跡である。堀切、五輪塔が残されている。
114	H	日奈久		比丘尼ヶ城跡	八代市日奈久馬越町	中世	中世の城跡である。通称「櫛山城」。瓦が出土している。
115	H	二見		二見城(園田城)跡	八代市二見本町	中世	中世の城跡である。堀切、曲輪が残されている。
116	H	二見		二見南城跡	八代市二見本町	中世	中世の城跡である。
117	H	二見		金干城跡	八代市二見本町	中世	中世の城跡である。

歴史文化遺産一覧 4. 記念物(古墳)

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称		所在地	特徴		
1	F	金剛	県指定史跡	大鼠蔵古墳群	楠山古墳	八代市鼠蔵町	円墳	竪穴式石室	鉄剣・刀子・鉄鏃・土師器・人骨
2	F	金剛	県指定史跡	大鼠蔵古墳群	尾張宮古墳	八代市鼠蔵町		横穴式石室	装飾古墳
3	F	金剛	県指定史跡	大鼠蔵古墳群	南東第1号墳	八代市鼠蔵町		箱式石棺	土師器・人骨・装飾古墳
4	F	金剛	県指定史跡	大鼠蔵古墳群	北西第4号墳	八代市鼠蔵町		箱式石棺	
5	F	金剛	県指定史跡	大鼠蔵古墳群	大鼠蔵東麓1号墳	八代市鼠蔵町			消滅、石棺の装飾石材は八代市立博物館に展示
6	F	日奈久	県指定史跡	田川内古墳群	第1号墳	八代市日奈久新田町	円墳	横穴式石室	蕨手刀子・剣・鉄斧・貝釧・甲冑・須恵器・装飾古墳
7	F	太田郷	市指定史跡	八代大塚古墳		八代市上片町	前方後円墳		
8	F	太田郷	市指定史跡	茶臼山古墳		八代市上片町	円墳		
9	F	太田郷	市指定史跡	高取上ノ山古墳		八代市上片町	前方後円墳	横穴式石室	
10	F	太田郷	市指定史跡	鬼の岩屋古墳群	第1号墳	八代市上片町		鬼の岩屋式石室	須恵器・人物埴輪他
11	F	太田郷	市指定史跡	虚空蔵古墳		八代市長田町		鬼の岩屋式石室	剣・土師器
12	F	八千把	市指定史跡	産島古墳群	第1号墳	八代市古閑浜町		箱式石棺	
13	F	八千把	市指定史跡	産島古墳群	第2号墳	八代市古閑浜町		箱式石棺	
14	F	八千把	市指定史跡	産島古墳群	第3号墳	八代市古閑浜町		箱式石棺	
15	F	八千把	市指定史跡	産島古墳群	第4号墳	八代市古閑浜町		箱式石棺	
16	F	金剛	市指定史跡	五反田古墳		八代市敷川内町		横穴式石室	装飾古墳
17	F	金剛	市指定史跡	小鼠蔵山古墳群	第1号墳	八代市鼠蔵町		竪穴系横口式石室	装飾古墳
18	F	金剛	市指定史跡	小鼠蔵山古墳群	第2号墳	八代市鼠蔵町		箱式石棺	
19	F	金剛	市指定史跡	小鼠蔵山古墳群	第3号墳	八代市鼠蔵町		箱式石棺	装飾古墳
20	F	金剛	市指定史跡	小鼠蔵山古墳群	第4号墳	八代市鼠蔵町		箱式石棺	
21	F	龍峰	市指定史跡	行西古墳群	第1号墳	八代市岡町中		鬼の岩屋式石室	
22	F	龍峰	市指定史跡	行西古墳群	第2号墳	八代市岡町中		鬼の岩屋式石室	須恵器
23	F	龍峰	市指定史跡	行西古墳群	第3号墳	八代市岡町中		鬼の岩屋式石室	
24	F	龍峰	市指定史跡	如見古墳群	第2号墳	八代市岡町谷川		鬼の岩屋式石室	
25	F	龍峰	市指定史跡	門前古墳群	第2号墳	八代市岡町谷川		横穴式石室(装飾)	
26	F	龍峰	市指定史跡	谷川古墳群	第1号墳	八代市岡町谷川		鬼の岩屋式石室	人骨・鉄器・須恵器・金環
27	F	龍峰	市指定史跡	谷川古墳群	第2号墳	八代市岡町谷川		鬼の岩屋式石室	変形獣首鏡・方格規矩鏡・勾玉・管玉・刀
28	F	龍峰	市指定史跡	川上古墳群	第2号墳	八代市川田町東		鬼の岩屋式石室	
29	F	日奈久	市指定史跡	竹之内古墳		八代市日奈久竹之内町		鬼の岩屋式石室	
30	F	太田郷		天神古墳		八代市東片町	円墳		須恵器
31	F	太田郷		むかいやぼ古墳		八代市東片町			
32	F	太田郷		御経塚古墳		八代市東片町	円墳		
33	F	太田郷		鬼の岩屋古墳群	第2号墳	八代市上片町			
34	F	太田郷		鬼の岩屋古墳群	第3号墳	八代市上片町			
35	F	太田郷		鬼の岩屋古墳群	第4号墳	八代市上片町		鬼の岩屋式石室	
36	F	太田郷		鬼の岩屋古墳群	第5号墳	八代市上片町	円墳	鬼の岩屋式石室	
37	F	太田郷		用七古墳		八代市長田町		箱式石棺	
38	F	太田郷		いら塚古墳		八代市井上町	円墳		
39	F	太田郷		鐘樓堂古墳		八代市井上町			
40	F	松高		高島古墳群	第1号墳	八代市高島町		箱式石棺	
41	F	松高		高島古墳群	第2号墳	八代市高島町		箱式石棺	
42	F	松高		高島古墳群	第3号墳	八代市高島町		箱式石棺	
43	F	松高		高島古墳群	第4号墳	八代市高島町		箱式石棺	
44	F	高田		奈良木古墳群	第1号墳	八代市奈良木町			
45	F	高田		奈良木古墳群	第3号墳	八代市奈良木町	円墳		土師器・土鍾
46	F	高田		奈良木古墳群	第10号墳	八代市奈良木町			
47	F	高田		平山古墳		八代市平山新町			剣・甲冑・玉類
48	F	金剛		丸山古墳群	第2号墳	八代市敷川内町		地下式板石積石室	

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称		所在地	特徴	
49	F	金剛		丸山古墳群	第3号墳	八代市敷川内町		地下式板石積石室
50	F	宮地		乙丸古墳群	第1号墳	八代市宮地町		
51	F	宮地		乙丸古墳群	第2号墳	八代市宮地町		
52	F	宮地		乙丸古墳群	第5号墳	八代市宮地町		
53	F	宮地		乙丸古墳群	第6号墳	八代市宮地町	前方後円墳	
54	F	宮地		乙丸古墳群	第7号墳	八代市宮地町		
55	F	宮地		乙丸古墳群	第8号墳	八代市宮地町		
56	F	宮地		乙丸古墳群	第9号墳	八代市宮地町		
57	F	宮地		乙丸古墳群	第10号墳	八代市宮地町		
58	F	宮地		御内古墳		八代市古麓町		須恵器・金環
59	F	宮地		山下古墳		八代市古麓町		須恵器
60	F	龍峰		境古墳群	第1号墳	八代市岡町小路		鬼の岩屋式石室
61	F	龍峰		境古墳群	第2号墳	八代市岡町小路		鬼の岩屋式石室
62	F	龍峰		境古墳群	第3号墳	八代市岡町小路		鬼の岩屋式石室 人骨・勾玉・刀子・須恵器・仿製 振文帯鏡
63	F	龍峰		平原古墳群	第1号墳	八代市岡町小路		石材のみ
64	F	龍峰		平原古墳群	第2号墳	八代市岡町小路		土師器・須恵器・ 玉類・鉄製品他・ 石材のみ
65	F	龍峰		平原古墳群	第3号墳	八代市岡町小路		土師器・須恵器・ 石材のみ
66	F	龍峰		平原古墳群	第4号墳	八代市岡町小路		石材のみ
67	F	龍峰		平原古墳群	第5号墳	八代市岡町小路		石材のみ
68	F	龍峰		行西古墳群	第4号墳	八代市岡町中	円墳	鬼の岩屋式石室
69	F	龍峰		玉泉寺古墳群	第1号墳	八代市岡町中		石材のみ
70	F	龍峰		玉泉寺古墳群	第4号墳	八代市岡町中		石材のみ
71	F	龍峰		山口古墳群	第1号墳	八代市岡町中		鬼の岩屋式石室
72	F	龍峰		山口古墳群	第2号墳	八代市岡町中		鬼の岩屋式石室
73	F	龍峰		谷川古墳群	第3号墳	八代市岡町谷川		
74	F	龍峰		如見古墳群	第1号墳	八代市岡町谷川		竪穴式石室
75	F	龍峰		清水古墳群	第1号墳	八代市岡町谷川		鬼の岩屋式石室
76	F	龍峰		門前古墳群	第1号墳	八代市岡町谷川		
77	F	龍峰		川上古墳群	第1号墳	八代市川田町東		鬼の岩屋式石室
78	F	龍峰		川上古墳群	第3号墳	八代市川田町東		石材散在
79	F	龍峰		車塚古墳		八代市川田町東	前方後円墳と推定	
80	F	龍峰		岡塚古墳群	第2号墳	八代市川田町東	前方後円墳と推定	
81	F	日奈久		塩釜山古墳群	第1号墳	八代市日奈久大坪町		竪穴式石室 仿製変形獸文 鏡・玉類
82	F	日奈久		塩釜山古墳群	第2号墳	八代市日奈久大坪町		竪穴式石室
83	F	日奈久		塩釜山古墳群	第3号墳	八代市日奈久大坪町		人骨・刀剣・金具
84	F	日奈久		塩釜山古墳群	第4号墳	八代市日奈久大坪町		割石積石室と推定
85	F	日奈久		田川内古墳群	第2号墳	八代市日奈久新田町		箱式石棺 装飾古墳
86	F	日奈久		鳩山古墳		八代市日奈久馬越町		円筒埴輪・須恵器
87	F	鏡		有佐大塚古墳		八代市鏡町有佐	前方後円墳	貝塚をそのまま古 墳に転用したもの

歴史文化遺産一覧 5. 干拓関連遺産

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
1	A・I	郡築	国重要文化財	旧郡築新地甲号樋門 附潮受堤防	八代市郡築三番町	明治33年 ～35年 (1900～902)	明治29年(1896)、八代郡により郡築新地の造成が計画され、同37年(1904)に完成。この干拓地造成に伴い甲・乙・丙号の3基の樋門が築かれ、甲号樋門のみ現存している。甲号樋門は、全長約31.5m、高さ約6.8m、幅約5.2mの石造アーチ式十連樋門であり、現存する明治時代の干拓樋門としては国内最大級。昭和42年(1967)に樋門西側に新たに堤防が築かれ、一度その役目を終えたが、平成7年(1995)に一部改築し、再度排水樋門として機能するようになった。
2	A・I	郡築	国登録有形文化財	郡築二番町樋門	八代市郡築二番町	昭和12年 (1937)	昭和11年(1936)、高潮によって堤防が決壊したため、昭和12年(1937)に新たに布設された樋門。農業樋門であり、排水樋門としても機能している。全長12.5m、高さ6.0m、幅約4.5mの石造アーチ三連樋門。この樋門は、郡築甲号樋門と同様に昭和42年(1967)に役目を終えたが、平成7年(1995)に改築され、再度排水樋門として機能している。
3	A・I	千丁	県指定史跡	大鞠樋門群(江中樋)	八代市鏡町両出、千丁古閑出	文政2年 (1819)	大鞠樋門群は、八代市鏡町両出と八代市千丁町古閑出の塚を流れる大鞠川に架かる樋門群。これら樋門群は、文政2年(1819)に行われた四百町新地開に伴って築造された。当初は、5つの樋門で構成されていたが、このうち2つは、新橋架け替えや埋没により現在は「殻樋」「二番樋」「江中樋」のみが現存する。昭和24年(1949)、下流に新樋門が竣工したことにより、昭和26年(1951)に用途が廃止された。現在の八代市鏡町を形成した四百町新地開の歴史的遺構とともに、近世から続く八代平野の干拓の歴史を示す重要な建造物である。 江中樋は、全長9.2m、高さ5.2m、幅4.5m、樋管高2.0m、樋管幅1.86～2.04m。築造当初は、「四枚戸江中」と呼ばれ、4連の樋管を有していたが、現在は3連の樋管となっており、後世に大規模な改修を受けた可能性がある。
4	A・I	鏡	県指定史跡	大鞠樋門群(二番樋)	八代市鏡町両出、千丁古閑出	文政2年 (1819)	大鞠樋門群のひとつ。文政2年(1819)に行われた四百町新地開に伴い築造された。5連の樋管を有していることから当初は「三枚戸二番樋」と呼ばれていたという。全長9.7m、高さ4.9m、幅3.0m、樋管高2.1m、樋管幅1.85～2.07m。
5	A・I	鏡	県指定史跡	大鞠樋門群(殻樋)	八代市鏡町両出、千丁古閑出	文政2年 (1819)	大鞠樋門群のひとつ。文政2年(1819)に行われた四百町新地開に伴い築造された。5連の樋管を有していることから当初は「五枚戸殻樋」と呼ばれていたという。全長13.5m、高さ5.7m、幅4.6m、樋管高2.8m、樋管幅2.0m。
6	A・I	太田郷		旧郡築用水 楠堰	八代市萩原町二丁目	明治40年 (1907)	郡築新地の完成後、灌漑用水を引くこととなり、明治38年(1905)から水路調査が行われ、明治39年(1906)に着工、明治40年(1907)に竣工した。このとき築造されたのが「楠堰」と「稻荷堰」である。銘板によると築造年代は明治40年2月。構造は、石造桁式三連スルーゲート。昭和47年(1972)に新たに八代平野全域を対象とした水路計画が立ち上がり、新たに選擇頭首が設けられたため、「楠堰」と「稻荷堰」は役目を終えた。現在は、昭和56年(1981)の下水道管敷設の際に埋め立てられ、「稻荷堰」は埋没、「楠堰」は上部のみその姿を確認できる。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
7	A	太田郷		郡築用水路	八代市萩原町～昭和町	明治40年(1907)	郡築新地に水を引くために造られた用水路である。
8	A	太田郷		昭和用水萩原樋	八代市萩原町二丁目	大正11年(1922)	現状は半埋没状態である。
9	A	松高		高島新地旧堤防	八代市井揚町	文化13年(1816)	文化13年(1816)に八代城代松井徹之により築造された高島新地の築造のために造られた堤防と樋門の一部が現在も残されている。堤防は当時の海に面する側(西側)に石灰岩の石垣を築きそれを土塁で支えている。高さ約2.4m、長さ約265mが現存する。
10	A	金剛		流藻川樋門跡③ 南側	八代市催合町	弘化2年(1845)	催合新地造成の際に造られた。現在、袖石垣が残存している。
11	A	金剛		流藻川樋門跡① 北側	八代市高植本町	寛政4年(1792)	築添新地の造成の際に造られた。現在、袖石垣が残存している。
12	A	金剛		流藻川樋門跡② 中央	八代市高植本町	寛政4年(1792)	築添新地の造成の際に造られた。現在、袖石垣が残存している。
13	A	金剛		水島新地樋門	八代市水島町	天保14年(1843)	水島新地造成の際に造られた。現在、袖石垣が残存している。
14	A	金剛		水島新地旧堤防(時川旧堤防)	八代市水島町	文化元年(1804)か	延長はかなり長く残っている。
15	A	郡築		郡築堤防	八代市郡築二番町～五番町	明治37年(1904)	八代郡により郡築新地の造成が計画され、明治33年(1900)に着手、明治37年(1904)に完成した。
16	A	日奈久		流藻川内堤樋門	八代市日奈久新開町	明治37年(1904)	袖石垣のみ残存している。
17	A	日奈久		流藻川7号樋 海治い	八代市日奈久新開町	明治37年(1904)	明治新田干拓に伴い築造された。設計者は服部長七である。
18	A	日奈久		催合新地樋門 北側	八代市日奈久大坪町	弘化2年(1845)	催合新地造成の際に造られた。袖石垣のみ残存している。
19	A	日奈久		催合新地樋門 中央	八代市日奈久大坪町	弘化2年(1845)	催合新地造成の際に造られた。袖石垣のみ残存している。
20	A	日奈久		催合新地樋門 南側	八代市日奈久大坪町	弘化2年(1845)	催合新地造成の際に造られた。袖石垣のみ残存している。
21	A	日奈久		日奈久町裏新地 旧潮受堤防	八代市日奈久浜町	明治元年(1868)	1967年日奈久干拓築造に伴い供用停止された。
22	A	鏡		亀甲築石垣跡	八代市鏡町宝出	文政4年(1821)	文政4年(1821)の七百町開に伴い築造された石垣跡。
23	A	鏡		県営北新地第一号樋門	八代市鏡町北新地	大正10年～大正15年(1921～1926)	大正10年(1921)から着工した熊本県主導の北新地開に伴い築造された樋門。大正15年(1926)に潮止めが完工する。
24	A	鏡		七百町新地樋門跡	八代市鏡町北新地	文政4年(1821)	袖石垣のみ残存している。

歴史文化遺産一覧 6. 石造アーチ橋(めがね橋)

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
1	B・I	鏡	市指定文化財	鑑内橋	八代市鏡町鏡	文政年間と伝承	文政年間に肥後石工の名工岩永三五郎がつくったという伝承が残る。明治10年(1877)の西南の役では、日奈久に上陸して北上する官軍の斥候と熊本城から南下する薩軍の斥候とが始めて出会ったところである。天草の砂岩を使用。
2	D・I	東陽	市指定文化財	笠松橋	八代市東陽町河俣	明治29年(1896)架設と伝わる	明治29年に種山の石工の代表的人物である橋本勘五郎によって架けられたと伝えられている。凝灰岩を使用。
3	D・I	東陽	市指定文化財	鹿路橋	八代市東陽町河俣	嘉永元年(1848)架設と伝わる	橋本嘉八によって嘉永元年に架けられたと伝えられている。凝灰岩を使用。
4	D・I	東陽	市指定文化財	鍛冶屋下橋	八代市東陽町北	文化年間と伝承	文化年間に種山の石工の祖と言われている林七が架けたと伝承が残る。凝灰岩を使用。
5	D・I	東陽	市指定文化財	鍛冶屋中橋	八代市東陽町北	文化年間と伝承	文化年間に種山の石工の祖と言われている林七が架けたと伝承が残る。凝灰岩を使用。
6	D・I	東陽	市指定文化財	鍛冶屋上橋	八代市東陽町北	文化年間と伝承	文化年間に種山の石工の祖と言われている林七が架けたと伝承が残る。凝灰岩を使用。
7	D・I	東陽	市指定文化財	松山橋	八代市東陽町小浦	大正4年(1915)	大正4年(1915)に種山の石工によって架設された。凝灰岩を使用。
8	D・I	東陽	市天然記念物	白髪山天然石橋	八代市東陽町北		種山の石工たちがめがね橋のアーチの着想を得たとの言い伝えがある。
9	D・I	東陽		谷川橋	八代市東陽町河俣	昭和4年(1929)	石工の田上甚太郎が建設に関与している。凝灰岩(河俣瑞宝寺東側採石)を使用。
10	D・I	東陽		仁田尾橋	八代市東陽町小浦	架設年代不明	橋を渡った西側には寺があったとされている。凝灰岩を使用。
11	D・I	東陽		館原橋	八代市東陽町小浦	架設年代不明	凝灰岩を使用。
12	D・I	泉		高原橋	八代市泉町栗木	明治35年(1902)	橋の左岸に碑がある。明治35年(1902)に種山の石工田上甚太郎らが寺への参詣道として架設。野添採石の赤みを帯びた凝灰岩を使用。
13	H・I	二見	市指定文化財	赤松第1号眼鏡橋	八代市二見赤松町	嘉永5年(1852)頃と推定	やかんに湯呑みの装飾が束柱に施してある。輪石は江戸切り仕上げ。凝灰岩を使用。
14	H・I	二見		新免眼鏡橋	八代市二見本町	嘉永6年(1853)	旧薩摩街道に架かる。凝灰岩を使用。
15	H・I	二見		須田眼鏡橋	八代市二見赤松町	嘉永2年(1849年)	凝灰岩を使用。
16	I	坂本	市指定文化財	小崎眼鏡橋	八代市坂本町中谷い	嘉永2年(1849)	碑に「此橋車通遍可良須」の文字あり。凝灰岩を使用。
17	I	東陽	市指定文化財	新開橋	八代市東陽町小浦	江戸時代末と推測	江戸時代末に架橋されたと推測されるが、石工等は不明。橋下には石畳があり、橋の土台部分が水流で掘られないようにしている。凝灰岩を使用。
18	I	東陽	市指定文化財	岩本橋	八代市東陽町小浦	架設年代不明	東陽町小浦地区から内ノ木場築向かう急坂の小川に架かる。
19	I	高田		茶碗焼橋	八代市豊原下町	架設年代不明	元は平山新町の茶碗焼川に架かっていた。平成6年(1994)現在地に移設。凝灰岩を使用。
20	I	金剛		敷川内眼鏡橋	八代市敷川内町	架設年代不明	水路に架かる橋。
21	I	二見		大平眼鏡橋(古橋)	八代市二見赤松町	嘉永年間末～安政年間初と推定	凝灰岩を使用。
22	I	二見		大平眼鏡橋(新橋)	八代市二見赤松町	明治38年(1905)	橋左岸の碑に明治38年に架設とある。二見川流域最大の眼鏡橋。凝灰岩を使用。
23	I	二見		小藪眼鏡橋	八代市二見赤松町	嘉永5年(1852)	凝灰岩を使用。
24	I	二見		床並眼鏡橋	八代市二見野田崎町	架設年代不明	凝灰岩を使用。
25	I	坂本		下深水上橋	八代市坂本町深水い	架設年代不明	凝灰岩を使用。
26	I	坂本		藤本天満宮橋	八代市坂本町葉木	架設年代不明	凝灰岩を使用。
27	I	東陽		山口橋	八代市東陽町河俣	嘉永年間	凝灰岩を使用。
28	I	東陽		鶴下村中橋	八代市東陽町河俣	嘉永年間	凝灰岩を使用。
29	I	東陽		蓼原橋	八代市東陽町河俣	嘉永年間	凝灰岩を使用。
30	I	東陽		美生橋	八代市東陽町河俣	嘉永年間	凝灰岩を使用。
31	I	東陽		五反田水路橋	八代市東陽町北	架設年代不明	橋本勘五郎の次男弥熊が施工に関わったとされる。
32	I	東陽		椎屋橋	八代市東陽町北	大正期と推定	凝灰岩を使用。

No.	関連文化財群	校区区分	文化財指定	名称	所在地	年代	特徴
33	I	東陽		平山橋	八代市東陽町北	架設年代不明	凝灰岩を使用。
34	I	東陽		今屋敷橋	八代市東陽町小浦	架設年代不明	凝灰岩を使用。
35	I	東陽		重見橋	八代市東陽町南	明治 10 年(1877)	元は小浦川に架設されていた。平成元年(1989)現在地に移設。凝灰岩を使用。
36	I	泉		塩平橋	八代市泉町下岳	大正初期と推定	凝灰岩を使用。
37	I	泉		本屋敷橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	村人が小川町に向かう際に使った古道に架かる橋。凝灰岩を使用。
38	I	泉		小谷橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	山越えに使われた道に架かる。平成 11 年(1999)に一部修復が行われた。凝灰岩を使用。
39	I	泉		中尻橋	八代市泉町下岳	大正末と推定	現在はコンクリートで覆われている。
40	I	泉		古閑橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	現在はコンクリートで覆われている。
41	I	泉		広瀬橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	種山の石工たちが架設したのではないかと考えられている。
42	I	泉		沢無田橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	現在はコンクリート補強が行われている。凝灰岩を使用。
43	I	泉		土生谷川橋	八代市泉町下岳	架設年代不明	現在はコンクリートで覆われている。
44	I	泉		糸原橋	八代市泉町柿迫	江戸末と推定	凝灰岩を使用。
45	I	泉		落合橋	八代市泉町柿迫	弘化 4 年(1847)	地元で産出する野添産のピンク石(凝灰岩)を使用している。
46	I	泉		たけのご橋	八代市泉町栗木	昭和初期と推定	地元で産出する野添産のピンク石(凝灰岩)を使用している。

歴史文化遺産一覧 7. 近代化遺産

No.	関連文化財群	校区区分	名称	所在地	備考
1	J	代陽	前川橋	八代市本町三丁目～迎町二丁目	昭和4年(1929)建築。鉄骨造の橋梁。
2	J	植柳	八代市立植柳小学校旧講堂	八代市植柳上町	大正14年(1925)植柳小学校の講堂として建築。市指定。
3	J	宮地	肥薩線 宮松トンネル	八代市古麓町～坂本町西部	明治41年(1900)建築。石造・煉瓦造トンネル。
4	J	宮地	球磨川橋梁	八代市古麓町	大正12年(1923)建築。鉄骨・RC造、県内最長の一般鉄道橋で旧鹿児島本線の橋梁。
5	J	日奈久	日奈久温泉駅 本屋	八代市日奈久塩北町	大正12年(1923)建築。木造駅舎。
6	J	日奈久	第一日奈久トンネル	八代市日奈久塩南町・東町・中町	大正14年(1925)建築。
7	J	日奈久	日奈久港	八代市日奈久浜町	明治28年(1895)建築。明治期に三角西港(国重文)に連絡した城南三港のひとつ(八代・日奈久・計石)
8	J	日奈久	金波楼	八代市日奈久上西町	明治43年(1910)頃建築。木造3階建旅館(本館)。
9	J	日奈久	第二日奈久トンネル	八代市日奈久上西町・中西町・下西町	大正14年(1925)建築。
10	J	二見	二見川橋梁	八代市二見洲口町	大正14年(1925)建築。鉄道橋梁。
11	J	坂本	旧 西日本製紙深水発電所	八代市坂本町西部	大正10年(1921)建築。煉瓦造。
12	J	坂本	高除トンネル	八代市坂本町深水	明治41年(1904)建築。石造・煉瓦造トンネル。
13	J	坂本	旧 西日本製紙鮎婦発電所	八代市坂本町鮎婦	明治42年(1909)建築。木造。
14	J	坂本	葉木トンネル	八代市坂本町葉木	明治41年(1907)建築。石造・煉瓦造トンネル。
15	J	坂本	荒瀬ダム跡	八代市坂本町葉木	昭和30年(1955)竣工。平成30年(2018)撤去工事が完了。
16	J	坂本	鶴之湯旅館	八代市坂本町葉木	昭和29年(1954)建築。木造。荒瀬ダム建設の際、現在地に移転。
17	J	坂本	鎌瀬トンネル	八代市坂本町鎌瀬	明治41年(1901)建築。石造・煉瓦造トンネル。
18	J	坂本	第一球磨川橋梁	八代市坂本町鎌瀬	明治41年(1907)建築。鉄骨造・石造、アメリカンブリッジ社製。
19	J	坂本	瀬戸石トンネル	八代市坂本町	明治41年(1902)建築。石造・煉瓦造トンネル。
20	J	坂本	生名子トンネル	八代市坂本町	明治41年(1903)建築。石造・煉瓦造トンネル。
21	J	坂本	草懸トンネル	八代市坂本町	明治41年(1905)建築。石造・煉瓦造トンネル。
22	J	坂本	藤本トンネル	八代市坂本町	明治41年(1906)建築。石造・煉瓦造トンネル。
23	J	坂本	和田山トンネル	八代市坂本町	明治41年(1908)建築。石造・煉瓦造トンネル。
24	J	千丁	熊本県蘭業協同組合事務所	八代市千丁町新牟田	昭和10年(1935)建築。木造建築。

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧八代)

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
1	代陽	佛頂尊勝塔	八代市出町	不詳	宝篋印塔である。
2	代陽	寶篋印塔	八代市出町	不詳	宝篋印塔である。
3	代陽	彦一塚	八代市出町	不詳	
4	代陽	松江隻手石観音	八代市鷹辻町	不詳	
5	代陽	雲台宮崎先生の墓	八代市鷹辻町	不詳	
6	代陽	鷹辻天満宮	八代市鷹辻町	寛永 16 年(1639)建立	細川忠興が八代城の守り神として菅原道真を祀った神社。
7	代陽	荒神	八代市通町	不詳	屋敷神として祀られている。
8	代陽	花瓶	八代市通町	不詳	大悲閣聖観音立像の前に存在している。
9	代陽	花瓶	八代市通町	不詳	六観音の前に存在している。
10	代陽	境内結界石	八代市通町	不詳	
11	代陽	山門前結界石	八代市通町	不詳	
12	代陽	大悲閣堂石柱	八代市通町	不詳	
13	代陽	宝篋印陀羅尼塔	八代市通町	不詳	宝篋印塔である。
14	代陽	観音さん	八代市通町	寛永 7 年(1630)	現在は「ギャラリー-8」内に安置されている。
15	代陽	妙見さん	八代市通町	不詳	例祭が正月、5月、9月に行われている。
16	代陽	層塔	八代市袋町	不詳	
17	代陽	地藏尊	八代市袋町	不詳	
18	代陽	愛宕さん	八代市袋町	不詳	医王寺敷地内に安置されている。
19	代陽	汗かき地藏	八代市本町一丁目	不詳	
20	代陽	観音菩薩	八代市本町一丁目	不詳	
21	代陽	孕地藏	八代市本町一丁目	不詳	
22	代陽	一字一石塔	八代市本町一丁目	不詳	
23	代陽	弓削家墓	八代市本町一丁目	不詳	
24	代陽	題目塔	八代市本町一丁目	不詳	山門碑である。
25	代陽	無縫塔	八代市本町一丁目	不詳	
26	代陽	六地藏	八代市本町一丁目	不詳	石幢に彫られている。
27	代陽	題目塔	八代市本町一丁目	不詳	山門碑である。
28	代陽	寶篋印塔	八代市本町一丁目	不詳	
29	代陽	伊勢さん	八代市本町一丁目	不詳	11月に例祭が行われている。
30	代陽	観音さん	八代市本町一丁目	不詳	4月に例祭が行われている。
31	代陽	水神さん	八代市本町一丁目	元禄 5 年(1692)	以前は前川のハネにあったが、護岸工事に伴い現在地に移設された。水難除けの水神として信仰されている。
32	代陽	春日さん	八代市本町一丁目	1600 年代	以前は徳淵町にあったが、文禄年間に小西行長に破却された後に、現在地に再建されたとされている。
33	代陽	威重院(観音さん)	八代市本町一丁目	不詳	乾漆像の本尊が安置されている。
34	代陽	道路元標	八代市本町二丁目	大正 13 年(1924)	
35	代陽	聖観音(伝)	八代市本町二丁目	不詳	
36	代陽	層塔	八代市本町二丁目	不詳	
37	代陽	層塔	八代市本町二丁目	不詳	
38	代陽	宝篋印塔	八代市本町二丁目	不詳	
39	代陽	六地藏塔	八代市本町二丁目	不詳	肥前型六地藏塔で、石幢に彫られている。
40	代陽	三宝大荒神	八代市本町三丁目	天保 10 年(1839)	屋敷神として祀られている。
41	代陽	莊林父子墓前の板碑	八代市本町三丁目	不詳	
42	代陽	地藏菩薩立像	八代市本町三丁目	元禄 4 年(1691)	
43	代陽	伝東光寺観音菩薩	八代市本町三丁目	不詳	
44	代陽	廣瀬常左衛門の墓	八代市本町三丁目	不詳	
45	代陽	三宝荒神	八代市本町三丁目	不詳	
46	代陽	春日神社	八代市本町三丁目	不詳	12月に例祭が行われている。
47	代陽	えびずさん	八代市本町三丁目	不詳	水難除けの例祭が行われている。
48	代陽	三宝荒神	八代市松江城町	江戸時代	江戸時代には八代城内に祀ってあったとされる。現在は博物館蔵。
49	代陽	仁王一对	八代市西松江城町	不詳	
50	代陽	地藏さん	八代市西松江城町	明治	百日咳の神様といわれている。
51	代陽	馬頭観音(明神さん)	八代市松江町	不詳	
52	代陽	明神さん	八代市松江町	元禄年間	人物像を神として祀り「人神」と住民から称されている。農家の守り神として信仰されている。
53	代陽	松江漢音さん	八代市松江本町	不詳	3月、10月に祭祀が行われている。
54	代陽	いぼん神さん	八代市横手町	不詳	農業の神として祀られているが、イボ治療の神としても信仰されている。
55	代陽	興国大明神	八代市横手町	昭和 12 年(1937)	職場安全、交通安全を祈願して興人八代工場内に祀られている。
56	八代	宝篋印塔	八代市本町四丁目	不詳	
57	八代	稲荷	八代市本町四丁目	不詳	石祠に祀られている。
58	八代	多重塔下部塔身	八代市本町四丁目	不詳	石幢塔身を転用している。
59	八代	六地藏	八代市本町四丁目	不詳	石幢に彫られている。
60	八代	住吉神社	八代市本町四丁目	不詳	7月末に例祭が行われている。
61	八代	蛇籠神社	八代市蛇籠町	不詳	昭和 15 年(1940)頃までは奉納相撲が例祭の際に行われていた。
62	八代	右大臣・左大臣	八代市八幡町	弘化年間	石祠に祀られている。

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
63	八代	塩屋八幡宮手水鉢	八代市八幡町	元禄年間	
64	八代	荒神	八代市塩屋町	不詳	石祠に祀られている。
65	八代	仁王一対	八代市塩屋町	不詳	
66	八代	板碑三基	八代市塩屋町	不詳	
67	八代	十一面観音(羽衣さん)	八代市塩屋町	不詳	3月に例祭が行われている。
68	八代	羽衣さん	八代市塩屋町	不詳	新暦の7月7日に七夕祭りが行われてる。
69	八代	若宮さん	八代市塩屋町	不詳	4月に例祭が行われている。
70	八代	塩竈神社	八代市塩屋町	元和年間	奥州一ノ宮からの分霊で、元和年間に高島、築添辺りの塩田を開墾した際に、加藤正方が建立した。2月、9月に例祭が行われている。
71	八代	塩屋八幡宮	八代市塩屋町	弘化2年(1845)	11月に例祭が行われている。
72	八代	若宮官軍墓地	八代市塩屋町	平成12年(2000)	西南の役で殉死した軍人の供養塔。彼岸に慰霊祭が行われている。
73	八代	地藏	八代市新地町	嘉永年間	
74	八代	地藏さん	八代市新地町	不詳	歯の神様として信仰されてきた。
75	八代	地藏さん	八代市建馬町	不詳	8月に例祭が行われている。
76	八代	恵比須さん	八代市建馬町	不詳	1月に例祭が行われている。
77	八代	金比羅さん	八代市建馬町	明治34年(1901)	金毘羅宮の紙札を御神体として祀っている。3月に例祭が行われている。
78	八代	恵比須さん	八代市新開町	不詳	3月に例祭が行われている。
79	八代	竜神さん	八代市新開町	不詳	例祭として夏季に川祭りが行われている。
80	八代	天神さん	八代市新浜町	不詳	病気の神様とも呼ばれている。
81	八代	海の神さん	八代市新浜町	昭和10年(1935)	宗像神社より分霊し祀られている。以前は徳洲にあつたとされ、魚を海に放つ放生会を行っている。8月に例祭が行われている。
82	八代	竜神さん	八代市築添町	明治2年(1869)	町内の氏神として明治期に新地を築くときから祀られている。
83	八代	恵比須さん	八代市港町	昭和56年(1981)	八代漁業協同組合で祀っている。
84	太田郷	法華経之塔	八代市東片町	不詳	
85	太田郷	観音	八代市東片町	不詳	観音座像が2体存在している。
86	太田郷	天神さん	八代市東片町	不詳	10月に例祭が行われている。
87	太田郷	観音さん	八代市東片町	不詳	9月に例祭が行われている。
88	太田郷	妙見さん(北片宮)	八代市東片町	不詳	東片町内の氏神。6月、10月に例祭が行われている。
89	太田郷	太子堂(聖徳太子)	八代市東片町	明治	日露戦争に出征した聖徳太子の信者が戦死した戦友の霊を供養するために祀ったとされている。
90	太田郷	方見堂(こみどう)	八代市東片町	不詳	板碑が2つ祀られている。
91	太田郷	山の神(やつのりさん)	八代市東片町	不詳	4月、11月に例祭が行われている。
92	太田郷	薬師堂	八代市東片町	不詳	12月に例祭が行われている。
93	太田郷	稲荷さん	八代市東片町	不詳	
94	太田郷	じがく堂	八代市東片町	不詳	「じがく堂」の由来として、この地に成願寺(中世相良菩提寺の)僧坊の1つで勉強の場があったのではないかとされている。
95	太田郷	べんていさん	八代市東片町	文化年間	弁天さんことであり、4月に例祭が行われている。
96	太田郷	層塔軸部四方仏	八代市上片町	不詳	
97	太田郷	層塔軸部四方仏	八代市上片町	不詳	
98	太田郷	熊野座神社	八代市上片町	明治	町内の氏神として権現さんと呼ばれている。春、夏、秋に例祭が行われている。
99	太田郷	天神さん	八代市上片町	不詳	8月に例祭が行われている。
100	太田郷	地藏	八代市中片町	元禄14年(1701)	板碑に彫られている。
101	太田郷	親地藏さん	八代市中片町	明治	9月に例祭が行われている。戦時中は15夜に綱引きが行われていた。
102	太田郷	子地藏さん	八代市中片町	明治	9月に例祭が行われている。
103	太田郷	板碑	八代市西片町	不詳	
104	太田郷	観音	八代市西片町	不詳	
105	太田郷	板碑	八代市西片町	不詳	
106	太田郷	観音さん	八代市西片町	不詳	9月に例祭が行われている。
107	太田郷	お稲荷さん	八代市西片町	不詳	干拓地で稲が塩害で良く実らない状況を見て、山伏が伏見より稲荷をもってきて祀られたとされている。
108	太田郷	天神さん	八代市西片町	不詳	9月に例祭が行われている。
109	太田郷	観音さん	八代市西片町	不詳	本尊は十一面観音菩薩。戦前は十五夜綱引きを行い、その綱を使って土俵を作り相撲を取っていた。現在は例祭が9月に行われている。
110	太田郷	八尾さん	八代市長田町	不詳	7月に夏祭り、10月に秋祭りが行われている。
111	太田郷	虚空蔵さん	八代市長田町	不詳	古墳を利用して虚空蔵菩薩が祀られている。9月に例祭が行われている。
112	太田郷	地藏堂の三界万霊塔	八代市井上町	不詳	
113	太田郷	きやざんさん	八代市井上町	不詳	農民のために尽くしたといわれる白瀬嘉左衛門の墓を祀っている。
114	太田郷	子安観音・地藏さん	八代市井上町	江戸時代	木造十一面観音菩薩と石造地藏坐像を祀っている。十一面観音は安産祈願、地藏は受験合格祈願、目・耳治療に信仰されている。
115	太田郷	地藏さん	八代市井上町	不詳	8月に例祭が行われている。
116	太田郷	やつなりさん	八代市井上町	不詳	1月に例祭が行われている。
117	太田郷	天神さん	八代市井上町	不詳	1月に例祭が行われている。
118	太田郷	薬師	八代市竹原町	不詳	層塔塔身を転用している。
119	太田郷	薬師堂石造物	八代市竹原町	不詳	
120	太田郷	薬師如来坐像	八代市竹原町	不詳	
121	太田郷	竹原神社鳥居	八代市竹原町	不詳	付近に灯籠も存在している。
122	太田郷	地藏さん	八代市竹原町	昭和初期	道端に祀ってあった地藏を戦時中に現在地に祀ったとされている。正月、8月に例祭が行われている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
123	太田郷	竹原神社	八代市竹原町	文治2年(1186)と伝承	妙見神が天武帝白鳳9年(680)に渡来した竹原津と伝わる場所に祀られている。境内にある鳥居は宝暦12年(1762)、手水鉢は八代白鳥産の大理石を使った美しいもので、元禄8年(1695)の銘文がある。例祭は春・夏・秋・冬に行われ、秋の例祭では昭和55年(1980)前後より、稚児相撲が行われている。
124	太田郷	薬師さん	八代市竹原町	不詳	正月、5月、9月に例祭が行われている。
125	太田郷	天神さん	八代市竹原町	不詳	正月、9月に例祭が行われている。
126	太田郷	不動明王	八代市島田町	不詳	昭和初期までは個人で祀っていたが、相談の後に島田地区で祀るようになった。
127	太田郷	地藏さん	八代市島田町	不詳	地藏像の他に勢至菩薩と呼ばれる像が祀られている。
128	太田郷	地藏堂の板碑	八代市日置町	不詳	
129	太田郷	お薬師さん	八代市日置町	不詳	1月、9月に例祭が行われている。
130	太田郷	地藏さん	八代市日置町	不詳	地藏尊の他に自然石があり、親子観音と呼ばれている。1月、5月、9月に例祭が行われている。
131	太田郷	猿田彦	八代市上日置町	不詳	石碑に彫られている。
132	太田郷	阿弥陀さん	八代市上日置町	不詳	妙見さんから来たといわれ、蓮弁台を亀蛇に見立てている。流行疾病災難除けとして信仰されている。
133	太田郷	八幡神社	八代市上日置町	天保8年(1837)	11月に例祭が行われている。
134	太田郷	熱田神社	八代市上日置町	天保10年(1839)	6月に例祭が行われている。
135	太田郷	地藏さん	八代市上日置町	不詳	子どもの事故防止や歯・耳の病気の治療を願って信仰されている。
136	太田郷	古塔	八代市福正町	不詳	古塔を寄せ集めたものである。
137	太田郷	地藏さん	八代市福正町	不詳	
138	太田郷	日本製紙社宅公園の古塔	八代市福正町	不詳	社宅建設の際に出土した古塔の寄せもの。
139	太田郷	観音さん	八代市福正町	不詳	9月に例祭が行われている。
140	太田郷	薬師さん	八代市福正元町	江戸時代	疾病除けの仏さんとして信仰されている。
141	太田郷	少名彦命神社	八代市福正元町	江戸時代	京都五条の天神を遷し祀ったことから町内の人々からは「お天さん」と呼ばれている。10月に例祭が行われている。
142	太田郷	稲荷(寿徳稲荷)	八代市十条町	昭和3年(1928)	日本製紙が京都伏見稲荷神社から御霊勧請している。
143	太田郷	地藏さん	八代市萩原町一丁目	昭和29年(1958)	子どもの交通安全のために建てられた。8月に例祭が行われている。
144	太田郷	菅原神社(萩原天満宮)	八代市萩原町一丁目	不詳	1月、3月、6月、9月、12月に例祭が行われており、9月に大祭が行われている。
145	太田郷	不動さん	八代市萩原町一丁目	不詳	旧暦の9月13日に例祭が行われている。以前は子ども相撲が行われていた。
146	太田郷	地藏さん	八代市萩原町一丁目	不詳	水難除けの為に祀られている。8月に例祭が行われている。
147	太田郷	不動さんの仁王像	八代市萩原町二丁目	不詳	
148	太田郷	龍王神社	八代市清水町	昭和(終戦後)	祈祷の森の跡建立されている。10月に例祭が行われている。
149	太田郷	観音	八代市毘舎丸町	不詳	板碑に彫られている。
150	太田郷	地藏さん(子安観音)	八代市毘舎丸町	不詳	8月に例祭が行われている。
151	太田郷	山王権現さん	八代市毘舎丸町	不詳	7月に例祭が行われている。
152	太田郷	観音さん	八代市毘舎丸町	不詳	板碑、地藏立像、木立像、丸形の石を祀っている。丸形の石はイボン神といわれている。
153	太田郷	目白観音さん	八代市毘舎丸町	昭和57年(1982)	鉄道会社が事業繁栄、安全祈願などのために祀っている。
154	太田郷	毘沙門天	八代市横手本町	宝暦6年(1758)	1月、9月に例祭が行われている。
155	太田郷	若宮さん	八代市横手本町	不詳	10月に例祭が行われている。
156	太田郷	春日さん	八代市横手本町	弘化4年(1847)	以前は横手町の氏神であった。12月に例祭が行われている。
157	太田郷	地藏菩薩坐像	八代市大手町一丁目	不詳	台座に銘が彫られている。
158	太田郷	薬師如来堂	八代市大手町一丁目	1700年代	薬師如来と地藏菩薩を祀っている。地藏尊は宝暦5年(1755)の瀬戸石崩れ(洪水)で犠牲となった人々の供養のために祀られた。
159	太田郷	宝暦の洪水供養碑	八代市新町	不詳	三界万壘塔である。
160	太田郷	地藏さん	八代市錦町	不詳	昭和30年(1955)に現在地に移転した。8月に例祭が行われている。
161	植柳	観音さん	八代市植柳上町	不詳	十一面観音である。
162	植柳	宝篋印塔	八代市植柳上町	天保年間	
163	植柳	大乗名典供養墓	八代市植柳上町	不詳	
164	植柳	三界万壘	八代市植柳上町	不詳	
165	植柳	いへの稲荷さん	八代市植柳上町	不詳	伊兵衛が祀っていたため「いへ」という名称がついた。
166	植柳	観音さん	八代市植柳上町	不詳	正月と彼岸に火事供養を行っている。
167	植柳	観音さん	八代市植柳上町	不詳	子安観音として妊婦が安産祈願に参詣する。
168	植柳	天神さん	八代市植柳上町	不詳	植柳上町、下町、元町の氏神として祀られている。
169	植柳	大師さん	八代市植柳上町	不詳	旧暦3月21日に例祭が行われている。
170	植柳	大師さん	八代市植柳上町	不詳	4月に例祭が行われている。
171	植柳	阿弥陀堂	八代市植柳上町	不詳	3月に例祭が行われている。
172	植柳	阿弥陀さん	八代市植柳下町	不詳	別名三郎堂と呼ばれている。植柳盆踊りの口説きに折助とおすてが心中に先立ち、白装束を身にまとい参拝した一節がある。
173	植柳	馬頭観音さん	八代市植柳下町	昭和2年(1927)	3月に例祭が行われている。
174	植柳	大師さん	八代市植柳下町	不詳	目の病を治すともいわれ、100年以上前から祀られているとされる。
175	植柳	地藏さん	八代市植柳下町	不詳	地藏菩薩、弘法大師、地藏菩薩と神像の3つの祠が並んでいる。
176	植柳	阿弥陀堂	八代市植柳下町	安政3年(1856)仏燈 大正13年(1924)棟札	10月に例祭が行われている。
177	植柳	大師さん	八代市植柳下町	不詳	洪水で流れ着いたものを町内で祀ったものである。4月に例祭が行われている。
178	植柳	宝篋印塔	八代市植柳元町	不詳	
179	植柳	植柳神社の灯籠	八代市植柳元町	不詳	
180	植柳	観音さん	八代市植柳元町	不詳	千手観音である。
181	植柳	大師さん	八代市植柳元町	不詳	春に例祭が行われている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
182	植柳	植柳神社	八代市植柳元町	不詳	10月に秋の大祭が行われている。戦時中は神社周辺で5~600人が参加して盆踊りが行われていた。
183	植柳	地藏さん	八代市植柳元町	不詳	8月に例祭が行われており、ゴヤに用いる旗は古いものは明治期のものが存在している。
184	植柳	恵比須さん・金比羅さん	八代市植柳元町	不詳	漁業組合で祀っており、9月に例祭が行われている。
185	植柳	地藏さん	八代市植柳元町	不詳	漁町といわれていた地区で100年以上前から祀られている。
186	植柳	恵比須さん・金比羅さん	八代市植柳元町	1800年代	9月に例祭が行われている。
187	植柳	三社さん	八代市植柳元町	不詳	9月に例祭が行われている。旧鳥居は「三社さん旧鳥居」と呼ばれ、寛政9年(1797)に造られたものである。
188	植柳	大師さん(観音さん)	八代市植柳元町	不詳	火の神を祀られている。昭和10年(1935)頃に植柳上町から移転してきた。
189	植柳	大師さん	八代市植柳元町	不詳	祠は平成4年(1993)に建て替えられている。
190	植柳	地藏さん・荒神さん	八代市植柳元町	不詳	8月に例祭が行われている。
191	植柳	稲荷さん	八代市植柳元町	嘉永6年(1853)創建 大正6年(1917)再建	旧暦の初午に例祭が行われている。
192	植柳	天神さん	八代市植柳元町	不詳	秋分前後の日曜日に例祭が行われている。
193	植柳	十一面観音	八代市大福寺町	不詳	大日堂に祀られている。
194	植柳	大日堂	八代市大福寺町	不詳	本尊は金剛界木造大日如来像。10月に例祭が行われている。
195	植柳	大師さん	八代市大福寺町	不詳	農作物の無事収穫を祈願して二百十日にあたる日に風祭が行われる。
196	麦島	迎町地藏尊	八代市迎町	明治~昭和	地藏11体存在し、昭和60年(1985)作のものが2体ある。また、堂前に明治43年(1910)銘の手水鉢がある。8月に例祭が行われており、戦前は舞台を掛けていた。
197	麦島	恵比須さん・弁天さん	八代市千反町二丁目	安永5年(1777)	最初は木橋のたもと(堤防上)に祀られており、昭和54年(1979)年に現在地に移された。
198	麦島	稲荷さん	八代市千反町二丁目	不詳	初午に例祭が行われている。
199	麦島	夫婦岩	八代市古城町	不詳	自然石を用いている。
200	麦島	麦島神社(麦島大神宮)	八代市古城町	不詳	麦島校区の氏神祀られており、昭和10年(1935)に現在地に移った。4月に例祭が行われている。
201	麦島	恵比須さん	八代市古城町	昭和40年(1965)	柵漁業組合で漁労の安全と豊漁を願って祀られている。
202	麦島	天満宮	八代市古城町	不詳	9月に例祭が行われており、戦前は子ども相撲が行われていた。
203	麦島	観音さん	八代市中北町	不詳	地区の守り神として祀られている。秋の大祭が10月に行われている。
204	麦島	稲荷さん	八代市中北町	不詳	初午に例祭が行われている。
205	麦島	観音さん	八代市中北町	不詳	中・北牟田の守り神とされている。1月に初祭、10月に収穫感謝祭が行われている。
206	松高	地藏さん	八代市松崎町	不詳	昭和63年(1988)に堂は建て替えられている。9月に例祭が行われている。
207	松高	松崎神社	八代市松崎町	1600年代	八代神社の末社。昭和10年(1935)頃まで八代神社の祭礼(妙見祭)と同じような祭りを行っており、馬・亀蛇・獅子・奴などが参加していた。
208	松高	地藏さん	八代市松崎町	不詳	元は二本松にあったが、火災にあい現在地に移された。9月に例祭が行われている。
209	松高	財徳坊	八代市松崎町	天保4年(1836)	宝篋印塔である。
210	松高	稲荷	八代市松崎町	不詳	石祠に祀られている。
211	松高	地藏さん	八代市永碓町	不詳	元は個人宅にあったものを昭和13年(1938)頃現在地に移し、中区の繁栄、交通安全を祈願して祀られている。
212	松高	地藏さん	八代市永碓町	不詳	子どもの神さんともいわれ、年齢の数だけ柳の枝でハジを作り、下げるとよいといわれている。9月に例祭が行われている。
213	松高	観音さん	八代市高小原町	不詳	高小原干拓後(明治30年代)に祀られたとされる。9月に例祭が行われており、以前は子ども相撲が盛んに行われていた。
214	松高	地藏さん	八代市高小原町	不詳	9月に例祭が行われている。
215	松高	高代大明神	八代市井揚町	明治28年(1895)	ある僧が榎を植えるので、そこに神様を祀るようにいわれ、稲荷を祀ったとされる。
216	松高	地藏さん	八代市井揚町	不詳	1月、9月に例祭が行われている。
217	松高	地藏さん	八代市井揚町	天明3年(1783) 大正期	石像が2体あり、大正期のものは新築工事の犠牲者を祀っている。
218	松高	地藏さん	八代市沖町	明治期	明治の廃仏毀釈令が出された際、他所から持ってきたといわれている。
219	松高	金比羅さん	八代市高島町	不詳	3月に例祭が行われている。
220	松高	淡島さん	八代市高島町	不詳	婦人病の神様といわれている。3月に例祭が行われている。
221	松高	不動明王さん	八代市高島町	不詳	9月に例祭が行われている。
222	松高	磨崖地藏	八代市高島町	不詳	
223	松高	高島観音さん	八代市高島町	不詳	松高校区で祀っている。
224	松高	総神1	八代市高島町	不詳	釈迦如来像である。
225	松高	総神2	八代市高島町	不詳	馬頭観音像である。
226	松高	総神3	八代市高島町	不詳	弁財天である。
227	松高	総神4	八代市高島町	不詳	地藏菩薩像である。
228	松高	総神5	八代市高島町	不詳	六地藏である。
229	松高	総神6	八代市高島町	不詳	聖観音坐像である。
230	松高	不動明王	八代市高島町	不詳	線刻立像である。
231	松高	山の神さん	八代市大島町	昭和30年(1955)	石灰石焼き作業の安全を祈願して祀られた。
232	松高	恵比須さん	八代市大島町	不詳	4月に例祭が行われている。
233	松高	弁天さん	八代市大島町	不詳	中央に弁財天、両側に昭和初期に春日神社より移された神仏を祀っている。
234	松高	観音さん	八代市大島町	大正13年(1924)	波打ち際にあつたものを現在地に移して祀っている。
235	松高	稲荷さん	八代市大島町	不詳	初午に例祭が行われている。
236	八千把	板碑	八代市大村町	不詳	地藏3尊が彫られている。
237	八千把	板碑	八代市大村町	不詳	釈迦如来(梵字)が彫られている。
238	八千把	観音さん	八代市大村町	不詳	以前は虚空蔵さんと呼ばれていた。正月、5月、9月に例祭が行われている。
239	八千把	薬師さん	八代市大村町	不詳	30年ほど前まで毎月11日の夜におこもりを行っていた。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
240	八千把	地藏さん	八代市大村町	昭和 56 年(1986)	下水道工事の際に出土した地藏さんの魂を移し祀るようになった。
241	八千把	観音さん	八代市海士江町	不詳	子授け、子育ての神として町内の人々が信仰している。9 月に例祭が行われている。
242	八千把	地藏さん	八代市海士江町	不詳	10 月に例祭が行われている。
243	八千把	地藏さん	八代市海士江町	不詳	板碑と木造坐像が祀られている。木造坐像は江戸期の洪水の際に流れてきたものと伝わる。
244	八千把	阿弥陀さん・荒神さん	八代市海士江町	不詳	敷をご神体とする荒神さんを祀っている。
245	八千把	地藏さん	八代市上野町	不詳	地藏堂付近は地藏屋敷と呼ばれている。9 月に例祭が行われている。
246	八千把	十一面観音さん	八代市上野町	寛延 2 年(1749)銘文 享和 3 年(1803)棟札	通常は観音さんと呼んでいる。9 月に例祭が行われている。
247	八千把	地藏	八代市古関上町	宝暦年間	
248	八千把	夫婦岩	八代市古関上町	不詳	10 月に例祭が行われている。
249	八千把	観音さん	八代市古関上町	不詳	個人宅にあったものを昭和 54 年(1979)に現在地に移設して祀っている。
250	八千把	目の神さん	八代市古関中町	不詳	虚空蔵菩薩である。
251	八千把	天神さん	八代市古関中町	不詳	古関中町で祀られている。2 月に例祭が行われている。
252	八千把	阿弥陀さん	八代市古関中町	不詳	元は浄沢寺にあったが本堂の火災の際に現在地に避難させ、以降この地に祀られている。
253	八千把	観音さん	八代市古関中町	不詳	3 月に例祭が行われている。
254	八千把	若宮神社	八代市古関中町	不詳	古関中町の氏神として祀られている。初祭が 1 月、夏祭が 8 月、秋の大祭が 10 月に行われている。
255	八千把	虚空蔵さん	八代市古関下町	不詳	10 月に例祭が行われている。お堂の欄干には九曜紋が施されている。
256	八千把	恵比須さん	八代市古関浜町	不詳	漁の神として祀られている。
257	八千把	龍神社	八代市古関浜町	不詳	古関浜町の氏神として祀られている。7 月に夏祭、10 月に本祭が行われている。
258	八千把	龍神さん	八代市古関浜町	明治 20 年(1887)	農作の神として祀られており、明治期の干拓の犠牲者供養もかねて祀ったとされている。
259	八千把	弁天さん	八代市古関浜町	明治 23 年(1890)	八代郡誌には市杵島神社とある。7 月に夏祭、10 月に秋祭が行われている。
260	八千把	恵比須さん	八代市古関浜町	昭和 61 年(1986)	漁業組合の組合員によって祀られている。
261	八千把	三社権現	八代市古関浜町	明治末	弁天社の東側 2 カ所と箱式石棺の上に建てられている。
262	八千把	恵比須さん・金比羅さん	八代市古関浜町	大正時代	航海と作業の安全を祈願して祀られている。
263	八千把	観音さん(馬頭観音)	八代市田中町	不詳	戦時中は十五夜綱引きを行い、その綱で土俵を作り相撲を行っていた。現在、10 月に例祭が行われている。
264	八千把	薬師さん	八代市田中町	明治 2 年(1869)青背墨書 天保 15 年(1844)蓮弁台裏	10 月に例祭が行われている。
265	八千把	板碑	八代市田中東町	弘化 3 年(1846)	梵字(判読不明)が彫られている。
266	高田	六地藏	八代市豊原上町	不詳	石幢に彫られている。
267	高田	馬頭観音板碑	八代市豊原上町	15 世紀頃と推定される	
268	高田	鳥居	八代市豊原上町	元禄 14 年(1701)	
269	高田	出目さん	八代市豊原上町	不詳	10 月に例祭が行われている。
270	高田	小路観音	八代市豊原上町	不詳	慈母観音、子授、子育て観音とも呼ばれている。旧暦 8 月に例祭が行われている。
271	高田	出目の阿弥陀さん	八代市豊原上町	不詳	9 月に例祭が行われている。
272	高田	柿添の水神	八代市豊原上町	不詳	球磨川の石を水神として祀っている。
273	高田	頭無し地藏さん	八代市豊原上町	不詳	イボの神様として親しまれ、信仰されている。
274	高田	天満宮	八代市豊原中町	不詳	八代市に合併する前の東本野村の氏神として祀られていた。
275	高田	水神さん(明神さん)	八代市豊原中町	不詳	古井戸の水神と、周辺に存在した武士塚に埋葬されている人などの鎮魂を兼ねて祀られている。
276	高田	りゅうじんさん	八代市豊原中町	江戸時代	瀬戸石崩れの犠牲者供養のために祀られている。
277	高田	阿弥陀さん	八代市豊原中町	明治時代	明治の神仏分離令の際に敷川内から移したといわれている。大正末から昭和初期まで例祭が行われていた。
278	高田	芝原八幡宮	八代市豊原下町	不詳	馬芝の観音と呼ばれ、楠といちょうの大木あった。軍(いくさ)神とも呼ばれている。
279	高田	頭無し稲荷さん	八代市豊原下町	不詳	豊作の神として祀られている。
280	高田	馬芝の観音さん	八代市豊原下町	不詳	子どもの夜泣きの神、子どもの病気の神とも呼ばれ、古くから祀られている。
281	高田	地藏さん	八代市豊原下町	不詳	着物を着せた板碑と板碑の半分が伴に祀ってある。
282	高田	阿弥陀さん	八代市豊原下町	慶安 2 年(1649)建立	彼岸に例祭が行われている。
283	高田	水神さん	八代市豊原下町	不詳	永光(ナガミチ・ナガミツ)と住民から呼ばれている湧水のほとりに立っている。
284	高田	馬頭観音	八代市豊原下町	不詳	牛馬などの家畜の無病息災を祈願して祀られている。
285	高田	榎田神社	八代市豊原下町	明治 12 年(1879)棟札 明治 19 年(1886)鳥居銘文	農作物の神として豊原前町内、平山新町の農家の氏神として、博多榎田神社の分霊を祀っている。
286	高田	短冊塚(石仏さん)	八代市奈良木町	不詳	板碑に彫られている。
287	高田	灯籠	八代市奈良木町	宝永年間	
288	高田	古塔	八代市奈良木町	宝永年間	
289	高田	五輪塔	八代市奈良木町	宝永年間	
290	高田	板碑	八代市奈良木町	宝永年間	
291	高田	薬師如来	八代市奈良木町	宝永年間	
292	高田	大通庵	八代市奈良木町	不詳	旧暦 4 月 8 日の例祭をはじめ、年 6 回の祭と供養が行われている。五輪塔、薬師如来、宝篋印塔、板碑、自然石碑、位牌が存在している。
293	高田	奈良木神社	八代市奈良木町	不詳	奈良木町の氏神として祀られており、春と秋に例祭が行われている。秋の大祭では昭和 35 年(1960)頃までは相撲大会が行われていた。
294	高田	十一面観音堂	八代市奈良木町	不詳	高田御所の鬼門の方向にあたるため、守護のために建てられたと考えられている。通称観音さんと呼ばれており、1 月に例祭が行われている。
295	高田	天神さん・八竜さん	八代市奈良木町	不詳	奈良木神社と一緒に例祭を行っている。
296	高田	四郎丸の地藏さん	八代市奈良木町	不詳	9 月に例祭が行われている。
297	高田	山の神さん	八代市奈良木町	不詳	須崎組の氏神として祀られている。2 月に例祭が行われている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
298	高田	つぼ焼き谷の山の神さん	八代市奈良木町	天保 13 年(1842)棟札表 明治 30 年(1897)棟札裏	1 月 15 日に山の神が作物の出来を見に里に下りてくる時、山の神に会うと病気になるとの言い伝えがあり、例祭は 16 日に行われている。
299	高田	板碑	八代市本野町	不詳	正田種直之墓である。
300	高田	次郎丸さん	八代市本野町	不詳	宝篋印塔の笠部上に五輪塔の笠部を乗せている。
301	高田	観音さん	八代市本野町	大正年間	板碑に彫られている。
302	高田	地藏さん	八代市本野町	不詳	
303	高田	清水観音さん	八代市本野町	不詳	子供の夜泣きの神様として信仰されている。
304	高田	不動さん	八代市本野町	平成 4 年(1992)	安全と健康祈願のために祀られている。
305	高田	親子地藏さん	八代市本野町	不詳	元は堂の前に池があり、子どもたちが地藏さんを抱いて泳ぐと事故にあわないといわれていた。
306	高田	若宮八幡宮(若宮さん)	八代市本野町	不詳	10 月に例祭が行われている。
307	高田	天神さん	八代市本野町	不詳	若宮八幡宮と同日に例祭が行われている。
308	高田	阿弥陀さん	八代市本野町	不詳	秋の彼岸に例祭が行われている。
309	高田	地藏さん	八代市本野町	明治 16 年(1883)	2 月に例祭が行われている。
310	高田	釈迦さん	八代市本野町	不詳	4 月に例祭が行われている。
311	高田	観音さん	八代市本野町	不詳	5 月に例祭が行われている。
312	高田	阿弥陀さん	八代市本野町	不詳	秋の彼岸に例祭が行われている。
313	高田	六地藏さん	八代市本野町	不詳	10 月に例祭が行われている。
314	高田	字の神様	八代市高下東町	不詳	板碑に彫られている。
315	高田	安楽院・薬師堂	八代市高下東町	大正 3 年(1914)	3 月に春祭、10 月に秋祭が行われている。平成 6 年(1994)に 50 年に 1 度の遠忌供養法要が行われた。昭和初期頃までは十五夜に綱引き、相撲大会が行われていた。
316	高田	水天宮	八代市高下東町	大正 5 年(1916)	元は堤防に建てられていたが、堤防改修のため現在地に移設された。7 月の土用に例祭が行われている。
317	高田	観音さん	八代市高下東町	不詳	3 月、9 月に祭礼が行われている。
318	高田	地藏さん	八代市高下東町	不詳	水天宮と同日に例祭が行われている。
319	高田	石仏さん	八代市高下東町	大正 3 年(1914)	目の神として信仰されている。9 月に例祭が行われている。
320	高田	観音	八代市高下西町	不詳	新四国八十八所巡りの石造物と考えられている。
321	高田	近宗の延命地藏	八代市高下西町	不詳	
322	高田	近宗の延命地藏	八代市高下西町	慶応元年(1865)木立像 寛永元年(1848)祭旗	六道延命地藏大菩薩が正式名称であり、子どもと火災の守り神として信仰されている。8 月に例祭が行われている。
323	高田	下川原の地藏さん	八代市高下西町	不詳	宝暦の洪水の塚を集めて祀っている。8 月に例祭が行われている。
324	高田	観音さん	八代市高下西町	不詳	9 月に例祭が行われている。
325	高田	八房神社	八代市高下西町	明治 12 年(1879)棟札 明治 18 年(1885)棟札 明治 22 年(1889)灯籠・手水鉢 明治 30 年(1897)鳥居	高下西町の氏神として祀られており、八房(やふさ)さんと呼ばれている。農耕の神として信仰されているが、戦時中は軍神としても信仰されていた。3 月に春祭、10 月に秋の大祭が行われている。
326	高田	上野喜蔵(尊楷)墓	八代市平山新町	不詳	
327	高田	山の神	八代市平山新町	不詳	
328	高田	板碑	八代市平山新町	不詳	六地藏が陰刻されている。
329	高田	五輪塔	八代市平山新町	不詳	
330	高田	当寺実山淳和尚墓	八代市平山新町	天正 10 年(1582)	
331	高田	山の神さん	八代市平山新町	不詳	3 月に例祭が行われている。
332	高田	万年寺(阿弥陀さん)	八代市平山新町	不詳	「おこれふりやー」の仏さんといわれ、高熱を発してもこの仏を抱けばよくなるといわれている。
333	高田	海神社	八代市平山新町	大正 11 年(1922)鳥居	じゅうじんさん(竜神さん)と呼ばれている。4 月、10 月に例祭が行われている。
334	高田	明神さん	八代市平山新町	不詳	横枕区の氏神として祀られている。元は流藻川の北川の寺川にあったものを移設した。
335	金剛	竜神さん	八代市敷川内町	明治 3 年(1870)	天保 14 年に開かれた水島新地の守護として祀られている。
336	金剛	年の神(十二神)	八代市敷川内町	不詳	
337	金剛	観音	八代市敷川内町	不詳	
338	金剛	金比羅大権現	八代市敷川内町	天保 13 年(1842)	
339	金剛	敷川内神社	八代市敷川内町	正徳年間・明和年間も棟札有	杵築神社、大己貴命神社とも称する。終戦まで金剛地区の村社であったが、現在は町内の氏神として祀られている。縁結びの神様ともいわれている。
340	金剛	敷川内神社境内の諸社・堂	八代市敷川内町	不詳	敷川内神社の境内に、山の神・権現・年の神・十一面観音堂が存在している。
341	金剛	馬頭観音	八代市敷川内町	不詳	4 月に例祭が行われている。
342	金剛	竜神さん	八代市敷川内町	天保 14 年(1843)	催合新地の守り神として祀られている。旧暦の 10 月 24 日に例祭が行われている。
343	金剛	天満宮	八代市敷川内町	不詳	10 月に例祭が行われている。
344	金剛	観音さん	八代市敷川内町	不詳	3 月に例祭が行われている。
345	金剛	天満宮	八代市催合町	昭和 2 年(1927)鳥居	町内の守り神として祀られている。10 月に例祭が行われている。
346	金剛	観音さん	八代市揚町	不詳	子どもの神さんと呼ばれ、子どもに恵まれない人や乳が出ない人が参詣に来る。
347	金剛	山田甚左衛門坐像	八代市高植本町	不詳	
348	金剛	竜神・弁天	八代市高植本町	文化年間	
349	金剛	文殊菩薩	八代市高植本町	不詳	町内の氏神的存在として祀られている。菩薩は球磨の方から分霊して祀ったと伝わる。
350	金剛	竜神さん・弁天さん	八代市高植本町	文化 5 年(1808)	竜神は干拓に守り神として、弁天は海・川を行き来する船の航行の守り神として祀られている。
351	金剛	竜神さん	八代市水島町	安政 2 年(1855)	竜神は元は高植本町と水島町との境となる旧堤防に祀られていたと考えられる。9 月に例祭が行われている。
352	金剛	荒神さん	八代市水島町	不詳	3 月に例祭が行われている。
353	金剛	観音	八代市葎牟田町	不詳	

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
354	金剛	弥継神社	八代市葦牟田町	不詳	葦牟田町内の氏神として祀られている。9月に例祭が行われている。戦時中は村相撲が行われていた。
355	金剛	稲荷さん	八代市葦牟田町	不詳	旧暦の初午に例祭が行われている。
356	金剛	水天宮	八代市葦牟田町	不詳	川祭や子ども相撲を以前は行っていた。現在は5月に例祭が行われている。
357	金剛	観音さん	八代市葦牟田町	不詳	元は、地域に狐に騙されたという人があり、付近の人が自然石を神として祀ったもの。現在は、地藏菩薩石造坐像、観音菩薩石造坐像、お大師さんが祀られており、安産祈願の信仰を受けている。
358	金剛	加藤神社	八代市北原町	嘉永7年(1854)棟札	2月に初祭、9月に秋の大祭が行われている。
359	金剛	竜神さん	八代市北原町	不詳	9月に例祭が行われている。以前は相撲大会が行われていた。
360	金剛	稲荷さん	八代市北原町	不詳	2月に例祭が行われている。
361	金剛	大師さん	八代市三江湖町	不詳	木造坐像を古くから祀っている。3月に例祭が行われている。
362	金剛	馬頭観音	八代市鼠蔵町	不詳	
363	金剛	稲荷さん御神木	八代市鼠蔵町	不詳	御神木を山の神さんとして祀っている。
364	金剛	古墳祭	八代市鼠蔵町	昭和52年(1977)	10月に例祭が行われている。
365	金剛	竜神さん	八代市鼠蔵町	不詳	春と秋に祭りが行われている。
366	金剛	馬頭観音さん(下組)	八代市鼠蔵町	不詳	鼠蔵町全体で祭を行っている。元は、農耕馬の供養として祀っていたものが、現在は交通安全祈願のために祀られている。
367	金剛	尾張宮	八代市鼠蔵町	不詳	戦国時代にたどり着いた尾張の武将を祀ったものと伝わる。御幣を御神体としている。イボン神さんともいわれている。3月に例祭が行われている。
368	金剛	加藤神社	八代市鼠蔵町	不詳	12月に例祭が行われている。以前は相撲大会が行われていた。
369	金剛	馬頭観音さん(上組)	八代市鼠蔵町	不詳	4月に例祭が行われている。
370	金剛	金比羅さん・恵比須さん	八代市鼠蔵町	不詳	3月に金比羅さんの祭「船止め」、9月に恵比須さんの祭「はつかエビス」が行われている。
371	金剛	竜神宮	八代市南平和町	昭和32年(1957)創建	地域の入植者の多くが神事に参加していた。3月、10月に例祭が行われている。
372	郡築	弁天さん	八代市群築一番町	不詳	白鳥の中腹に祀られており、白鳥の前を航海する船の無事を祈り祀られたとされている。
373	郡築	地藏さん・馬頭観音	八代市群築一番町	昭和	川でおぼれた子どもの供養のための地藏と、馬の供養のための馬頭観音が祀られている。
374	郡築	地藏さん	八代市群築二番町	大正	河童の悪さから、馬や子どもを守るために祀られた。
375	郡築	古城郡長墓	八代市群築六番町	大正8年(1919)	2月に墓前祭が行われている。
376	郡築	潮留記念(竜神)	八代市群築六番町	大正15年(1926)	2月に例祭が行われている。
377	郡築	群築神社	八代市群築六番町	昭和3年(1928)	群築新地の守護として祀られている。秋祭と春祭が行われている。
378	郡築	交通安全地藏さん	八代市群築八番町	昭和22年(1947)	正月、5月、9月に例祭が行われている。腰痛の人はエプロンを、頭痛がある人は毛糸の帽子をお供えている。
379	郡築	地藏さん	八代市群築十番町	昭和60年(1985)	道路での交通安全を祈願して祀られている。7月に例祭が行われている。
380	郡築	恵比須さん	八代市群築十番町	昭和37年(1962)	3月、9月に例祭が行われている。
381	郡築	恵比須さん	八代市群築十一番町	昭和38年(1963)	2月に例祭が行われている。
382	郡築	竜神さん	八代市群築十二番町	不詳	事故で沈没した作業船の供養のために祀られている。
383	昭和	松田神社	八代市昭和日新町	昭和14年(1939)	農友神社として建立し、平成9年(1997)に松田神社となった。
384	昭和	昭和神社	八代市昭和明徹町	昭和	昭和校区全体の神社として祀られている。3月に春祭、10月に秋祭が行われている。
385	昭和	竜神さん	八代市昭和同仁町	昭和中期	昭和19年(1944)に堤防が決壊したため、以後堤防決壊がないよう竜神を祀った。
386	昭和	恵比須さん	八代市昭和同仁町	不詳	以前は大船に祀られており、漁師たちが祭を行っていた。春祭と秋祭(風祭を兼ねる)が行われる。
387	宮地	稲荷さん	八代市妙見町	不詳	初午に例祭が行われている。
388	宮地	辺田観音さん	八代市妙見町	不詳	10月に例祭が行われている。大正～昭和初期には奉納相撲が行われていた。
389	宮地	天神さん	八代市妙見町	天保9年(1838)	蟻天神や久木田天神とも呼ばれている。太宰府から天神を祀ったとされている。
390	宮地	砥石の観音さん	八代市妙見町	不詳	8月に例祭が行われている。戦時中は子ども相撲が行われていた。
391	宮地	地藏さん	八代市妙見町	天保14年(1843)	本尊は石造立地藏であり、他に石造立地藏3体、木造立地藏、金剛阿彌陀如来像が祀られている。8月に例祭が行われており、以前は夜に肝試しが行われていた。
392	宮地	霊符神社	八代市妙見町	不詳	でぶどうさんとも呼ばれている。3月に例祭が行われており、終戦前まで子ども相撲が行われていた。
393	宮地	子安観音堂	八代市妙見町	不詳	4月、9月に例祭が行われている。
394	宮地	地藏さん	八代市妙見町	不詳	女の子の病氣平癒を祈願し平常から参詣がある。
395	宮地	砥石地藏さん	八代市妙見町	寛政9年(1797)	8月に例祭が行われている。
396	宮地	寄せ墓	八代市妙見町	不詳	7月に熊本市の本妙寺の例祭にあわせて祭が行われている。
397	宮地	山王さん・谷神	八代市妙見町	不詳	妙見社祭と同日に例祭が行われている。
398	宮地	天神さん	八代市妙見町	不詳	10月に例祭が行われている。
399	宮地	妙見宮の六地藏幢	八代市妙見町	寛文12年(1672)6月の銘あり	花崗岩、総高284cm、幢身には「奉寄進寛文十二年壬子年吉祥慶日平河原町中」とある。
400	宮地	石碑	八代市妙見町	不詳	
401	宮地	新免武蔵塚	八代市妙見町	寛政9年(1797)	武蔵死後125年目に顕孝寺門下の村上氏が建てたもの。
402	宮地	地藏	八代市妙見町	天保14年(1843)	
403	宮地	相良義滋墓	八代市妙見町	16世紀	五輪塔である。
404	宮地	五輪塔	八代市妙見町	不詳	
405	宮地	地藏	八代市妙見町	不詳	
406	宮地	一字一石塔	八代市妙見町	不詳	
407	宮地	角形笠(火輪)付き五輪塔	八代市妙見町	不詳	2基存在している。
408	宮地	芭蕉碑	八代市妙見町	不詳	歌碑である。
409	宮地	不動明王	八代市妙見町	不詳	石碑に彫られている。
410	宮地	砥石地藏	八代市妙見町	寛政9年(1797)	板碑に彫られている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
411	宮地	五輪塔	八代市妙見町	不詳	天神さん(神社)の境内に存在している。
412	宮地	五輪塔	八代市妙見町	不詳	4基存在している。
413	宮地	稲荷社前の祠	八代市妙見町	不詳	八代神社(妙見宮)の境内に存在している。
414	宮地	六地藏	八代市妙見町	寛文12年(1672)	八代神社(妙見宮)の境内に存在している。
415	宮地	手洗い舎銘	八代市妙見町	安政4年(1857)	八代神社(妙見宮)の境内に存在している。
416	宮地	辺田観音	八代市妙見町	不詳	
417	宮地	石碑	八代市妙見町	不詳	
418	宮地	六地藏	八代市妙見町	正徳2年(1712)	石幢に彫られている。
419	宮地	五輪塔	八代市妙見町	不詳	
420	宮地	稲荷大明神	八代市宮地町	不詳	豊作の神として祀られている。9月に例祭が行われている。
421	宮地	池尻の六地藏	八代市宮地町	不詳	8月に例祭が行われている。
422	宮地	お釈迦さん	八代市宮地町	不詳	釈迦如来の他、10体を祀っている。
423	宮地	薬師さん	八代市宮地町	不詳	薬師寺跡に存在している。本尊は釈迦院の開基、蔭善大師金開山の本尊彫刻の時、あてものにした横木で彫刻したので、横木の薬師と称すると八代郡誌に記されている。
424	宮地	ごりよんさん	八代市宮地町	不詳	齒の神さんとも呼ばれている。4月に例祭が行われている。
425	宮地	小畑の観音さん	八代市宮地町	元禄7年(1694)灯籠	地藏像は約40年前に新調した。堂は夢枕に「めるとばい」とのお告げがあったため、昭和58年(1983)に建て直された。
426	宮地	嶽の観音さん	八代市宮地町	寛永14年(1637)	島原の乱の際出兵戦死した兵士の追善、家内安全、五穀豊穡を祈願して祀られている。
427	宮地	地藏さん	八代市宮地町	不詳	馬場の地藏さんとも呼ばれている。8月に例祭が行われている。
428	宮地	荒神	八代市宮地町	不詳	
429	宮地	小畑の石灯籠	八代市宮地町	元禄7年(1694)	
430	宮地	荒神	八代市宮地町	不詳	
431	宮地	板碑	八代市宮地町	不詳	
432	宮地	宝篋印塔	八代市宮地町	不詳	
433	宮地	馬頭観音	八代市宮地町	不詳	
434	宮地	稲荷さん	八代市西宮町	不詳	11月に例祭が行われている。
435	宮地	御霊さん	八代市西宮町	不詳	2月に飴祭、9月に感謝祭が行われている。秋祭は周辺に柿が多かったことから柿祭とも呼ばれている。
436	宮地	釈迦堂	八代市西宮町	不詳	4月に例祭が行われている。
437	宮地	畜霊碑	八代市西宮町	不詳	食肉センターで処理していた家畜の慰霊碑。
438	宮地	唐崎神社・権現さん	八代市西宮町	不詳	4月、10月に例祭が行われている。戦時中までは舞台を作り催し物を行っていた。
439	宮地	宝泉院勝延行者	八代市西宮町	不詳	12月に例祭が行われている。
440	宮地	源六の観音さん	八代市西宮町	明和5年(1768)厨子	両性を持った聖と呼ばれている。9月に例祭が行われている。
441	宮地	五輪塔	八代市西宮町	不詳	
442	宮地	宝篋印塔笠部	八代市西宮町	不詳	
443	宮地	五輪塔	八代市西宮町	不詳	
444	宮地	井戸跡	八代市西宮町	不詳	
445	宮地	礎石	八代市西宮町	不詳	
446	宮地	源六の石灯籠	八代市西宮町	不詳	
447	宮地	御霊さん	八代市西宮町	不詳	
448	宮地	稲荷神社	八代市古麓町	不詳	町内全体の氏神として祀られている。大祓い行事(厄祓い)が年2回6月、12月に行われている。
449	宮地	鰐神社	八代市古麓町	不詳	山鹿町の氏神として祀られている。12月に例祭が行われている。
450	宮地	水神さん	八代市古麓町	不詳	6月に例祭が行われている。
451	宮地	水神さん	八代市古麓町	不詳	6月に例祭が行われている。
452	宮地	水神さん	八代市古麓町	不詳	自然石を御神体として祀っている。
453	宮地	延命地藏	八代市古麓町	不詳	8月に例祭が行われている。耳の神さん、いぼんかみさんとも呼ばれている。
454	宮地	清正公さん	八代市古麓町	文久3年(1863)棟札	6月に例祭が行われている。
455	宮地	天神さん	八代市古麓町	不詳	古麓町の氏神として祀られている。12月に例祭が行われている。
456	宮地	細川将監夫妻の墓	八代市古麓町	不詳	五輪塔である。
457	宮地	地藏	八代市古麓町	享保年間	春光寺に計4体存在している。
458	宮地	竿石に梵字を彫った灯籠	八代市古麓町	不詳	春光寺に存在している。
459	宮地	古塔群	八代市古麓町	不詳	春光寺に存在している。
460	宮地	庚申碑	八代市古麓町	延宝8年(1680)	春光寺に存在している。
461	宮地	春光寺の桁橋	八代市古麓町	不詳	春光寺に存在している。
462	宮地	殉死者の墓	八代市古麓町	1600年代	松井興長没時に殉死した者の墓で、春光寺に9基存在している。
463	宮地	松井志摩守の墓	八代市古麓町	1600年代	松井康之没時に殉死した松井志摩守の墓で、春光寺に存在している。
464	宮地	地藏	八代市古麓町	不詳	一字一石の銘があり、春光寺に存在している。
465	宮地	宝篋印塔	八代市古麓町	正徳6年(1716)	春光寺に存在している。
466	宮地	宝篋印塔と灯籠龕部	八代市古麓町	不詳	春光寺に存在している。
467	宮地	豊田卜川の墓	八代市古麓町	寛文12年(1672)	春光寺に存在している。
468	宮地	利休袈裟形御手水鉢	八代市古麓町	不詳	春光寺に存在している。
469	宮地	如来	八代市古麓町	大永年間	大日如来である。
470	宮地	石字塔	八代市古麓町	不詳	
471	宮地	法華塔	八代市古麓町	不詳	
472	宮地	片岡云正の墓	八代市古麓町	寛永年間	五輪塔である。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
473	宮地	板碑	八代市古麓町	不詳	キリークで阿弥陀如来が表してある。
474	宮地	織部灯籠	八代市古麓町	不詳	1 対存在している。
475	宮地	五輪残欠	八代市古麓町	不詳	
476	宮地	観音	八代市古麓町	不詳	
477	宮地	観音	八代市古麓町	文政 5 年(1822)	
478	宮地	地藏石仏	八代市古麓町	不詳	
479	宮地	猫墓(猫塚)	八代市東町	不詳	年の神地区の神さん。12 月に例祭が行われている。
480	宮地	観音さん	八代市東町	不詳	火災の時当地に飛んで来て、自分がここにいる間は火災や山崩れは無いと言われて、この集落を見守っていると伝わる。
481	宮地	阿弥陀堂(阿弥陀さん)	八代市東町	天保 11 年(1840)板壁	10 月に例祭が行われている。
482	宮地	山ノ神さん	八代市東町	不詳	山仕事をを行う人の守り神として祀られている。12 月に例祭が行われている。
483	宮地	年の神の神さん	八代市東町	不詳	猫塚の屋敷にあったといわれている。十一面観音はミトの国からやって来て、火災にあった後に村の大岩の陰に移り、現在地に祀られたと伝わる。
484	宮地	七荒神のうち	八代市東町	不詳	
485	宮地	山ノ神さん	八代市東町	不詳	祭は、土地の人が観類、知人と呼んで接待することから「客祭」とも呼ばれている。12 月に例祭が行われている。
486	宮地	山ノ神さん	八代市東町	不詳	12 月に例祭が行われている。
487	宮地	七荒神のうち	八代市東町	不詳	
488	宮地	山ノ神さんと荒神さん	八代市東町	不詳	10 月に例祭が行われている。
489	宮地	地藏	八代市東町	不詳	川原の地藏さんとは兄弟であり、弟だといわれている。
490	宮地	川原の地藏さん	八代市東町	寛保 2 年(1742)棟札	7 月、9 月に例祭が行われている。9 月の秋祭の際は、奉納相撲が行われている。イボン神としても信仰されている。地藏堂が市指定有形文化財。
491	宮地	観音堂	八代市東町	安永 5 年(1776)棟札 天保 9 年(1838)封	9 月に例祭が行われている。
492	宮地	山ノ神さん	八代市東町	不詳	11 月に山ノ神さんの日として食べ物をお供えしている。
493	宮地	お観音さん	八代市東町	不詳	釈迦牟尼仏を祀っている。9 月に例祭が行われている。
494	宮地	阿弥陀さん	八代市東町	不詳	9 月に地区全区の祭が行われている。以前は奉納相撲が行われていた。
495	宮地	妙見さん	八代市東町	不詳	柳田さんという人が妙見上宮から背負ってきてここに祀ったと伝わる。
496	宮地	猿田彦大神	八代市東町	不詳	
497	宮地	地藏	八代市東町	不詳	
498	龍峰	お伊勢さん	八代市岡町小路	昭和 11 年(1936)	伊勢神宮から分霊してもらったものを祀っている。
499	龍峰	日当の地藏さん	八代市岡町小路	不詳	鞍ヶ岳頂上から背負ってきて現在地に移された。
500	龍峰	地藏さん(南向き・迫田組ほり)	八代市岡町小路	文政 4 年(1821)地藏菩薩	9 月に例祭が行われている。
501	龍峰	地藏さん(南向き)	八代市岡町小路	天明元年(1781)石造立像	9 月に例祭が行われている。
502	龍峰	薬師さん	八代市岡町小路	不詳	正月に初祭、6 月、9 月、12 月に例祭、7 月に虫供養が行われている。
503	龍峰	不動さんと地藏さん(南向き)	八代市岡町小路	不詳	板碑に彫られており、不動明王と山王権現であるとされている。
504	龍峰	水神・金竜神さん(西南向き)	八代市岡町小路	昭和 60 年(1985)	祈禱師が水神がここにいるということで、水神さんを祀ることになったと伝わる。
505	龍峰	地藏さん(東南向き)	八代市岡町小路	不詳	国道建設後の交通安全を祈願して祀られている。
506	龍峰	山ノ神さん	八代市岡町小路	不詳	
507	龍峰	宝篋塔身	八代市岡町小路	不詳	
508	龍峰	相良伊勢守長皎	八代市岡町小路	天文 22 年(1553)	五輪塔である。
509	龍峰	地藏菩薩板碑	八代市岡町小路	不詳	
510	龍峰	宝篋印塔笠部	八代市岡町小路	不詳	
511	龍峰	泰山王の板碑	八代市岡町小路	不詳	薬師如来が彫られている。
512	龍峰	みせんじょさん	八代市岡町中	文化年間(堂横の灯籠)	隣にヤマト姫が埋葬されていると伝わる。婦人病の神さんといわれている。板碑の表面に梵字・地藏尊が彫られている。(室町期の板碑と推定される)
513	龍峰	子安観音さん	八代市岡町中	昭和 15 年(1940)	岡中神社の 10 月の祭りのとき、夢告げがあり建立された。3 月に例祭が行われている。
514	龍峰	地藏さん	八代市岡町中	文化元年(1804)	子安観音さんと同日に例祭が行われている。
515	龍峰	お釈迦さん(玉泉寺)	八代市岡町中	不詳	2 月に例祭が行われている。以前は千丁や有佐辺りからも参詣者があった。
516	龍峰	鎮守堂	八代市岡町中	不詳	作神様として祀られている。10 月に例祭が行われている。
517	龍峰	行盛塚	八代市岡町中	不詳	左吉兵衛行盛の墓。
518	龍峰	ケンボン堂・洪福寺跡(園組(そのほり)座持廻り)	八代市岡町中	不詳	春・秋の彼岸に例祭が行われている。
519	龍峰	行西の子育観音	八代市岡町中	寛永 2 年(1849)厨子	春・秋の彼岸に例祭が行われている。
520	龍峰	岡中神社	八代市岡町中	南北朝時代	おんチヤさん(七社)岡神社と呼ばれている。6 月に例祭、8 月に夏祭が行われている。
521	龍峰	九谷の地藏さん	八代市岡町中	不詳	年 2 回例祭が行われている。
522	龍峰	古塔	八代市岡町中	不詳	みせんじょさんと呼ばれている。五輪塔の宝珠部分である。
523	龍峰	板碑	八代市岡町中	不詳	みせんじょさんと呼ばれている。梵字で「ア」の陰刻が施されている。
524	龍峰	地藏	八代市岡町中	文化年間	法華塔である。
525	龍峰	古塔群	八代市岡町中	不詳	五輪塔 1 基、板碑 1 基、無縫塔 5 基、角柱 1 基で構成されている。
526	龍峰	楠の木さん	八代市岡町中	不詳	付近に古塔の残欠が存在している。
527	龍峰	古塔群	八代市岡町中	元中 2 年(1385)	南北朝時代開基の洪福寺跡の本堂(ケンボン堂)に存在している。
528	龍峰	逆修碑	八代市岡町中	不詳	
529	龍峰	板碑	八代市岡町中	不詳	
530	龍峰	地藏さん	八代市岡町谷川	不詳	岡谷川全町内で例祭が行われている。
531	龍峰	天神さん	八代市岡町谷川	不詳	正月、5 月、9 月に例祭が行われている。
532	龍峰	かんじんの観音さん	八代市岡町谷川	不詳	火災を知らせる観音さんとして信仰されている。10 月に例祭が行われている。
533	龍峰	山ノ神さん	八代市岡町谷川	明治 38 年(1905)	12 月に例祭が行われている。

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
534	龍峰	妙見水源の水神さん	八代市岡町谷川	天保 14 年(1843)	水源を利用する家々で祀られている。
535	龍峰	光明寺	八代市岡町谷川	寛政 3 年(1791)鐘	阿弥陀三尊(県指定・現在は博物館寄託中)が存在していた。4月に例祭が行われている。
536	龍峰	板碑	八代市岡町谷川	不詳	十王碑の一部である。
537	龍峰	古塔残欠	八代市岡町谷川	不詳	
538	龍峰	板碑	八代市岡町谷川	享保年間	
539	龍峰	古塔群	八代市岡町谷川	不詳	六地藏、五輪塔、板碑で構成されている。
540	龍峰	宝塔塔身	八代市岡町谷川	天保 3 年(1832)	
541	龍峰	お釈迦さん	八代市興善寺町	不詳	板碑を釈迦如来として祀っている。4月に例祭が行われている。
542	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	7月に例祭が行われている。
543	龍峰	明言院	八代市興善寺町	不詳	木造毘沙門天立像(国指定有形)が敷地内に存在している。
544	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	9月に例祭が行われている。
545	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	100年くらい前から祀っていると伝わる。
546	龍峰	鎮守堂・おちっつあん	八代市興善寺町	不詳	10月に例祭が行われている。
547	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	7月に例祭が行われている。
548	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	水神を兼ねて祀られている。樹齢数百年の樫の木が神木化されている。
549	龍峰	荒平神社	八代市興善寺町	不詳	妙見社の末社といわれ、戦時中は村社であった。1月、8月、10月、12月に祭が行われている。
550	龍峰	地藏さん・観音さん	八代市興善寺町	不詳	女の仏といわれている。8月に例祭が行われている。
551	龍峰	熊野権現さん	八代市興善寺町	不詳	1月に例祭が行われている。以前は9月に秋祭が行われていた。
552	龍峰	地藏さん	八代市興善寺町	不詳	井戸や湧水のほとりの地藏さんを祀るといわれている。
553	龍峰	志水稲荷神社	八代市興善寺町	不詳	白狐に乗る像と神像がある。
554	龍峰	板碑	八代市興善寺町	不詳	
555	龍峰	釈迦堂	八代市興善寺町	不詳	板碑が祀られている。
556	龍峰	橋公忠逆修碑	八代市興善寺町	天文 15 年(1546)	板碑である。
557	龍峰	興善寺廃寺塔心礎	八代市興善寺町	7世紀後半～12世紀	
558	龍峰	先祖墓	八代市興善寺町	天文 15 年(1546)	
559	龍峰	経堂跡の五輪塔群	八代市興善寺町	不詳	
560	龍峰	十一面観音	八代市興善寺町	不詳	
561	龍峰	水神	八代市興善寺町	不詳	
562	龍峰	熊野座神社・権現さん	八代市川田町東	不詳	全町内の氏神として祀られている。2月、7月、9月、10月に例祭が行われている。
563	龍峰	地藏さん・しらひげさん	八代市川田町東	不詳	終戦直後頃は、子どもの祭りが行われていた。
564	龍峰	観音さん	八代市川田町東	不詳	1月に例祭が行われている。
565	龍峰	地藏さん・聖徳太子	八代市川田町東	不詳	8月に地藏さん祭り、4月に聖徳太子の祭りが行われている。
566	龍峰	地藏さん・二体	八代市川田町東	昭和 36 年(1961)	交通安全祈願のために建立された。
567	龍峰	地藏さん	八代市川田町東	不詳	昭和初めころまでは、往還まで地藏を運び寄付を呼び掛けている。
568	龍峰	地藏さん	八代市川田町東	不詳	8月に例祭が行われている。
569	龍峰	松島大明神・先祖墓	八代市川田町東	寛保 3 年(1743)	先祖墓として祭りが行われている。
570	龍峰	地藏さん	八代市川田町東	不詳	「ごしょ願い」として祀られている。
571	龍峰	地藏	八代市川田町東	不詳	五輪塔内部に祀られている。
572	龍峰	鳥居	八代市川田町東	不詳	
573	龍峰	地藏	八代市川田町東	安政 3 年(1856)	
574	龍峰	松嶋大明神	八代市川田町東	享保年間	板碑に彫られている。
575	龍峰	観音さん	八代市川田町西	元禄 2 年(1689)十一面観音 天保 6 年(1835)涅槃図	本尊は観音菩薩。他に阿弥陀如来、不動明王、十一面観音、持国天、女神、馬頭観音、涅槃図(数十年前に復元)がある。
576	龍峰	日の出の地藏さん	八代市川田町西	不詳	お観音の祭りと同日に祭を行う。
577	龍峰	地藏さん	八代市川田町西	不詳	町内で祀られている。
578	龍峰	地藏さん	八代市川田町西	不詳	町内で祀られている。
579	龍峰	地藏さん	八代市川田町西	不詳	
580	龍峰	地藏さん	八代市川田町西	不詳	観音さんと一緒に祀られている。
581	龍峰	地藏さん	八代市川田町西	不詳	以前は畑から出土した金物を祀っていたが石仏に作り替えた。
582	龍峰	地藏祠	八代市川田町西	不詳	
583	龍峰	地藏	八代市川田町西	不詳	
584	龍峰	地藏	八代市川田町西	文政 11 年(1828)	
585	龍峰	三面地藏	八代市川田町西	不詳	
586	龍峰	地藏	八代市川田町西	不詳	2体存在している。
587	龍峰	地藏	八代市川田町西	不詳	
588	日奈久	竜神さん	八代市日奈久新開町	明治 39 年(1906)	新田干拓の守り神として建てられ、昭和 50 年に移転した。10月に例祭が行われている。
589	日奈久	日奈久阿蘇神社	八代市日奈久大坪町	不詳	10月に例祭が行われている。
590	日奈久	すわぶき地藏尊	八代市日奈久大坪町	不詳	70年程前夢告により現在地に移された。百日咳の神と呼ばれ信仰されている。
591	日奈久	交通安全地藏尊	八代市日奈久大坪町	昭和 43 年(1968)	国道建設後の安全祈願のために祀られている。
592	日奈久	若宮さん	八代市日奈久大坪町	明治 11 年(1888)	9月に例祭が行われている。乳の出が悪い人は願をかけ、さらしの布袋をあげる。
593	日奈久	弘法大師	八代市日奈久大坪町	不詳	3月に例祭が行われている。以前は女性の祭りであった。
594	日奈久	竜神さん・綿積さん	八代市日奈久大坪町	天保 14 年(1843)	新開地の守り神として祀られている。10月に例祭が行われている。
595	日奈久	地藏さん	八代市日奈久大坪町	不詳	5月に例祭が行われている。
596	日奈久	金比羅さん	八代市日奈久大坪町	天保年間	新開地の先の海を行き来する船の安全を祈願して祀られている。
597	日奈久	下の山神さん	八代市日奈久大坪町	不詳	イスノキ 2本がご神体として祀られている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
598	日奈久	竜神さん	八代市日奈久大坪町	不詳	
599	日奈久	石柱	八代市日奈久大坪町	天保 14 年(1843)	天保 14 年に開かれた水鳥新地の築立の銘がある。
600	日奈久	田川内の天神さん	八代市日奈久新田町	不詳	9 月に例祭が行われている。
601	日奈久	観音さん・馬	八代市日奈久新田町	不詳	観音さんはお産の神と呼ばれている。旧暦の 8 月 18 日に例祭が行われている。馬と呼ばれる自然石が、農耕馬供養のために祀られている。
602	日奈久	山てじんさん・天神	八代市日奈久新田町	不詳	9 月に例祭が行われている。
603	日奈久	阿弥陀如来さん	八代市日奈久山下町	寛政 9 年(1793)建立	浅間山の噴火後の大飢饉を治めるために阿弥陀如来を迎え祀ったとされている。
604	日奈久	山神さん	八代市日奈久山下町	不詳	1 月に例祭が行われている。
605	日奈久	明神さん	八代市日奈久山下町	不詳	新地の守り神として祀られている。9 月に例祭が行われている。
606	日奈久	八王神社	八代市日奈久竹之内町	不詳	元は八王新地に祀られていたが、昭和 10 年代に現在地に移された。
607	日奈久	竹之内神社・伏木神社	八代市日奈久竹之内町	不詳	元は佐敷の伏木に祀られていたが、火災に遭い、現境内のムクの木の梢に飛んでこられたものを祀ったといわれている旧暦の 8 月 14 日に例祭が行われている。
608	日奈久	薬師さん	八代市日奈久塩北町	文政 13 年(1830)	疫病にかかり治癒したので薬師を祀ったと伝わる。9 月に例祭が行われている。
609	日奈久	薬師さん	八代市日奈久塩北町	文政 13 年(1830)	地藏菩薩、薬師如来、馬頭観音の 3 体で構成されている。
610	日奈久	竜神さん	八代市日奈久塩南町	昭和 62 年(1987)	干拓 20 周年記念して建立された。4 月に例祭が行われている。
611	日奈久	竜神さん	八代市日奈久塩南町	明治元年(1868)	裏新地完成時に堤防と地域内の安全と発展を祈願して建立された。10 月に例祭が行われている。
612	日奈久	薬師さん	八代市日奈久塩南町	文政 2 年(1819)旗台	本山正常という武士が負傷して小川で体を清めていた際に現れた如来を祀ると伝わる。
613	日奈久	山神さん	八代市日奈久塩南町	明治 31 年(1898)	山の所有者がよく参詣している。
614	日奈久	能登守墓群	八代市日奈久塩南町	不詳	宝篋印塔や五輪塔で構成されている。
615	日奈久	ジュウゴシさん・恵比須	八代市日奈久浜町	不詳	年配の人はジュウゴシ、普通は恵比須と呼んでいる。昭和 34 年に現在地に移された。
616	日奈久	薬師さん	八代市日奈久東町	不詳	目の神として信仰されている。元はマッサージ師の家を持ち回りで祀られていた。
617	日奈久	金比羅さん・海の神	八代市日奈久東町	不詳	4 月に例祭が行われている。
618	日奈久	足手荒神	八代市日奈久東町	昭和 10 年(1935)棟札	恵比須堂と呼ばれ、天正年間激戦で手足に深手を負って、この地域で看護を受けて息を引き取った武将の霊を祀っている。2 月に例祭が行われている。
619	日奈久	薬師さん	八代市日奈久東町	不詳	旧暦 8 月 11 日に例祭が行われている。
620	日奈久	恵比須さん	八代市日奈久東町	不詳	1 月 20 日(はつかえびす)に例祭が行われている。
621	日奈久	太子堂	八代市日奈久中町	大正 10 年(1921)	大工左官等、建築関係の神として祀られている。正月、5 月、9 月に祭が行われている。
622	日奈久	弘法大師	八代市日奈久中町	不詳	旧暦 3 月 21 日に例祭が行われている。病平癒、合格祈願、お礼参りに普段から参詣がある。
623	日奈久	恵比須さん	八代市日奈久中町	不詳	商売の神として祀られている。1 月に例祭が行われている
624	日奈久	山神さん	八代市日奈久中町	不詳	1 月に例祭が行われている
625	日奈久	弁財天	八代市日奈久中町	明治 23 年(1890)鳥居	温泉神社の本尊といわれ、廃仏毀釈の際に本寺に祀られるようになったと伝わる。
626	日奈久	地藏さん	八代市日奈久中町	文政 6 年(1823)台石	8 月に例祭が行われている
627	日奈久	六字大明陀羅尼之塔	八代市日奈久中町	寛保年間	
628	日奈久	六郎さん・六郎霊社	八代市日奈久上西町	不詳	日奈久温泉を発見した浜田六郎左衛門を祀っている。
629	日奈久	秋葉神社	八代市日奈久上西町	天保 3 年(1832)	幕末に続いた火災から町を守るために、駿河の鎮火の神である秋葉神社の分霊を祀ったもの。水産関係の人々がよく参詣する。女人禁制といわれている。
630	日奈久	稲荷さん	八代市日奈久上西町	不詳	旧初午に例祭が行われている。
631	日奈久	恵比須	八代市日奈久上西町	不詳	1 月に例祭が行われている
632	日奈久	日奈久温泉神社	八代市日奈久上西町	1419(応永 26)創建 1822(文政 5)移転	湯の神を祭った神社。市杵島姫命を祭神とし、応永 26 年(1419)に弁天社として、現在の温泉センターの場所に建立された。天明・文化の大火で町の大半と共に焼失したため、文政5年(1822)に温泉街を見下ろせる現在地に移された。神殿には正面に「雲に龍」、左側に「桐に鳳凰」、右側に「雲に麒麟」、後ろに「波頭」など、再建当時の彫刻が残されている。また、境内には安政年間に造られたとされる相撲棧敷が残っており、奉納相撲などが行われていた。建物が市指定有形文化財。
633	日奈久	荒神	八代市日奈久上西町	不詳	バイ(薬師如来)、キリーク(阿弥陀如来)が彫られている。
634	日奈久	温泉神社灯籠	八代市日奈久上西町	天保 12 年(1845)	
635	日奈久	鳥居再建目録石柱	八代市日奈久上西町	寛永 7 年(1630)	
636	日奈久	嶋崎宇太郎墓	八代市日奈久上西町	天保 6 年(1839)	
637	日奈久	観音さん	八代市日奈久中西町	不詳	大正時代に伝染病が流行したが、観音信仰のおかげで病人が出なかったと伝わる。
638	日奈久	恵比須さん・観音さん	八代市日奈久中西町	不詳	昭和 12 年(1937)に現在地に移されたとされる。3 月に例祭が行われている。
639	日奈久	恵比須神社	八代市日奈久下西町	昭和 47 年(1972)	えび網漁をする漁業組合員で祀っている。旧暦 8 月 15 日に例祭が行われている
640	日奈久	竜神さん・恵比須	八代市日奈久下西町	大正 8 年(1919)旗台	一本釣の漁師で祀っている。8 月に例祭が行われている。
641	日奈久	釈迦堂	八代市日奈久下西町	大正 8 年(1919)旗台	旧暦 4 月 8 日に例祭が行われている。
642	日奈久	稲荷さん	八代市日奈久下西町	不詳	初午に例祭が行われている。
643	日奈久	三界万霊塔	八代市日奈久下西町	安政 5 年(1858)	
644	日奈久	水神さん	八代市日奈久馬越町	不詳	灌漑用水利用者が信仰している。
645	日奈久	イボン神さん	八代市日奈久馬越町	不詳	石造観音坐像・木造地藏立像・石造薬師坐像・石造地藏坐像を祀っている。地域の人々だけではなく、遠方からも参詣がある。イボン神としても信仰されている。
646	日奈久	馬頭観音	八代市日奈久馬越町	不詳	農耕馬がいたころは、春と秋に馬につくれを行っていた。
647	日奈久	おだいさん	八代市日奈久馬越町	不詳	以前は馬越町内で祀っていた。3 月に例祭が行われている
648	日奈久	金比羅さん	八代市日奈久馬越町	不詳	3 月に例祭が行われている
649	日奈久	山神さん	八代市日奈久馬越町	不詳	御神木が 11 本存在しており、他の木は切って薪にして良いといわれている。
650	日奈久	馬越阿蘇神宮	八代市日奈久馬越町	永世年間と推定	永世年間に困窮する村人を救済するために阿蘇大明神の勧誘、堤防の改修などを行った城主の計らいを徳として、城内の大明神を村内に奉祀し神宮を建立したと伝わる。
651	日奈久	イボン神さん	八代市日奈久馬越町	文政 9 年(1826)	薬師如来坐像、地藏菩薩坐像が存在している。
652	日奈久	五輪塔	八代市日奈久馬越町	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
653	二見	火起こし地蔵	八代市二見洲口町	不詳	3体存在している。
654	二見	延命地蔵	八代市二見洲口町	天保13年(1846)	
655	二見	五輪塔残欠	八代市二見洲口町	不詳	
656	二見	地蔵	八代市二見洲口町	文政11年(1828)	
657	二見	観音	八代市二見洲口町	嘉永7年(1855)	
658	二見	舟津の竜神さん	八代市二見洲口町	不詳	旧暦9月21日に例祭が行われている。昭和30年頃までは青年相撲が行われていた。
659	二見	恵比須さん	八代市二見洲口町	不詳	漁師で祀っている。4月に例祭が行われている。
660	二見	薬師さん	八代市二見洲口町	不詳	薬師さんを祀っているおかげで、昔から火災・伝染病が無いといわれている。9月に例祭が行われている。
661	二見	明神さん	八代市二見洲口町	不詳	旧暦2月15日に例祭が行われている。以前は山の神も上方に祀られていた。
662	二見	観音さん	八代市二見洲口町	不詳	9月に例祭が行われている。
663	二見	天神さん	八代市二見洲口町	不詳	二見神社の祭日に旗を立てている。
664	二見	観音さん	八代市二見洲口町	昭和3年(1928)	井戸跡の横にあり、井戸の守り神として祀られている。旧暦の1月18日に例祭が行われている。
665	二見	十一面観音	八代市二見洲口町	不詳	観音様を祀ってから沖で船が沈没しなくなった。戦時中に洲口から戦時者が出なかったと伝わる。二見中から参詣者が訪れる。
666	二見	白島の山神さん	八代市二見洲口町	明治時代と推定	昭和2年に山火事があったとき神域で延焼が止まったといわれている。
667	二見	地蔵さん	八代市二見洲口町	文政11年(1828)台石	
668	二見	洲口の山神さん	八代市二見洲口町	不詳	11月に例祭が行われている。
669	二見	坂井家墓所	八代市二見本町	文明年間	他に宝暦12年(1763)の灯籠などが墓所内に存在している。
670	二見	石灯籠	八代市二見本町	享保元年(1716)	
671	二見	鳥居	八代市二見本町	嘉永年間	
672	二見	天満宮鳥居	八代市二見本町	不詳	
673	二見	天満宮灯籠	八代市二見本町	嘉永元年(1848)	
674	二見	先祖墓	八代市二見本町	不詳	五輪塔残欠が存在している。
675	二見	南区の山神さん	八代市二見本町	不詳	旧暦の3月に例祭が行われている
676	二見	野中の山神さん	八代市二見本町	不詳	山仕事を行う人が信仰している。「いまからうつつちますまい」と唱え、山仕事に地域の人は取り掛かる。3月に例祭が行われている。
677	二見	上村の山神さん	八代市二見本町	不詳	旧暦の3月15日に例祭が行われている。
678	二見	下村の山神さん	八代市二見本町	不詳	旧暦の3月16日に例祭が行われている。
679	二見	荒神林の荒神さん	八代市二見本町	不詳	
680	二見	シン堂さん	八代市二見本町	不詳	旧暦7月10日の夜に例祭が行われている。
681	二見	観音堂	八代市二見本町	不詳	子育ての神さんと呼ばれ、終戦直後まで安産祈願、子宝祈願に訪れる人がいた。8月に例祭が行われている。
682	二見	門前の山神さん	八代市二見本町	不詳	
683	二見	火起こし地蔵	八代市二見本町	不詳	「ひよこしの神さん」と呼ばれ、病気の神として地元信仰が厚く、病平癒の願を立て、治癒の際には火吹き竹をあげ、お礼参りが行われていた。現在は交通安全の地蔵さんとなっている。
684	二見	中園の山神さん	八代市二見本町	不詳	旧暦3月15日から新暦4月にかけて日曜日に例祭が行われている。
685	二見	二見神社	八代市二見本町	文亀元年(1501)伝承	相良家家臣園田伊豆守が創建したといわれている。五穀豊穡の神として崇敬されている。4月に春祭、10月に本祭が行われている。
686	二見	小藪の地蔵	八代市二見赤松町	文政年間	
687	二見	砂岩製丸石	八代市二見赤松町	天保6年(1839)	
688	二見	荒神さん	八代市二見赤松町	不詳	11月に例祭が行われている。
689	二見	大平の山神さん	八代市二見赤松町	不詳	12月に例祭が行われている。
690	二見	大平のちどさん・地蔵	八代市二見赤松町	不詳	目の神さんともいわれている。9月に例祭が行われている。
691	二見	地神さん	八代市二見赤松町	不詳	作神として祀られている。御神体は戦前はモチの木の根元にあったが、戦後に現在地に移された。旧暦11月19日に例祭が行われている。
692	二見	子神さん	八代市二見赤松町	昭和初期	子安観音のような神様として、安産・子育ての神様として信仰されている。
693	二見	山神さん	八代市二見赤松町	不詳	旧暦3月15日に例祭が行われている。
694	二見	越猪の山神さん	八代市二見赤松町	不詳	旧例11月15日に例祭が行われている。
695	二見	かみさん	八代市二見赤松町	安永5年(1776)	8月に例祭が行われている。
696	二見	火の神さん	八代市二見赤松町	不詳	9月に例祭が行われている。
697	二見	鷹の川内山神さん	八代市二見赤松町	不詳	旧例11月15日に例祭が行われている。
698	二見	薬師さん	八代市二見赤松町	天明6年(1786)光背表 文化10年(1813)彩色	疫病が流行した際に祀られたと伝わる。旧暦9月12日に例祭が行われている。
699	二見	手水鉢	八代市二見下大野町	慶應2年(1866)	
700	二見	灯籠	八代市二見下大野町	元禄年間	
701	二見	ジュオンドサン(十王堂)	八代市二見下大野町	不詳	石坐像が10体存在している。
702	二見	牧周防守宗久墓	八代市二見下大野町	不詳	
703	二見	王の墓	八代市二見下大野町	不詳	五輪塔3基、五輪塔残欠多数、無縫塔で構成される。
704	二見	王の墓東側墓地	八代市二見下大野町	天正9年(1581)	五輪塔残欠多数、尼の墓(天正9年)、墓石群で構成される。
705	二見	菊池武士墓	八代市二見下大野町	不詳	
706	二見	菊池武士墓	八代市二見下大野町	不詳	
707	二見	道標	八代市二見下大野町	不詳	「二見村大字野田崎」の銘がある。
708	二見	大師さん	八代市二見町下大野町	不詳	旧暦3月21日に例祭が行われている。
709	二見	山神さん	八代市二見町下大野町	不詳	
710	二見	丸吾の地蔵さん	八代市二見町下大野町	寛永8年(1631)板絵 明治10年(1883)棟札	
711	二見	山ノ口の山神さん	八代市二見町下大野町	不詳	家内安全、無病息災を祈って、例祭が2月と10月に行われている。

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
712	二見	下大野神社	八代市二見町下大野町	文明 10 年(1478)南藤蔓綿録	例祭は 10 月 15 日に行われており、酒飲み祭としても知られている。
713	二見	丸山の阿弥陀さん	八代市二見町下大野町	不詳	10 月に例祭が行われている。
714	二見	じゅおんどさん・十王堂	八代市二見町下大野町	不詳	子どもの神様と呼ばれている。10 月に例祭が行われている。
715	二見	山口の大師さん	八代市二見町下大野町	不詳	3 月に例祭が行われている。
716	二見	山口の阿弥陀さん	八代市二見町下大野町	寛永 3 年(1850)舟形光背 文政 4 年(1821)棟札	天変地異や疫病が起こったとき、その凶を払うという願いが込められている。旧暦 10 月 15 日に例祭が行われている。
717	二見	お堂さん・諏訪の腰掛石	八代市二見町下大野町	不詳	旧暦 8 月 15 日に例祭が行われている。
718	二見	久保村の地藏堂	八代市二見町下大野町	天正 12 年(1584)	旧正福寺の跡に建てられている。旧久多良木村馬場にある地藏と 3 兄弟といわれている。
719	二見	琴比羅さん	八代市二見町下大野町	不詳	旧暦 3 月 10 日に例祭が行われている。
720	二見	弘大さん	八代市二見町下大野町	不詳	3 月に例祭が行われている。
721	二見	三界万霊・地藏尊	八代市二見町野田崎町	不詳	
722	二見	中世墓地	八代市二見町野田崎町	不詳	五輪塔が多数存在している。
723	二見	平野山ン神さん	八代市二見町野田崎町	不詳	旧暦 11 月 1 日に例祭が行われている。
724	二見	藤原神社	八代市二見町野田崎町	昭和 8 年(1933)	旧暦 10 月 20 日に例祭が行われている。
725	二見	薬師さん	八代市二見町野田崎町	不詳	日奈久の村津屋から寄進された本尊を祀っている。旧暦 11 月 12 日に例祭が行われている。
726	二見	道ノ平の山ン神さん	八代市二見町野田崎町	不詳	旧暦 11 月 1 日に例祭が行われている。
727	二見	田子崎の山ン神さん	八代市二見町野田崎町	不詳	旧暦 11 月 1 日に例祭が行われている。
728	二見	柴折神さん	八代市二見町野田崎町	不詳	旅人を守る神として信仰されている。
729	二見	子安の観音さん	八代市二見町野田崎町	不詳	雨乞い、うり祭(降雨のお礼)、お百度参り、さなぼり、馬たてなど様々な行事が行われていた。旧暦 8 月 18 日に例祭が行われている。
730	二見	子安観音旗	八代市二見町野田崎町	天保 14 年(1843)	子安観音で使用されている祭旗
731	二見	大師さん	八代市二見町野田崎町	大正 9 年(1920)手水鉢	3 月に例祭が行われている。

参考資料：『八代市の石造物：石造物悉皆調査報告書』

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧泉)

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴
1	泉	本屋敷天神さん	八代市泉町下岳	不詳	
2	泉	毘沙門天さん御堂	八代市泉町下岳	不詳	
3	泉	山神さん御堂	八代市泉町下岳	不詳	
4	泉	お地藏さん	八代市泉町下岳	不詳	3体祀られている。
5	泉	山の神様	八代市泉町下岳	不詳	
6	泉	新道峠の地藏	八代市泉町下岳	不詳	
7	泉	菅原神社	八代市泉町下岳	不詳	
8	泉	菅原神社	八代市泉町下岳	不詳	
9	泉	猿田彦大明神	八代市泉町下岳	不詳	大火事の後祀られる。
10	泉	村の大杉	八代市泉町下岳	不詳	
11	泉	八ヶ嶽の墓	八代市泉町下岳	不詳	
12	泉	天神様	八代市泉町下岳	不詳	
13	泉	どうさん	八代市泉町下岳	不詳	
14	泉	山の神	八代市泉町下岳	不詳	
15	泉	天神様	八代市泉町下岳	不詳	
16	泉	広平の杉	八代市泉町下岳	不詳	
17	泉	広平の銀杏	八代市泉町下岳	不詳	
18	泉	タビの木	八代市泉町下岳	不詳	
19	泉	菅原神社	八代市泉町下岳	不詳	
20	泉	天神さん	八代市泉町下岳	不詳	
21	泉	古屋敷の井川	八代市泉町下岳	不詳	
22	泉	宮の崎の墓地の古木・大木	八代市泉町下岳	不詳	山桜の大桜が存在している。
23	泉	清正公さん	八代市泉町下岳	文化 10 年(1813)	
24	泉	六地藏	八代市泉町下岳	不詳	木造彫刻である。
25	泉	もみじ	八代市泉町下岳	不詳	
26	泉	八丁越の祠	八代市泉町下岳	不詳	
27	泉	土生子宝観音	八代市泉町下岳	不詳	県内外から参拝に訪れる。
28	泉	願乗寺跡	八代市泉町下岳	不詳	
29	泉	菅原神社	八代市泉町下岳	不詳	
30	泉	和小路観音様	八代市泉町下岳	不詳	
31	泉	和小路地藏	八代市泉町下岳	不詳	
32	泉	八大龍王堂	八代市泉町下岳	不詳	
33	泉	矢山の榎	八代市泉町下岳	不詳	
34	泉	毘沙門天立像	八代市泉町柿迫	江戸時代	釈迦院
35	泉	白岩戸山神社	八代市泉町柿迫	不詳	菅原道真を祀っている。
36	泉	兵隊別れ	八代市泉町柿迫	不詳	兵隊遠征時、見送った場所。
37	泉	水無鍾乳洞	八代市泉町柿迫	不詳	
38	泉	糸原天満宮	八代市泉町柿迫	不詳	菅原道真を祀っている。
39	泉	糸原天満宮の杉	八代市泉町柿迫	不詳	
40	泉	ペンタビ	八代市泉町柿迫	不詳	
41	泉	阿弥陀如来堂	八代市泉町柿迫	不詳	
42	泉	阿弥陀如来坐像	八代市泉町柿迫	不詳	
43	泉	火の神さん	八代市泉町柿迫	不詳	通称アキヤさんと呼ばれている。
44	泉	上の門天神堂	八代市泉町柿迫	不詳	通称おてんじんさんと呼ばれ、菅原道真を祀っている。
45	泉	光立寺	八代市泉町柿迫	寛永 17 年(1641)	開祖は宗玄とされている。
46	泉	浄三郎經一字一石供養等	八代市泉町柿迫	安永 6 年(1777)	
47	泉	七人塚	八代市泉町柿迫	不詳	小西行長の兵乱で殺された人の供養塔と伝える。
48	泉	二重びわ堂の古木・巨木	八代市泉町柿迫	弘化年間	緒方播磨の孫、善明によって製作されたとされる仏像がある。
49	泉	柿迫神社の古木・巨木	八代市泉町柿迫	不詳	
50	泉	打越山神社	八代市泉町柿迫	不詳	
51	泉	打越の椿	八代市泉町柿迫	不詳	
52	泉	猿田彦大神さん	八代市泉町柿迫	不詳	
53	泉	釈迦如来像	八代市泉町柿迫	平安時代	
54	泉	山王神像 7 体	八代市泉町柿迫	鎌倉時代	
55	泉	縁起巻物三幅	八代市泉町柿迫	文化 2 年(1806)	

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴
56	泉	弘法大師像	八代市泉町柿迫	桃山時代	
57	泉	元三大師像	八代市泉町柿迫	桃山時代	
58	泉	三尺 阿弥陀如来像	八代市泉町柿迫	桃山時代	
59	泉	一尺 釈迦如来立像	八代市泉町柿迫	江戸時代	
60	泉	釈迦院の古木・巨木	八代市泉町柿迫	不詳	
61	泉	加藤忠広お手植えの銀杏	八代市泉町柿迫	不詳	推定樹齢約 400 年である。
62	泉	鬼子母神像	八代市泉町柿迫	不詳	
63	泉	お釈迦立像	八代市泉町柿迫	不詳	
64	泉	伝教大師坐像	八代市泉町柿迫	不詳	
65	泉	釈迦大師坐像	八代市泉町柿迫	不詳	
66	泉	釈迦大師像	八代市泉町柿迫	不詳	
67	泉	天台智者大師坐像	八代市泉町柿迫	不詳	
68	泉	一ツ氏阿蘇神社	八代市泉町柿迫	不詳	
69	泉	横手天神社	八代市泉町柿迫	不詳	菅原道真を祀っている。
70	泉	横手山神社	八代市泉町柿迫	不詳	
71	泉	岩奥神社	八代市泉町柿迫	不詳	
72	泉	岩奥神社の古木・巨木	八代市泉町柿迫	不詳	
73	泉	板木阿蘇神社	八代市泉町柿迫	不詳	
74	泉	保口若宮神社	八代市泉町柿迫	不詳	阿蘇家の支配時に造営されたと伝わる。鬼山御前を祀っている。
75	泉	保口神社の古木・巨木	八代市泉町柿迫	不詳	
76	泉	保口峠の地蔵	八代市泉町柿迫	不詳	
77	泉	普賢峯鬼山像	八代市泉町柿迫	不詳	
78	泉	鬼山御前石像	八代市泉町柿迫	不詳	
79	泉	若宮社(鬼山御前社)と乳水	八代市泉町柿迫	不詳	
80	泉	鬼山御前の墓	八代市泉町柿迫	不詳	平家の落人伝説と関係している。
81	泉	鬼山御前堂	八代市泉町柿迫	不詳	平家の落人伝説と関係している。
82	泉	子供を守って下さる観音様	八代市泉町栗木	不詳	
83	泉	観音様	八代市泉町栗木	不詳	
84	泉	くるぎの堂さん	八代市泉町栗木	不詳	
85	泉	栗木六大神社	八代市泉町栗木	不詳	
86	泉	栗木六大神社の古木・巨木	八代市泉町栗木	不詳	
87	泉	栗木の元代神宮権現	八代市泉町栗木	不詳	
88	泉	観音堂	八代市泉町栗木	不詳	
89	泉	天狗岩	八代市泉町栗木	不詳	
90	泉	法泉寺	八代市泉町栗木	明暦 2 年(1656)	
91	泉	法泉寺のツゲ	八代市泉町栗木	不詳	
92	泉	大日如来	八代市泉町栗木	不詳	
93	泉	ドラ	八代市泉町栗木	不詳	
94	泉	法浄寺	八代市泉町栗木	不詳	梵鐘は県指定有形文化財である。
95	泉	地蔵尊	八代市泉町栗木	不詳	火の神として祀られている。
96	泉	地蔵さん	八代市泉町栗木	不詳	
97	泉	地蔵さん	八代市泉町栗木	不詳	
98	泉	三本木峠の地蔵	八代市泉町栗木	不詳	
99	泉	南川内山神社	八代市泉町栗木	不詳	
100	泉	南川内阿弥陀堂	八代市泉町栗木	不詳	
101	泉	南川内阿弥陀堂のタビの木	八代市泉町栗木	不詳	
102	泉	南川内阿弥陀堂の阿弥陀如来	八代市泉町栗木	不詳	
103	泉	南川内御上の塔の杉	八代市泉町栗木	不詳	
104	泉	南川内墓地のムクの木	八代市泉町栗木	不詳	
105	泉	久連子神社	八代市泉町久連子	不詳	阿蘇家支配時に造営されたと伝わる。
106	泉	久連子神社の古木・巨木	八代市泉町久連子	不詳	
107	泉	ナロウ	八代市泉町久連子	不詳	
108	泉	正覚寺	八代市泉町久連子	不詳	
109	泉	正覚寺の銀杏	八代市泉町久連子	不詳	
110	泉	平重盛の墓と平家供養塔	八代市泉町久連子	不詳	
111	泉	久連子兵士像	八代市泉町久連子	不詳	
112	泉	久連子平家一門位牌	八代市泉町久連子	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴・備考
113	泉	久連子春祈禱	八代市泉町久連子	不詳	
114	泉	願乗寺跡	八代市泉町久連子	不詳	
115	泉	久連子地区守本尊地藏堂	八代市泉町久連子	不詳	
116	泉	慰霊塔(平和記念塔)	八代市泉町久連子	不詳	
117	泉	嶽の屋敷跡	八代市泉町久連子	不詳	平家の落人たちが住んだという屋敷跡と伝わる。
118	泉	椎原神社	八代市泉町椎原	不詳	阿蘇家支配時に造営されたと伝わる。
119	泉	薬師堂	八代市泉町椎原	不詳	
120	泉	椎原の山の神	八代市泉町椎原	不詳	
121	泉	山神社	八代市泉町仁田尾	不詳	
122	泉	天神社	八代市泉町仁田尾	不詳	
123	泉	小原神社のみみ・杉	八代市泉町仁田尾	室町時代	
124	泉	小原人形まわし	八代市泉町仁田尾	不詳	
125	泉	弘法大師(木彫り)	八代市泉町仁田尾	不詳	
126	泉	西の岩油滝大師像	八代市泉町仁田尾	不詳	
127	泉	尺間神社	八代市泉町仁田尾	不詳	
128	泉	尺間神殿	八代市泉町仁田尾	不詳	
129	泉	尺間拝殿	八代市泉町仁田尾	不詳	
130	泉	仁田尾神社	八代市泉町仁田尾	不詳	
131	泉	葉木神社の古木・巨木	八代市泉町葉木	不詳	
132	泉	お墓さん	八代市泉町葉木	不詳	
133	泉	二合の鍾乳洞	八代市泉町葉木	不詳	
134	泉	京ノ丈山の鍾乳洞	八代市泉町葉木	不詳	
135	泉	天神さん	八代市泉町葉木	不詳	
136	泉	葉木山の神の杉	八代市泉町葉木	不詳	
137	泉	佐倉神社	八代市泉町葉木	不詳	佐倉宗吾の出生地と伝わる。
138	泉	檜	八代市泉町葉木	不詳	
139	泉	杉	八代市泉町葉木	不詳	
140	泉	モミ	八代市泉町葉木	不詳	
141	泉	荒神さんの杉	八代市泉町葉木	不詳	
142	泉	お祇園さん	八代市泉町樅木	不詳	家内安全を祈願して祀られている。
143	泉	山神社	八代市泉町樅木	不詳	山の神(狩獵)として祀られている。
144	泉	熊野神社	八代市泉町樅木	不詳	
145	泉	春日堂	八代市泉町樅木	不詳	

参考資料：『泉村誌』

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧坂本)

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
1	坂本	山ノ神さん(山の神像)	八代市坂本町西部い	古田	不詳	
2	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町西部い	古田	不詳	
3	坂本	下の地藏さん	八代市坂本町西部い	今泉	不詳	
4	坂本	諏訪大明神	八代市坂本町西部い	小川	寿永2年(1183)	
5	坂本	お大師さん(弘法大師堂)	八代市坂本町西部い	小川	明治41年(1908)	
6	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町西部い	小川	嘉永3年(1850)	
7	坂本	上の地藏さん	八代市坂本町西部い	小川	明和2年(1765)	
8	坂本	薬師さん(薬師堂)	八代市坂本町西部い	袈裟堂	寛永8年(1796)	
9	坂本	稲荷さん	八代市坂本町西部い	袈裟堂	不詳	
10	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町西部い	袈裟堂	不詳	
11	坂本	かじわらさん	八代市坂本町西部い	袈裟堂	文化年間	
12	坂本	宝篋印塔	八代市坂本町西部い	袈裟堂	文久3年(1863)	
13	坂本	上宮さん(上宮堂)	八代市坂本町西部い	袈裟堂	不詳	
14	坂本	相良氏遺跡	八代市坂本町西部ろ	下今泉	不詳	
15	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町西部ろ	今泉	不詳	
16	坂本	川ノ神さん	八代市坂本町西部ろ	今泉	慶応2年(1886)	
17	坂本	坂ノ堂の地藏さん	八代市坂本町西部ろ	今泉	享保元年(1716)	
18	坂本	ろぎの地藏さん	八代市坂本町西部ろ	今泉	文化7年(1810)	
19	坂本	石像(墓)	八代市坂本町西部ろ	原女木	安永元年(1772)	
20	坂本	石碑(墓印)	八代市坂本町西部ろ	原女木	安永元年(1772)	
21	坂本	地藏さん	八代市坂本町西部ろ	原女木	不詳	
22	坂本	八幡宮	八代市坂本町西部ろ	原女木	江戸時代	
23	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町西部ろ	原女木	不詳	
24	坂本	稲荷さん(稲荷社)	八代市坂本町西部ろ	原女木	江戸時代	
25	坂本	下の山ノ神さん	八代市坂本町西部は	段	不詳	
26	坂本	上の山ノ神さん	八代市坂本町西部は	段	不詳	
27	坂本	堂さん(阿弥陀堂)	八代市坂本町西部は	段	安永5年(1776)	
28	坂本	上の山神さん	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
29	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
30	坂本	稲荷さん(稲荷社)	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
31	坂本	五輪塔	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
32	坂本	板碑	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
33	坂本	地藏さん	八代市坂本町西部は	横石	不詳	
34	坂本	観音さん	八代市坂本町西部は	川口	不詳	
35	坂本	金比羅さん(金比羅社)	八代市坂本町西部は	川口	不詳	
36	坂本	草履掛けの地藏さん(地藏像)	八代市坂本町西部は	川口	不詳	
37	坂本	松の平の観音さん	八代市坂本町深くい	下深水	天明年間・明治20年	
38	坂本	一本松の地藏さん	八代市坂本町深くい	下深水	天保10年(1839)	
39	坂本	大淵の地藏さん	八代市坂本町深くい	下深水	天保10年(1839)	
40	坂本	橋口宅横の地藏さん	八代市坂本町深くい	下深水	元禄13年(1700)	
41	坂本	日当の地藏さん	八代市坂本町深くい	下深水	天保3年(1833)	
42	坂本	二俣の地藏さん	八代市坂本町深くい	平野	弘化3年(1846)	
43	坂本	中森の荒神さん	八代市坂本町深くい	平野	不詳	
44	坂本	カンバの地藏さん(地藏像)	八代市坂本町深くい	平野	不詳	
45	坂本	五輪塔	八代市坂本町深くい	平野	不詳	
46	坂本	中屋敷の荒神さん	八代市坂本町深くい	平野	不詳	
47	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町深くい	平野	不詳	
48	坂本	坂口宅横の地藏さん	八代市坂本町深くい	平野	弘化3年(1846)	
49	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町深くい	上深水	享保3年(1718)	
50	坂本	堂さん(明楽堂)	八代市坂本町深くい	上深水	文明16年(1484)	
51	坂本	寺の上の観音さん	八代市坂本町深くい	上深水	不詳	
52	坂本	羽根田の地藏さん	八代市坂本町深くい	上深水	不詳	
53	坂本	なかっどの塚	八代市坂本町深くい	上深水	不詳	
54	坂本	俣江の観音さん	八代市坂本町深くい	上深水	不詳	
55	坂本	岩屋の地藏さん	八代市坂本町深水ろ	嶽	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
56	坂本	震坂の観音さん	八代市坂本町深水ろ	嶽	明治 6 年(1873)	
57	坂本	山ン神(山神社)	八代市坂本町深水ろ	嶽	不詳	
58	坂本	横道の地藏さん	八代市坂本町深水ろ	嶽	明治 8 年(1875)	
59	坂本	堂さん(地藏堂)	八代市坂本町深水ろ	嶽	寛文 8 年(1669)	
60	坂本	山ン神さん	八代市坂本町深水ろ	嶽	不詳	
61	坂本	おのぼりの地藏さん	八代市坂本町深水ろ	嶽	明治 12 年(1875)	
62	坂本	観音さん(観音像)	八代市坂本町深水ろ	九折	明治 7 年(1874)	
63	坂本	亀石の地藏さん	八代市坂本町深水ろ	九折	慶応元年(1865)	
64	坂本	亀石の上の地藏さん	八代市坂本町深水ろ	九折	不詳	
65	坂本	篠俣の地藏さん	八代市坂本町深水ろ	九折	享保 8 年(1723)	
66	坂本	山ン神さん	八代市坂本町深水ろ	九折	不詳	
67	坂本	平野子の地藏さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
68	坂本	堂さん(観音堂)	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
69	坂本	山ン神さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
70	坂本	五輪塔	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
71	坂本	十尾の地藏さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
72	坂本	尾の上の地藏さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
73	坂本	山ン神さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
74	坂本	川の地藏さん	八代市坂本町深水は	板の平	明治 2 年(1869)	
75	坂本	向の地藏さん	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
76	坂本	観音さん(観音像)	八代市坂本町深水は	板の平	不詳	
77	坂本	岩屋の地藏さん	八代市坂本町中谷い	馬廻	不詳	
78	坂本	平石の本の地藏さん	八代市坂本町中谷い	馬廻	安政 3 年(1856)	
79	坂本	堂さん(観音堂)	八代市坂本町中谷い	馬廻	安永 4 年(1775)	
80	坂本	千立柿の地藏さん	八代市坂本町中谷い	馬廻	明治 13 年(1880)	
81	坂本	山ン神さん	八代市坂本町中谷い	馬廻	不詳	
82	坂本	経塚(西橋喜右門の墓碑)	八代市坂本町中谷い	馬廻	安永 3 年(1774)	
83	坂本	フゾウ淵の地藏さん	八代市坂本町中谷い	馬廻	元禄 8 年(1695)	
84	坂本	ノボセの地藏さん	八代市坂本町中谷い	小崎	天保 5 年(1834)	
85	坂本	堂さん(延命地藏堂)	八代市坂本町中谷い	小崎	慶應 4 年(1868)	
86	坂本	聖観音堂	八代市坂本町中谷い	小崎	天明元年(1781)	
87	坂本	五輪塔	八代市坂本町中谷い	小崎	永禄 2 年(1559)	
88	坂本	山ン神さん	八代市坂本町中谷い	小崎	不詳	
89	坂本	滝ノ本の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町中谷い	小崎	天保 3 年(1832)	
90	坂本	井手口の地藏さん(1)	八代市坂本町中谷い	衣領	宝暦 13 年(1763)	
91	坂本	井手口の地藏さん(2)	八代市坂本町中谷い	衣領	不詳	
92	坂本	井手口の山ン神さん	八代市坂本町中谷い	衣領	不詳	
93	坂本	谷崎氏横の地藏さん	八代市坂本町中谷い	衣領	天保 2 年(1831)	
94	坂本	中尾の地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町中谷い	衣領	不詳	
95	坂本	天神さん(天神社)	八代市坂本町中谷い	衣領	天保 8 年(1837)	
96	坂本	天神脇の地藏さん	八代市坂本町中谷い	衣領	不詳	
97	坂本	上の地藏さん	八代市坂本町中谷い	衣領	天保 8 年(1837)	
98	坂本	古屋敷の山ン神さん	八代市坂本町中谷い	衣領	不詳	カゴの木を記っている。
99	坂本	田の下の地藏さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	
100	坂本	羽根田の地藏さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	
101	坂本	横道の荒神さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	
102	坂本	くすのきさん	八代市坂本町中谷い	木々子	江戸時代	
103	坂本	氏神さん(地藏堂)	八代市坂本町中谷い	木々子	寛文 2 年(1662)	
104	坂本	代官森の山ン神さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	カシの木を記っている。
105	坂本	宮林の山ン神さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	
106	坂本	ヨケン峠の地藏さん	八代市坂本町中谷い	木々子	文化 10 年(1813)	
107	坂本	責ン頭の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町中谷い	木々子	寛政 6 年(1794)	
108	坂本	オグリの山ン神さん	八代市坂本町中谷い	木々子	不詳	
109	坂本	県道脇の観音さん	八代市坂本町中谷い	小崎辻	不詳	
110	坂本	若宮さん(若宮神社)	八代市坂本町中谷い	小崎辻	不詳	
111	坂本	番匠さん	八代市坂本町中谷い	小崎辻	不詳	
112	坂本	瀬越えの地藏さん(地藏像)	八代市坂本町中谷い	小崎辻	元文元年(1736)	

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
113	坂本	竹田神社	八代市坂本町中谷い	大林	江戸時代	
114	坂本	山ノ神(山神社)	八代市坂本町中谷い	大林	天正 11 年(1584)	
115	坂本	片岩の山ノ神さん	八代市坂本町中谷い	大林	不詳	
116	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町中谷ろ	生名子	不詳	
117	坂本	観音さん	八代市坂本町中谷ろ	生名子	不詳	
118	坂本	堂さん(地藏堂)	八代市坂本町中谷ろ	生名子	享保 12 年(1727)	
119	坂本	観音さん	八代市坂本町中谷ろ	生名子	永正 17 年(1520)	
120	坂本	板碑	八代市坂本町中谷ろ	生名子	明治 38 年(1905)	
121	坂本	金比羅さん(金比羅社)	八代市坂本町中谷ろ	生名子	江戸時代	
122	坂本	下の堂さん	八代市坂本町中谷は	瀬高	不詳	
123	坂本	上宮さん(勢至菩薩堂)	八代市坂本町中谷は	瀬高	不詳	
124	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町中谷は	瀬高	不詳	
125	坂本	観音さん	八代市坂本町中谷は	瀬高	不詳	
126	坂本	水神さん	八代市坂本町中谷は	瀬高	不詳	
127	坂本	法恩寺	八代市坂本町中谷は	下代瀬	不詳	
128	坂本	地藏さん	八代市坂本町中谷は	下代瀬	不詳	
129	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町中谷は	下代瀬	不詳	
130	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町中谷は	下代瀬	不詳	
131	坂本	十一面観音さん(観音像)	八代市坂本町中谷は	中谷川口	安永 2 年(1773)	
132	坂本	一の渡りの地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	宝暦 13 年(1763)	
133	坂本	荒神さん	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	不詳	
134	坂本	古屋敷の山ノ神さん	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	不詳	
135	坂本	古屋敷の薬師堂	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	天正 11 年(1584)	
136	坂本	にちりんさん	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	不詳	
137	坂本	こがのきさん(五輪塔)	八代市坂本町鮎埴い	古屋敷	不詳	
138	坂本	せごいの地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	早水	享保 2 年(1717)	
139	坂本	大淵の竜宮さん(水神)	八代市坂本町鮎埴い	早水	不詳	
140	坂本	五輪塔(藤田氏墓地)	八代市坂本町鮎埴い	早水	不詳	
141	坂本	早水の薬師堂(薬師堂)	八代市坂本町鮎埴い	早水	永禄 9 年(1566)	
142	坂本	五輪塔・石文(薬師堂の裏)	八代市坂本町鮎埴い	早水	不詳	
143	坂本	荒神さん	八代市坂本町鮎埴い	早水	天正 14 年(1586)	
144	坂本	とさんかみさん	八代市坂本町鮎埴い	早水	天正 14 年(1586)	
145	坂本	石だたみの地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	文久 3 年(1863)	
146	坂本	阿蘇神社	八代市坂本町鮎埴い	日光	文久 2 年(1862)	
147	坂本	さきの地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	文久 2 年(1862)	
148	坂本	日光の薬師堂(薬師堂)	八代市坂本町鮎埴い	日光	安政 5 年(1858)	
149	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	不詳	
150	坂本	神早江の地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	不詳	
151	坂本	稲荷さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	不詳	
152	坂本	赤地藏さん	八代市坂本町鮎埴い	日光	不詳	
153	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町鮎埴ろ	日田地	不詳	
154	坂本	よけんまちの地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	宝暦 6 年(1756)	
155	坂本	やしきの山ノ神さん	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	不詳	
156	坂本	荒神さん	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	不詳	
157	坂本	辻の観音堂	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	明和元年(1764)	
158	坂本	辻の薬師堂	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	不詳	
159	坂本	西の地藏堂	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	不詳	
160	坂本	西の山ノ神さん	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	不詳	
161	坂本	番立峠の地藏さん(観音像)	八代市坂本町鮎埴ろ	辻	明治 11 年(1878)	
162	坂本	さかंदうの地藏さん	八代市坂本町鮎埴は	日田地	宝暦 8 年(1758)	
163	坂本	辻道の地藏さん	八代市坂本町鮎埴は	日田地	不詳	
164	坂本	日田地の地藏堂(地藏堂)	八代市坂本町鮎埴は	日田地	宝暦 7 年(1757)	
165	坂本	観音さん	八代市坂本町鮎埴は	日田地	文政 5 年(1822)	
166	坂本	稲入の地藏堂	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	
167	坂本	五輪塔 2 基(山本氏墓地)	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	
168	坂本	板碑(山本氏墓地)	八代市坂本町鮎埴は	稲入	嘉永 5 年(1852)	
169	坂本	道上の山ノ神さん	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
170	坂本	坂ん下の地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	
171	坂本	坂ん下の荒神さん	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	
172	坂本	山下の観音堂(観音堂)	八代市坂本町鮎埴は	稲入	不詳	
173	坂本	北山の地藏堂(地藏堂)	八代市坂本町鮎埴に	大平	明和3年(1766)	
174	坂本	北山の山ン神さん	八代市坂本町鮎埴に	大平	不詳	
175	坂本	大平の山ン神さん	八代市坂本町鮎埴に	大平	不詳	
176	坂本	大平の岩ンど(鍾乳洞)	八代市坂本町鮎埴に	大平	不詳	
177	坂本	しんよけの地藏さん	八代市坂本町鮎埴に	大平	不詳	
178	坂本	園川地藏堂	八代市坂本町鮎埴に	登俣	不詳	
179	坂本	下の山ン神さん	八代市坂本町鮎埴に	登俣	不詳	
180	坂本	登俣の薬師堂(薬師堂)	八代市坂本町鮎埴に	登俣	江戸時代	
181	坂本	上の山ン神さん(山神社)	八代市坂本町鮎埴に	登俣	不詳	
182	坂本	平の地藏さん	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
183	坂本	轟の地藏さん	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
184	坂本	氏神さん(観音堂)	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
185	坂本	責の地藏さん	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
186	坂本	五輪塔(平野氏墓地)	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
187	坂本	日当の山ン神さん	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
188	坂本	荒神さん	八代市坂本町鮎埴ほ	責	不詳	
189	坂本	ゆずどん(石碑)	八代市坂本町鮎埴ほ	責	元禄13年(1700)	
190	坂本	よしとびの地藏さん	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	不詳	
191	坂本	氏神さん(観音堂)	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	寛永6年(1853)	
192	坂本	五輪塔(氏神さん裏墓地)	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	不詳	
193	坂本	板碑(氏神さん裏墓地)	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	寛政5年(1793)	
194	坂本	権現さん	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	明治13年(1880)	
195	坂本	あおやぎの山ン神さん	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	不詳	
196	坂本	山口どんの墓	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	不詳	
197	坂本	山ン神さん(山神社)	八代市坂本町鮎埴ほ	川原谷	不詳	
198	坂本	だんとさん	八代市坂本町坂本	古屋敷	不詳	
199	坂本	五輪塔	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	不詳	
200	坂本	西の堂さん(薬師堂)	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	不詳	
201	坂本	山ン神さん	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	不詳	
202	坂本	東の堂さん(観音堂)	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	文化12年(1815)	
203	坂本	捨木谷の地藏さん	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	安政3年(1856)	
204	坂本	うたきの地藏さん	八代市坂本町坂本	坊ノ木場	安永9年(1780)	
205	坂本	火除けの地藏さん	八代市坂本町坂本	上片岩	不詳	
206	坂本	水神さん	八代市坂本町坂本	上片岩	不詳	
207	坂本	堂さん(薬師堂)	八代市坂本町坂本	上片岩	明治時代	
208	坂本	片岩の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町坂本	上片岩	不詳	
209	坂本	捨木の山ン神さん	八代市坂本町坂本	下片岩	不詳	
210	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町坂本	下片岩	安政4年(1821)	
211	坂本	又四郎稲荷(稲荷神社)	八代市坂本町坂本	下片岩	不詳	
212	坂本	お薬師さん	八代市坂本町坂本	油谷	不詳	
213	坂本	山ン神さん(山神社)	八代市坂本町坂本	油谷	不詳	
214	坂本	灰山の地藏	八代市坂本町坂本	坂本	不詳	
215	坂本	阿弥陀さん(阿弥陀堂)	八代市坂本町坂本	坂本	嘉永5年(1852)	
216	坂本	八十八箇所(相良道の大師堂)	八代市坂本町坂本	坂本	不詳	相良道沿いに立地している。
217	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町坂本	松崎	不詳	
218	坂本	山ン神さん	八代市坂本町坂本	松崎	不詳	
219	坂本	犬掃りの観音さん	八代市坂本町荒瀬	合志野	不詳	
220	坂本	山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	合志野	不詳	
221	坂本	水口の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	合志野	安政2年(1855)	
222	坂本	金比羅さん(金比羅宮)	八代市坂本町荒瀬	合志野	不詳	
223	坂本	天社さん(菅原神社)	八代市坂本町荒瀬	合志野	安政2年(1855)	
224	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町荒瀬	合志野	嘉永5年(1852)	
225	坂本	八幡の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
226	坂本	よけはなの地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
227	坂本	床並の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
228	坂本	まつでの地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
229	坂本	矢折りの地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	天保 13 年(1842)	
230	坂本	下の十神さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
231	坂本	毘沙門さん(毘沙門堂)	八代市坂本町荒瀬	洪利	享和 3 年(1803)	
232	坂本	お大師さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
233	坂本	橋の元の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
234	坂本	上の十神さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
235	坂本	山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
236	坂本	大平の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	洪利	不詳	
237	坂本	堂前の荒神さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
238	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	文政 8 年(1825)	
239	坂本	八幡さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
240	坂本	上の山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	上荒瀬	不詳	
241	坂本	栗見(久留美)の山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	下荒瀬	不詳	
242	坂本	栗見(久留美)の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
243	坂本	下村の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
244	坂本	水天宮さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
245	坂本	山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
246	坂本	上荒瀬の地藏さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
247	坂本	下の山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
248	坂本	竹林の山ン神さん	八代市坂本町荒瀬	上荒瀬	不詳	
249	坂本	上荒瀬の荒神さん	八代市坂本町荒瀬	荒瀬	不詳	
250	坂本	天満宮(菅原神社)	八代市坂本町葉木	藤本	昭和	
251	坂本	山ン神さん	八代市坂本町葉木	藤本	不詳	
252	坂本	地藏さん(地藏像)	八代市坂本町葉木	藤本	不詳	
253	坂本	藤本五所神社(元上松求麻村社)	八代市坂本町葉木	藤本	延暦年間(782)創建	
254	坂本	五所神社石文	八代市坂本町葉木	藤本	元禄 14 年(1701)	
255	坂本	五輪塔	八代市坂本町葉木	藤本	元亀 2 年(1571)	
256	坂本	石造祠	八代市坂本町葉木	藤本	不詳	
257	坂本	杉林の山ン神さん	八代市坂本町葉木	大門	不詳	
258	坂本	薬師さん(薬師堂)	八代市坂本町葉木	大門	享保 2 年(1717)	
259	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町葉木	大門	享保 16 年(1731)	
260	坂本	山ン神さん	八代市坂本町葉木	大門	不詳	
261	坂本	金毘羅宮	八代市坂本町葉木	大門	明治	船の神様として祀っている。
262	坂本	稲荷神社下の地藏さん	八代市坂本町葉木	大門	不詳	
263	坂本	稲荷神社	八代市坂本町葉木	大門	不詳	
264	坂本	井手口の山ン神さん	八代市坂本町葉木	佐瀬野	不詳	
265	坂本	氏神さん(阿弥陀堂)	八代市坂本町葉木	佐瀬野	仏像の 1 体は江戸中期	
266	坂本	川口の地藏さん	八代市坂本町葉木	佐瀬野	不詳	
267	坂本	堂さん(観音堂)	八代市坂本町葉木	下葉木	安政 3 年(1856)	
268	坂本	山ン神さん	八代市坂本町葉木	下葉木	不詳	
269	坂本	氏神さん(地藏・観音堂)	八代市坂本町葉木	上葉木	寛政 3 年(1791)	
270	坂本	正善寺	八代市坂本町葉木	上葉木	不詳	
271	坂本	山ン神さん	八代市坂本町葉木	上葉木	不詳	
272	坂本	湯のはなの地藏さん(地藏像)	八代市坂本町葉木	上葉木	不詳	旧球磨街道筋に存在している。
273	坂本	木本の地藏さん	八代市坂本町葉木	上葉木	不詳	
274	坂本	岩巻の水神さん	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
275	坂本	宇曽越の地藏さん	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
276	坂本	とき仏	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	五輪塔の一部を祀っている。
277	坂本	氏神さん(観音堂)	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	享和 3 年(1803)	
278	坂本	釈迦堂	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
279	坂本	権現堂(日吉神社)	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	天明元年(1781)	
280	坂本	山ン神さん	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
281	坂本	経塚(五輪塔)	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
282	坂本	金比羅さん	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
283	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
284	坂本	裏山の山ノ神さん	八代市坂本町鎌瀬	下鎌瀬	不詳	
285	坂本	日野宮	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	安政7年(1778)	
286	坂本	玉屋さん	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	天正7年(1579)	
287	坂本	五輪塔	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	応永7年(1400)	日野駄左衛門の墓。
288	坂本	小林半十郎堂	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	不詳	
289	坂本	氏神さん(地藏堂)	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	嘉永7年(1854)	
290	坂本	おはらの墓	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	不詳	
291	坂本	徳千師堂	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	不詳	
292	坂本	よけんたきの地藏さん	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	文化10年(1813)	
293	坂本	本山の山ノ神さん	八代市坂本町鎌瀬	上鎌瀬	不詳	
294	坂本	堂の下の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町中津道	三坂	不詳	
295	坂本	氏神さん(観音堂)	八代市坂本町中津道	三坂	天文3年(1534)	
296	坂本	清水の水神さん	八代市坂本町中津道	三坂	大正7年(1918)	水飲み場として利用されていた。
297	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町中津道	三坂	不詳	
298	坂本	しゅりがみの観音さん	八代市坂本町中津道	三坂	大正元年(1912)	
299	坂本	観音さん(阿弥陀、観音堂)	八代市坂本町中津道	中津道	永禄12年(1569)	
300	坂本	五輪塔(寺跡)	八代市坂本町中津道	中津道	江戸時代	悟真寺の末寺「永谷庵」があった場所である。
301	坂本	氏神さん(中津神社)	八代市坂本町中津道	中津道	天正年間	
302	坂本	金比羅神社	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	
303	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	
304	坂本	八房さん	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	
305	坂本	イボ荒神	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	タブの木が御神体。イボの病にご利益がある。
306	坂本	愛宕さん(愛宕神社)	八代市坂本町中津道	中津道	弘化3年(1846)	
307	坂本	荒神さん	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	
308	坂本	いわがみの地藏さん	八代市坂本町中津道	中津道	不詳	
309	坂本	俣江の地藏さん	八代市坂本町中津道	中津道	昭和	
310	坂本	八房さん(八房神社)	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	永禄12年(1569)	
311	坂本	落合橋の地藏さん	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	不詳	
312	坂本	地藏堂	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	不詳	
313	坂本	荒神さん	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	昭和	
314	坂本	氏神さん(阿弥陀堂)	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	元禄年間か?	
315	坂本	立岩口の八房さん	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	不詳	
316	坂本	山ノ神さん	八代市坂本市ノ俣	枳ノ俣	不詳	
317	坂本	山ノ神さん	八代市坂本市ノ俣	横様	不詳	
318	坂本	虚空蔵さん(虚空蔵堂)	八代市坂本市ノ俣	横様	明暦4年(1658)	
319	坂本	岩屋もとの地藏さん	八代市坂本市ノ俣	市ノ俣	不詳	
320	坂本	氏神さん(地藏堂)	八代市坂本市ノ俣	市ノ俣	享保年間か?	
321	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本市ノ俣	市ノ俣	宝暦9年(1751)	
322	坂本	山ノ神さん	八代市坂本市ノ俣	市ノ俣	不詳	
323	坂本	葉山さん(葉山神社)	八代市坂本市ノ俣	市ノ俣	大正5年(1916)	
324	坂本	山王権現	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	不詳	
325	坂本	大師堂	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	大正13年(1924)	
326	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	不詳	
327	坂本	崩の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	明和3年(1766)	
328	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	不詳	
329	坂本	氏神さん(阿蘇神社)	八代市坂本町川嶽	瀬戸石	天正年間か?	
330	坂本	瀬の上の地藏堂	八代市坂本町川嶽	西鎌瀬	不詳	
331	坂本	下の山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	西鎌瀬	不詳	
332	坂本	氏神さん(仏堂)	八代市坂本町川嶽	鎌瀬	宝永2年(1705)	
333	坂本	上の山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	西鎌瀬	不詳	
334	坂本	宇楚越の地藏さん	八代市坂本町川嶽	西鎌瀬	不詳	
335	坂本	鳥越の観音さん(観音菩薩像)	八代市坂本町川嶽	柿生	嘉永元年(1848)	
336	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	柿生	不詳	
337	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	与奈久	不詳	
338	坂本	お薬師さん(薬師堂)	八代市坂本町川嶽	与奈久	文化14年(1871)	
339	坂本	観音さん	八代市坂本町川嶽	与奈久	不詳	

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
340	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町川嶽	与奈久	不詳	
341	坂本	尾久保の山ノ神さん	八代市坂本町川嶽	与奈久	不詳	
342	坂本	不動さん	八代市坂本町川嶽	与奈久	不詳	
343	坂本	平岩の地藏さん	八代市坂本町川嶽	破木	不詳	
344	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町川嶽	破木	不詳	
345	坂本	毘沙門さん(毘沙門堂)	八代市坂本町川嶽	破木	文久年間か?	
346	坂本	観音さん	八代市坂本町川嶽	破木	不詳	
347	坂本	だごへいの地藏さん	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
348	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
349	坂本	天神さん(菅原神社)	八代市坂本町鶴喰	下鶴	嘉永2年(1849)	
350	坂本	お大師さん	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
351	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
352	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
353	坂本	いおう峠の地藏さん	八代市坂本町鶴喰	下鶴	昭和	
354	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
355	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	下鶴	不詳	
356	坂本	お大師さん	八代市坂本町鶴喰	中鶴	昭和	
357	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町鶴喰	中鶴	文政13年(1830)	
358	坂本	昭曜山 徳正寺	八代市坂本町鶴喰	中鶴	不詳	
359	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町鶴喰	中鶴	不詳	
360	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	中鶴	不詳	
361	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	中鶴	不詳	
362	坂本	追分の地藏さん	八代市坂本町鶴喰	中鶴	明治39年(1906)	
363	坂本	椿のものと地藏さん	八代市坂本町鶴喰	中鶴	天保5年(1834)	
364	坂本	鶴喰古墳	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
365	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
366	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
367	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
368	坂本	七古神	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
369	坂本	天神さん(菅原神社)	八代市坂本町鶴喰	上鶴	安永9年(1780)	
370	坂本	真萱段の地藏さん	八代市坂本町鶴喰	上鶴	不詳	
371	坂本	作間節の地藏さん	八代市坂本町鶴喰	上鶴	明治34年(1901)	
372	坂本	お大師さん	八代市坂本町田上	女原	不詳	
373	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町田上	女原	不詳	
374	坂本	谷ノ口の地藏さん	八代市坂本町田上	女原	文政9年(1826)	
375	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町田上	女原	不詳	
376	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町田上	女原	文明年間(1469)の銘有り	延命寺との関係が深いと考えられている。
377	坂本	良石山 延命寺	八代市坂本町田上	女原	文明元年(1469)	
378	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町田上	女原	不詳	
379	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町田上	女原	不詳	
380	坂本	地藏さん(地藏堂)	八代市坂本町田上	石丸	享保年間か?	
381	坂本	桑鶴の山ノ神さん	八代市坂本町田上	石丸	不詳	水源地の近くにある。
382	坂本	後藤の山ノ神さん	八代市坂本町田上	石丸	不詳	
383	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町田上	中畑	不詳	
384	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町田上	中畑	享保14年(1729)	
385	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町田上	中畑	不詳	
386	坂本	松野井出の地藏さん	八代市坂本町田上	中畑	不詳	
387	坂本	大師堂	八代市坂本町百済来下	板持	不詳	
388	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町百済来下	板持	不詳	
389	坂本	地藏さん(白佛とも言う)	八代市坂本町百済来下	板持	嘉永年間	
390	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町百済来下	板持	不詳	
391	坂本	お大師さん(大師堂)	八代市坂本町百済来下	大門瀬	不詳	
392	坂本	観音堂	八代市坂本町百済来下	大門瀬	文化年間	
393	坂本	天神さん(菅原神社)	八代市坂本町百済来下	大門瀬	不詳	
394	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町百済来下	大門瀬	不詳	
395	坂本	お大師さん	八代市坂本町百済来下	大門瀬	不詳	

資料編

No.	校区区分	名称	所在地	集落名	年代	特徴
396	坂本	堀谷の地藏さん	八代市坂本町百済来下	大門瀬	明治 25 年(1892)	
397	坂本	馬頭観音さん(馬頭観音増)	八代市坂本町百済来下	鬼丸	天保 3 年(1832)	
398	坂本	大師堂	八代市坂本町百済来下	鬼丸	不詳	
399	坂本	天神さん(菅原神社)	八代市坂本町百済来下	鬼丸	不詳	
400	坂本	観音さん(観音堂)	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
401	坂本	お薬師さん(薬師堂)	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	寛政元年(1789)	
402	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
403	坂本	稲荷さん(豊受大神宮)	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
404	坂本	六地藏	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	元禄 9 年(1696)	
405	坂本	宝篋印塔	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
406	坂本	馬頭観音	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
407	坂本	五輪塔	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	不詳	
408	坂本	天神さん(菅原神社)	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	明治 4 年(1871)	
409	坂本	夫婦滝の地藏さん	八代市坂本町百済来下	陣ノ内	文政 8 年(1825)	
410	坂本	大師堂	八代市坂本町百済来下	馬場	不詳	
411	坂本	宝篋印塔	八代市坂本町百済来下	馬場	文化 15 年(1818)	
412	坂本	五輪塔群	八代市坂本町百済来下	馬場	不詳	元々埋蔵物であり発掘されて現在に至っている。(写真有)
413	坂本	板碑	八代市坂本町百済来下	馬場	弘治 2 年(1556)	
414	坂本	馬場の山ノ神さん	八代市坂本町百済来下	馬場	不詳	久多良木神社境内の山神社の御神体を分祀したもの。
415	坂本	芥子の峠の地藏さん	八代市坂本町百済来下	馬場	不詳	
416	坂本	稲荷さん	八代市坂本町百済来下	馬場	明治	
417	坂本	陣の岩の山ノ神さん	八代市坂本町百済来下	馬場	不詳	
418	坂本	権現さん(村上神社)	八代市坂本町百済来下	馬場	弘治年間	
419	坂本	法龍山 真法寺	八代市坂本町百済来上	馬場	不詳	
420	坂本	観音堂(羽仁田)	八代市坂本町百済来上	馬場	不詳	
421	坂本	羽仁田の山ノ神さん	八代市坂本町百済来上	馬場	不詳	
422	坂本	船倉の六地藏(地藏堂)	八代市坂本町百済来上	山口	不詳	
423	坂本	大迫の観音さん	八代市坂本町百済来上	山口	不詳	
424	坂本	大迫の大師堂	八代市坂本町百済来上	山口	大正 10 年(1921)	
425	坂本	たてし峠の地藏さん	八代市坂本町百済来上	山口	不詳	
426	坂本	阿弥陀さん(阿弥陀堂)	八代市坂本町百済来上	山口	宝永元年(1704)	
427	坂本	権現さん(熊野神社)	八代市坂本町百済来上	山口	元和 7 年(1621)	
428	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町百済来上	山口	不詳	
429	坂本	お観音さん(観音堂)	八代市坂本町百済来上	山口	不詳	
430	坂本	山ノ神さん	八代市坂本町百済来上	板練	不詳	
431	坂本	木戸の地藏さん(地藏像)	八代市坂本町百済来上	板練	不詳	
432	坂本	稲荷さん	八代市坂本町百済来上	板練	不詳	
433	坂本	井出のもとの地藏さん	八代市坂本町百済来上	小川内	不詳	
434	坂本	五輪塔	八代市坂本町百済来上	小川内	不詳	
435	坂本	稲荷さん(豊受大神宮)	八代市坂本町百済来上	小川内	安政ごろか?	
436	坂本	大師堂	八代市坂本町百済来上	小川内	明治 42 年(1909)	
437	坂本	山ノ神さん(山神社)	八代市坂本町百済来上	小川内	不詳	
438	坂本	鳥越の地藏さん	八代市坂本町百済来上	小川内	不詳	

参考資料：『坂本村史』・『坂本村の文化財さんぽ』『坂本村の文化財さんぽ 続編』

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧東陽)

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴
1	東陽	板碑	八代市東陽町河俣	不詳	
2	東陽	河俣阿蘇神社	八代市東陽町河俣	不詳	荒神社十ヶ所・山神社六ヶ所を合併
3	東陽	熊野神社	八代市東陽町河俣	不詳	
4	東陽	火彦霊神社	八代市東陽町河俣	不詳	
5	東陽	円成寺	八代市東陽町河俣	明応 3 年(1494)	
6	東陽	瑞宝寺	八代市東陽町河俣	寛文 2 年(1662)	
7	東陽	合併仏像	八代市東陽町河俣	明治 11 年(1878)合併	
8	東陽	村社 菅原神社	八代市東陽町北	不詳	
9	東陽	幸西寺	八代市東陽町北	天正年間?	
10	東陽	正教寺	八代市東陽町北	不詳	
11	東陽	権三別当堂	八代市東陽町北	不詳	
12	東陽	毘沙門天像	八代市東陽町北	不詳	
13	東陽	地藏堂	八代市東陽町北	不詳	
14	東陽	薬師堂	八代市東陽町小浦	大永 3 年(1503)	
15	東陽	医王山福音寺	八代市東陽町小浦	不詳	陣内城主蓑田五郎兵衛菩提所
16	東陽	播入道の堂	八代市東陽町小浦	明応 7 年(1498)	
17	東陽	六地藏塔	八代市東陽町南	明応 6 年(1498)	
18	東陽	郷社 若宮神社	八代市東陽町南	不詳	
19	東陽	光林寺	八代市東陽町南	天正 9 年(1581)	
20	東陽	永安寺	八代市東陽町南	応永年間	碑文有り
21	東陽	聖観音	八代市東陽町南	寛政 9 年(1797)	

参考資料：『東陽村史』

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧鏡)

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴
1	鏡	不動寺	八代市鏡町有佐	不詳	
2	鏡	白石家の墓・一字一石塔	八代市鏡町有佐	江戸	有佐大塚古墳の上に有る。島原の乱に出陣した郷土の地侍の墓。
3	鏡	下山満智子の墓	八代市鏡町上鏡	近世	惣庄屋下山家に関係。
4	鏡	宝篋印呪塔	八代市鏡町上鏡	近世	
5	鏡	福善寺	八代市鏡町鏡村	中世	鏡が池の東側に位置する。相良氏と関係あり。
6	鏡	岩永家墓地	八代市鏡町鏡村	江戸	岩永三五郎の墓も含まれる。
7	鏡	だいぼどんの墓	八代市鏡町内田	江戸	「大翰名所」に歌われている「だいぼどん」の墓。
8	鏡	犬塚安太の碑	八代市鏡町内田	不詳	犬塚安太は天保4年に死去。墓は内ノ牧 道智寺にある。
9	鏡	新川義塾跡	八代市鏡町内田	近世	
10	鏡	印鑰神社	八代市鏡町鏡	不詳	蘇我石川宿印鑰神社大祭時に鏡が池鮎取り神事がおこなわれる。
11	鏡	御高札場跡	八代市鏡町鏡	江戸	
12	鏡	全兵衛の墓	八代市鏡町芝口	不詳	石工の棟梁の墓。
13	鏡	小島万平次の墓	八代市鏡町野崎	不詳	
14	鏡	鹿子木量平の墓	八代市鏡町両出	明治	
15	鏡	貝洲加藤神社	八代市鏡町貝洲	江戸	加藤清正を祀る。鹿子木量平によりこの地の守護神として創建された。
16	鏡	湊玉院日珙上人の墓	八代市鏡町貝洲	江戸	
17	鏡	貝洲さん	八代市鏡町貝洲	不詳	市杵島姫神を祀る。
18	鏡	稻荷神社(塩浜正一位稻荷大名神社)	八代市鏡町塩浜	江戸	

参考資料：『鏡町史 上巻』・『鏡町史 下巻』

歴史文化遺産一覧 8. 石造物・信仰地(旧千丁)

No.	校区区分	名称	所在地	年代	特徴
1	千丁	十字架石	八代市千丁町太牟田	不詳	伊藤家の敷地に所在するとの記載有り。キリシタンとの関連は不明。
2	千丁	光蓋寺	八代市千丁町太牟田	元和2年(1616)再興	伊藤家に関係する寺。
3	千丁	大法寺	八代市千丁町太牟田	不詳	辨善大師の開基とも言われている。
4	千丁	郡原神社	八代市千丁町太牟田	1872年	太牟田の氏神として祀られている。
5	千丁	観音堂	八代市千丁町太牟田	不詳	
6	千丁	地藏堂	八代市千丁町太牟田	不詳	
7	千丁	不動堂	八代市千丁町太牟田	不詳	
8	千丁	松見堂	八代市千丁町吉王丸	不詳	懐良親王の伝説有り。
9	千丁	村山飛弾守の墓	八代市千丁町吉王丸	中世	
10	千丁	上土 十王板碑	八代市千丁町吉王丸	中世	西音寺境内。梵字板碑十仏を本地とする十王信仰を伝えるもの。
11	千丁	覚賀墓碑	八代市千丁町吉王丸	中世	シャゼン寺の住僧の墓碑。
12	千丁	西音寺	八代市千丁町吉王丸	元和9年(1623)	
13	千丁	日吉神社	八代市千丁町吉王丸	永禄7年(1567)	
14	千丁	がねん堂	八代市千丁町吉王丸	不詳	
15	千丁	白山堂	八代市千丁町吉王丸	不詳	
16	千丁	阿弥陀堂	八代市千丁町新牟田	江戸	島阿弥陀堂(天保13 鬼瓦刻印)、島観音堂。新牟田加藤神社と同境内
17	千丁	花立地藏	八代市千丁町新牟田	江戸	
18	千丁	新牟田邑口由碑	八代市千丁町新牟田	近世	
19	千丁	円満寺	八代市千丁町新牟田	寛文2年(1662)	
20	千丁	三角寺	八代市千丁町新牟田	近世	島阿弥陀堂の前身。現存せず。
21	千丁	加藤神社	八代市千丁町新牟田	1878年	加藤清正を祀る。
22	千丁	伊勢神社	八代市千丁町新牟田	安政年間	
23	千丁	観音堂	八代市千丁町新牟田	不詳	
24	千丁	井端の地藏	八代市千丁町新牟田	不詳	井戸に伴う地藏であった。
25	千丁	明寿寺	八代市千丁町古閑出	1882年	
26	千丁	加藤神社	八代市千丁町古閑出	安政2年(1855)	加藤清正を祀る。
27	千丁	諏訪神社	八代市千丁町古閑出	1891年	
28	千丁	竜神社	八代市千丁町古閑出	1879年	

参考資料：『千丁村史』

歴史文化遺産一覧 9. 伝承(彦一とんち話)

No.	関連文化財群	校区区分	場所の名称	話の内容	所在地
1	C	代陽	光徳寺	とつくりのなぞ 化けたぬき	八代市出町
2	C	代陽	出町	犬になった彦一・目隠し競争ほか多数	八代市出町
3	C	代陽	彦一の家	天狗のかくれみの他	八代市出町
4	C	代陽	鉄砲小路	彦一と古地金屋	八代市出町
5	C	代陽	山田屋	家と刀	八代市出町
6	C	代陽	外堀跡	しっぽのつり きつねのあだうち きつねとだましくらべ	八代市鷹辻町
7	C	代陽	千仏の土手	スミくらべでカッパを負かす	八代市袋町
8	C	代陽	長丁	かがみとざる(横町)	八代市本町一丁目
9	C	代陽	徳淵の津	三太の手形	八代市本町二丁目
10	C	代陽	中島町	犬になった彦一・わたかい・死人のまね	八代市本町二丁目
11	C	代陽	油屋呉服店	かがみとざる・すすだけうり	八代市本町二丁目
12	C	代陽	閻魔堂(円応寺)	地獄の彦一	八代市本町三丁目
13	C	代陽	札の辻	大ほらふきくらべ・家と刀	八代市本町三丁目
14	C	代陽	八代城	木の子問答・お日さま問答・火つかみの秘法・新年宴会・かんにんの心	八代市松江城町
15	C	代陽	大手門	茶の実(お城の大きな玄関・御門)	八代市松江城町
16	C	代陽	家老の屋敷	家老さまのご招待	八代市松江城町
17	C	代陽	永御蔵	ふしぎなかさ(お城の米蔵)	八代市西松江城町
18	C	代陽	松濱軒	あさがお(殿さまの下屋敷の大きな池)	八代市北の丸町
19	C	代陽	松井神社	彦一とうそ話	八代市北の丸町
20	C	代陽	裏の石垣	へいのつた	八代市北の丸町
21	C	八代	塩屋八幡宮	彦一のまじない(八幡神社)	八代市八幡町
22	F	太田郷	松馬場	おいはぎの刀	八代市横手本町
23	F	太田郷	松江村	彦一と化け狸	八代市新町
24	F	太田郷	野上	トンサンの行列 困った米	八代市弥生町
25	F	植柳	植柳の塘	ばけくらべ	八代市植柳上町
26	F	麦島	麦島	三太のてがら	八代市迎町
27	F	八千把	大村橋	おいはぎの刀 ウケのないサシ	八代市大村町

歴史文化遺産一覧 10. 伝承(河童伝承)

No.	関連文化財群	校区区分	名称	話の内容	所在地
1	C	代陽	河童到来の碑	中国の黄河にいた河童が一族郎党引き連れ八代にやって来て球磨川に住み着くようになった。その後、一族は繁栄してその数千匹になったので、その頭領を九千坊と呼ぶようになった。その河童どものいたずらが激しく人々をこまらせた。加藤清正はこれを怒り九州中の猿に命令して、これを攻めさせた。これには河童も降参して、久留米の有馬公の許しを得て筑後川に移り住み水天宮の使いをするようになった。	八代市本町二丁目
2	C	宮地	河童信仰と川祭り	悟真寺に現れた河童の伝承から行われる川祭り(悟真寺)	八代市妙見町
3	C	宮地	川祭り	悟真寺に現れた河童の伝承から行われる川祭り	八代市妙見町
4	G	坂本	横石のめただれ	坂本村横石の園谷の河原で起こった河童と猿の争いの話	八代市坂本町西部
5	G	坂本	年中行事におけるカッパ伝承	3月3日に川で女の人が洗濯をすれば、ガワタロウ(カッパ)が妊娠させる。妊娠した場合、桃酒を飲むとおりる。	八代市坂本町市ノ俣
6	F	千丁	万貫さん	千丁町新牟田に現れた河童の話 川べりに地蔵が祀られる	八代市千丁町新牟田
7	G	坂本	カワンシ伝承	渋利では川にはカワンシ(カッパ)がいるとされている。	八代市坂本町
8	E	泉	踊るガラッパの伝説	泉町の樅木集落に伝わる河童伝説 7月7日七夕の日にカッパが現れるという伝説	八代市泉町樅木

歴史文化遺産一覧 11. 伝承(落人伝承)

No.	関連文化財群	校区区分	名称	話の内容	場所
1	D	東陽	太刀踊り	椎葉直次郎が編み出したと伝承。落人の舞とも言われる。	八代市東陽町
2	D	東陽	鎌鞍踊り	横谷惣左衛門(落人)が編み出したと伝承。	八代市東陽町
3	D	東陽	花棒踊り	落人の金海源平と横谷惣左衛門の霊を慰める踊りと伝承。	八代市東陽町
4	D	泉	久茂伝承	鬼山御前の弟。岩奥の人々と暮らしていたある日、敷居を枕にして昼寝をしていたところ、何者かに首を刎ねられた。それ以来、岩奥の人々の間では「昼寝をするとき、決して敷居を枕にするな」という伝承が残っている。	八代市泉町柿迫
5	E	泉	嶽の屋敷跡	平家の落人たちが住んだという伝承が残る。	八代市泉町久連子
6	E	泉	緒方家屋敷	平家の一党緒方紀四郎重行の子孫が代々住んだといわれている。	八代市泉町椎原
7	E	泉	若宮社(鬼山御前社)と乳水	鬼山御前(玉虫御前と伝承)信仰に関係している。母親をなくしたり、栄養不足によって乳を飲めない赤子に対して、鬼山御前が自分の乳を与えて育てたという伝承。	八代市泉町柿迫
8	E	泉	鬼山御前伝説	『肥後国誌』に那須与一の子孫にして、岩奥の元祖であると記されている。五家荘各地に鬼山御前の伝説が残っている。	八代市泉町岩奥を中心として五家荘各地
9	E	泉	白鳥山の御池	平清経達が隠れ住んだといわれている。現在御池は存在していないが、永らく平家の落人が暮らしており、木のうろからさびた刀剣や、鏝の金具などが出てきたとの言い伝えもある。	八代市泉町樅木 白鳥山
10	E	泉	五本の白羽の矢	白鳥山にたどり着いた平家の落人たちが、これから暮らしていく土地を得るために祈り、飛来した一羽の白鳥が落としていった5枚の羽を使って矢を作り、放った伝説。	八代市泉町内 五家荘各地
11	E	泉	五本の白羽の矢①「樅木」	一の矢が大きなモミの木に突き刺さったことが地名の由来だと言われている。「白鳥神社」を祀って落人たちはこの地に住むことにしたという伝承。	八代市泉町樅木
12	E	泉	五本の白羽の矢②「仁田尾」	二の矢がニタズリをしているイノシシの尾に当たったことが地名の由来といわれている。	八代市泉町仁田尾
13	E	泉	五本の白羽の矢③「葉木」	矢がどこに行ったのかわからなくなったため、仁田尾と樅木の土地の一部を「はぎ合わせた」ことが地名の由来といわれている。	八代市泉町葉木
14	E	泉	五本の白羽の矢④「久連子」	矢がどこに行ったのかわからなくなったため、「久しく子孫が連なる」ようにとの願いを込めて命名した地名であるといわれている。	八代市泉町久連子
15	E	泉	五本の白羽の矢⑤「椎原」	樅の大木に矢が当たったことが地名の由来であるといわれている。	八代市泉町椎原

歴史文化遺産一覧 12. 伝統食材・郷土料理

No.	関連文化財群	名称	特徴	主な生産地	加工品(一例)	備考
1	A	い草	干拓地で生産されるい草	鏡・千丁・郡築・昭和	畳、筵、洋菓子、箸	ふるさと文化財の森に指定。い草及び畳表は熊本県の地域ブランド品。
2	A	トマト	八代平野の干拓地でハウス栽培される、減農薬の冬トマト。	郡築	ドレッシング、ゼリー	冬トマトは日本一の生産量を誇る。
3	A	牡蠣	鏡町で養殖しているマガキ。	鏡町		「鏡オイスター」として地域ブランド化を目指している。
4	A	青海苔	球磨川河口付近で生産される川海苔	金剛	菓子	球磨川河口の漁場において養殖が行われている。
5	A・C	シヤク(アナジャコ)	泥干潟に生息する、ヤドカリに似た甲殻類	八代海	天ぷら	瀬戸内海、有明海沿岸で食材として利用。
6	A・C	しゃくみそ	シヤクをすり潰して味噌とあわせた郷土食	八代海沿岸		
7	C	高田みかん	紀州みかんの先祖。中国の江南地方から伝わったとされる小みかん。	八代～高田		八代市内に100株程度が栽培されており、正月飾りなどに使用されている。
8	C	みょうが饅頭	白玉だんごをみょうがの葉で包んだ郷土食	八代		5月から9月までの季節限定。
9	C	雪餅	山芋と米粉を蒸した郷土菓子。	八代		八代神社で行われる「氷室祭」前後に食べられる。5月末から6月末までの季節限定。
10	D	生姜	段畑などで生産する生姜	東陽町一帯	生姜料理、シロップ、菓子	棚田で栽培される。
11	E	茶	山間地域で生産・加工する玉緑茶を中心とするお茶。	泉町柿迫		古くは焼畑で栽培されていた。近世から小川町に出荷され、販売されていた。
12	E	豆腐の味噌漬け	山間地域で生産・加工する堅い豆腐を味噌漬けにしたもの。	泉町樫木、椎原		焼畑で栽培される大豆を使って、五家荘及び周辺で古くから生産されている。
13	F	コノシロ	八代海沿岸で漁獲される	八代海	コノシロ寿司	祝い事などで食べられることが多い。
14	G	ぼたもち	もち米に「からいも」を加えてつくった皮の中に粒あんを包み、きな粉をまぶしたぶした郷土料理。	坂本		地域の祭りや行事の際によく作られる。
15	G	鮎	球磨川流域で漁獲される川魚	球磨川河口、鉄橋下	弁当・塩焼き・甘露煮	養殖も盛ん。
16	H	竹輪	日奈久港周辺で水揚げされる魚を使用した竹輪	日奈久		贈答品としても用いられるなど熊本名物になっている。
17	H	日奈久味噌	日奈久周辺で製造される甘口のみそ	日奈久		他地域の味噌と比べ、こうじが多いのが特徴
18	H	晩白柚	八代海に面した斜面地で生産される大型の柑橘類	高田、日奈久	砂糖漬け、洋菓子、ドレッシングやソース	マレー半島原産、世界最大級の大きさの柑橘類の一種で、国内生産量の97%を八代が占める。

歴史文化遺産一覧 13. 伝統工芸

No.	関連文化財群	校区分	名称	特徴	主な生産地	加工品	その他
1	A	鏡	こいのぼり	手染めの鯉のぼり	鏡	手ぬぐい、バッグなど	
2	C	宮地	和紙	近世から宮地で生産される手漉き和紙。	宮地	障子紙など	生産者が現在1名であり、継承が困難。
3	C	宮地	手打ち刃物	宮地で生産される刃物	宮地	包丁、農機具など	現在、本職用注文鍛手打ち刃物をはじめ一般刃物も製造されている。
4	C	日奈久	竹細工	近くに良質の竹が群生していたことを背景に、明治に生産が始まった	日奈久	籠、ざる、箸、人形など	日用品としてだけではなく、農具や漁具としての竹細工も発達してきた。
5	C	中心部	い草工芸	い草を使った加工品	八代市中心部	コースター、のれん、座布団、草履、畳表など	
6	H	日奈久	八代焼	近世から細川藩御用窯として生産されてきた、象嵌を施す陶器	日奈久		窯の置かれた場所の地名から高田焼の名でも親しまれ、現在も生産されている。
7	H	日奈久	花火	打ち上げ花火の生産者	日奈久	10号、5号玉など	1軒のみで生産を続けている。毎年球磨川河口で全国花火大会が開催され、毎年出展している。

歴史文化遺産一覧 14. 代表的な景観

No.	関連文化財群	名称	主な景観地	備考
1	A	干拓地のい草園と竜峰山の景観	八代平野(鏡～千丁)	5～6月の初夏の時期に見られる。
2	A	トマトのハウス栽培の景観	八代平野(鏡～千丁)	冬に見られる景観で、夜間は黄色蛍光灯を使ったハウスで八代平野が黄金色に染まる。
3	B	まちの中に残る船着き場跡	鏡町	船運に使用されていた船着き場跡が現在も残っている。
4	C	夕日景観	水島・竜峰山・球磨川河口	八代各地で様々な夕日の景観を見ることが出来る。
5	C	球磨川景観	古麓・八竜山・八丁山など	古麓や八竜山などの山々からは、八代海に注ぐ球磨川の景観を見ることが出来る。
6	C	八代港周辺の工場群とクルーズ船の景観	八代港周辺	八代海を背景にした工場群やクルーズ船の景観を楽しむことが出来る。
7	C	花火大会の景観	球磨川河川敷など	毎年11月に行われる全国花火競技大会の際に見ることが出来る。
8	C	陸続きになった島々	大島・高島・大鼠蔵山など	干拓によって陸地化した地域には、干拓以前は島であった場所が散見される。
9	D	棚田景観	東陽町各地	天神木場の棚田・美生の棚田は「日本の棚田百景」に選ばれている。
10	D	白髪岳天然橋と周辺の山々	東陽町	「白髪岳天然橋」は市指定天然記念物に指定されている。
11	D	めがね橋と川沿いの集落の風景	東陽町各地	見事なアーチを川面に映し出すめがね橋は、現在も生活橋に使用されるなど人々の生活に活かされている。
13	E	山村集落とやまなみ景観	泉町岩奥	丘陵な山々が連なる谷沿いの道路を中心に、農林業を主体とする山村集落が点在している。
14	E	せんだん轟の滝	泉町柿迫	球磨川水系川辺川の支流にかかる滝で日本の滝百選の一つであり景勝地として多くの人々に親しまれている。
15	E	紅葉と吊橋	泉町各地	古くから交通のための吊橋が各地に架けられていた。現在は観光のための吊橋が架けられ、壮大な自然と山の四季を体感できる景観地として知られている。
16	E	五家荘の山並みと川辺川	泉町川辺川流域	峻険な山が連なる山々の間に流れる川により形成された深い渓谷が景観を形成している。
17	E	傾斜地で栽培される茶畑景観	泉町各地	古くから焼畑農耕が行われてきた名産としての茶栽培が各地で行われており、茶畑景観が形成されている。
19	F	水島と八代海の夕日	球磨川河口域・水島	八代海に沈む夕日を眺めるスポットとして多くの人々に親しまれている。
20	F	干潟景観	球磨川河口域など	球磨川河口部を中心として、干潮時には広大な干潟景観が形成される。
21	F	八代海ごしに望む古墳群	大鼠蔵山・小鼠蔵山・高島など	干拓以前は海に浮かぶ島であった場所に古墳群が営まれている。
22	F	不知火景観	八代海北部海域とその沿岸域	「不知火及び水島」は国名勝に指定されている。八代海北部海域と沿岸域は、古くから蜃気楼現象の一種である「不知火」にまつわる様々な伝承が残されている。
23	G	日光の棚田	坂本町日光	日光の棚田は「日本の棚田百景」に選ばれている。
24	G	走り水ノ瀧	坂本町深水	県下最大級の瀧で、国名勝に指定されている。古くから景勝地として知られており、「領内名勝図巻」に描かれている。
25	G	球磨川の渡し場	球磨川中流域	かつての舟運の興隆がうかがえる渡し場跡が、球磨川流域の各地に見られる。
26	G	あぜち道	坂本町	八代を相良氏が統治した時代に整備された山岳軍用道路の跡が現在も残されている。
27	G	球磨川の景観	坂本町球磨川流域	遥拝堰をすぎると川沿いの道路とJR肥薩線が平行する山間部の景観が続く。JRの列車からは、川の湾曲に沿って変化する球磨川沿いの景観を楽しむことが出来る。
28	G	お堂と大木の景観	坂本町各地	集落の中や山道、山間部には、地域の守り神である小さな祠や、水難などの犠牲者を祀る地蔵、山の神などが数多く作られ、球磨川や集落の大木に伴うものが多く、坂本らしい景観を形成している。
29	H	日奈久温泉神社から見る八代海	日奈久温泉神社境内	高台にある日奈久温泉神社からは、日奈久の温泉街や八代海、遠く天草の島々まで見渡すことができる。八代海に沈む夕日を眺めることができ、日奈久の代表的な撮影スポットとしても人気の場所である。
30	H	日奈久温泉街の景観	日奈久	薩摩街道沿いに栄えた温泉街の景観が残っている。
31	H	日奈久温泉神社の相撲棧敷	日奈久温泉神社境内	高台にある日奈久温泉神社の斜面を利用して作られた相撲棧敷からは、日奈久の温泉街や八代海、遠く天草の島々まで見渡すことができる。
32	H	二見の石橋と農地の景観	二見各地	薩摩街道を中心として整備された石橋が現在も残されており、現在は周囲の農地と共に景観を形成している。
33	A・C・F・G・H	鉄道景観	八代市内各地	橋梁の他に、連続する石積・レンガ積のトンネルや、擁壁など、歴史的な鉄道沿線景観が残されている。

参考 文化財調査報告書一覧

No.	書名	編集	発行年	発行、報告書番号	サブタイトル
1	八代城保存修復報告書	八代市教育委員会	2018	八代市教育委員会(文化振興課) 八代市文化財報告書 第49集	
2	八代干拓遺跡群調査報告書	八代市教育委員会	2018	八代市教育委員会(文化振興課) 八代市文化財報告書 第48集	
3	西片稲村遺跡・西片下通丸遺跡・西片乙津遺跡	八代市教育委員会	2017	八代市教育委員会(文化振興課) 八代市文化財報告書 第47集	
4	球磨川はね:球磨川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	八代市教育委員会(八代市市民協働部文化まちづくり課)、九州文化財研究所八代営業所編	2015.2	八代市教育委員会(八代市市民協働部文化まちづくり課) 八代市文化財調査報告書 第46集	
5	八代城郭群:古麓城跡、麦島城跡、八代城跡、松浜軒、平山瓦窯跡	八代市教育委員会編	2013.1	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第45集	
6	八代妙見祭	八代市教育委員会(文化課)編	2010.3	八代市教育委員会(文化課) 八代市文化財調査報告書 第43集	
7	上日置女夫木(かみひおきめおとぎ)遺跡:新八代駅周辺道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	八代市教育委員会、有明測量開発社編	2010.2	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第42集	
8	西片稲村遺跡:市道西片町宮地町線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	八代市教育委員会(文化課)編	2010.3	八代市教育委員会(文化課) 八代市文化財調査報告書 第41、44集	
9	国指定名勝水島・応急保存修理工事報告書	八代市教育委員会編	2009.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第40集	
10	福正寺遺跡:八代市立第八中学校校舎等建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	八代市教育委員会	2009.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第39集	
11	宮地年神(みやじとしのかみ)遺跡	八代市教育委員会	2009.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第38集	西片町宮地町線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
12	上日置女夫木遺跡		2008.6	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第37集	新八代駅周辺公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
13	キリシタン寺院跡:宮地観行寺遺跡		2008.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第36集	宮地町10号線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
14	八代市埋蔵文化財調査報告		2007.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第35集	平成15年度・16年度・17年度
15	古麓城下遺跡		2006.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第34集	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
16	宮地池尻遺跡		2006.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第33集	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
17	キリシタン寺院跡		2006.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第32集	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
18	宮地年神遺跡		2006.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第31集	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
19	麦島城:都市計画道路建設に伴う発掘調査	八代市教育委員会編集	2006.1	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第30集	
20	古麓城跡・麦島城跡・八代城跡	八代市教育委員会編集	2006.1	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第29集	
21	熊本県指定重要文化財木造阿弥陀如来坐像修理報告書		2005.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第28集	
22	用七遺跡		2005.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第27集	九州新幹線新八代駅西口広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
23	上日置女夫木(かみひおきめおとぎ)遺跡		2005.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第26集	九州新幹線新八代駅東口及び南口駅前広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
24	松浜軒:名勝	八代市教育委員会 [著]	2005.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第25集	
25	熊本県指定史跡田川内第1号古墳:石室修理報告書		2004.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第24集	
26	熊本県指定重要文化財木造阿弥陀三尊像修理報告書		2004.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第23集	
27	八代海干拓施設調査報告書		2004.2	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第22集	
28	熊本県指定史跡平山瓦窯跡:保存整備工事報告書		2003.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第21集	
29	宮地年神遺跡キリシタン寺院跡宮地池尻遺跡	八代市教育委員会 [編]	2003.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第20集	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 1
30	八代日記:東京大学史料編纂所所蔵		2003.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第20集 . 宮地年神遺跡キリシタン寺院跡宮地池尻遺跡:資料編	

No.	書名	編集	発行年	発行、報告書番号	サブタイトル
31	古麓城跡		2002.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第19集	送電鉄塔建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
32	西片町遺跡(園田地区)	八代市教育委員会	2002.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第18集	送電鉄塔建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
33	妙見祭笠鉾の修復:八代神社祭礼神幸行列笠鉾等修復記録報告書	八代市教育委員会編集	2002.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第17集	
34	若宮官軍墓地跡・横手官軍墓地跡		2002.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第16集	
35	八代市の石造物:石造物悉皆調査報告書	八代市教育委員会編集	2000.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第15集	
36	白石貝塚:熊本県八代市上日置町所在の弥生遺跡発掘調査		1998.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第13集	
37	八代市の石橋:八代市二見石橋群学術調査報告書	八代市教育委員会編	1996.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第10集	
38	妙見祭笠鉾:八代神社祭礼神幸行列笠鉾等基本調査報告書	八代市教育委員会編	1996.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第9集	
39	薬師堂跡・うその谷窯跡		1996	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第8集	南九州西回り自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
40	阿弥陀堂遺跡:県道八代港線建設工事に伴う遺跡発掘調査		1996	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第7集	
41	高島古墳群:熊本県八代市高島町高島山所在の遺跡調査	八代市教育委員会編	1991.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第5集	
42	熊本県八代市豊原下町所在の遺跡調査	八代市教育委員会編	1989.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第4集	下堀切遺跡
43	熊本県八代市豊原下町所在の遺跡の調査概要	八代市教育委員会編	1988.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第3集	下堀切遺跡
44	川原地蔵堂:建造物調査及び屋根ふき替え作業民俗調査	八代市教育委員会編	1988.3	八代市教育委員会八代市文化財調査報告書 第2集	
45	八代大塚古墳八代平野農業水利事業にともなう埋蔵文化財発掘調査	大塚古墳発掘調査団,八代市教育委員会編集	1987.3	八代市教育委員会 八代市文化財調査報告書 第1集	

参考 文化財関連資料

No.	書名	内容	発行
1	八代市史 第一巻	原始古代	平成 4 年
2		先史文化の八代	
3		古墳時代の八代	
4	八代市史 第二巻	中世	昭和 45 年
5		妙見上宮・中宮時代の八代	
6		妙見宮門前町時代の八代	
7	古麓城下町時代の八代		
8	八代市史 第三巻	中世・近世	昭和 47 年
9		古麓城下町の八代	
10		麦島城下町の八代	
11	八代市史 第四巻	近世	昭和 49 年
12		八代城下町の八代	
13	八代市史 第五巻(付録)	近世	昭和 53 年
14		八代城下町の八代	
15		(八代平城・城下町復原図・本丸実測図・番所配置図)	
16	近世史料編 第1巻	松井家文書御町会所古記之内書抜 上	平成元年
17	近世史料編 第2巻	松井家文書御町会所古記之内書抜 中	平成 3 年
18	近世史料編 第3巻	松井家文書御町会所古記之内書抜 下	平成 4 年
19	近世史料編 第4巻	松井家文書御給人先祖附	平成 8 年
20	近世史料編 第5巻	松井家文書先例略記一	平成 8 年
21	近世史料編 第6巻	松井家文書先例略記二	平成 9 年
22	近世史料編 第7巻	松井家文書先例略記三	平成 10 年
23	近世史料編 第8巻	松井家先祖由来附	平成 11 年
24	近世史料編 第9巻	台風・出火・洪水など	平成 12 年
25	近世史料編 第10巻	妙見宮関係	平成 14 年
26	近世史料編 索引編	近世史料編の索引編	平成 17 年
27	八代市の文化財ガイドブック やつしろ文化財シリーズ②	市内の文化財や史跡88項目の解説と地図を掲載	平成 5 年
28	八代城町絵図 やつしろ文化財シリーズ④		平成 8 年 3 月
29	八代城下町マップ		平成 26 年 3 月
30	日奈久町並みガイドブック やつしろ文化財シリーズ⑤	幕末から明治・大正・昭和初期(昭和 20 年まで)に建てられた旅館などの宿泊施設を中心に町屋・神社・倉庫などを調査	平成 13 年
31	八代妙見祭ガイドブック	妙見祭の魅力をフルカラーで紹介	平成 21 年
32	八代を見る知る伝える「八見伝」	市内の豊かな自然と、文化遺産を紹介するガイドブック	平成 29 年 3 月
33	千丁村史		昭和 43 年
34	せんちょうの昔ばなし	民話集	平成 5 年
35	千丁の歴史を訪ねて	史蹟・伝承と干拓地	平成 5 年
36	千丁町史		平成 17 年
37	鏡地方における干拓のあゆみ(大人版)		平成 15 年
38	親と子のふるさと干拓史(子ども版)		平成 17 年
39	鏡町史 上巻		昭和 57 年
40	鏡町史 下巻		昭和 59 年
41	ドンカッチョにあいたい	まちづくり絵本 鏡町もやい物語②	平成 8 年
42	くすのきは見ていた	まちづくり絵本 鏡町もやい物語	平成 2 年
43	東陽村史		平成 4 年
44	坂本村史		平成 2 年
45	坂本村の文化財さんぽ		平成 5 年
46	坂本村の文化財さんぽ 続編		平成 10 年

No.	書名	内容	発行
47	泉村誌		平成 17 年
48	五箇荘紀行	写本，内藤子興著、内閣文庫所蔵	天保 7 年
49	五家荘の民俗-泉村民俗資料緊急調査報告書-	熊本県文化財調査報告第 14 集 熊本県教育委員会	昭和 49 年
50	久連子古代踊り調査報告書	泉村教育委員会	昭和 54 年
51	「歴史の道」調査報告書(薩摩街道)	熊本県教育委員会	昭和 57-平成元年
52	「歴史の道」調査報告書(球磨川水運)	熊本県教育委員会	昭和 57-平成元年
53	東陽村目鑑橋調査報告書	熊本大学工学部建築系教室 北野研究室	平成 3 年
54	ふるさと百話：八代の史話と伝説	江上敏勝編著 八代青年会議所	昭和 58 年
55	熊本の目鑑橋 345	上塚尚孝著、熊本日日新聞出版	平成 28 年
56	八代の植物	八代植物の会	平成 4 年
57	改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物-レッドデータブックくまもと-	熊本県 https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_709.html	平成 21 年
58	熊本県の保護上重要な野生動植物リスト-レッドリスト2014-	熊本県 https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_6105.html	平成 26 年
59	八代市内の登録文化材候補一覧	熊本県第一次調査より抜粋	平成 19 年

参考 文化施設

No.	関連文化財群	校区区分	名称	所在地
1	A	鏡	鏡文化センター	八代市鏡町内田
2	A	鏡	八代市立図書館かがみ分館	八代市鏡町内田
3	B	千丁	千丁文化センター	八代市千丁町新牟田
4	B	千丁	八代市立図書館せんちょう分館	八代市千丁町新牟田
5	C	代陽	八代市立厚生会館	八代市西松江城町
6	C	代陽	八代市立図書館本館	八代市北の丸町
7	C	代陽	八代市立博物館未来の森ミュージアム	八代市西松江城町
8	C	太田郷	やつしろハーモニーホール	八代市新町
9	C	太田郷	八代市観光物産案内所	八代市上日置町
10	C	太田郷	松中信彦スポーツミュージアム	八代市上日置町
11	D	東陽	東陽交流センターせせらぎ	八代市東陽町南
12	D	東陽	東陽石匠館(資料館)	八代市東陽町北
13	E	泉	五家荘平家の里	八代市泉町樫木
14	E	泉	緒方家(資料館)	八代市泉町椎原
15	E	泉	左座家(資料館)	八代市泉町仁田尾
16	E	泉	五家荘草花資料館(資料館)	八代市泉町樫木
17	E	泉	久連子古代の里	八代市泉町久連子
18	E	泉	梅の木轟公園管理施設	八代市泉町仁田尾
19	E	泉	五家荘溪流キャンプ場	八代市泉町樫木
20	E	泉	五家荘自然塾	八代市泉町仁田尾
21	G	坂本	さかもと八竜天文台	八代市坂本町中谷は
22	G	坂本	交流センターさかもと館・道の駅「坂本」	八代市坂本町荒瀬
23	G	坂本	さかもと温泉センター	八代市坂本町川嶽
24	G	坂本	くま川わいわいパーク	八代市坂本町坂本
25	G	坂本	坂本憩いの家	八代市坂本町鶴喰
26	H	日奈久	日奈久温泉・東湯	八代市日奈久浜町
27	H	日奈久	日奈久温泉センター	八代市日奈久中町

八代市歴史文化基本構想

平成 30 年 12 月 策定

平成 31 年 1 月 刊行

編集・発行 八代市経済文化交流部文化振興課
〒866-0844 熊本県八代市旭中央通 3-11 TS ビル 3F
TEL 0965-33-4533 FAX 0965-33-4516

委託先 株式会社 文化財保存計画協会
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13F
TEL 03-5276-8200 FAX 03-5276-8201
